

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 (読替科目: 歴史と政治) 小林 道彦	1学期	1	2	6
		1年			
	家族を問う 閉講		1	2	
		1年			
	人間と文化 (読替科目: 異文化理解の基礎) 神原 ゆうこ	1学期	1	2	7
		1年			
	ことばの科学 (読替科目: ことばの科学) 漆原 朗子	1学期	1	2	8
		1年			
	国際学入門 (読替科目: 国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	9
		1年			
	教養としての平和学 閉講		1	2	
		1年			
	可能性としての歴史 (読替科目: 可能性としての歴史) 小林 道彦	2学期	2	2	12
		2年			
	家族の再生 閉講		2	2	
	2年				
文化と政治 (読替科目: 現代社会と文化) 神原 ゆうこ	2学期	2	2	13	
	2年				
言語と認知 (読替科目: 言語と認知) 漆原 朗子 他	1学期	2	2	14	
	2年				
共生社会論 (読替科目: 共生社会論) 伊野 憲治	2学期	2	2	15	
	2年				
戦争と平和 (読替科目: 戦争論) 戸蒔 仁司	2学期	2	2	17	
	2年				
生活世界の哲学 (読替科目: 生活世界の哲学) 伊原木 大祐	1学期	1	2	10	
	1年				
共同体と身体 (読替科目: 共同体と身体) 伊原木 大祐	2学期	2	2	16	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI (読替科目: メンタル・ヘルスI) 中島 俊介	1学期	1	2	115
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII (読替科目：メンタル・ヘルスII) 中島 俊介	2学期	1	2	116
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 高西 敏正	1学期	1	2	117
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 徳永 政夫	1学期	1	2	118
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 加倉井 美智子	1学期	1	2	119
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 高西 敏正	2学期	1	2	120
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 徳永 政夫	2学期	1	2	121
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 加倉井 美智子	2学期	1	2	122
		1年			
	自己管理論 (読替科目：自己管理論) 山本 浩二	2学期	1	2	123
		1年			
キャリア・デザイン (読替科目：キャリア・デザイン) 真鍋 和博	1学期	1	2	140	
	1年				
キャリア・デザイン (読替科目：キャリア・デザイン) 石川 敬之	1学期	1	2	141	
	1年				
キャリア・デザイン (読替科目：キャリア・デザイン) 見館 好隆	1学期	1	2	142	
	1年				
コミュニケーションと思考法 (読替科目：コミュニケーション実践) 真鍋 和博	2学期	1	2	143	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 (読替科目：プロフェッショナルの仕事I) 見館 好隆	1学期	2	2	144	
	2年				
大学論・学問論 閉講		1	2		
	1年				
法律の読み方 (読替科目：法律の読み方) 小野 憲昭	2学期	1	2	91	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	社会調査 (読替科目：社会調査) 稲月 正	2学期	1	2	92
		1年			
	統計を読む・統計をつくる 閉講		1	2	
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (ソフトボール)) 黒田 次郎	1学期	1	1	124
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (サッカー)) 山崎 将幸	1学期	1	1	125
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (テニス)) 黒田 次郎	1学期	1	1	126
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (バレーボール)) 美山 泰教	1学期	1	1	127
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	128
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 山本 浩二	1学期	1	1	129
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) (読替科目：フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)) 加倉井 美智子	1学期	1	1	130
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 山崎 将幸	2学期	1	1	131
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 黒田 次郎	2学期	1	1	132	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)) 黒田 次郎	2学期	1	1	133	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	134	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 美山 泰教	2学期	1	1	135	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 山崎 将幸	2学期	1	1	136	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	137
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	138
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 徳永 政夫	2学期	1	1	139
		1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 伊原木 大祐	1学期	1	2	18
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 稲月 正	1学期	1	2	19
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 神原 ゆうこ	1学期	1	2	20
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 小林 道彦	1学期	1	2	21
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 徳永 政夫	1学期	1	2	22
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 高西 敏正	1学期	1	2	23
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) (読替科目: 教養基礎演習I (防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	24
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 日高 京子	1学期	1	2	25
		1年			
教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 廣川 祐司	1学期	1	2	26	
	1年				
教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 石川 敬之	1学期	1	2	27	
	1年				
教養基礎演習I (発達障がいセミナー) (読替科目: 教養基礎演習I (発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	1	2	28	
	1年				
教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	28	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 伊原木 大祐	2学期	1	2	29
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 稲月 正	2学期	1	2	30
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 神原 ゆうこ	2学期	1	2	31
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 小林 道彦	2学期	1	2	32
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 徳永 政夫	2学期	1	2	
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 高西 敏正	2学期	1	2	33
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ(防衛セミナー) (読替科目：教養基礎演習Ⅱ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	1	2	34
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 日高 京子	2学期	1	2	35
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 廣川 祐司	2学期	1	2	36
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 石川 敬之	2学期	1	2	37
		1年			
教養基礎演習Ⅱ(発達障がいセミナー) (読替科目：教養基礎演習Ⅱ(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	1	2	38	
	1年				
教養演習AⅠ (読替科目：教養演習AⅠ) 伊原木 大祐	1学期	2	2	39	
	2年				
教養演習AⅠ (読替科目：教養演習AⅠ) 稲月 正	1学期	2	2	40	
	2年				
教養演習AⅠ (読替科目：教養演習AⅠ) 神原 ゆうこ	1学期	2	2	41	
	2年				
教養演習AⅠ (読替科目：教養演習AⅠ) 小林 道彦	1学期	2	2	42	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 AI	1学期	2	2	
	徳永 政夫	2年			
	教養演習 AI (防衛セミナー) (読替科目：教養演習 AI (防衛セミナー))	1学期	2	2	43
	戸蒔 仁司	2年			
	教養演習 AI (読替科目：教養演習 AI)	1学期	2	2	44
	日高 京子	2年			
	教養演習 AI (読替科目：教養演習 AI)	1学期	2	2	45
	石川 敬之	2年			
	教養演習 AI (発達障がいセミナー) (読替科目：教養演習 AI (発達障がいセミナー))	1学期	2	2	46
	伊野 憲治	2年			
	教養演習 AII (読替科目：教養演習 AII)	2学期	2	2	47
	伊原木 大祐	2年			
	教養演習 AII (読替科目：教養演習 AII)	2学期	2	2	48
	稲月 正	2年			
	教養演習 AII (読替科目：教養演習 AII)	2学期	2	2	49
	神原 ゆうこ	2年			
	教養演習 AII (読替科目：教養演習 AII)	2学期	2	2	50
	小林 道彦	2年			
	教養演習 AII	2学期	2	2	
	徳永 政夫	2年			
教養演習 AII (防衛セミナー) (読替科目：教養演習 AII (防衛セミナー))	集中	2	2	51	
戸蒔 仁司	2年				
教養演習 AII (読替科目：教養演習 AII)	2学期	2	2	52	
日高 京子	2年				
教養演習 AII (読替科目：教養演習 AII)	2学期	2	2	53	
石川 敬之	2年				
教養演習 AII (発達障がいセミナー) (読替科目：教養演習 AII (発達障がいセミナー))	2学期	2	2	54	
伊野 憲治	2年				
教養演習 BI (読替科目：教養演習 BI)	1学期	3	2	55	
伊原木 大祐	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ (読替科目: 教養演習BⅠ) 稲月 正	1学期	3	2	56
		3年			
	教養演習BⅠ (読替科目: 教養演習BⅠ) 神原 ゆうこ	1学期	3	2	57
		3年			
	教養演習BⅠ (読替科目: 教養演習BⅠ) 小林 道彦	1学期	3	2	58
		3年			
	教養演習BⅠ 徳永 政夫	1学期	3	2	
		3年			
	教養演習BⅠ(防衛セミナー) (読替科目: 教養演習BⅠ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	59
		3年			
	教養演習BⅠ (読替科目: 教養演習BⅠ) 日高 京子	1学期	3	2	60
		3年			
	教養演習BⅠ (読替科目: 教養演習BⅠ) 石川 敬之	1学期	3	2	61
		3年			
	教養演習BⅠ(発達障がいセミナー) (読替科目: 教養演習BⅠ(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	3	2	62
		3年			
	教養演習BⅡ (読替科目: 教養演習BⅡ) 伊原木 大祐	2学期	3	2	63
		3年			
	教養演習BⅡ (読替科目: 教養演習BⅡ) 稲月 正	2学期	3	2	64
		3年			
教養演習BⅡ (読替科目: 教養演習BⅡ) 神原 ゆうこ	2学期	3	2	65	
	3年				
教養演習BⅡ (読替科目: 教養演習BⅡ) 小林 道彦	2学期	3	2	66	
	3年				
教養演習BⅡ 徳永 政夫	2学期	3	2		
	3年				
教養演習BⅡ(防衛セミナー) (読替科目: 教養演習BⅡ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	3	2	67	
	3年				
教養演習BⅡ (読替科目: 教養演習BⅡ) 日高 京子	2学期	3	2	68	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII (読替科目:教養演習BII) 石川 敬之	2学期	3	2	69
		3年			
	教養演習BII(発達障がいセミナー) (読替科目:教養演習BII(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	3	2	70
		3年			
プロジェクト演習I (読替科目:プロジェクト演習I) 見館 好隆	1学期	2	2	146	
	2年				
プロジェクト演習II (読替科目:プロジェクト演習II) 見館 好隆 他	2学期	3	2	147	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし (読替科目:自然学のまなざし) 竹川 大介 他	1学期	1	2	71
		1年			
	動物のみかた (読替科目:動物のみかた) 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	72
		1年			
	地球の生いたち (読替科目:地球の生いたち) 長井 孝一	2学期	1	2	73
		1年			
	自然史へのいざない (読替科目:自然史へのいざない) 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	74
		1年			
	くらしと化学 (読替科目:くらしと化学) 秋貞 英雄	1学期	1	2	75
		1年			
	現代人のこころ (読替科目:現代人のこころ) 税田 慶昭 他	1学期	1	2	76
		1年			
数のたのしみ 閉講		1	2		
	1年				
私たちと宗教 (読替科目:私たちと宗教) 佐藤 真人	2学期	1	2	78	
	1年				
思想と現代 (読替科目:思想と現代) 伊原木 大祐	1学期	1	2	79	
	1年				
ものがたりと人間 閉講		1	2		
	1年				
文化と表象 (読替科目:文化と表象) 真鍋 昌賢	2学期	1	2	80	
	1年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	言語とコミュニケーション (読替科目：言語とコミュニケーション) 漆原 朗子 他	2学期	1	2	81
		1年			
	芸術と人間 (読替科目：芸術と人間) 真武 真喜子	2学期	1	2	82
		1年			
	文学を読む (読替科目：文学を読む) 生住 昌大 他	2学期	1	2	83
		1年			
	戦争と人間 閉講		1	2	
		1年			
	現代正義論 (読替科目：現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	84
		1年			
	民主主義とは何か (読替科目：民主主義とは何か) 中道 壽一	1学期	1	2	85
		1年			
	人権論 (読替科目：人権論) 柳井 美枝	1学期	1	2	87
		1年			
	ジェンダー論 (読替科目：ジェンダー論) 力武 由美	1学期	1	2	88
		1年			
	障がい学 (読替科目：障がい学) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	89
	1年				
共生の作法 (読替科目：共生の作法) 高橋 衛 他	1学期	1	2	90	
	1年				
北九州学 (読替科目：環境都市としての北九州) 日高 京子 他	2学期	1	2	77	
	1年				
市民活動論 (読替科目：市民活動論) 西田 心平	2学期	1	2	93	
	1年				
企業と社会 (読替科目：企業と社会) 山下 剛	1学期	1	2	94	
	1年				
つながりの人間学 (読替科目：サービスマーケティング入門I) 石川 敬之	1学期	1	2	145	
	1年				
現代社会と倫理 (読替科目：現代社会と倫理) 伊原木 大祐	1学期	1	2	95	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会の諸問題 (読替科目: 現代社会と新聞ジャーナリズム) 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	96
	1年				
	現代の国際情勢 (読替科目: 現代の国際情勢) 山本 直 他	1学期	1	2	97
	1年				
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	1
	1年				
	国際紛争と国連 休講	2学期	1	2	
	1年				
	民族・エスニシティ問題 (読替科目: エスニシティと多文化社会) 篠崎 香織 他	1学期	1	2	102
	1年				
	開発と統治 (読替科目: 開発と統治) 三宅 博之 他	2学期	1	2	98
	1年				
	グローバル化する経済 (読替科目: グローバル化する経済) 田中 淳平 他	1学期	1	2	99
	1年				
	テロリズム論 (読替科目: テロリズム論) 戸蔭 仁司	2学期	1	2	100
	1年				
	国際社会と日本 (読替科目: 国際社会と日本) 阿部 容子 他	2学期	1	2	101
	1年				
	歴史の読み方I (読替科目: 歴史の読み方I) 八百 啓介	1学期	1	2	103
1年					
歴史の読み方II (読替科目: 歴史の読み方II) 小林 道彦	1学期	1	2	104	
1年					
そのとき世界は (読替科目: そのとき世界は) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	105	
1年					
戦後の日本経済 (読替科目: 戦後の日本経済) 土井 徹平	2学期	1	2	106	
1年					
都市と農村の生活文化史 閉講		1	2		
1年					
ものと人間の歴史 (読替科目: ものと人間の歴史) 中野 博文 他	1学期	1	2	107	
1年					

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人物と時代の歴史 (読替科目：人物と時代の歴史) 山崎 勇治 他	1学期	1	2	108
		1年			
	教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) (読替科目：教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』)) 読売新聞西部本社、基盤教育センター 稲月 正、永末 康介	2学期	1	2	148
		1年			
	教養特講II (現代社会とエシカル消費) (読替科目：教養特講II (現代社会とエシカル消費)) 大平 剛	1学期	1	2	149
		1年			
	教養特講III (まなびとESD講座I) (読替科目：教養特講III (まなびとESD講座I)) 真鍋 和博	1学期	1	2	150
	1年				
教養特講IV (まなびとESD講座II) (読替科目：教養特講IV (まなびとESD講座II)) 真鍋 和博	2学期	1	2	151	
	1年				
教養特講IV (現代の日本の食と若者を考える) (読替科目：教養特講IV (現代の日本の食と若者を考える)) 三宅 博之	集中	1	2	152	
	1年				
■教職関連科目	日本史 (読替科目：日本史) 古賀 康士	2学期	1	2	109
		1年			
	西洋史 (読替科目：西洋史) 疇谷 憲洋	1学期	1	2	111
		1年			
	東洋史 (読替科目：東洋史) 植松 慎悟	2学期	1	2	110
		1年			
	社会学 (読替科目：社会学的思考) 稲月 正	1学期	1	2	86
		1年			
	人文地理学 (読替科目：人文地理学) 外戸保 大介	2学期	1	2	112
		1年			
土地地理学 (読替科目：土地地理学) 野井 英明	1学期	1	2	113	
	1年				
地誌学 (読替科目：地誌学) 外戸保 大介	1学期	1	2	114	
	1年				
倫理学 清水 満	2学期	1	2	2	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング (読替科目：情報社会への招待) 中尾 泰士	2学期	1	2	11
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	データ処理 (読替科目：データ処理) 棚次 奎介	1学期	1	2	153
		法律 1 - 1 . 再履			
	データ処理 (読替科目：データ処理) 廣渡 栄寿	1学期	1	2	154
		法律 1 - 2 . 再履			
	データ処理 (読替科目：データ処理) 浅羽 修丈	1学期	1	2	155
		法律 1 - 3 . 再履			
	データ処理 (読替科目：データ処理) 中尾 泰士	1学期	1	2	156
		法律 1 - 4 . 再履			
データ処理 (読替科目：データ処理) 中尾 泰士	2学期	1	2	157	
	1 学期未修得者再履				
情報表現 (読替科目：情報表現) 浅羽 修丈	2学期	2	2	158	
	2 年				
情報表現 (読替科目：情報表現) 棚次 奎介	2学期	2	2	159	
	2 年				
プログラミング基礎 閉講			2	2	
	2 年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (律政群 1-G) (読替科目：英語I (律政群 1-G)) 酒井 秀子	1学期	1	1	160
		律政群 1 - G			
	英語I (律政群 1-I) (読替科目：英語I (律政群 1-I)) 木梨 安子	1学期	1	1	161
		律政群 1 - I			
	英語II (律政群 1-G) (読替科目：英語II (律政群 1-G)) 酒井 秀子	2学期	1	1	162
		律政群 1 - G			
	英語II (律政群 1-I) (読替科目：英語II (律政群 1-I)) 木梨 安子	2学期	1	1	163
		律政群 1 - I			
英語III (律政群 1-G) (読替科目：英語III (律政群 1-G)) デビット・ニール・マクレーラン	1学期	1	1	164	
	律政群 1 - G				
英語III (律政群 1-I) (読替科目：英語III (律政群 1-I)) 伊藤 晃	1学期	1	1	165	
	律政群 1 - I				
英語IV (律政群 1-G) (読替科目：英語IV (律政群 1-G)) デビット・ニール・マクレーラン	2学期	1	1	166	
	律政群 1 - G				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IV (律政群 1 - I) (読替科目 : 英語IV (律政群 1 - I)) 伊藤 晃	2学期	1	1	167
		律政群 1 - I			
	英語V (律政群 2 - G) (読替科目 : 英語V (律政群 2 - G)) 木梨 安子	1学期	2	1	168
		律政群 2 - G			
	英語V (律政群 2 - I) (読替科目 : 英語V (律政群 2 - I)) 大塚 由美子	1学期	2	1	169
		律政群 2 - I			
	英語VI (律政群 2 - G) (読替科目 : 英語VI (律政群 2 - G)) 木梨 安子	2学期	2	1	170
		律政群 2 - G			
	英語VI (律政群 2 - I) (読替科目 : 英語VI (律政群 2 - I)) 大塚 由美子	2学期	2	1	171
		律政群 2 - I			
	英語VII (律政群 2 - G) (読替科目 : 英語VII (律政群 2 - G)) マーニー・セイテイ	1学期	2	1	172
		律政群 2 - G			
	英語VII (律政群 2 - I) (読替科目 : 英語VII (律政群 2 - I)) 薬師寺 元子	1学期	2	1	173
		律政群 2 - I			
	英語VIII (律政群 2 - G) (読替科目 : 英語VIII (律政群 2 - G)) マーニー・セイテイ	2学期	2	1	174
		律政群 2 - G			
英語VIII (律政群 2 - I) (読替科目 : 英語VIII (律政群 2 - I)) 薬師寺 元子	2学期	2	1	175	
	律政群 2 - I				
英語IX (済営律政 3 年) (読替科目 : 英語IX (済営律政 3 年)) 伊藤 晃	1学期	3	1	176	
	済営律政 3 年				
英語X (済営律政 3 年) (読替科目 : 英語X (済営律政 3 年)) 杉山 智子	2学期	3	1	177	
	済営律政 3 年				
英語XI (済営律政 3 年) (読替科目 : 英語XI (済営律政 3 年)) ダニー・ミン	1学期	3	1	178	
	済営律政 3 年				
英語XII (済営律政 3 年) (読替科目 : 英語XII (済営律政 3 年)) ダニー・ミン	2学期	3	1	179	
	済営律政 3 年				
■第二外国語	中国語I (読替科目 : 中国語I) 有働 彰子	1学期	1	1	180
		済営人律政群 1 年			
	中国語II (読替科目 : 中国語II) 有働 彰子	2学期	1	1	181
		済営人律政群 1 年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語Ⅲ (読替科目：中国語Ⅲ) ホウ ラメイ (彭腊梅)	1学期	1	1	182
		済営人律政群 1年			
	中国語Ⅳ (読替科目：中国語Ⅳ) ホウ ラメイ (彭腊梅)	2学期	1	1	183
		済営人律政群 1年			
	中国語Ⅴ (読替科目：中国語Ⅴ) 有働 彰子	1学期	2	1	184
		英済営人律政群 2年			
	中国語Ⅵ (読替科目：中国語Ⅵ) 有働 彰子	2学期	2	1	185
		英済営人律政群 2年			
	中国語Ⅶ (読替科目：中国語Ⅶ) 周 艶阳	1学期	2	1	186
		英済営人律政群 2年			
	中国語Ⅷ (読替科目：中国語Ⅷ) 周 艶阳	2学期	2	1	187
		英済営人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅰ (読替科目：朝鮮語Ⅰ) 金 貞淑	1学期	1	1	188
		済営律政群 1年			
	朝鮮語Ⅱ (読替科目：朝鮮語Ⅱ) 金 貞淑	2学期	1	1	189
		済営律政群 1年			
	朝鮮語Ⅲ (読替科目：朝鮮語Ⅲ) チャン ユンヒャン	1学期	1	1	190
		済営律政群 1年			
朝鮮語Ⅳ (読替科目：朝鮮語Ⅳ) チャン ユンヒャン	2学期	1	1	191	
	済営律政群 1年				
朝鮮語Ⅴ (読替科目：朝鮮語Ⅴ) チャン ユンヒャン	1学期	2	1	192	
	済営人律政群 2年				
朝鮮語Ⅵ (読替科目：朝鮮語Ⅵ) チャン ユンヒャン	2学期	2	1	193	
	済営人律政群 2年				
朝鮮語Ⅶ (読替科目：朝鮮語Ⅶ) 金 貞淑	1学期	2	1	194	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語Ⅷ (読替科目：朝鮮語Ⅷ) 金 貞淑	2学期	2	1	195	
	済営比人律政群 2年				
ロシア語Ⅰ (読替科目：ロシア語Ⅰ) 芳之内 雄二	1学期	1	1	196	
	英中国済営比人律政 1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語II (読替科目:ロシア語II) 芳之内 雄二	2学期	1	1	197
		英中国済営比人律政1年			
	ロシア語III (読替科目:ロシア語III) ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	198
		英中国済営比人律政1年			
	ロシア語IV (読替科目:ロシア語IV) ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	199
		英中国済営比人律政1年			
	ロシア語V (読替科目:ロシア語V) 芳之内 雄二	1学期	2	1	200
		英中国済営比人律政2年			
	ロシア語VI (読替科目:ロシア語VI) 芳之内 雄二	2学期	2	1	201
		英中国済営比人律政2年			
	ロシア語VII (読替科目:ロシア語VII) ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	202
		英中国済営比人律政2年			
	ロシア語VIII (読替科目:ロシア語VIII) ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	203
		英中国済営比人律政2年			
	ドイツ語I (読替科目:ドイツ語I) 古賀 正之	1学期	1	1	204
		済営人律政1年			
	ドイツ語II (読替科目:ドイツ語II) 古賀 正之	2学期	1	1	205
		済営人律政1年			
	ドイツ語III (読替科目:ドイツ語III) 山下 哲雄	1学期	1	1	206
		済営人律政1年			
ドイツ語IV (読替科目:ドイツ語IV) 山下 哲雄	2学期	1	1	207	
	済営人律政1年				
ドイツ語V (読替科目:ドイツ語V) 山下 哲雄	1学期	2	1	208	
	英中国済営比人律政2年				
ドイツ語VI (読替科目:ドイツ語VI) 山下 哲雄	2学期	2	1	209	
	英中国済営比人律政2年				
ドイツ語VII (読替科目:ドイツ語VII) 山下 哲雄	1学期	2	1	210	
	英中国済営比人律政2年				
ドイツ語VIII (読替科目:ドイツ語VIII) 山下 哲雄	2学期	2	1	211	
	英中国済営比人律政2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語I (読替科目：フランス語I) 山下 広一	1学期	1	1	212
		済営人律政 1年			
	フランス語II (読替科目：フランス語II) 山下 広一	2学期	1	1	213
		済営人律政 1年			
	フランス語III (読替科目：フランス語III) 中川 裕二	1学期	1	1	214
		済営人律政 1年			
	フランス語IV (読替科目：フランス語IV) 中川 裕二	2学期	1	1	215
		済営人律政 1年			
	フランス語V (読替科目：フランス語V) 坂田 由紀	1学期	2	1	216
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VI (読替科目：フランス語VI) 坂田 由紀	2学期	2	1	217
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VII (読替科目：フランス語VII) 小野 菜都美	1学期	2	1	218
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VIII (読替科目：フランス語VIII) 小野 菜都美	2学期	2	1	219
		英中国済営比人律政 2年			
	スペイン語I (読替科目：スペイン語I) 岡住 正秀	1学期	1	1	220
		中国済営人律政 1年			
	スペイン語II (読替科目：スペイン語II) 岡住 正秀	2学期	1	1	221
		中国済営人律政 1年			
スペイン語III (読替科目：スペイン語III) 辻 博子	1学期	1	1	222	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語IV (読替科目：スペイン語IV) 辻 博子	2学期	1	1	223	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語V (読替科目：スペイン語V) 青木 文夫	1学期	2	1	224	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VI (読替科目：スペイン語VI) 青木 文夫	2学期	2	1	225	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VII (読替科目：スペイン語VII) 辻 博子	1学期	2	1	226	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語VIII (読替科目：スペイン語VIII)	2学期	2	1	227
	辻 博子	英中国済営比人律政2年			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	233
	今泉 恵子	1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	234
	石塚 壮太郎	1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	235
	石田 信平	1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	236
	小野 憲昭	1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	237
	小池 順一	1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	238
	近藤 卓也	1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	239
	重松 博之	1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	240
	清水 裕一郎	1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	241
	高橋 衛	1年			
法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	242	
津田 小百合	1年				
法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	243	
中村 英樹	1年				
法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	244	
堀澤 明生	1年				
法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	245	
福本 忍	1年				
法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I)	1学期	1	2	246	
矢澤 久純	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習Ⅰ (読替科目：法学基礎演習Ⅰ) 水野 陽一	1学期	1	2	247
		1年			
	法学基礎演習Ⅰ (読替科目：法学基礎演習Ⅰ) 土井 和重	1学期	1	2	248
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ (読替科目：法学基礎演習Ⅱ) 今泉 恵子	2学期	1	2	249
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ (読替科目：法学基礎演習Ⅱ) 石塚 壮太郎	2学期	1	2	250
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ (読替科目：法学基礎演習Ⅱ) 石田 信平	2学期	1	2	251
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ (読替科目：法学基礎演習Ⅱ) 小野 憲昭	2学期	1	2	252
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ (読替科目：法学基礎演習Ⅱ) 小池 順一	2学期	1	2	253
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ (読替科目：法学基礎演習Ⅱ) 近藤 卓也	2学期	1	2	254
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ (読替科目：法学基礎演習Ⅱ) 重松 博之	2学期	1	2	255
	1年				
法学基礎演習Ⅱ (読替科目：法学基礎演習Ⅱ) 清水 裕一郎	2学期	1	2	256	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ (読替科目：法学基礎演習Ⅱ) 高橋 衛	2学期	1	2	257	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ (読替科目：法学基礎演習Ⅱ) 津田 小百合	2学期	1	2	258	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ (読替科目：法学基礎演習Ⅱ) 中村 英樹	2学期	1	2	259	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ (読替科目：法学基礎演習Ⅱ) 堀澤 明生	2学期	1	2	260	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ (読替科目：法学基礎演習Ⅱ) 福本 忍	2学期	1	2	261	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習II (読替科目: 法学基礎演習II) 矢澤 久純	2学期	1	2	262
		1年			
	法学基礎演習II (読替科目: 法学基礎演習II) 水野 陽一	2学期	1	2	263
		1年			
	法学基礎演習II (読替科目: 法学基礎演習II) 土井 和重	2学期	1	2	264
		1年			
	外国文献研究I (読替科目: 外国文献研究I) 大杉 一之	1学期	2	2	265
		2年			
	外国文献研究I (読替科目: 外国文献研究I) 土井 和重	1学期	2	2	266
		2年			
	外国文献研究II (読替科目: 外国文献研究II) 小池 順一	2学期	2	2	267
		2年			
	外国文献研究II (読替科目: 外国文献研究II) 近藤 卓也	2学期	2	2	268
		2年			
	法哲学専門演習I (読替科目: 法哲学専門演習I) 重松 博之	1学期	3	2	269
		3年			
	法哲学専門演習II (読替科目: 法哲学専門演習II) 重松 博之	2学期	3	2	270
		3年			
	法制史専門演習I 休講	1学期	3	2	
		3年			
法制史専門演習II 休講	2学期	3	2		
	3年				
憲法専門演習I (読替科目: 憲法専門演習I) 石塚 壮太郎	1学期	3	2	275	
	3年				
憲法専門演習I (読替科目: 憲法専門演習I) 中村 英樹	1学期	3	2	276	
	3年				
憲法専門演習II (読替科目: 憲法専門演習II) 石塚 壮太郎	2学期	3	2	277	
	3年				
憲法専門演習II (読替科目: 憲法専門演習II) 中村 英樹	2学期	3	2	278	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■総合科目	行政法専門演習I (読替科目: 行政法専門演習I) 近藤 卓也	1学期	3	2	283
		3年			
	行政法専門演習I (読替科目: 行政法専門演習I) 堀澤 明生	1学期	3	2	284
		3年			
	行政法専門演習II (読替科目: 行政法専門演習II) 近藤 卓也	2学期	3	2	285
		3年			
	行政法専門演習II (読替科目: 行政法専門演習II) 堀澤 明生	2学期	3	2	286
		3年			
	刑法専門演習I (読替科目: 刑法専門演習I) 土井 和重	1学期	3	2	291
		3年			
	刑法専門演習II (読替科目: 刑法専門演習II) 土井 和重	2学期	3	2	292
		3年			
	刑事訴訟法専門演習I (読替科目: 刑事訴訟法専門演習I) 水野 陽一	1学期	3	2	297
		3年			
	刑事訴訟法専門演習II (読替科目: 刑事訴訟法専門演習II) 水野 陽一	2学期	3	2	298
		3年			
	刑事学専門演習I 休講	1学期	3	2	
		3年			
	刑事学専門演習II 休講	2学期	3	2	
		3年			
社会保障法専門演習I (読替科目: 社会保障法専門演習I) 津田 小百合	1学期	3	2	303	
	3年				
社会保障法専門演習II (読替科目: 社会保障法専門演習II) 津田 小百合	2学期	3	2	304	
	3年				
労働法専門演習I (読替科目: 労働法専門演習I) 石田 信平	1学期	3	2	307	
	3年				
労働法専門演習II (読替科目: 労働法専門演習II) 石田 信平	2学期	3	2	308	
	3年				
国際法専門演習I (読替科目: 国際法専門演習I) 二宮 正人	1学期	3	2	311	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	国際法専門演習II (読替科目: 国際法専門演習II) 二宮 正人	2学期	3	2	312
		3年			
	民法専門演習I (読替科目: 民法専門演習I) 小野 憲昭	1学期	3	2	315
		3年			
	民法専門演習I (読替科目: 民法専門演習I) 福本 忍	1学期	3	2	316
		3年			
	民法専門演習I (読替科目: 民法専門演習I) 矢澤 久純	1学期	3	2	317
		3年			
	民法専門演習I (読替科目: 民法専門演習I) 清水 裕一郎	1学期	3	2	318
		3年			
	民法専門演習II (読替科目: 民法専門演習II) 小野 憲昭	2学期	3	2	319
		3年			
	民法専門演習II (読替科目: 民法専門演習II) 福本 忍	2学期	3	2	320
		3年			
	民法専門演習II (読替科目: 民法専門演習II) 矢澤 久純	2学期	3	2	321
		3年			
	民法専門演習II (読替科目: 民法専門演習II) 清水 裕一郎	2学期	3	2	322
		3年			
	民事訴訟法専門演習I (読替科目: 民事訴訟法専門演習I) 小池 順一	1学期	3	2	331
		3年			
民事訴訟法専門演習II (読替科目: 民事訴訟法専門演習II) 小池 順一	2学期	3	2	332	
	3年				
企業法専門演習I (読替科目: 企業法専門演習I) 今泉 恵子	1学期	3	2	335	
	3年				
企業法専門演習I (読替科目: 企業法専門演習I) 高橋 衛	1学期	3	2	336	
	3年				
企業法専門演習II (読替科目: 企業法専門演習II) 今泉 恵子	2学期	3	2	337	
	3年				
企業法専門演習II (読替科目: 企業法専門演習II) 高橋 衛	2学期	3	2	338	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	個別研究指導I (読替科目：法哲学専門演習III) 重松 博之	1学期	4	2	271
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：法制史専門演習III) 山口 亮介	集中	4	2	273
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：憲法専門演習III) 石塚 壮太郎	1学期	4	2	279
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：憲法専門演習III) 中村 英樹	1学期	4	2	280
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：行政法専門演習III) 近藤 卓也	1学期	4	2	287
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：行政法専門演習III) 堀澤 明生	1学期	4	2	288
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：刑法専門演習III) 土井 和重	1学期	4	2	293
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：刑法専門演習III) 大杉 一之	1学期	4	2	294
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：刑事訴訟法専門演習III) 水野 陽一	1学期	4	2	299
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：刑事学専門演習III) 朴 元奎	1学期	4	2	301
		4年			
個別研究指導I (読替科目：社会保障法専門演習III) 津田 小百合	1学期	4	2	305	
	4年				
個別研究指導I (読替科目：労働法専門演習III) 石田 信平	1学期	4	2	309	
	4年				
個別研究指導I (読替科目：国際法専門演習III) 二宮 正人	1学期	4	2	313	
	4年				
個別研究指導I (読替科目：民法専門演習III) 小野 憲昭	1学期	4	2	323	
	4年				
個別研究指導I (読替科目：民法専門演習III) 福本 忍	1学期	4	2	324	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	個別研究指導I (読替科目:民法専門演習III) 矢澤 久純	1学期	4	2	325
		4年			
	個別研究指導I (読替科目:民事訴訟法専門演習III) 小池 順一	1学期	4	2	333
		4年			
	個別研究指導I (読替科目:企業法専門演習III) 今泉 恵子	1学期	4	2	339
		4年			
	個別研究指導I (読替科目:企業法専門演習III) 高橋 衛	1学期	4	2	340
		4年			
	個別研究指導I (読替科目:民法専門演習III) 清水 裕一郎	1学期	4	2	326
		4年			
	個別研究指導II (読替科目:法哲学専門演習IV) 重松 博之	2学期	4	2	272
		4年			
	個別研究指導II (読替科目:法制史専門演習IV) 山口 亮介	2学期	4	2	274
		4年			
	個別研究指導II (読替科目:憲法専門演習IV) 石塚 壮太郎	2学期	4	2	281
		4年			
	個別研究指導II (読替科目:憲法専門演習IV) 中村 英樹	2学期	4	2	282
		4年			
個別研究指導II (読替科目:行政法専門演習IV) 近藤 卓也	2学期	4	2	289	
	4年				
個別研究指導II (読替科目:行政法専門演習IV) 堀澤 明生	2学期	4	2	290	
	4年				
個別研究指導II (読替科目:刑法専門演習IV) 土井 和重	2学期	4	2	295	
	4年				
個別研究指導II (読替科目:刑法専門演習IV) 大杉 一之	1学期	4	2	296	
	4年				
個別研究指導II (読替科目:刑事訴訟法専門演習IV) 水野 陽一	2学期	4	2	300	
	4年				
個別研究指導II (読替科目:刑事学専門演習IV) 朴 元奎	2学期	4	2	302	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	個別研究指導II (読替科目: 社会保障法専門演習IV) 津田 小百合	2学期	4	2	306
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 労働法専門演習IV) 石田 信平	2学期	4	2	310
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 国際法専門演習IV) 二宮 正人	2学期	4	2	314
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 民法専門演習IV) 小野 憲昭	2学期	4	2	327
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 民法専門演習IV) 福本 忍	2学期	4	2	328
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 民法専門演習IV) 矢澤 久純	2学期	4	2	329
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 民事訴訟法専門演習IV) 小池 順一	2学期	4	2	334
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 企業法専門演習IV) 今泉 恵子	2学期	4	2	341
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 企業法専門演習IV) 高橋 衛	2学期	4	2	342
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 民法専門演習IV) 清水 裕一郎	2学期	4	2	330
		4年			
法学総論 (読替科目: 法学総論) 梁田 史郎	1学期	1	2	228	
	1年				
現代法曹論I (読替科目: 現代法曹論I) 川上 修	2学期	1	2	229	
	1年				
現代法曹論II (読替科目: 現代法曹論II) 天久 泰	1学期	2	2	230	
	2年				
法律実務論I (読替科目: 法律実務論I) 本多 寿之	1学期	3	2	231	
	3年				
法律実務論II (読替科目: 法律実務論II) 細川 眞二	2学期	3	2	232	
	3年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■理論法学科目	法思想史 (読替科目：法思想史) 重松 博之	1学期	2	2	343
	2年				
	外国法 (読替科目：外国法) 森谷 克之	1学期	2	2	344
	2年				
	日本法制史 (読替科目：日本法制史) 山口 亮介	1学期(ペア)	2	4	345
	2年				
	法社会学 (読替科目：法社会学) 林田 幸広	2学期	2	2	346
	2年				
	法哲学 (読替科目：法哲学) 重松 博之	1学期	3	2	347
	3年				
比較法文化論 (読替科目：比較法文化論) 篠森 大輔	集中	3	2	348	
3年					
紛争処理論 (読替科目：紛争処理論) 林田 幸広	2学期	3	2	349	
3年					
■公法科目	日本国憲法原論 (読替科目：日本国憲法原論) 石塚 壮太郎	1学期	1	2	350
	1年				
	憲法人権論 (読替科目：憲法人権論) 中村 英樹	2学期	1	2	351
	1年				
	憲法機構論 (読替科目：憲法機構論) 中村 英樹	1学期	2	2	352
	2年				
	憲法訴訟論 (読替科目：憲法訴訟論) 石塚 壮太郎	2学期	2	2	353
	2年				
	行政法総論 (読替科目：行政法総論) 近藤 卓也	1学期(ペア)	2	4	354
	2年				
行政争訟法 (読替科目：行政争訟法) 堀澤 明生	2学期	2	2	355	
2年					
国家補償法 (読替科目：国家補償法) 堀澤 明生	1学期	3	2	356	
3年					
地方自治法 (読替科目：地方自治法) 岡本 博志	1学期(ペア)	3	4	357	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■公法科目	情報公開・個人情報保護法 (読替科目：情報公開・個人情報保護法) 岡本 博志	2学期	3	2	358
	3年				
■刑事法科目	刑法犯罪論 (読替科目：刑法犯罪論) 土井 和重	2学期(ペア)	1	4	359
	1年				
	刑法犯罪各論I (読替科目：刑法犯罪各論I) 大杉 一之	1学期	2	2	360
	2年				
	刑法犯罪各論II (読替科目：刑法犯罪各論II) 大杉 一之	1学期	2	2	361
	2年				
	刑事訴訟法総論 (読替科目：刑事訴訟法総論) 水野 陽一	2学期	2	2	362
	2年				
	刑事訴訟法各論 (読替科目：刑事訴訟法各論) 水野 陽一	1学期	3	2	363
	3年				
犯罪学 (読替科目：犯罪学) 朴 元奎	1学期(ペア)	3	4	364	
3年					
刑事司法政策I (読替科目：刑事司法政策I) 朴 元奎	1学期	3	2	365	
3年					
刑事司法政策II (読替科目：刑事司法政策II) 朴 元奎	2学期	3	2	366	
3年					
■社会法科目	社会法総論 (読替科目：社会法総論) 津田 小百合	2学期	1	2	367
	1年				
	社会サービス法 (読替科目：社会サービス法) 津田 小百合	2学期	2	2	368
	2年				
	所得保障法 (読替科目：所得保障法) 津田 小百合	2学期	2	2	369
	2年				
	雇用関係法 (読替科目：雇用関係法) 石田 信平	1学期	2	2	370
2年					
労使関係法 (読替科目：労使関係法) 石田 信平	2学期	2	2	371	
2年					
独占禁止法 (読替科目：独占禁止法) 諏佐 マリ	1学期	3	2	372	
3年					

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■社会法科目	知的財産法 (読替科目:知的財産法) 木村 友久	1学期	3	2	373
	3年				
	環境法 (読替科目:環境法) 下村 英嗣	集中	3	2	374
3年					
■国際関係法科目	国際法I (読替科目:国際法I) 二宮 正人	1学期	2	2	376
	2年				
	国際法II (読替科目:国際法II) 二宮 正人	2学期	2	2	377
2年					
■民事法科目	国際私法 (読替科目:国際私法) 中林 啓一	集中	3	2	378
	3年				
	国際取引法 (読替科目:国際取引法) 大隈 一武	集中	3	2	379
3年					
■民事法科目	現代国際関係法 (読替科目:現代国際関係法) 沼田 隆一	集中	3	2	380
	3年				
	■民事法科目	民法総則 (読替科目:民法総則) 清水 裕一郎	1学期(ヘア)	1	4
1年					
■民事法科目		物権法 (読替科目:物権法) 清水 裕一郎	2学期	1	2
	1年				
	■民事法科目	家族法 (読替科目:親族法) 小野 憲昭	1学期	2	2
2年					
■民事法科目		債権総論 (読替科目:債権総論) 矢澤 久純	1学期(ヘア)	2	4
	2年				
	■民事法科目	債権各論 (読替科目:債権各論) 堀田 泰司	2学期(ヘア)	2	4
2年					
■民事法科目		民事訴訟法総論 (読替科目:民事訴訟法総論) 小池 順一	1学期	2	2
	2年				
	■民事法科目	民事訴訟法各論 (読替科目:民事訴訟法各論) 小池 順一	2学期	2	2
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■民事法科目	倒産処理法 (読替科目：倒産処理法) 小池 順一	1学期	3	2	388
		3年			
	民事執行法 (読替科目：民事執行法) 春日川 路子	集中	3	2	389
		3年			
	消費者法 休講		3	2	
		3年			
■商事法科目	会社法I (読替科目：会社法I) 高橋 衛	1学期	2	2	391
		2年			
	会社法II (読替科目：会社法II) 高橋 衛	2学期	2	2	392
		2年			
	企業活動と法 (読替科目：企業活動と法) 今泉 恵子	1学期	2	2	390
		2年			
	企業取引法I (読替科目：企業取引法I) 今泉 恵子	2学期	2	2	393
		2年			
	企業取引法II (読替科目：企業取引法II) 前越 俊之	2学期	3	2	394
		3年			
	証券市場と法 (読替科目：証券市場と法) 前越 俊之	2学期	3	2	395
		3年			
企業法の現代的展開 (読替科目：企業法の現代的展開) 木村 友久	2学期	3	2	396	
	3年				
■関連科目A	政策構想論 (読替科目：政策構想論) 大澤 津	1学期	1	2	402
		1年			
	公共政策論 (読替科目：公共政策論) 檜原 真二	1学期	2	2	407
		2年			
	政策過程論 (読替科目：政策過程論) 申 東愛	1学期	2	2	409
		2年			
政策評価論 (読替科目：政策評価論) 檜原 真二 他	2学期	2	2	414	
	2年				
地方自治論 (読替科目：地方自治論) 壬生 裕子	集中	2	2	411	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■関連科目A	福祉国家論 (読替科目:福祉国家論) 狭間 直樹	2学期	1	2	404
		1年			
	政治学 (読替科目:政治学) 秦 正樹	1学期	1	2	397
		1年			
	政治過程論 (読替科目:政治過程論) 秦 正樹	2学期	1	2	403
		1年			
	西洋政治史 (読替科目:西洋政治史) 西 貴倫	1学期	1	2	405
		1年			
	現代政治思想 (読替科目:現代政治思想) 大澤 津	1学期	2	2	410
		2年			
	政治文化論 (読替科目:政治文化論) 大澤 津	2学期	2	2	423
		2年			
	政党政治論 (読替科目:政党政治論) 中井 遼	1学期	2	2	415
		2年			
	都市環境論 (読替科目:都市環境論) 三宅 博之	1学期	1	2	398
		1年			
	政策理論特講 (読替科目:政策理論特講) 松田 憲忠	集中	2	2	408
		2年			
	行政組織論 (読替科目:行政組織論) 横山 麻季子	1学期	2	2	425
		2年			
比較政策論 (読替科目:比較政策論) 坂本 隆幸	1学期	2	2	427	
	2年				
都市政策論 (読替科目:都市政策論) 田代 洋久	1学期	2	2	416	
	2年				
福祉政策論 (読替科目:福祉政策論) 狭間 直樹	1学期	2	2	417	
	2年				
環境政策論 (読替科目:環境政策論) 申 東愛	2学期	2	2	418	
	2年				
自治体政策研究 (読替科目:自治体政策研究) 檜原 真二	2学期	2	2	421	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■関連科目A	都市経済論 (読替科目：都市経済論)	2学期	1	2	406
	田代 洋久	1年			
	都市経営論 (読替科目：都市経営論)	2学期	2	2	412
	田代 洋久	2年			
	地方行政改革論		2	2	
	休講	2年			
	日本政治論 (読替科目：日本政治論)	2学期	1	2	399
	秦 正樹	1年			
	日本行政論 (読替科目：行政学)	集中	1	2	400
	伊藤 慎式	1年			
	公共経営論 (読替科目：公共経営論)	2学期	2	2	422
	狭間 直樹	2年			
	NPO論 (読替科目：NPO論)	1学期	1	2	401
	楢原 真二 他	1年			
	途上国開発論 (読替科目：途上国開発論)	1学期	2	2	413
	三宅 博之	2年			
	地域統合論 (読替科目：地域統合論)	2学期	2	2	420
	中井 遼	2年			
	アジア地域社会論 (読替科目：アジア地域社会論)	2学期	2	2	419
	三宅 博之	2年			
応用政策特講 (読替科目：応用政策特講)	集中	2	2	424	
中道 壽一	2年				
対外政策論 (読替科目：対外政策論)	2学期	2	2	426	
坂本 隆幸	2年				
国際機構論I (読替科目：国際機構論I)	1学期	3	2	428	
山本 直	3年				
国際機構論II (読替科目：国際機構論II)	2学期	3	2	429	
山本 直	3年				
国際人権論 (読替科目：国際人権論)	2学期	3	2	432	
山本 直	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■関連科目A	国際協力論I (読替科目：国際協力論I) 大平 剛	1学期	3	2	430
		3年			
	国際協力論II (読替科目：国際協力論II) 大平 剛	2学期	3	2	431
		3年			
	国際紛争論 (読替科目：国際紛争論) 川上 耕平	1学期	3	2	433
		3年			
	障害者福祉論I (読替科目：障害者に対する支援と障害者自立支援制度) 伊東 良輔	1学期	3	2	434
		3年			
	障害者福祉論II 休講		3	2	
		3年			
	老人福祉論I (読替科目：高齢者に対する支援と介護保険制度1) 石塚 優	1学期	3	2	435
		3年			
老人福祉論II (読替科目：高齢者に対する支援と介護保険制度2) 石塚 優	2学期	3	2	436	
	3年				
■関連科目B	ビジネス英語研究 (読替科目：ビジネス英語研究) 松田 智	2学期	3	2	461
		3年			
	世界経済論I 伊藤 正哉	2学期	3	2	3
		3年			
	世界経済論II 山川 俊和	2学期	3	2	4
		3年			
	ミクロ経済学I 休講		1	2	
		1年			
	ミクロ経済学II 休講		2	2	
		2年			
	マクロ経済学I 休講		1	2	
		1年			
マクロ経済学II 休講		2	2		
	2年				
産業組織論I (読替科目：産業組織論I) 川崎 晃央	1学期	2	2	455	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■関連科目B	産業組織論II (読替科目: 産業組織論II) 川崎 晃央	2学期	2	2	456
		2年			
	経済地理学I (読替科目: 経済地理学I) 近江 貴治	1学期	2	2	440
		2年			
	経済地理学II (読替科目: 経済地理学II) 近江 貴治	2学期	2	2	441
		2年			
	国際経済論I (読替科目: 国際経済論I) 末永 勝昭	1学期	2	2	438
		2年			
	国際経済論II (読替科目: 国際経済論II) 末永 勝昭	2学期	2	2	439
		2年			
	公共経済学 (読替科目: 公共経済学) 牛房 義明	1学期	3	2	437
		3年			
	財政学I 休講		3	2	
		3年			
	財政学II 休講		3	2	
		3年			
	金融論I (読替科目: 金融論I) 後藤 尚久	1学期	2	2	442
		2年			
	金融論II (読替科目: 金融論II) 後藤 尚久	2学期	2	2	443
		2年			
国際貿易論I (読替科目: 国際貿易論I) 水戸 康夫	1学期	3	2	451	
	3年				
国際貿易論II (読替科目: 国際貿易論II) 水戸 康夫	2学期	3	2	452	
	3年				
都市財政I (読替科目: 地方財政論) 難波 利光	1学期	3	2	459	
	3年				
都市財政II 休講		3	2		
	3年				
国際金融論I (読替科目: 国際金融論I) 前田 淳	1学期	3	2	453	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■関連科目B	国際金融論II (読替科目：国際金融論II) 前田 淳	2学期	3	2	454
		3年			
	経営戦略 (読替科目：経営戦略論) 浦野 恭平	2学期	2	2	447
		2年			
	経営組織論 (読替科目：経営組織論) 山下 剛	1学期	2	2	444
		2年			
	人事管理論 (読替科目：人的資源管理論) 福井 直人	1学期	2	2	460
		2年			
	企業ファイナンスI (読替科目：企業ファイナンスI) 松本 守	1学期	2	2	445
		2年			
	企業ファイナンスII (読替科目：企業ファイナンスII) 松本 守	2学期	2	2	446
		2年			
	財務会計論I (読替科目：財務会計論I) 西澤 健次	1学期	2	2	448
		2年			
財務会計論II (読替科目：財務会計論II) 西澤 健次	2学期	2	2	449	
	2年				
証券市場論 (読替科目：証券市場論) 久多里 桐子	1学期	3	2	457	
	3年				
中小企業論 (読替科目：中小企業論) 別府 俊行	1学期	3	2	458	
	3年				
コーポレートガバナンス 休講		3	2		
	3年				
会計監査論 (読替科目：会計監査論) 任 章	2学期	3	2	450	
	3年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 (読替科目：教職論) 楠 凡之	1学期	1	2	462
		1年			
	教育原理 (読替科目：教育原理) 児玉 弥生	2学期	1	2	463
		1年			
教育制度 休講	1学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	社会科教育法 A (読替科目：社会科教育法 A) 下地 貴樹	1学期	2	2	464
		2年			
	社会科教育法 B (読替科目：社会科教育法 B) 吉村 義則	2学期	2	2	465
		2年			
	公民科教育法 A 休講	1学期	2	2	
		2年			
	公民科教育法 B 休講	2学期	2	2	
		2年			
	道徳教育の研究 (読替科目：道徳教育指導論) 田中 友佳子	2学期	2	2	466
		2年			
	特別活動の研究 (読替科目：特別活動論) 楠 凡之	2学期	2	2	467
		2年			
	教育方法学 (読替科目：教育方法学) 下地 貴樹	1学期	2	2	468
		2年			
	教育工学 (読替科目：教育工学) 大塚 一徳	2学期	2	2	475
		2年			
	教育実習 1 (読替科目：教育実習 1) 見玉 弥生 他	2学期	3	2	471
		3年			
	教育実習 2 休講	1学期	4	2	
		4年			
教育相談 (読替科目：教育相談) 楠 凡之	1学期	2	2	470	
	2年				
生徒・進路指導論 (読替科目：生徒・進路指導論) 楠 凡之	2学期	2	2	469	
	2年				
社会科教育法 C 休講	1学期	2	2		
	2年				
社会科教育法 D 休講	2学期	2	2		
	2年				
教職実践演習 (中・高) 休講	2学期	4	2		
	4年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■選択科目	教育心理学 (読替科目：教育心理学) 山下 智也	2学期	2	2	472
		2年			
	教育法規 休講	2学期	3	2	
		3年			
	教育社会学 (読替科目：教育社会学) 作田 誠一郎	集中	2	2	473
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 (読替科目：人権教育論) 河嶋 静代	1学期	2	2	474
		2年			

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 (読替科目：歴史と政治) 小林 道彦	2学期	1	2	476
		1年			
	人間と文化 (読替科目：異文化理解の基礎) 神原 ゆうこ	1学期	1	2	477
		1年			
	ことばの科学 (読替科目：ことばの科学) 漆原 朗子	1学期	1	2	478
		1年			
国際学入門 (読替科目：国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	479	
	1年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI (読替科目：メンタル・ヘルスI) 中島 俊介	1学期	1	2	494
		1年			
	メンタル・ヘルスII (読替科目：メンタル・ヘルスII) 中島 俊介	2学期	1	2	495
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 山本 浩二	1学期	1	2	496
		1年			
フィジカル・ヘルスII 休講	2学期	1	2		
	1年				
社会調査 休講	2学期	1	2		
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 休講	1学期	1	1		
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 徳永 政夫	2学期	1	1	497	
	1年				
■テーマ科目	地球の生いたち 休講	2学期	1	2	
		1年			
	現代人のこころ (読替科目：現代人のこころ) 森永 今日子	1学期	1	2	482
	1年				
思想と現代 休講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	文学を読む (読替科目:文学を読む) 生住 昌大 他	2学期	1	2	483
		1年			
	現代正義論 (読替科目:現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	484
		1年			
	民主主義とは何か 休講	1学期	1	2	
		1年			
	人権論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	ジェンダー論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	障がい学 (読替科目:障がい学) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	485
		1年			
	市民活動論 (読替科目:市民活動論) 西田 心平	2学期	1	2	486
		1年			
	企業と社会 休講	1学期	1	2	
		1年			
	現代社会と倫理 (読替科目:現代社会と倫理) 伊原木 大祐	1学期	1	2	487
		1年			
	現代の国際情勢 休講	1学期	1	2	
	1年				
国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	5	
	1年				
国際紛争と国連 (読替科目:国際紛争と国連) 二宮 正人	2学期	1	2	489	
	1年				
開発と統治 休講	2学期	1	2		
	1年				
グローバル化する経済 (読替科目:グローバル化する経済) 田中 淳平 他	1学期	1	2	488	
	1年				
国際社会と日本 (読替科目:国際社会と日本) 中野 博文 他	2学期	1	2	490	
	1年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	歴史の読み方I (読替科目: 歴史の読み方I) 小林 道彦	1学期	1	2	491
		1年			
	歴史の読み方II (読替科目: 歴史の読み方II) 小林 道彦	1学期	1	2	492
		1年			
	そのとき世界は 休講	2学期	1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 (読替科目: 人物と時代の歴史) 山崎 勇治 他	1学期	1	2	493
		1年			
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング (読替科目: 情報社会への招待) 中尾 泰士	2学期	1	2	481
		1年			
	データ処理 (読替科目: データ処理) 浅羽 修丈	2学期	1	2	498
		1学期未修得者再履			
情報表現 (読替科目: 情報表現) 浅羽 修丈	1学期	2	2	499	
	2年				
	情報表現 休講	2学期	2	2	
		2年			
■専門教育科目 ■総合科目	法学総論 休講		1	2	
		1年			
■公法科目	日本国憲法原論 (読替科目: 日本国憲法原論) 石塚 壮太郎	1学期	1	2	500
		1年			
	憲法人権論 休講		1	2	
		1年			
行政法総論 休講		2	4		
	2年				
■社会法科目	社会法総論 休講		1	2	
		1年			
■国際関係法科目	国際法I 休講		2	2	
		2年			
	国際法II 休講		2	2	
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■民事法科目	債権各論 (読替科目：債権各論) 福本 忍	2学期 (ヘア)	2	4	501
	2年				
■商事法科目	会社法I 休講		2	2	
	2年				
	会社法II 休講		2	2	
	2年				
■関連科目A	公共政策論 (読替科目：公共政策論) 檜原 真二	1学期	2	2	503
	2年				
	地方自治論 休講		2	2	
	2年				
	都市環境論 (読替科目：都市環境論) 三宅 博之	1学期	1	2	502
	1年				
	福祉政策論 休講		2	2	
	2年				
	NPO論 休講		1	2	
	1年				
	障害者福祉論I (読替科目：障害者に対する支援と障害者自立支援制度) 高崎 陽子	1学期	3	2	504
	3年				
老人福祉論I (読替科目：高齢者に対する支援と介護保険制度 1) 石塚 優	1学期	3	2	505	
3年					
老人福祉論II (読替科目：高齢者に対する支援と介護保険制度 2) 石塚 優	2学期	3	2	506	
3年					
■関連科目B	ミクロ経済学I (読替科目：ミクロ経済学I) 朱 乙文	2学期	1	2	507
	1年				
	ミクロ経済学II (読替科目：ミクロ経済学II) 朱 乙文	1学期	2	2	508
	2年				
	マクロ経済学I (読替科目：マクロ経済学I) 田中 淳平	2学期	1	2	509
	1年				
	マクロ経済学II (読替科目：マクロ経済学II) 田中 淳平	1学期	2	2	510
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■関連科目B	経済地理学I		2	2		
	休講	2年				
	経済地理学II		2	2		
	休講	2年				
	国際経済論I (読替科目: 国際経済論I)	魏 芳	1学期	2	2	511
	休講	2年				
	国際経済論II (読替科目: 国際経済論II)	魏 芳	2学期	2	2	512
	休講	2年				
	財政学I (読替科目: 財政学I)	前林 紀孝	1学期	3	2	515
	休講	3年				
	財政学II (読替科目: 財政学II)	前林 紀孝	2学期	3	2	516
	休講	3年				
	金融論I	休講		2	2	
				2年		
	金融論II	休講		2	2	
				2年		
	都市財政I	休講		3	2	
				3年		
	都市財政II	休講		3	2	
				3年		
国際金融論I	休講		3	2		
			3年			
国際金融論II	休講		3	2		
			3年			
経営戦略 (読替科目: 経営戦略論)	山下 剛	2学期	2	2	513	
			2年			
経営組織論	休講		2	2		
			2年			
人事管理論	休講		2	2		
			2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	企業ファイナンスI		2	2	
	休講	2年			
	企業ファイナンスII		2	2	
	休講	2年			
	財務会計論I (読替科目：財務会計論I)	1学期	2	2	514
	西澤 健次	2年			
	証券市場論		3	2	
	休講	3年			
	中小企業論		3	2	
	休講	3年			
コーポレートガバナンス		3	2		
休講	3年				
会計監査論		3	2		
休講	3年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 (読替科目：教職論)	1学期	1	2	517
	楠 凡之	1年			
	教育原理 (読替科目：教育原理)	2学期	1	2	518
	見玉 弥生	1年			
	教育制度	1学期	3	2	
	休講	3年			
	社会科教育法A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	社会科教育法B	2学期	2	2	
	休講	2年			
公民科教育法A (読替科目：公民科教育法A)	1学期	2	2	521	
下地 貴樹	2年				
公民科教育法B (読替科目：公民科教育法B)	2学期	2	2	522	
吉村 義則	2年				
道徳教育の研究 (読替科目：道徳教育指導論)	2学期	2	2	523	
田中 友佳子	2年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	特別活動の研究 (読替科目：特別活動論) 楠 凡之	2学期	2	2	524
	2年				
	教育方法学 (読替科目：教育方法学) 下地 貴樹	1学期	2	2	525
	2年				
	教育工学 休講	2学期	2	2	
	2年				
	教育実習 1 (読替科目：教育実習 1) 児玉 弥生 他	2学期	3	2	528
	3年				
	教育実習 2 (読替科目：教育実習 2) 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	529
	4年				
	教育相談 (読替科目：教育相談) 楠 凡之	1学期	2	2	527
	2年				
	生徒・進路指導論 (読替科目：生徒・進路指導論) 楠 凡之	2学期	2	2	526
	2年				
社会科教育法 C (読替科目：社会科教育法 C) 下地 貴樹	1学期	2	2	519	
2年					
社会科教育法 D (読替科目：社会科教育法 D) 下地 貴樹	2学期	2	2	520	
2年					
教職実践演習 (中・高) 楠 凡之 他	2学期	4	2		
4年					
■選択科目	教育心理学 休講	2学期	2	2	
	2年				
	教育法規 休講	2学期	3	2	
	3年				
	教育社会学 休講	1学期	2	2	
	2年				

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきている。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域(ローカル)に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 エスニシティ活性化の理論
- 第4回 グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1)【ヨーロッパの事例】
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2)【移民と階級、教育、政治】
- 第7回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(1)【移民の理論】
- 第8回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(2)【移住システムと移民コミュニティ】
- 第9回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会問題発生メカニズム】
- 第10回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(1)【在日朝鮮人とは】
- 第11回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(2)【多文化コミュニティ形成の条件】
- 第12回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会移動】
- 第13回 排外主義と排外意識 - 排外意識形成メカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
授業テーマと関連のある新聞記事や文献に(できるだけ)目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞・雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

倫理学 【昼】

担当者名 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨンおよび古代ギリシャの倫理(1) ソクラテス
- 第2回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想【イデアと国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) ルターの倫理思想【召命と信仰義認】
- 第6回 近代の倫理思想(1) デカルトの倫理思想【旅とコギト】
- 第7回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想【オランダの自由】
- 第8回 近代の倫理思想(4) ルソーの倫理思想【自然人と社会契約】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想【理性の神話】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想(1) フランクフルト学とハーバマスの倫理思想【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 現代の倫理思想(2) フーコーの倫理思想【統治性と権力】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む)40パーセント
講義で紹介した原典と参考文献のどれかを読んで書く期末レポート60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で紹介した原典、参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

適宜リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

キーワード /Keywords

世界経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 正哉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

経済問題は、私たちの日常生活にも、地域にも国にも、また国際社会にも大きな影響を及ぼしています。経済を理解することで国際関係分野と地域研究分野でより深い理解を得ることができます。

この授業では、経済の仕組みを理解するうえで最低限必要な経済学の知識と見方・考え方を身に付けることをめざします。この授業では、テキストにしたがって日常の経済取引を扱う「市場」に関する項目(ミクロ経済)から始めて、国全体の経済を扱う項目(マクロ経済)へと進めていきます。説明では複雑な数式は使わず、できるだけ具体的な事例を出しながら説明していきます。また、随時経済に関する時事トピックを取り上げて解説します。

教科書 /Textbooks

小塩隆士著「高校生のための経済学入門」、ちくま新書、2002年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重「はじめての経済学」(上・下)、日本経済新聞出版社、2004年 (○)

岩田規久男「経済学への招待」、新生社、2007年

宮崎勇・田谷禎三「世界経済図説 第三版」、岩波新書、2012年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 需要の決まり方
- 第3回 供給の決まり方
- 第4回 市場メカニズムのメリット
- 第5回 なぜ政府が必要なのか(1)市場の失敗
- 第6回 なぜ政府が必要なのか(2)所得再分配
- 第7回 なぜ政府が必要なのか(3)経済の安定化
- 第8回 経済全体の大きさを測る
- 第9回 物価と経済成長
- 第10回 お金の役割
- 第11回 金融政策
- 第12回 大きな政府と小さな政府
- 第13回 財政赤字をめぐるさまざまな議論
- 第14回 地域と国際
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...90%、授業中の課題...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、教科書を予習し、新聞や雑誌の経済関連記事にも目を通すことを心がける。事後学習としては、教科書を読み直すとともに、新たに学んだ専門的な概念や理論について参考図書を読んで理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市場 GDP 財政

世界経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 山川 俊和 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

この授業では、現代の世界経済の動向をとらえるための基本的な知識と考え方を得ることを目指します。国際貿易、多国籍企業、途上国開発、地球環境といったトピックを取り上げます。とくに、地球環境問題について、世界経済との関係から詳しく解説します。この授業を通じて、新聞記事をより深く理解できるようになることや、経済学の基本的な理論や学説に親しんでもらうことも狙っています。

教科書 /Textbooks

パワーポイントファイルを配布します。講義は、石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟編（2010）『現代世界経済をとらえる Ver.5』東洋経済新報社に基づいて進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岩本武和ほか（2012）『グローバル・エコノミー（第3版）』有斐閣。
寺西俊一ほか編（2018）『農家が消える：自然資源経済論からの提言』みすず書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義のガイダンス
- 第2回 国際貿易（1）国際貿易の現代的特徴
- 第3回 国際貿易（2）国際貿易の基本原則
- 第4回 国際貿易（3）自由貿易と保護貿易
- 第5回 国際貿易（4）国際収支と為替レート
- 第6回 直接投資と多国籍企業（1）直接投資と多国籍企業の現状
- 第7回 直接投資と多国籍企業（2）グローバル価値連鎖
- 第8回 直接投資と多国籍企業（3）多国籍企業の社会的責任
- 第9回 発展途上国の開発問題（1）貧しい国と豊かな国
- 第10回 発展途上国の開発問題（2）貧困削減政策とフェアトレード
- 第11回 地球環境問題（1）気候変動の基礎知識と京都議定書
- 第12回 地球環境問題（2）パリ協定と再生可能エネルギー
- 第13回 地球環境問題（3）世界経済と環境負荷
- 第14回 地球環境問題（4）環境と貿易
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（リアクションペーパーなど）：20%、期末レポート：80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、事前に配付される資料を読み、不明点や気になる点をあらかじめチェックしておいてください。また、経済関係の用語をあらかじめ自分で確認しておくことが望ましいです。事後学習としては、講義内容を振り返り、疑問点や新たな発見などをまとめておいてください。

履修上の注意 /Remarks

普段から新聞やニュースに触れて経済も含めた世界の動向についての情報を仕入れておくことが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞やニュースを見ると、世界情勢は特に経済の面で激動していることが分かります。この授業をきっかけにして世界経済に関心を持ち、世界経済について正しく理解した上で自分の意見を持てるようになればいいと思います。

キーワード /Keywords

国際貿易、直接投資・多国籍企業、グローバル価値連鎖、南北問題、地球環境問題、再生可能エネルギー。

国際社会論【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
			○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきている。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域(ローカル)に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 エスニシティ活性化の理論
- 第4回 グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1)【ヨーロッパの事例】
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2)【移民と階級、教育、政治】
- 第7回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(1)【移民の理論】
- 第8回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(2)【移住システムと移民コミュニティ】
- 第9回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会問題発生メカニズム】
- 第10回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(1)【在日朝鮮人とは】
- 第11回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(2)【多文化コミュニティ形成の条件】
- 第12回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会移動】
- 第13回 排外主義と排外意識 - 排外意識形成メカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
授業テーマと関連のある新聞記事や文献に(できるだけ)目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞・雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

歴史と政治【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の課題図書などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と文化

第11回 宗教と家族・コミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、順序を入れ替えて補講を行う。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化」とビジョンII「現代社会と文化」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』 (朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生み出す本能 (上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

ことばの科学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」および「宗教」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代とは何か【概説】
- 3回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 4回 生活世界の概念【フッサールの科学批判】
- 5回 生活世界の変容（1）【近代産業社会】
- 6回 生活世界の変容（2）【戦争の美学】
- 7回 生活世界の変容（3）【政治の美学】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の分析【アーレントの近代批判】
- 10回 古代世界の公共空間（1）【古代文明と戦争】
- 11回 古代世界の公共空間（2）【アテナイ民主政】
- 12回 古代世界の公共空間（3）【古代ギリシャの公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域（1）【寛容の概念】
- 14回 宗教の私事性と公的領域（2）【宗教の問い】
- 15回 宗教の私事性と公的領域（3）【衝突と共生】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

情報社会への招待【昼】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考案することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報社会への招待	
		INF100F	

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【対米宣戦】【「最終的解決」】
- 10回 第二次世界大戦と三国同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】
- 12回 太平洋戦争1【真珠湾攻撃】【ミッドウェイ海戦】【東条英機】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】【サイパン島陥落】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所に目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。メモはこまめにとるように心がけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

可能性としての歴史【昼】

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身に付けることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）、授業中に指示した資料には目を通すこと。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれませんが（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の課題図書などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
- 太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 本多俊和ほか編2007『人類の歴史・地球の現在』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 中間テストの解説

第14回 医療の普遍性と文化

第15回 癒しの多様性 / 講義全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストや課題40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト（またはレポート）の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」や「政治のなかの文化」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			言語と認知
			LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師) : 2016年度実績 東京大学教授 大堀 壽夫氏
- 第10回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第11回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第12回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第13回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第14回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第15回 まとめ : 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		
		共生社会論	
		SOW200F	

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げながら、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共同体と身体
			PHR210F

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
- 3回 身体の変容と限界 1【夢と現実のあいだ】
- 4回 身体の変容と限界 2【変身する身体】
- 5回 身体の変容と限界 3【排除される身体】
- 6回 身体・家族・社会 1【精神分析的アプローチ】
- 7回 身体・家族・社会 2【脳科学的アプローチ】
- 8回 身体・家族・社会 3【シュレーパー症例】
- 9回 身体の社会的統制 1【政治と規律】
- 10回 身体の社会的統制 2【統制される身体】
- 11回 身体の社会的統制 3【処罰される身体】
- 12回 身体の社会的統制 4【差別される身体】
- 13回 身体の社会的統制 5【補足】
- 14回 日本的身体の表象 1【哲学理論】
- 15回 日本的身体の表象 2【歴史的事例】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

共同体と身体 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

戦争論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅰ
			GES101F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論1
- 3回 読解と議論2
- 4回 読解と議論3
- 5回 読解と議論4
- 6回 読解と議論5
- 7回 読解と議論6
- 8回 読解と議論7
- 9回 読解と議論8
- 10回 読解と議論9
- 11回 読解と議論10
- 12回 読解と議論11
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。仮に2年生以上が本基礎演習に登録していたとしても、第1回の授業を欠席した場合には登録を抹消する。
人数調整に際しては、本演習に【友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なもの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は15人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書、2004
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 創造的読書で思考力を鍛える - 『知的複眼思考法』(1)
- 第3回 考えるための作文技法 - 『知的複眼思考法』(2)
- 第4回 問いの立て方と展開の仕方 - 『知的複眼思考法』(3)
- 第5回 複眼思考を身につける - 『知的複眼思考法』(4)
- 第6回 自分の「問い」をたてる
- 第7回 情報を集める(1) - 図書館の利用
- 第8回 情報を集める(2) - Webサイトの利用
- 第9回 情報をまとめる(1) - ブレーンストーミング
- 第10回 情報をまとめる(2) - KJ法
- 第11回 自らの問いと方法を明確にする
- 第12回 質的調査の考え方
- 第13回 フィールドワーク
- 第14回 アクティブ・インタビュー
- 第15回 調査倫理について

教養基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 40% レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題を出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

報告者は、レジюмеを準備すること。
レジюмеには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジюмеの作成方法については授業中に説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：

本演習では、1年生を対象に大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマの文庫や新書を選ぶことが多いです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジュメの作りかた、論点の見つけ方、文献の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、受講者同士の議論を経て、レポートの作成を目指します。

教科書 /Textbooks

難波功士 2014 『「就活」の社会史』 祥伝社新書

本年度は大学生の置かれた状況を客観的に見つめなおすことのできるテキストを選びました。1年生も興味深く読むことができまるのではないかと思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』 慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』 専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 議論のしかた
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

教養基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第13回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ レジユメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などはそれなりに時間がかかります、妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・ 履修を希望する学生は、第1回の授業から必ず出席してください。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・ レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席やレジюмеの未提出はそれぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジюмеを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習II」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生・3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、まず自分自身を知ること、自分自身を人に理解してもらうことを主眼におき、人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解する
- 3回 自己概念を知るワーク(1)
- 4回 自己概念を知るワーク(2)
- 5回 自己概念を知るワーク(3)
- 6回 自分自身を人に理解させることワーク(1)
- 7回 自分自身を人に理解させることワーク(2)
- 8回 自分自身を人に理解させることワーク(3)
- 9回 カラダを使ったコミュニケーションワーク(1)
- 10回 カラダを使ったコミュニケーションワーク(2)
- 11回 カラダを使ったコミュニケーションワーク(3)
- 12回 カラダを使ったコミュニケーションワーク(4)
- 13回 カラダを使ったコミュニケーションワーク(5)
- 14回 カラダを使ったコミュニケーションワーク(6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 80% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
本年度はキャンプ実習は実施しません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っている能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している重要な分野である。しかしながら、生命科学のミクロの現象は多くの難しそうな専門用語で説明されることから、一般には敬遠されがちである。そこで、本演習では「身近な生命科学」を主たるテーマとし、身の回りの生物や生命現象などより自分でテーマを設定し、見つけた「不思議」について調べることによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 テーマ探し(キャンパスの生物など)
- 4回 プレゼンテーションの準備
- 5回 プレゼンテーション(グループ)
- 6回～7回 学内外での調査研究
- 8回 プレゼンテーションの準備
- 9回 プレゼンテーション(グループ)
- 10回～11回 学内外での調査研究
- 12回 プレゼンテーションの準備
- 13回 プレゼンテーション1(個人)
- 14回 プレゼンテーション2(個人)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養基礎演習Ⅰ【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 期間中の土曜日(1～2回)、学内外で調査研究活動を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目(「生命と環境」や「人間と生命」)も合わせて受講するとより理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2010）『水と緑と土 - 伝統を捨てた社会の行方-』中公新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習方法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

教養基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、講義で概要を理解したうえで、文献、資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：発達障がいの世界1 (発達障がいとは)
- 第3回：発達障がいの世界2 (自閉症理解の歴史)
- 第4回：発達障がいの世界3 (支援法の基礎)
- 第5回：発達障がいの世界4 (応用行動分析的アプローチ)
- 第6回：発達障がいの世界5 (TEACCHプログラムのアプローチ)
- 第7回：発達障がいの世界6 (構造化)
- 第8回：発達障がいの世界7 (コミュニケーション指導法)
- 第9回：発達障がいの世界8 (行動問題への対応)
- 第10回：資料輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50 %
議論への参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

北九州市の観光の実態や施策、観光まちづくりなどについて、多様な視点から学ぶことを目的とする。
北九州市の成り立ち、歴史などの基礎知識の習得だけでなく、インバウンド、文学、アニメ、世界遺産、工場夜景など、近年、北九州市が得意とする新たなテーマについても広く学んでいく。また、各テーマに精通した外部講師による講義を予定している。そのため、他の講義以上により興味深い講義が展開される予定である。
講義後半には、前半の講義の踏まえて、フィールドワークを行い、それをもとにまちあるきマップの作成を行う。マップの作成を通して、講義内容を体感することにより、深い学びを得る。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高橋一夫(2017)「DMO 観光地経営のイノベーション」学芸出版社
 - ・矢ヶ崎紀子(2017)「インバウンド観光入門 世界が訪れたい日本をつくるための政策・ビジネス・地域の取組み」晃洋書房
 - 尾家建生、金井万造編(2008)「これでわかる!着地型観光-地域が主役のツーリズム」学芸出版社
 - ・鈴木俊博(2015)「稼げる観光: 地方が生き残り潤うための知恵」ポプラ社
 - NPO法人 観光力推進ネットワーク・関西編(2016)「地域創造のための観光マネジメント講座」学芸出版社
- など。
その他に図書館2階の○○学がわかるコーナーに「まちあるきがわかる、まちあるきが創れる」コーナーを設置していますので、必要に応じて利用すること。

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
北九州市の観光の実態と施策
 - 第2回：北九州市の成り立ち
 - 第3回：北九州市の交通網の成り立ち
 - 第4回：北九州市の歴史・文化1 門司
 - 第5回：北九州市の歴史・文化2 小倉
 - 第6回：北九州市と文学
 - 第7回：北九州市とアニメ・フィルムコミッション
 - 第8回：北九州の世界遺産・近代化遺産
北九州の産業観光・工場夜景
 - 第9回：北九州市の観光まちづくりの動向
北九州市のMICE戦略・インバウンドの実態
 - 第10回：まちあるきの手法
 - 第11回：フィールドワーク1
 - 第12回：フィールドワーク2
 - 第13回：フィールドワークのまとめ1
 - 第14回：フィールドワークのまとめ2
 - 第15回：フィールドワークのまとめ3
- * 上記の授業内容は現在検討中のものであり、実際は変更になる可能性がある

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ ミニレポート：40%
- ・ フィールドワークの成果物：40%
- ・ 授業の貢献度：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に毎回のテーマについて調べ、各回の授業後に、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、北九州の観光について復習し、考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は公益財団法人北九州観光コンベンション協会提供の講義です。また、北九州市が主催する観光市民大学の受講生もいっしょに受講します。
将来、旅行や観光関係の仕事に就きたいと考えている人や、観光による地域の活性化などに興味がある人にはもちろん最適ですが、それ以外にも北九州市について深く知りたい、学びたい人にとっても最適な講義です。

キーワード /Keywords

観光振興、北九州市の成り立ち・歴史・文化、インバウンド、観光まちづくり、まちあるき、DMO、着地型観光

教養基礎演習Ⅱ 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
		教養基礎演習Ⅱ	GES102F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かせないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社プラスアルファ文庫、1997年、950円（税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で購入する必要があります。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業のルール、成績評価等の説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% レポート...50%

(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(課題内容についてはMoodle上に掲示)。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

社会的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

- (1) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
 - ・ 質的調査と量的調査の違いを理解する。
 - ・ インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
 - ・ 調査倫理について理解する。
- (2) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについてレポートを作成する。
 - ・ 自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
 - ・ どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
 - ・ 資料やインタビューを通してレポートを作成する。

インタビュー調査実習（市内）を行う可能性がある。
演習形式で行うため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、資料を配付する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房
- 谷富夫編, 2008, 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』, 世界思想社

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「問い」をたてる
- 第3回 論証戦略を立てる(方法を考える)
- 第4回 情報を集める - 北九大図書館
- 第5回 情報を集める - CiNii、国立国会図書館(NDL-OPAC)、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第6回 質的社会調査の考え方
- 第7回 フィールドワーク
- 第8回 インタビュー
- 第9回 ライフヒストリー分析
- 第10回 調査の企画
- 第11回 データの作成から論文の執筆まで
- 第12回 質的調査の応用
- 第13回 質的調査と調査倫理
- 第14回 インタビュー調査
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題(レポート)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
課題が出された場合、指定された日時までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分でデータをつくり、分析する楽しさを感じてください。

キーワード /Keywords

質的調査、インタビュー、調査倫理

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

レポートの書き方と異文化を学ぶ：

本演習では、「テーマを自分で設定して、調べ物をしてレポートを書く」という作業に迷いがある学生（主として1年生）が、レポートの書き方を基礎から学ぶことを目的としています。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指します。テキストは比較的最近出版された文庫や新書を選ぶことが多いです。一般読者を想定して執筆されたテキストを土台として、そこから関連関連資料の探し方を学び、論点を探し、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、より完成度の高いレポートの作成を目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

小川さやか2016『『その日暮らし』の人類学』光文社文庫

「異文化理解の基礎」「政治のなかの文化」「現代社会と文化」を履修中、履修済みの学生は楽しめるテキストではないかと思ます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編)2006『アカデミック・スキルズ』慶應義塾大学出版会
- 慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員2014『ダメレポート脱出法』慶應義塾大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは？
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本をどう活用するのか？
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマの発見かた
- 第9回 レポートの書き方
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 レポート最終報告会

※受講者数に応じて内容を変更することもあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、演習中の発言、その他の提出物など）50%
ただし、報告者の無断欠席や課題未提出者は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・レジュメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などにはそれなりに時間がかかります。妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、書くまでの準備にも時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

キーワード /Keywords

レポートの書きかた、問題のたてかた、考察のしかた、本の読みかた、議論のしかた

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう（400字×10枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

皆さんのレジユメをコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年、700円）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
授業開始前までに報告用レジユメを作成しておくこと。授業終了後には演習での討論を踏まえて、レジユメや報告の改善に取り組むこと。
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅱ
			GES102F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、自分を知ること、そして仲間づくりをすすめるコミュニケーションワークなどを通して、人間関係づくりのトレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること
- 3回 自分自身を人に理解させること
- 4回 人を理解すること(1)
- 5回 人を理解すること(2)
- 6回 コンセンサスと人間関係づくり(1)
- 7回 コンセンサスと人間関係づくり(2)
- 8回 リーダーシップとは(1)
- 9回 リーダーシップとは(2)
- 10回 コミュニケーションワーク(1)
- 11回 コミュニケーションワーク(2)
- 12回 コミュニケーションワーク(3)
- 13回 コミュニケーションワーク(4)
- 14回 コミュニケーションワーク(5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 80% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
本年度は、スキー実習は実施しません

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間(8月中下旬～9月上旬)に、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はいかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみがかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義期間中の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 テーマ探し(キャンパスの生物など)
- 4回 プレゼンテーションの準備
- 5回 プレゼンテーション(グループ)
- 6回～7回 学内外での調査研究
- 8回 プレゼンテーションの準備
- 9回 プレゼンテーション(グループ)
- 10回～11回 学内外での調査研究
- 12回 プレゼンテーションの準備
- 13回 プレゼンテーション1(個人)
- 14回 プレゼンテーション2(個人)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいは1学期までに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 1～2回、昼休みを利用した調査研究活動を行う予定。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命と環境」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ¥840 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会 + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来、態度） 50%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業には予めテキストを精読してのぞむこと。
また、事後学習としては、最終レポートの作成に向け、毎回の学びをしっかりとリフレクションしておくこと。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本授業は、履修者同士で教え合うスタイルである。
したがって、受け身の授業ではなく、学生が学生に教えるという「教育的視点」を持てるものが履修すること。
そのため、予め当該担当章の内容については、しっかりと精読した上で、自分の考えを確立したうえで、授業に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、資料、文献を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜配布、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習Iの復習。
- 第3回：教養基礎演習Iの復習。
- 第4回：教養基礎演習Iの復習。
- 第5回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第6回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第7回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第8回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第9回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第10回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第11回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第12回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第13回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第14回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

伊野担当の教養基礎演習I (発達障がいセミナー) を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(議論・発言の積極性)...50% レポート...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意欲がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。すでに本演習に登録済みの場合でも、第1回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消する。4年生であっても例外は認めない。
人数調整に際しては、本演習に【友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

AI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野巨・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習 AI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を集める2 - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第11回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第14回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論等を記したレジюмеを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

文化と社会について学びながらレポートの書き方を向上させる：
本演習では文化と社会に関するテーマに関する新書を入り口として、そこから各自の関心に応じて「自分でテーマを設定し、学びを深め、レポートを書く」ということを目指します。今学期は、視覚と触覚の文化の差、障がい者の歴史と文化、バリアフリー社会に関して知識を深めつつ、勉強の仕方でも学ぶことを目指します。

教科書 /Textbooks

広瀬浩二郎 2017『目に見えない世界を歩く：「全盲」のフィールドワーク』

様々な論点を提示している本です。自分と異なる生き方・感性をする他人を理解することを深く考えてみましょう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○松嶋健 2014『プシコナウティカ』世界思想社
佐渡島紗織 2015『レポート・論文をよくする「書き直し」ガイド』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学における本の読みかた・探しかた
- 第2回 議論のしかた
- 第3回 論点の広げ方
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論④
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

教養演習 AI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業における取りくみ50%
ただし、報告者の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ レジユメの作成、レポートの執筆にはそれなりに時間がかかります。妥協せずに課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

・ 履修を希望する学生は第1回から出席してください。修正申告終了までは履修登録できますが、欠席分の授業内容を自習する努力が必要となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

・ 担当者の講義（「異文化理解の基礎」「政治のなかの文化」「現代社会の文化」など）を履修したことがあると、理解が深まります。

キーワード /Keywords

異文化、視覚、触覚、障がい、バリアフリー

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジュメ」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジュメを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジュメの内容...50%
 無断欠席やレジュメの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジュメを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジュメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AII」とセットで履修することを希望します。
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
- 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している重要な分野である。しかしながら、生命科学のミクロの現象は多くの難しそうな専門用語で説明されることから、一般には敬遠されがちである。そこで、本演習では「身近な生命科学」を主たるテーマとし、身の回りの生物や生命現象などより自分でテーマを設定し、見つけた「不思議」について調べることによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 テーマ探し(キャンパスの生物など)
- 4回 プレゼンテーションの準備
- 5回 プレゼンテーション(グループ)
- 6回~7回 学内外での調査研究
- 8回 プレゼンテーションの準備
- 9回 プレゼンテーション(グループ)
- 10回~11回 学内外での調査研究
- 12回 プレゼンテーションの準備
- 13回 プレゼンテーション1(個人)
- 14回 プレゼンテーション2(個人)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習:授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 期間中の土曜日 (1～2回)、学内外で調査研究活動を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」、「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習 A1【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいに関し、当事者の書いた文献資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習の復習。
- 第3回：教養基礎演習の復習。
- 第4回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第5回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第6回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第7回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第8回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第9回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第10回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
 議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

伊野担当教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かさないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社プラスアルファ文庫、1997年、950円（税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で購入する必要があります。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 1 0 回 読解と議論 9
- 1 1 回 読解と議論 1 0
- 1 2 回 読解と議論 1 1
- 1 3 回 復習と補助学習 1
- 1 4 回 復習と補助学習 2
- 1 5 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 1 5 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(課題内容についてはMoodle上に掲示)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。
なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会1
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会2
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習AII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート(論文)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習AI」「教養演習AII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える：

本演習では、漠然と現代社会に関する問題についてインタビュー調査や参与観察などの質的な調査をすることに興味があり、漠然と卒業論文で質的調査をしてみたいと考えている学生を対象とする。

漠然と卒業論文で質的調査をとりいれてみたいと考えている学生はいると思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、受講者の関心に応じて質的調査の結果を用いた文献を購読するとともに、質的調査の方法論に興味関心にどのように生かすことができるかを学び、自身の問題関心を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関する質的調査の結果を用いたテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：磯野真穂『医療者が語る答えなき世界』、菅原和孝(編)『フィールドワークへの挑戦』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社

○箕浦康子(編) 1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

教養演習 A II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 具体的な現場から社会を理解することについて（講義）
- 第3回 インタビュー調査の方法と実践①
- 第4回 インタビュー調査の方法と実践②
- 第5回 言葉からわかることの限界
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第9回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート相互添削
- 第15回 レポートブラッシュアップ

※受講者の人数に合わせて内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、
報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。事前準備をしっかりとってください。
- ・ 学期末のレポートでは興味あるテーマについて調査準備をしてみることを求めます。そのための文献調査なども必要なので、授業外学習に積極的に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 具体的にフィールドワークを行う必要は特にありませんが、授業の後半では調査設計や調査のための下準備あたる作業をしたいので、何らかの研究関心を持ってください。
- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 受講者の関心を尋ねてテキストを決めるので、履修を希望する場合、第1回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 卒業論文では、現代社会や異文化に関する具体的な問題に関心があり、質的調査を取り入れてみようかなと思う2年生以上の受講生を歓迎します。なお、この授業は質的調査の方法を教えるものではなく、どのような研究が質的調査向きなのかを考えることを目的としています。結果として、質的調査は自分の問題関心に合わないということに気付くかもしれませんが、それも重要な発見ですので、気楽に受講してください。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、質的調査

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう（400字×20枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

皆さんのレジユメをコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ論未提出も「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに報告用レジユメを作成しておくこと。授業終了後には演習での議論を踏まえて、レジユメや報告の改善に取り組むこと。毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 A I」とセットで履修することを希望します。
A Iを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

教養演習AIIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間(8月中下旬～9月上旬)に、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はおかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみがかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 テーマ探し (キャンパスの生物など)
- 4回 プレゼンテーションの準備
- 5回 プレゼンテーション (グループ)
- 6回～7回 学内外での調査研究
- 8回 プレゼンテーションの準備
- 9回 プレゼンテーション (グループ)
- 10回～11回 学内外での調査研究
- 12回 プレゼンテーションの準備
- 13回 プレゼンテーション1 (個人)
- 14回 プレゼンテーション2 (個人)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいは1学期までに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 1〜2回、昼休みを利用した調査研究活動を行う予定。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについてあつかった映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどとりあげ、それを素材として議論しながら、また、ボランティア活動などを通じて、発達障がいについての理解を深める。

教科書 /Textbooks

随時指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養演習 A I 復習。
- 第3回：教養演習 A I 復習。
- 第4回：視聴およびディスカッション。
- 第5回：視聴およびディスカッション。
- 第6回：視聴およびディスカッション。
- 第7回：視聴およびディスカッション。
- 第8回：視聴およびディスカッション。
- 第9回：視聴およびディスカッション。
- 第10回：視聴およびディスカッション。
- 第11回：視聴およびディスカッション。
- 第12回：視聴およびディスカッション。
- 第13回：視聴およびディスカッション。
- 第14回：視聴およびディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションでの発言内容 50 %
ディスカッションへの参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養演習 AII (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

途中、授業に代わりボランティア活動に参加する可能性があるかもしれない。
受講者が多数の場合は、受講者調整を行う。受講者調整する場合は、伊野担当の教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIおよび教養演習 (発達障がいセミナー) AI履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、「倫理学」の基礎的な理解に役立つテキストを取り上げる予定である。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業時に公表する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(人数調整、演習でのルール、成績評価法、テキストの説明)
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(議論・発言の積極性)...50% レポート...50%

(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意欲がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回（ガイダンス）時に受講者数調整を実施する。そのため、本演習への参加を希望する者は、必ず第1回の授業に出席する必要がある。すでに本演習に登録済みの場合でも、第1回の授業を欠席した場合にはその登録を抹消する。4年生であっても例外は認めない。
人数調整に際しては、【友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を尊重したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（課題内容についてはMoodle上に掲示）。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文(レポート)を書くことをめざす。それゆえ「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

BI(1学期)では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略(実証方法の道筋)の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 論文(レポート)の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査-技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習BI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える(方法を検討する)
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する2 - CiNii, 国立国会図書館(NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー(テキスト批評)1
- 第9回 文献レビュー(テキスト批評)2
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評)3
- 第11回 文献レビュー(テキスト批評)4
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評)5
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評)6
- 第14回 文献レビュー(テキスト批評)7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ地域研究入門：

本演習では、漠然とヨーロッパの現代社会に関する問題や異文化に関する問題に興味があり、漠然と卒業論文などでそれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。

本演習では、受講者の関心に応じて現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とする。専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：石川真作ほか(編)『周縁から照射するEU社会』、高橋秀寿ほか(編)『東欧の20世紀』、森明子(編)『ヨーロッパ人類学』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 新聞からわかること、文章からわかること(講義・議論)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論・議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート相互添削
- 第15回 レポートのブラッシュアップ

教養演習BI【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められます。事前の学習は必須です。
- ・ 学期末のレポートを作成するプロセスも授業の一環に組み込まれています。毎週何らかの進捗を求めます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ テキストを読むだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 受講者の希望を聞いてテキストを決めるので、履修を希望する場合は第1回に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ヨーロッパの現代社会や文化に関する問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのか、何をすればいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・ 担当者のほかの授業(現代社会と文化、異文化理解の基礎など)を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、ヨーロッパ、

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジュメ」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジュメを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジュメの内容...50%
無断欠席やレジュメの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジュメを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジュメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AI・ AII」「教養演習 BII」とセットで履修することを希望します。
AI・ AIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っている能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習BI(防衛セミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している重要な分野である。しかしながら、生命科学のミク口の現象は多くの難しそうな専門用語で説明されることから、一般には敬遠されがちである。そこで、本演習では「身近な生命科学」を主たるテーマとし、身の回りの生物や生命現象などより自分でテーマを設定し、見つけた「不思議」について調べることによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 テーマ探し (キャンパスの生物など)
- 4回 プレゼンテーションの準備
- 5回 プレゼンテーション (グループ)
- 6回～7回 学内外での調査研究
- 8回 プレゼンテーションの準備
- 9回 プレゼンテーション (グループ)
- 10回～11回 学内外での調査研究
- 12回 プレゼンテーションの準備
- 13回 プレゼンテーション 1 (個人)
- 14回 プレゼンテーション 2 (個人)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。
事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 期間中の土曜日(1～2回)、学内外で調査研究活動を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習BI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：自閉症スペクトラムの理解（自閉症スペクトラム障害とは）。
- 第3回：自閉症スペクトラムの理解（原因と障害特性）。
- 第4回：自閉症スペクトラムの理解（療育・教育・支援方法の変遷）。
- 第5回：支援法の基礎（構造化）。
- 第6回：支援法の基礎（コミュニケーション）。
- 第7回：支援法の基礎（行動問題）。
- 第8回：支援の実践およびディスカッション。
- 第9回：支援の実践およびディスカッション。
- 第10回：支援の実践およびディスカッション。
- 第11回：支援の実践およびディスカッション。
- 第12回：支援の実践およびディスカッション。
- 第13回：支援の実践およびディスカッション。
- 第14回：支援の実践およびディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50%
 議論への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養演習BI(発達障がいセミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する可能性があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習(発達障がいセミナー)I、IIおよび教養演習(発達障がいセミナー)AI、AII履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。

例年、哲学・思想関連の本を一冊セレクトし、それを全員で読み進めている。今回は、ユング派心理学者の故・河合隼雄による『母性社会日本の病理』を取り上げる。日本をよりよく理解するために、西洋の文化・宗教との対比が欠かさないことを教えてくれる貴重な論考である。

教科書 /Textbooks

河合隼雄『母性社会日本の病理』、講談社プラスアルファ文庫、1997年、950円（税込）。

（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で購入する必要があります。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス (授業のルール、成績評価等の説明)
- 2 回 読解と議論 1
- 3 回 読解と議論 2
- 4 回 読解と議論 3
- 5 回 読解と議論 4
- 6 回 読解と議論 5
- 7 回 読解と議論 6
- 8 回 読解と議論 7
- 9 回 読解と議論 8
- 10 回 読解と議論 9
- 11 回 読解と議論 10
- 12 回 読解と議論 11
- 13 回 復習と補助学習 1
- 14 回 復習と補助学習 2
- 15 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% レポート...50%

(2 回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全 15 回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

教養演習BⅡ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

参加を希望する場合は、初回時に指示と説明があるので、必ず出席してください。初回の出席が確認できない場合、こちらで履修登録を取り消す可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(課題内容についてはMoodle上に掲示)。就職活動等の理由で継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BII
			GES302F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

BII（2学期）では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習BII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート・論文...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジメを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「教養演習BI」「教養演習BII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習B II 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ地域研究入門：

本演習では、漠然とヨーロッパの現代社会に関する問題や異文化に関する問題に興味があり、在学中にもうちょっと勉強してみたい、または卒業論文などでそれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。

本演習では、受講者の関心に応じて現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とする。専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。ただし、1学期の教養基礎演習BIの受講者がいればその学生の希望を優先する。

(候補：明石書店『○○を知るための×章』シリーズのうち、ヨーロッパ諸国に関するものから適宜選択)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 議論のしかた、コメントのしかた (講義)
- 第3回 テキスト輪読と議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 問題関心の深め方について(講義)
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 受講生による議論の提起
- 第9回 受講生による議論の提起 / レポートの書き方について確認
- 第10回 受講生による議論の提起
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート相互添削
- 第15回 レポートのブラッシュアップ

教養演習B II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べる事が求められます。受講生が関連する文献をさがして問題提起をする回も準備しています。事前学習は必須です。
- ・ 学期末のレポートを作成するプロセスも授業の一環に組み込まれています。計画的に授業外学習を進めましょう。

履修上の注意 /Remarks

- ・ テキストを読むだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- ・ 受講者の希望を聞いてテキストを決めるので、履修を希望する場合は第1回に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ヨーロッパの現代社会や文化に関する問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・ 担当者のほかの授業（現代社会と文化、異文化理解の基礎など）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、ヨーロッパ

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう（400字×30枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

皆さんのレジユメをコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ論未提出も「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに報告用レジユメを作成しておくこと。授業終了後には演習での議論を踏まえて、レジユメや報告の改善に取り組むこと。毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習BI」とセットで履修することを希望します。
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習B II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

教養演習B Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中の集中講義期間(8月中下旬～9月上旬)に、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はいかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみがかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

他の集中講義の科目を履修しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 テーマ探し (キャンパスの生物など)
- 4回 プレゼンテーションの準備
- 5回 プレゼンテーション (グループ)
- 6回～7回 学内外での調査研究
- 8回 プレゼンテーションの準備
- 9回 プレゼンテーション (グループ)
- 10回～11回 学内外での調査研究
- 12回 プレゼンテーションの準備
- 13回 プレゼンテーション1 (個人)
- 14回 プレゼンテーション2 (個人)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：自分でテーマを決め、発表に向けて少しずつ準備すること。

事後学習：授業中に出された課題をMoodleにて提出すること。

<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

教養演習 B II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいは1学期までに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 1〜2回、昼休みを利用した調査研究活動を行う予定。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習BⅡ【昼】

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 B II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回：オリエンテーション。
- 第 2 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 3 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 4 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 5 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 6 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 7 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 8 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 9 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 10 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 11 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 12 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 13 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 14 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 15 回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50 %
報告内容 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

教養演習 B II (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する可能性があるかもしれない。
受講者調整を科す。受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIおよび教養演習 (発達障がいセミナー) A I、A II、B I履修済みの学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENV002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅と自然
- 第10講 山村暮らしと故郷
- 第11講 山と森の自然観
- 第12講 竹の産業史
- 第13講 竹の文化
- 第14講 木の文化
- 第15講 第9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらす)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

キーワード /Keywords

動物園

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通して地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地球の生いたち
			GOL001F

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は遅くとも38億年前頃には誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや地球の成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。
この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を総合的に理解する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）
丸山茂徳・磯崎行雄著「生命と地球の歴史」（岩波書店）、
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：イントロダクション -地球の歴史の表し方-【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1【地球惑星の構成としくみ】
- 3回目：生きている地球2【プレートテクトニクス】
- 4回目：生きている地球3【ウエゲナーと大陸移動説】
- 5回目：地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 6回目：地球史を記録する地層と化石【地層と化石の種類と生成のしくみ】
- 7回目：地球生命の起源と生物圏の変遷史【生物圏の通史】
- 8回目：目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 9, 10回目：生物進化史上最大の事変【カンブリア爆発】
- 9回目：カンブリア爆発の特徴と原因
- 10回目：カンブリア爆発の生物進化上の意義
- 11回目：顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 12回目：顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 13回目：顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目：人類の起源と進化【人類の変遷史】
- 15回目：まとめと演習【人間圏の成立と環境問題】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（90点）およびミニレポート（10点）による。
上記の合計点100点のうち、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

地球の生いたち【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行い、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校で地学を履修していなくても大丈夫である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと休止を学ぶことを通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然史へのいざない
			BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員名）。

- 1回 ガイダンス
- 2回 植物を鍵とした生物間相互作用（真鍋） 【食物連鎖】【共生】
- 3回 アンモナイトの古生物学（御前） 【化石】【進化】【古生態】
- 4回 鳥類に関するトピック（タイトル・講師未定）
- 5回 石の音が聞こえる（森） 【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 6回 両生類の多様性と保全（江頭）
- 7回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田） 【化石の有用性】【生命史】
- 8回 博物館見学（1回目）
- 9回 骨から知る脊椎動物進化（大橋） 【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 10回 魚類に関するトピック（タイトル・講師未定）
- 11回 深海生物～その形と適応的意義（下村） 【深海】
- 12回 昆虫の多様性と進化（葦島） 【分類】【学名】
- 13回 二次的自然と哺乳類（馬場） 【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 14回 博物館見学（2回目）～課題研究
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 2回の博物館見学は原則必須とする。
- ・ 授業中の課題60%、期末レポート40%

自然史へのいざない【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前に各回のキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 8回～14回の授業は11月10（土）と11月17（土）（ともに終日）に北九州市立自然史・歴史博物館にて行う予定。
- ・ スケジュールと講義タイトルは変更となる可能性があるので初回ガイダンス時に確認すること。
- ・ 博物館までの交通費および入館料は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			くらしと化学
			CHM001F

授業の概要 /Course Description

化学物質とその物性は、自然を知り、生活を豊かにし、未来社会を展望するのに必要です。また現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象や工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。そのため、市民は、教養として基礎的な化学知識を基に、身近な問題の科学・技術情報への理解を必要としています。その学習を進めるために、学習事項と身近な現象の関連を講義の中で示します。その事により、化学への理解、興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析・理解能力を高めることがこの授業のねらいです。

物質の構造（原子・分子・化学結合）、や物性に関する基礎知識、重要な物性である物質三態（気・液・固）やその他の物性（酸塩基、酸化還元など）など、物性と分子構造が、自然現象とどう関わるかを学習します。物質の三態で説明できないコロイドという現象も学習します。さらに一般化学物質（無機物、有機物）や生命に関わる生体物質（糖、脂質、タンパク質、核酸など）が化学現象を担うと生活に関わる問題、環境問題、原子力・放射能問題の関連を解説します。

これらの学習で化学物質の系統性をつかみ、自然現象と物性や化学物質の関係を理解する。

教科書 /Textbooks

新版 教養の現代化学(第2版)

著者：多賀光彦、片岡正光、早野清治、沼田ゆかり 著

出版社：三共出版

定価2592円（本体2400円＋税8%） / 2016年4月発行

ISBN 978-4-7827-0734-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）2200円、ISBN 978-4-621-04227-4

○「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）

○「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

くらしと化学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1)、2) 原子、分子と化学結合
1章 原子の成り立ちと周期律 2章 化学結合と物質の結合
- 3)、4) 気体、液体、固体、溶液そしてコロイド
3章 物質の三態と相平衡
- 5)、6) 酸・塩基、酸化・還元
5章 酸と塩基、6章 酸化と還元
- 7)、8) 基礎有機化学と官能基
第7章 簡単な有機化合物
- 9)、10) 生化学
第8章 生体を構成する物質
- 11)、12) 生活と化学物質
第10章 生活の中の有機物質 第11章 生活の中の無機物質
北九州市の特徴である石灰岩について補足
- 13) エネルギー源と原子力問題
第13章 原子力エネルギーとクリーンエネルギー 第14章 14 - 7節 放射能汚染
- 14) 地球圏と環境問題
第14章 大気と環境 第15章 水と環境
- 15) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容の基礎的な部分を理解しているか。その理解を授業で出たり、一般に見られる化学的現象に結びつけることができるかを見る。簡単レポート・小テスト(演習、質問など) 20%、期末試験80%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に、教科書・プリントの該当部に目を通して、学習事項が定着するよう努める。教科書やプリントの要点をメモや強調(しるし)することで復習がやりやすいで行うことを勧める。テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。その注目点や、授業の疑問点は授業の理解を深めるので質問する。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。補足資料(プリント)を必ず受け取る(翌週も配る)。ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくが良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。事後学習としては、ノートの整理、重要事項の整理をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

章末問題は、学習したことを整理するのに役立つので取り組んでください。新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

基礎化学、生活の化学、環境の化学、化学結合。気体、液体、固体、コロイド、表面、酸、塩基、酸化、還元、電池、化学反応、アミノ酸、糖、脂質、核酸、大気汚染、地球温暖化物質、原子力、放射能

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 石田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 思春期・青年期の親子関係【第2の分離・個体化、共依存】
- 第3回 思春期・青年期の友人関係【チャムシップ、ふれあい恐怖】
- 第4回 思春期・青年期における自己の問題【アイデンティティ、同一性拡散】
- 第5回 思春期・青年期を再考する【思春期危機、不適応】
- 第6回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第7回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第8回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第9回 他者の心を読む【共感、心の理論】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【進化、行動主義】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

現代人のこころ【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
村江 史年 / 地域共生教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。	
	コミュニケーション力			
			環境都市としての北九州	ENV001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうが、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 900円+税
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系(外部講師)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 施設見学・エコタウン
- 8回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 小テスト(日高)
- 12回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 13回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(421Lab・村江)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績(40%)、小テストおよび授業中の課題(60%)

環境都市としての北九州【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、北方Moodleで提出すること。
<https://kmoodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアムとエコタウン）は原則として必須とする。スケジュールに注意すること。

- ・ エコタウン（バスツアー）は11月7日（水）の予定。参加できない場合は各自で代替施設を見学すること。
- ・ 環境ミュージアム見学は11月23日（木）午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。
- ・ 環境首都検定は12月9日（日）または13日の予定

* 授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
* 環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、北九州市

私たちと宗教 【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			私たちと宗教
			PHR006F

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。
授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教である仏教と神道を軸にして、キリスト教・イスラム教・道教などと比較しながら理解を深めてもらう。留学生にとっては宗教を通して日本文化の特質を理解することができるだろう。

教科書 /Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
- 橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）
- 末木文美士『日本宗教史』（岩波新書）
- 末木文美士『日本仏教史』（新潮社・新潮文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要説明
- 2回 日本人の宗教観
- 3回 世界の諸宗教
- 4回 宗教の諸類型
- 5回 宗教の構成要素
- 6回 仏教について1（釈迦の教え）
- 7回 仏教について2（上座部仏教と大乘仏教）
- 8回 仏教について2（日本仏教の特色一本覚思想 祖先崇拜）
- 9回 仏教について3（日本仏教の特色一山岳仏教・神仏習合）
- 10回 一神教と多神教1（一神教の起源）
- 11回 一神教と多神教2（一神教の神観念）
- 12回 神道について1（創世記の天地創造と記紀神話の天地開闢）
- 13回 神道について2（神道の世界観）
- 14回 神道について3（神道の罪と戒律）
- 15回 日本の宗教文化

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

私たちと宗教 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスで紹介した参考書を事前・事後の時間を使って読み進めておくこと。
事前に配布した資料については下読みしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

キーワード /Keywords

宗教、仏教、神道、ユダヤ教、キリスト教

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		思想と現代	PHR004F

授業の概要 /Course Description

サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、心理療法・文学・倫理・映画などのジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通しながらユダヤ性の拡がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
- 合田正人『入門 ユダヤ思想』、ちくま新書、2017年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点【概説】
- 3回 ユダヤ人の歴史(1)【民族の起源】
- 4回 ユダヤ人の歴史(2)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(3)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(4)【近代から現代へ】
- 7回 補足回【紛争と現代】
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 文学の思想【カフカ】
- 11回 音楽の思想【シェーンベルク】
- 12回 心理療法の思想【フロイト】
- 13回 倫理の思想【ヨナス】
- 14回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・後半】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 40% 期末テスト... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		
			文化と表象
			MCC001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【テクノミュージック】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【CM】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦【オリンピック】
- 10回 イメージとしての〈日本〉⑧【まとめ】
- 11回 【特別講義】
- 12回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 13回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 14回 映画を事例として③まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（課題・コメントカードなど） ... 25% 期末レポート ... 75%
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：配布物を読んでおく
事後：講義内容を復習し、事例について必要であれば調べておく

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
		言語とコミュニケーション	LIN001F

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』 松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』 古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』 田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』 東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』 永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(漆原)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(漆原)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 (予定)外部講師による特別講義
- 第11回 認知発達とコミュニケーション(松田)
- 第12回 ヒューマンエラーとアフォーダンス(松田)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(漆原)

言語とコミュニケーション 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員またはコーディネーターが指示する文献の講読
事後学習：それぞれの教員の課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認する。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」 美術手帖編集部 美術出版社 2009
「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
「20世紀末・日本の美術—それぞれの作家の視点から」編著・中村ケンゴ アートダイバー 2015

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ポルトンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つける
3. ジャン・デュビュッフエ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマル/マキシマル
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ人々を巻込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 2回 60%
レポート(学期末) 40%

芸術と人間【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 /IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科
鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 村上 義明 / 北方キャンパス 非常勤講師
畑中 佳恵 / 北方キャンパス 非常勤講師, 藤崎 祐二 / 北方キャンパス 非常勤講師
山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と文学との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文学について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			文学を読む LIT001F

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？ さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2017年のテーマ：「文学」への誘い

ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。今年度も「文学を読む」では、担当教員が大学1年生にぜひ読んでもらいたい作品を取り上げ、その作品の面白さやアトラクティブなメッセージについて、熱く語ります。また、本講義は日本文学を中心に講義を進めていきますが、アジアの文学（中国、インドネシア）についても紹介します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ② 「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③ 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しません。取り上げる作品を事前に通知したり、適宜プリントを配布したりします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

文学を読む【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本上代文学への誘い(藤崎祐二)
- 第3回 日本上代文学のメッセージ性(藤崎祐二)
- 第4回 まとめ(藤崎祐二)
- 第5回 中国文学への誘い(鄧紅)
- 第6回 日本近世文学への誘い(村上義明)
- 第7回 日本近世文学のメッセージ性・まとめ(村上義明)
- 第8回 インドネシア文学への誘い(山口裕子)
- 第9回 文学理論の歴史概観(畑中佳恵)
- 第10回 トドロフの「幻想」と三島由紀夫「美神」(畑中佳恵)
- 第11回 イーザーの「内包された読者」と芥川龍之介「地獄変」(畑中佳恵)
- 第12回 日本現代詩への誘い(稲田大貴)
- 第13回 日本現代詩のメッセージ性・まとめ(稲田大貴)
- 第14回 日本現代文学への誘い(河内重雄)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

取り上げる作品についての予習(作品を読む、作者について調べる、など)と、講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。「文学を読む【夜】」と同じ講義内容です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等については、コーディネーターの生住に質問すること。
講義内容については、各回の講義担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジюмеや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、1938年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。

そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）（○）
○J・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）（○）
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）（○）
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）（○）
を挙げておきます。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「授業計画・内容」としては、下記の通りです。
- 第1回 はじめに・・・グローバリゼーションとデモクラシー
 - 第2回 「デモス」と「クラティア」について
 - 第3回 二つの民主主義伝統について
 - 第4回 近代市民革命と自由民主主義について
 - 第5回 現代民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
 - 第6回 現代民主主義の理論の比較・・・参加民主主義論、共生の民主主義論
 - 第7回 現代民主主義の理論の比較・・・熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
 - 第8回 まとめのグループ討論、グループ発表
 - 第9回 民主主義の運動（組織）について・・・1989年の東欧革命、1968年の「青年の反乱」の日独比較
 - 第10回 民主主義の運動（組織）について・・・1938年の日独青少年交歓事業について
 - 第11回 民主主義の制度について・・・議院内閣制と大統領制の比較
 - 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
 - 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
 - 第14回 民主主義制度の比較のまとめ
 - 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート（任意）	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義用レジュメ（講義内容をまとめたもの）を配布しますので、当日講義予定の箇所を読んでおくこと、また、講義中に書き留めた穴埋め箇所を中心にして復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義が一段落すると、数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらおうという、「まとめ」を行う予定ですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

一緒に楽しく学びましょう。

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方や概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。

授業では、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバー、E.フロムなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。

また、現代社会における論争的なトピックを社会的に考えていく。とりあげるトピックは、社会的排除と貧困、グローバル化と排外主義等を予定している。（授業進度の関係で、取り上げるトピックは1つになることもある。）

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1 【集合意識と行為】
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2 【社会規範と自殺 - 自己本位的自殺】
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - デュルケム3 【社会規範と自殺 - アノミー的自殺】
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー1 【理解社会学】
- 第8回 社会と個人をつなぐ5 - ウェーバー2 【信仰と社会 - プロテスタンティズムと資本主義】
- 第9回 社会と個人をつなぐ6 - フロム1 【社会的性格とファシズム】
- 第10回 社会と個人をつなぐ7 - フロム2 【デモクラシーと大衆社会】
- 第11回 現代社会の解説1 - 貧困と社会的排除1 【生活困窮状況とそのメカニズム】
- 第12回 現代社会の解説2 - 貧困と社会的排除2 【支援のあり方】
- 第13回 現代社会の解説3 - グローバル化の進展と排外主義1 【排外主義の様相】
- 第14回 現代社会の解説4 - グローバル化の進展と排外主義2 【排外主義のメカニズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

社会学的思考 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、グローバル化、排外主義

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察する。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのが、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業回数が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

さまざまな人権課題に関心を持ち、毎回の授業に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率が基準を満たした学生のみ、前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆、代返などを含む不正を行った場合は即座に出席が停止され単位を取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納美紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor 高橋 衛 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科, 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
 中村 英樹 / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科
 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 水野 陽一 / 法律学科
 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共生の作法
			LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
 そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
 すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
 そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）があることを知る事が重要である。
 そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのか（法の役割）を理解したうえで、これらの共生関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 法と道徳について
- 第 3 回 民主主義の限界と立憲主義
- 第 4 回 「大学」はどこから来て、どこへ行くのか—学問と大学とそれを取りまく人々
- 第 5 回 行政活動と法治主義
- 第 6 回 国際社会と法—国際行政の観点から
- 第 7 回 犯罪とは何か
- 第 8 回 刑罰とは何か
- 第 9 回 刑事裁判とは何か
- 第10回 家族とは何か
- 第11回 財産とは何か
- 第12回 契約とは何か
- 第13回 商取引における不正競争と法
- 第14回 民事訴訟とは何か
- 第15回 外国人労働をめぐる法政策

※なお、講義計画・担当者等については一部変更があり得るので、詳細についてはガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる（100%、ただし④に注意）。

- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群の中から、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。
- ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
- ③ レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
- ④ 出席状況や授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスを事前に確認してテーマに関わる用語を調べておく。（次の履修上の注意の項を参照のこと）
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

履修上の注意 /Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておくこと、各回の理解がますます深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方 LAW002F

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

法律の読み方【昼】

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'18』信山社（1,000円）をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、(1) 意味のある「問い」をたてること、(2) その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3) 論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、(4) データを統計的に処理すること、(5) データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング(1)【質問文の作成】
- 第6回 ワーディング(2)【選択肢の作成】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方
- 第9回 サンプリングの方法
- 第10回 実査の準備
- 第11回 データファイルの作成(実習)1【入力フォームの作成】
- 第12回 データファイルの作成(実習)2【SPSSファイルの作成とデータクリーニング】
- 第13回 データファイルの作成(実習)3【度数分布表の作成】
- 第14回 分布と統計量、クロス集計、相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

社会調査【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。
課題がある場合、指定された期限までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

市民活動論【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- *スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのが、また、逆に、そのような企業が社会に対してどのような影響を与えているかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第3版』有斐閣アルマ、2011年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回中間テスト
- 第9回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴の結果】
- 第10回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第11回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第12回「家」としての日本企業② 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業③ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業④ 今後の日本的経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・40% 中間テスト・・・30% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。また、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田巨之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 確認テスト
- 9回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 10回 現代における差別の問題（2）【差別反対論】
- 11回 現代における差別の問題（3）【優生学】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【人口問題】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【貧困問題】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【公平主義】
- 15回 現代における公平性の意義（4）【援助義務論】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
現代社会と新聞ジャーナリズム			
SOC001F			

授業の概要 /Course Description

多様な情報メディアが錯綜する現代における「新聞」について学ぶ。インターネットが「普及した中で」、情報や言論の発信・伝達役としての新聞の存在感は低下しているという指摘も聞かれる。ただ、社会に流布している情報の出所は新聞で「あることか」「多いのも事実。さらに、ネットメディアが発する情報には真偽不明で「断片的、信頼性に欠けていることも少なくなく、近年、まとめサイトによる著作権侵害や無責任なクレーム対応などが問題化したことも記憶に新しい。

新聞社には、24時間、洪水のように情報が「飛び」交う中、内容を整理して信頼性のある情報として発信することを基本に(1)社会の出来事を客観的に伝える(2)その背景や問題点を深く掘り下げる(3)社会が「抱える課題の解決策を提供する(4)権力者など」の不正追及など健全な批判や言論を通じ民主主義を守る-ことに取り組んできた長い経験と実績があり、私たち生活者が「社会との関係を「考える」、これからの生き方を「選択する」際に役立つ身近なメディアを目指している。講義で「は、新聞社のテ「スクや記者など「か」、取材や報道体験を通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法を話す。

なお、この講義は西日本新聞社の提供講座である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出すこともあるので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務める。ただし、講師の都合により変更することがある。

- 【第1回】新聞の読み方(編集企画委員長、編集センターデスク)
- 【第2回】事件記者最前線(社会部デスク)
- 【第3回】地方の視線で「政治と向き合う(都市圏総局デスク)
- 【第4回】調査報道・キャンペーン報道(社会部記者)
- 【第5回】アジアと九州を読み解く/国際報道最前線(国際部デスク)
- 【第6回】スポーツ報道の世界/運動記者は何を伝えるか(運動部デスク)
- 【第7回】地域文化をみつめて/文化記者の仕事(文化部デスク)
- 【第8回】報道写真の力/カメラマンの心得とは(写真部記者)
- 【第9回】災害被災者に寄り添う(社会部記者)
- 【第10回】九州経済をと「う見るか(経済部長)
- 【第11回】分かりやすさの追求/こ「も向け紙面(もの知りタイムス編集長)
- 【第12回】新聞テ「サ「インの展開/ヒ「シ「ユアル発信を目指す(テ「サ「イン部デスク)
- 【第13回】企業体としての新聞/営業部門の現状と課題(お客さまセンター)
- 【第14回】テ「シ「タル時代の発信/電子メディアへの挑戦(メディアラボ「部員)
- 【第15回】北九州の現場から / どんな課題と向き合っているか(北九州本社記者)

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回)・・・100%
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とする。
詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日々の新聞を通して、現代社会や地域が直面する課題を発見し、自分なりの考察によって課題解決のために努力する姿勢を持つこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞の読み方や活用法を学ぶ「講義を通して」、現代人に欠かせない能力である「メディアリテラシー」(メディアの特性を理解した上で情報を選別して読み解く力)を身につけてほしい

キーワード /Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 久木 尚志 / 国際関係学科
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科, フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 アーノルド The Role of Public Spaces in New York
- 第3回 ウィリアムソン Stereotypes and the Opening of Japan
- 第4回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国ファクター
- 第5回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 日本の安全保障戦略
- 第6回 クリーサー Women's Empowerment: Global Trends
- 第7回 下野 中国と台湾 - 歴史
- 第8回 下野 中国と台湾 - 政治
- 第9回 白石 中国の持続的発展の可能性: 経済成長・SNA・投資
- 第10回 久木 2010年代のイギリス(1) 2010年総選挙から2014年住民投票まで
- 第11回 久木 2010年代のイギリス(2) 2015年総選挙から2017年総選挙まで
- 第12回 尹 東アジアの経済事情(1) 【地域的特徴】 【経済関係】
- 第13回 尹 東アジアの経済事情(2) 【経済統合】 【地方間交流】
- 第14回 山本 ヨーロッパの危機(1) 【地域主義】 【民主主義】
- 第15回 山本 ヨーロッパの危機(2) 【ユーロ】 【4つの自由】

※都合により変更もあり得る。変更がある場合は授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(9回) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

授業の最後に小テストを受けます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治

IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて解答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては課題を発見・理解し、自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。
- * 大原悦子『フードバンクという挑戦～貧困と飽食のあいだで』現代岩波文庫、2016年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめるとして		担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめくって	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第6回 米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権とトランプ政権に焦点をあてて	【米国】	担当：申
第7回 エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第8回 世界と日本のフードバンク	【フードバンク】	担当：原田正樹・三宅
ク北九州ライフアゲインとは？	【ライフアゲイン】	担当：原田・三宅
第10回 子ども食堂「もがるか」の運営と人々	【子ども食堂】	担当：原田・三宅
第11回 フードバンク運動に関わる学生の取組みと討論	【大学生】	担当：原田・三宅
第12回 グループワーク(アクティビティ作り)を通じたガバナンス概念の把握	【グループワーク】	担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第14回 教員の「開発と統治」の概念提示を考える		担当三宅・伊野・申
第15回 まとめ(グループ・ディスカッション)		

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

開発と統治【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習はガバナンスに関する情報を収集し、日ごろから自らのガバナンスの概念を考えておいてください。事後学習はその都度授業で習ったガバナンスの事例をノートに整理しておいてください。最後の授業のグループワークで使います。

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。できるだけ、海外に出かけ、また、本をどんどん読んでください。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー フードバンク 貧困 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。
	コミュニケーション力		
			グローバル化する経済
			ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【産業・物流政策の事例】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【上下水道・環境分野の事例】
- 10回 比較文化心理学(1)【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学(2)【文化と感情】
- 12回 バブルと国際金融危機(1)【資産価格】【バブル】【不良債権】
- 13回 バブルと国際金融危機(2)【リーマンショック】【不況の伝播】
- 14回 国際金融危機の伝染(1)【欧州金融危機】【資産担保証券】
- 15回 国際金融危機の伝染(2)【銀行同盟】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

グローバル化する経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
 定義が困難な理由について
 - ①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
 - ②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
 - ③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
 テロリズムの定義
 - ①911の特殊性と国土安全保障の考え方
 - ②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
 - ③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
 テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
 テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
 テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
 ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
 国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
 反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
 補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
 無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
 劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
 「大量」殺戮テロの始まり
 化学テロと生物テロ
 化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
 地下鉄サリン事件の概要
 サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
 地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
 911の特異性
 911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
 ビンラディンのプロファイル
 アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本 IRL004F

授業の概要 /Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。(1) 戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。(2) アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書 /Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○野口悠紀雄著『戦後日本経済史』(新潮社、2008年)
橋本寿朗 編『現代日本経済 第3版』(有斐閣アルマ、2011年)
○三和 良一 編『近現代日本経済史要覧』(東京大学出版会、2010年)
○五百旗頭真 編『戦後日本外交史 第3版補訂版』(有斐閣アルマ、2014)
その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3. 占領下日本の「外交」【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4. サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立【講和条約】【戦後秩序】
5. 日本の戦後処理(賠償)【賠償】【請求権】【経済協力】
6. 日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7. 日韓国交への道程 / 日中国交への道程【脱植民地化】【テタント】【台湾問題】
8. 冷戦後の日本外交【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9. 世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバルイゼーション】【数字で見る日本経済】
10. 戦後復興と冷戦構造【封じ込め戦略】【ブレトン・ウッズ体制】【日本の経済復興】【ドッジ・ライン】
11. 日本型雇用慣行の形成と高度経済成長のメカニズム【日本型経営】【高度経済成長】【資本の自由化】
12. 戦後秩序の変容と石油危機【ニクソン・ショック】【経済の政治化】【石油危機】
13. 日本企業の多国籍化の変遷と特徴【海外直接投資】【日米経済摩擦】【生産ネットワーク】
14. グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
15. 地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% (担当者ごと、計2回) テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書をもとに、事前学習として予習をすること。
事後学習として、復習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

東アジア 安全保障政策 冷戦 戦後復興 グローバリゼーション

エスニシティと多文化社会【昼】

担当者名
/Instructor

篠崎 香織 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			エスニシティと多文化社会
			IRL001F

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアの多文化社会とエスニシティ
- 3回 「本物・本質」探し：「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 4回 「独立か否か」：インドネシア・アチエの事例
- 5回 文明の「本場」と「周縁」：東南アジアの華人
- 6回 「想像の共同体」の読み方
- 7回 共存のための区切り：マレーシアの民族概念
- 8回 前半のまとめ
- 9回 アメリカ合衆国におけるエスニシティと社会
- 10回 同化・統合の諸概念【るつぽ】【サラダ・ポウル】
- 11回 黒人史と公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【公民権運動】
- 12回 マイノリティをめぐる政策【アフターマティプ・アクション】【バッキ判決】
- 13回 自らを知る：日系アメリカ人 【強制収容】【第二次世界大戦】
- 14回 今日のエスニシティ状況【ヒスパニック】【不法移民】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 (中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

エスニシティと多文化社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細かな事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

- この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
- この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実の一つに限られてはいません。
- この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』（NTT出版）
- 小熊英二『単一民族神話の起源』（新曜社）
- 池内敏『日本人の朝鮮観はいかにして形成されたか』（講談社2017）
- 新渡戸稲造『武士道』（岩波文庫）
- ルース・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
- 野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
- 佐伯真一『戦場の精神史』（NHKブックス）
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』（講談社）
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』（岩波書店）
- 網野善彦『日本社会の歴史（上）～（下）』（岩波新書）

歴史の読み方I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 「東アジア」という視点
- 3回 日本の近代と国民国家の歴史観
- 4回 中国・韓国から見たアジアの近代
- 5回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 6回 新渡戸稲造の『武士道』
- 7回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 8回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 9回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 10回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 11回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 12回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 13回 「国語」とは何か
- 14回 網野善彦と日本史の多様性
- 15回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようにしています。
皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II
			HIS005 F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された見玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『見玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 見玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 「立憲主義」と軍事の間
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の該当箇所を目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

歴史の読み方II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は
			HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、日本とミャンマーの状況を対比させながら考えていく。対象となるのは、1930年代から現代。日本の状況に関しては、小林先生に担当していただき、内容を充実させる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：ミャンマー概説1（風土、文化）。
- 第3回：ミャンマー概説2（社会）。
- 第4回：1930年代の日本（小林先生担当）。
- 第5回：1930年代のミャンマー。
- 第6回：1930年農民大反乱。
- 第7回：第2次世界大戦と日本（小林先生担当）。
- 第8回：第2次世界大戦とミャンマー。
- 第9回：1980年代の日本（小林先生担当）
- 第10回：1980年代のミャンマー
- 第11回：民主化運動。
- 第12回：現代の日本（小林先生担当）
- 第13回：現代のミャンマー。
- 第14回：民主化のゆくえ。
- 第15回：まとめ。
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、毎回のテーマに関し、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

そのとき世界は【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本についても随時取り上げるが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「祖父母の生きた時代」「日本とミャンマーの比較」

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。	
	コミュニケーション力			
			戦後の日本経済	ECN002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんは、“Japan as No 1”と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。

しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。

したがって、“Japan as No 1”と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。

このことをふまえ本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

戦後の日本経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「団塊の世代」
- 第5回 2. 戦後文化と家族モデル
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程
 - 1. 戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 IV. 戦後家族モデルの成立
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第10回 2. 「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
- 第11回 3. 日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」
- 第12回 4. 日本人の理想とモデル - ブラウン管を通じて見たアメリカ -
- 第13回 V. 「ロストジェネレーション」
 - 1. 「幸せモデル」の確立
- 第14回 2. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第15回 2. モデルの喪失と新たな文化形成

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	もの与人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	もの与人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	もの与人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			もの与人間の歴史 HIS003F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。
今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。
なお、本年度は外部講師を数回、招くので、それによって各回の内容が変わる場合がある。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 力と近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーティズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 現代社会 - 「光の巨大」
- 第12回 環境問題の外部化・不可視化と社会的費用 - 「闇の巨大」
- 第13回 原子力政策と地域社会
- 第14回 情報化と外部問題 - 方法としての情報化
- 第15回 どのような社会を選択するのか - 情報化 / 消費化社会の転回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

もの与人間の歴史【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。

まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山崎は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の2人について人物と時代を語る。その際、2人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。

21世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第1主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。

イギリスでは1昨年からのEU離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なEU離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればEU存続にも影響を与えかねない。

こうした背景も視野に入れながら、第2次世界大戦後に果たした世界のアメリカから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にEU (ヨーロッパ連合) の形成過程において3度もEEC (とEC) に申請してやっと認められたイギリスがなぜEUから出て行くかと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義。その際資料を配布する。(山崎)

人物と時代の歴史【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)
- 『歴代アメリカ大統領』(ブティック社)

毎日の新聞(朝日、毎日、読売などの新聞でも良い)を購読のこと。(山崎)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】

第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】

第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】

第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

第8回 21世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について

第9回 イギリスとEUの関係について

第10回 キャメロン首相と国民投票

第11回 なせEU離脱派の投票率が残留派より多かったのか

第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何か

第13回 トランプ候補が勝利した理由

第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか-グローバル経済はどんな影響を受けるのか

第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本史
			HIS110F

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記するだけのことで、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。

この授業では、日本史に係る重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —史料と歴史家—
- 第2回：さまざまな「歴史」のとらえ方
- 第3回：「日本」のはじまり
- 第4回：古代国家と天皇
- 第5回：中世日本 —分権化する国家と社会—
- 第6回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第7回：世界史のなかの「近世」
- 第8回：歴史人口学の世界
- 第9回：結婚と離婚 —歴史のなかの男と女—
- 第10回：貨幣からみる近世社会
- 第11回：日本の近代 —近世の「遺産」と明治国家—
- 第12回：「日本人」と戦争(1) —帝国主義の時代—
- 第13回：「日本人」と戦争(2) —総力戦のなかの人々—
- 第14回：戦後日本とわたしたちの時代
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(50%、小レポートなどを含む)、期末試験(50%)によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。
本講義では、西暦1～3世紀の中国、すなわち新・後漢時代から三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -秦漢帝国と「漢委奴国王」金印-
 - 3回 秦漢史概説(1)
 - 4回 秦漢史概説(2)
 - 5回 新の王莽
 - 6回 後漢前期(1) -光武帝-
 - 7回 後漢前期(2) -明帝-
 - 8回 後漢前期(3) -章帝・和帝-
 - 9回 後漢後期(1) -安帝・順帝-
 - 10回 後漢後期(2) -桓帝・靈帝-
 - 11回 後漢分裂と「三世紀の危機」 -『三国志』の虚実-
 - 12回 魏の曹操
 - 13回 蜀の劉備と呉の孫権
 - 14回 三国鼎立と邪馬台国の外交
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習が必要な場合は、授業中に参考文献を指定するので、事前に読んでおくこと。復習は適宜ノートを見直し、配布したプリントを参照すること。

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。定期試験の際にはノートや配付資料の持ち込みは認めないので、意欲のある学生の受講を期待する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておく、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 嶋谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を6つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「商業立地と流通システム」「製造業の立地と集積」について講義を行う。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の体系
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地域の類型と重力モデル
- 第3回 人文地理学の基礎(3) 環境決定論と環境可能論
- 第4回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第5回 社会・文化と地域(2) 民俗文化と地域
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 都市の内部構造
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市と郊外
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市システム
- 第11回 商業立地と流通システム(1) チェーンストアの配送
- 第12回 商業立地と流通システム(2) 大型店と商店街
- 第13回 製造業の立地と集積(1) 産業集積の実態
- 第14回 製造業の立地と集積(2) 産業集積の実態
- 第15回 製造業の立地と集積(3) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必ず必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」(大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後は、配付された資料等をよく読んで、ノートとともに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に關係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1) : ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2) : ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ベネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容 : 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容 : 山口県防府市、県庁所在地の変容 : 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容 : 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容 : 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容 : 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容 : 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール
- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
 - 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
 - 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
 - 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
 - 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
 - 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理……青年期のこころの病
 - 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
 - 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
 - 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
 - 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
 - 第11回 こころの健康の展望……自己受容・自己開示・あるがままの心理学
 - 第12回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
 - 第13回 老年期の心の健康……機能の低下・高齢者の心理学
 - 第14回 病と死の心理学……自殺を打ち明けられたら。死の教育(デスエデュケーション)
 - 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

メンタル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%) ②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようとする人のことである。よって本来、メンタルヘルスとは「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。

本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらに健康科学やポジティブ心理学の領域から心の健康増進にも役立つような要件を学ぶ。人は人の中にあつて人となる。人生の方向性を正しく導く「逞しき知恵」と「強き生命力」をどうすれば体得できるかを受講生と共に考えたい。食事、睡眠、運動による健康な身体作りも心の基盤として重要である。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。アドラー心理学などの欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、森田療法などの心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力が高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経症の時代」 渡辺利夫 著 学陽書房 1999

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 オリエンテーション……受講上の注意・評価・人間の発達と自己形成
- 第2回 人間関係の心理学 1……自己開示について
- 第3回 人間関係の心理学 2……聞く力と話す力
- 第4回 自己愛の心理学と心の健康 1……コフォート理論・自己対象理論
- 第5回 自己愛の心理学と心の健康 2……生涯発達の視点から
- 第6回 アドラー心理学から観た心の健康 1……共同体感覚と感情道具論
- 第7回 アドラー心理学から観た心の健康 2……健康な集団づくり
- 第8回 心のリフレッシュ 1……内観法・森田療法
- 第9回 心のリフレッシュ 2……脳と心について・認知行動療法
- 第10回 発達障害についての理解…自分の場合・他者の場合
- 第11回 平和と暴力 1……対話の文化を
- 第12回 平和と暴力 2……人権の文化を
- 第13回 心の健康と感情……感情の理論
- 第14回 心の健康と芸術……映画の力
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%)②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人間社会に関する興味や心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の授業の感想や質問などを積極的に自己開示してもらいたい。授業後の個別の質問などは大歓迎である。

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description
健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなどを考えてみたい。

教科書 /Textbooks
授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス
 - 2回 健康体力の理解
 - 3回 身体のケアについて メンタル面
 - 4回 身体のケアについて フィジカル面
 - 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
 - 6回 用具を使って身体を整える
 - 7回 セルフマッサージで身体を整える
 - 8回 テーピングによる簡単な予防
 - 9回 トレーニングによって身体を整える
 - 10回 ウェイトトレーニングの注意点
 - 11回 体脂肪を減らすトレーニング
 - 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
 - 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
 - 14回 腰痛と運動
 - 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフトバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、バドミントン・ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、バドミントン・ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなどを考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフトバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、バドミントン・ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、バドミントン・ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description
 青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活をする事は容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks
 必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- オリエンテーション
 - 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか・被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
 - 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
 - 体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
 - ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
 - 地域スポーツ【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
 - 防災について【関係専門職】：身近に起こりうる災害に対する防災の仕方について学ぶ
 - 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
 - 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
 - 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
 - 喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒、薬物の正しい知識を学ぶ
 - 思春期と健康【関係専門職】：思春期の健康について学び、今後の人生設計を描いていく
 - 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
 - 自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
 - 小試験（選択，記述）

成績評価の方法 /Assessment Method
 毎回のミニレポート・・・70% 小試験・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講義内容、講師が異なります。講義前には、内容を文献やインターネット等で調べておくこと。講義後にミニレポートを課します。講義の内容を振り返り、レポートを作成すること。また、質問等はそのレポートに記載する欄を設けています。

履修上の注意 /Remarks

- ①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。1回目から出席をとります。
 - ②外部講師による講義のため、授業開始後15分には入室を禁止する。私語厳禁。
 - ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
 - ④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。
 - ⑤4分の3以上の出席を必要とする。
- 授業前に予めどのような専門職の方が話をするのか把握し、授業終了後には配布された資料をもとに復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合により、授業計画の順番が変更することがあります。また、「履修上の注意」にも記載していますが、外部講師による講義が主となるため、通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては、第一回のオリエンテーションでプリントを配布し、説明しますので、第一回目から必ず出席してください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
 - 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
 - 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
 - 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
 - 6回 サービスの基礎練習
 - 7回 ボレーの基礎練習
 - 8回 スマッシュの基礎練習
 - 9回 ルールの説明
 - 10回 戦術の説明・実践
 - 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
 - 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
 - 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
 - 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
			フィジカル・エクササイズ I
			HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、生涯の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 ストローク練習(1) <スマッシュ>
- 4回 ストローク練習(2) <ドロップ、ハイクリアー>
- 5回 ストローク練習(3) <ドライブ、ヘアピン>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生活を実りあるものにするための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

木曜3限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 充実した大学生活（新生活）のためのリスクマネジメント
- 3回 大学の「使い方」
- 4回 「理想」の大学生活・なんてあるの？
- 5回 ゲストスピーカーによるご講演（世界の果てで子どもを救う）
- 6回 大学での勉強、どうする？
- 7回 健康的な大学生活（セルフカウンセリングについて）
- 8回 自分の可能性を広げるために
- 9回 「自分」はだれか？
- 10回 かわいい子には「旅」をさせるべき？
- 11回 ゲストスピーカーによるご講演（国際キャリアのつくりかた）
- 12回 変わりつつある世界の中でどう生きるか
- 13回 ゲストスピーカーによるご講演（他者のために生きる人生）
- 14回 ようこそ先輩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業内レポート50% 課題レポート50%

キャリア・デザイン 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後は、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

<目的> 本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいかを学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2016年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が13年連続で第1位、「主体性」が7年連続で第2位となり、以下、第3位「協調性」、第4位「チャレンジ精神」と続き、コミュニケーション能力は当然として、主体性・協調性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか？ それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な行動とは、以下の3つです。

1. コミュニケーション能力
2. 幅広い視野・柔軟性
3. 失敗を恐れない志向性

<進め方と目標>

3つの力を身に付けるために、まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、最終回までに身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（プロジェクトや海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』 草思社
○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP研究所
大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』 日本経済新聞社
○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』 ナカニシヤ出版
○モーガン・ マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』 プレジデント社
○エドガー・H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』 白桃書房
○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』 金子書房
○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』 ダイヤモンド社
○香取一昭・大川 恒 『ワールド・カフェをやろう!』 日本経済新聞出版社
○金井寿宏 『リーダーシップ入門』 日本経済新聞社
○J.D.克蘭ボルツ、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』 ダイヤモンド社
スプツニ子! 『はみだすカ』 宝島社
アンジェラ・ダックワース 『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』 ダイヤモンド社
○リンダ グラットン 『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』 プレジデント社
リンダ グラットン、アンドリュースコット 『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』 東洋経済新報社
○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』 プレジデント社
中原淳、見館好隆ほか 『人材開発研究大全』 東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の3つの力: 【1】 コミュニケーション能力、【2】 幅広い視野・柔軟性、【3】 失敗を恐れない志向性

- 1 回 全体ガイダンス【1】 【2】 【3】
- 2 回 社会で求められる力【1】 【2】 【3】
- 3 回 インターンシップや地域活動(先輩登壇)【1】 【2】 【3】
- 4 回 傾聴【1】
- 5 回 アサーション・トレーニング【1】
- 6 回 アイデンティティ【1】 【2】 【3】
- 7 回 働くということ(社会人登壇)【1】 【2】 【3】
- 8 回 新しい仕事を創る【1】 【2】 【3】
- 9 回 ダイアログ【1】 【2】
- 10 回 就職活動を知る(内定者登壇)【1】 【2】 【3】
- 11 回 企業団体研究【1】 【2】
- 12 回 計画された偶発性【1】 【2】 【3】
- 13 回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)【1】 【2】 【3】
- 14 回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)【1】 【2】 【3】
- 15 回 本授業の統括【1】 【2】 【3】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および小テスト: 73%
課題レポート(2回): 12%
最終レポート(相互評価): 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に予め学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートを印刷し、事前学習をしておくこと。授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを行うこと。2つのインタビュー課題をレポートにまとめて期日までに提出すること。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※眞鍋和博先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)もほとんど同じ内容です。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違えて履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

キャリア・デザイン【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます(グループを固定する回もあり)。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、インターンシップや地域活動など、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーション実践【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
			コミュニケーション実践
			CAR111F

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。

コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。

講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュボエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常生活で活用できるように努めてください。

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。
授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

プロフェッショナルの仕事【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。

<2017年度> 株式会社サニーサイドアップ / 株式会社ジンス (JINS) / JR九州エージェンシー株式会社 / 全日本空輸株式会社 (ANA) / 日本放送協会 (NHK) / 株式会社キャメル珈琲 (カルデイ・コーヒーファーム) / ヒルトン福岡シーホーク / 株式会社モスフードサービス (モスバーガー) / 日本たばこ産業株式会社 (JT) / 株式会社スタートトゥデイ (ZOZOTOWN) / 京セラ株式会社 / 北九州市役所 / 株式会社西日本新聞社 / 株式会社近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 株式会社電通九州 / 株式会社studio-L / 株式会社フジドリームエアラインズ / アイリスオーヤマ株式会社 / 福岡県庁 / 株式会社力の源ホールディングス (一風堂) / 株式会社ジャパネットホールディングス / 株式会社ワークスアプリケーションズ / 福岡地方検察庁 / 株式会社エイチ・アイ・エス / 株式会社西日本シティ銀行 / 株式会社星野リゾート・マネジメント / 株式会社ウエザーニューズ / 旭酒造株式会社 (瀬祭)

<2015年度> 株式会社ムーンスター / 社団法人日本放送協会 (NHK) / 株式会社ホテルオークラ福岡 / 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) / 九州旅客鉄道株式会社 (JR九州) / 旭化成ホームズ株式会社 / 株式会社福岡銀行 / 株式会社タカギ / ソニーリージョナルセールス株式会社 / 株式会社阪急交通社 / 株式会社博報堂プロダクツ / 日本航空株式会社 (JAL) / 株式会社ニトリ / 北九州市

<2014年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠エネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ (山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行) / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート...91% 最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に指定するフォームを用いて、期日までに登壇企業団体の事前学習を提出すること。また、学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。

授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート+講義中の課題」(60点) + 「実践報告レポート」(40点) = 合計100点評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたり、事前の綿密な準備や計画を必要とします。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また、「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、受講者の「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。

このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため第一回目の授業の際に、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどについて「事前レポート」(1500字程度)を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらっています。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。本講義では、こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めます。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。	
			プロジェクト演習 I	CAR280F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2018年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。オープンキャンパスプロジェクトの場合は昨年度の報告書を精読してください。

プロジェクト演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 2年次 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習II	
		CAR281F	

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2018年1月現在の対象プロジェクト：JOB×Project、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクトによって内容や時期が変わります。随時指示をします。JOB×Projectの場合は昨年度の報告書を精読してください。

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 稲月 正、永末 康介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講 I
			SPL001 F

授業の概要 /Course Description

社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す（伝える）力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力や、チームで働く力なども身につけられるようアシストします。様々な学部等の学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。読売新聞朝刊（講義開催週の3日分、全15回分で税込み計1800円）を授業資料として活用する予定です。1回目の授業で、新聞の受け取り方法等について説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞も活用します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～2回 オリエンテーション
第3～10回【個々の力を伸ばす】 新聞活用術や時事問題に対する考え方、文章の書き方、取材・調査方法などを学ぶ
第11～15回【共に働く力を伸ばす】 グループワークや発表

「時事問題や正しい日本語の使い方に関するクイズ」「新聞への投稿」「まわし読み新聞」など、新聞を活用した演習を実施します。文章添削も行う予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題やグループワークへの取り組みの度合いで総合的に判断します。
詳しくは1回目の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を毎回活用します。
就職活動に役立つような簡単な演習などを課題として出題する予定です。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないが、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「ペットボトルと水道水」「100円ショップ」を具体的事例として取り上げ、倫理的消費について学生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、環境に負荷をかけない生活を考えるとともに、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

- 子島進他『館林発フェアトレード-地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
- アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。
- 末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」について
- 第2回 アジア太平洋資料センター(PARC)編『もっと!フェアトレード』(DVD)の上映とディスカッション
- 第3回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第4回 宮下緑氏の講演:「お買物で世界は変わる-人と環境にやさしいライフスタイルの提案」
- 第5回 ファスト・ファッションとエシカル・ファッション『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半
- 第6回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の上映とディスカッション
- 第7回 紛争問題と私たちの暮らしの関係
- 第8回 アジア太平洋資料センター(PARC)編『スマホの真実』(DVD)の上映とディスカッション
- 第9回 山田麻樹氏による講演:「等身大の自分でチャレンジするフェアトレードビジネス」
- 第10回 ペットボトルが生み出す環境破壊
- 第11回 「100円ショップ」の舞台裏
- 第12回 アジア太平洋資料センター(PARC)編『徹底解剖!100円ショップ』の上映とディスカッション
- 第13回 牛嶋麻里子氏による講演:「チョコレートから考えるフェアトレード」(仮)
- 第14回 受講生によるプレゼンテーション大会1
- 第15回 受講生によるプレゼンテーション大会2

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出 (5回×20%) ・ ・ ・ 100%
テーマが終了する度に、そこで学んだことについてレポートを課します (A4一枚程度) 。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、実生活を通して学んだことの確認を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

DVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。また、第14回と第15回では、関心を持った事柄について、個人ないしはグループでのプレゼンテーションを予定しています。それを念頭に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、各方面で活躍されている外部講師の方を3名お招きし、実際の現場の話を交えてご講義いただきます。

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

教養特講Ⅲ (まなびとESD講座Ⅰ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		教養特講Ⅲ	
		SPL003 F	

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための知識や能力を育成することを目的とする。特に、公害を克服し、環境都市として変貌を遂げたプロセスに関わった方々のお話をお聞きすることで、地域の持続可能性について考えていただきます。
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で6大学の単位互換講座として開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1日目（第1回～第3回）
 - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等
- 2日目（第4回～第6回）
 - ・ ESDとテーマ①
- 3日目（第7回～第9回）
 - ・ ESDとテーマ②
- 4日目（第10回～第12回）
 - ・ ESDとテーマ③
- 5日目（第13回～第15回）
 - ・ 学びの成果共有ワークショップ

※講義の詳細が決定次第お知らせします。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度：60%
- ・ 授業における成果物：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常で活用できるように努めてください。

教養特講III (まなびとESD講座I) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「北九州まなびとESDステーション(小倉北区の魚町商店街内)」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30~16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動およびフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育(子供)・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。詳細は別途告知します。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

教養特講Ⅳ (まなびとESD講座Ⅱ) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講Ⅳ
			SPL004F

授業の概要 /Course Description

本授業では、2016年に国連で採択された『SDGs』をテーマとして学びます。具体的には、SDGsとは何かを学んだ後に、北九州市内の各企業と連携し、企業にSDGsを取り入れるための対策について、学生の皆さんが調べ、プランニング、実践します。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で6大学の単位互換講座として開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当します。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1日目 (第1回～第3回)
 ・ SDGsとは何か? (オリエンテーション)、学びに対する目標設定等
 - 2日目 (第4回～第6回)
 ・ SDGsテーマ①
 - 3日目 (第7回～第9回)
 ・ SDGsテーマ②
 - 4日目 (第10回～第12回)
 ・ SDGsテーマ③
 - 5日目 (第13回～第15回)
 ・ 学びの成果共有ワークショップ
- ※講義の詳細が決定次第お知らせします。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度 : 60%
- ・ 授業における成果物 : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、授業で取り扱う言葉の意味を理解しておいてください。また、授業後には学習した内容を振り返り、日常で活用できるように努めてください。

教養特講Ⅳ (まなびとESD講座Ⅱ) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「北九州まなびとESDステーション (小倉北区の魚町商店街内) 」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動およびフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育 (子供) ・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

教養特講Ⅳ (現代の日本の食と若者を考える) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養特講

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 集中 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講Ⅳ
			SPL004F

授業の概要 /Course Description

近年、家でじっくり調理を行い、家族全員で談笑しながら食事を楽しむといった昭和半ばのサザエさんのような家族の光景はなくなってきた。時代の変化は早い。現在、人々が多忙になる中、中食、外食産業が発達し、大半の家族がそれらに頼っている。現在の若者たちは、なおさらである。同時に、中食や外食でもきちんと食べていればよいが、食べていない学生が多い。本学の学生の健康診断の結果を見れば、女子大学生の4分の1がやせすぎに入っている。今からきちんとした健康な身体づくりをしておいてください。そのために本演習があります。時間が合えば、保健師さんや管理栄養士さんに指導をお願いしています。

教科書 /Textbooks

- * 秋山龍三・草野かおる (2015) 『「食事」をただせば、病気、不調知らずのからだになれる』 Discover、1500円
- * 三浦理代・永山久夫 (2010) 『からだによく効く 食材&食べ合わせ手帖』 池田書店、1200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 上岡美保 (2010) 『食生活と食育～農と環境へのアプローチ』 農林統計出版、1500円
- * 外山紀子・長谷川智子・佐藤浩一郎編 (2017) 『若者たちの食卓～自己、家族、格差、そして社会』 ナカニシヤ出版、3500円
- * 岩村暢子 (2014) 『変わる家族、変わる食卓』 中公文庫、895円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

集中講義形式なので、1日目：4限、2日目：4限、3日目：4限 4日目：3限

第1回 本授業の簡単な説明 (グループ分けアクティビティ)

第2回 食育とは、グループディスカッション高校での家庭科教科書を参考にもしくは映画を教材に

第3回 簡単な調理：フルーツを皮をむいて切って、食べよう。直に包丁で切ってみよう。

第4回 栄養を学ぼう。。葉酸の働きとは？

第5回 台所用品とは何か？ 包丁の使い方講習と実践

第6回 調理をやってみよう (レシピはなんだ？)

第7回 調理をやってみよう

第8回 今日の振り返り

第9回 出汁を比べてみよう (出汁の差によってこれくらいが) お茶を比べてみよう

第10回 調理をやってみよう (レシピは何か？)

第11回 調理をやってみよう

第12回 今日の振り返り

第13回 食べ合わせと栄養・調理法・保存法

第14回 食の社会学～若者たちの食をめぐる。。。簡単な読みものとディスカッション

第15回 レポートを書く

成績評価の方法 /Assessment Method

30% : 参加態度 40% : 調理方法の上達 30% : 筆記試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に文献を読み、家でもよく調理をこころがけること。事後は、一日学んだことを振り返り、ノートにまとめる。

履修上の注意 /Remarks

食材を購入するのに、お金が必要です。厨房が設置されてあるところへの移動は大変かと思いますが、動きやすい格好で来てください。三角巾、手をふくタオル、マスクを持参ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

とにかく、楽しくしましょう。食を通しての家族の団欒を知りましょう。

キーワード /Keywords

食育、食べ合わせ、厨房、家庭、調理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 法律1 - 1 . 再履 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			データ処理
			INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 法律1 - 2 . 再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			データ処理
			INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 法律1 - 3 . 再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 法律1 - 4 . 再履 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。
授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

英語I (律政群 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストの問題を使って、その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成をはかる。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図り、実用的な英語力を身に着ける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく、英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書 /Textbooks

『公式TOEIC Listening & Reading問題集 3』 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『公式TOEIC Listening & Reading問題集 2』 国際コミュニケーション協会○
- 『公式TOEIC Listening & Reading問題集 1』 国際コミュニケーション協会○
- 『TOEICテスト公式問題集：新形式問題対応編』 国際コミュニケーション協会○
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』 国際コミュニケーション協会○
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』 国際コミュニケーション協会○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 リスニング問題(part 1~4)の概要、リーディング問題(part 5-7)の概要 (予習：60分、復習：60分)
- 3回 リスニングpart 1(写真問題)及び part 2(応答問題)前半の学習 (予：60分、復：60分)
- 4回 リスニングpart 2(応答問題)後半の学習 (予：60分、復：60分)
- 5回 リスニングpart 3(会話問題)の学習 (予：60分、復：60分)
- 6回 リスニングpart 4(説明文問題)の学習 (予：60分、復：60分)
- 7回 リスニング問題の総復習、リーディング part 5(短文穴埋め問題)の概要 (予：60分、復：60分)
- 8回 リーディングpart 5の学習 (予：60分、復：60分)
- 9回 リーディングpart 6(長文穴埋め問題)の学習 (予：60分、復：60分)
- 10回 リーディングpart 7(読解問題)の学習：シングルパッセージ：質問2問 (予：60分、復：60分)
- 11回 リーディングpart 7の学習：シングルパッセージ：質問3～5問 (予：60分、復：60分)
- 12回 リーディングpart 7の学習：ダブルパッセージ (予：60分、復：60分)
- 13回 リーディングpart 7の学習：トリプルパッセージ：前半 (予：60分、復：60分)
- 14回 リーディングpart 7の学習：トリプルパッセージ：後半 (予：60分、復：60分)
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 40% , 復習テスト 10% , 単語テスト 10% , 日常の授業への取り組み (8回目以降実施するリスニングの小テスト , その他リーディングの小テスト , 8回目以降出す宿題及び授業への参加度等を含む) 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます . 反映方法は初回の授業で文書を配布し説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習... (予習) ガイダンス時に単語100語プリントを渡しますので , テキストで学習して授業に臨んでください。
事後学習... (復習) 授業で指定されたテキストの範囲は , 必ず学習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

毎回 , 単語100語テストを実施し , また8回目以降リスニングの小テストを実施します。8回以降宿題のプリントpart 5を毎回渡します。これは試験範囲に入りますので確実に学習し試験に備えてください。
テキストの自学の範囲で , 不明な点がありましたら , 授業の前後いつでも質問を受け付けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEICテスト問題を扱った教材を通して、英語運用力のうち特に「聴く・読む」の受信力向上に主眼をおいて学習を進める。

TOEICは、実践的なコミュニケーション手段として必要不可欠な「文法・語法・語彙・表現・発音」などの知識がどのくらい身についているか、また与えられた情報を設定された時間内にいかに効率的に処理できるかという英語力と情報処理能力が問われるテストである。当授業では、左記の点を踏まえ、リスニングに特化したテキストを用いて、実践的英語力並びに情報処理能力の基礎づくりを行っていく。

学習内容および学習方法の詳細に関しては、1回目のオリエンテーションで説明する。

教科書 /Textbooks

松本 恵美子 他著 『Quick Mastery of the TOEIC Listening Test』 成美堂 ¥1300

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC テスト公式問題集 新形式対応

※ どれだけ多くの問題に取り組んだかが英語力向上のカギになる。漠然と問題を解くのではなく、文頭から意味を取りながら、語彙・文法に気を配り、問われている「的」を掴む練習を日頃からやってもらいたい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション TOEIC学習方略(リスニング・リーディング) & 個人スコアの目標設定

第2回 Unit 1 Sightseeing

第3回 Unit 2 Office Technology

第4回 Unit 3 Restaurant

第5回 Unit 4 Ordering

第6回 Unit 5 Personnel

第7回 Unit 6 Review 1

第8回 Unit 7 Shop

第9回 Unit 8 Finance

第10回 Unit 9 Seminar

第11回 Unit 10 Health

第12回 Unit 11 Education

第13回 Unit 12 Review 2

第14回 Unit 13 Product development

第15回 Unit 14 Employment

※上記の学習に加えて、基礎文法の学習も随時行っていく。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・50% 小テスト・・30% 授業への取り組み20%
欠席は原則3回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、予習は言うまでもないが、復習に力を入れてもらいたい。前回の授業で学習した範囲をマスターした上で、次の授業のテキストの問題を、本番のテストを受ける気持ちで解くようにし、わからない個所はチェックして授業に臨んでもらいたい。こうした本番のテストを念頭に入れた学習の積み重ねは、各学期間において受験を義務としているTOEIC テストで、日頃の学習成果を遺憾なく発揮できる大きな『支え』となる。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 授業にテキストを持たずに参加し隣人に見せてもらう等して間に合わせる履修生を時に見かけるが、そのような状況ではお互いの集中力の妨げになる。教材を忘れた場合には、授業が始まる前に学習箇所を準備しておくこと。
- (2) 各授業では補充プリントを毎回配布するが、原則として欠席者のためにプリントを翌授業で追配布あるいは保管することはしていない。個人が責任をもって配布プリントの有無を確認し補充しておくこと。
- (3) 遅刻した場合は、授業が終わった後、出席扱いになっているか否かを担当教員に確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

あっという間に時間は過ぎていきます。一学期は4か月ほどしかありませんが、日常から習慣的に英語学習に取り組んだ受講生と付け焼刃の不十分な学習に甘んじた受講生とでは、その短期間でさえも取得スコアに100点以上の差が出ます。英語は日頃からの積み重ねが重要です。自分の来たるべき大事な将来に備えて、英語力の向上を常に念頭に置き、前向きな態度で自己学習に励んでください。

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語II
			ENG111F

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストの問題を使って、その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成を図る。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図り、実用的な英語力を身につける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく、英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書 /Textbooks

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3』 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 2』 国際コミュニケーション協会○
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1』 国際コミュニケーション協会○
- 『TOEICテスト公式問題集：新形式問題対応編』 国際コミュニケーション協会○
- 『TOEICテスト 新公式問題集 vol. 6』 国際コミュニケーション協会○
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』 国際コミュニケーション協会○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方、リスニング part 1(写真問題), 2(応答問題)の学習
- 2回 リスニングpart 2、リーディングpart 5(短文穴埋め問題)の学習 (予習: 60分、復習: 60分)
- 3回 リスニングpart 3(会話問題)の学習、リーディングpart 5の学習 (予: 60分、復: 60分)
- 4回 リスニングpart 4(説明文問題)、リーディングpart 5の学習 (予: 60分、復: 60分)
- 5回 リスニングpart 4、リーディングpart 5の学習 (予: 60分、復: 60分)
- 6回 リスニング問題の復習、リーディングpart 6(長文穴埋め問題)の学習 (予: 60分、復: 60分)
- 7回 リーディング part 5, part 6の復習 (予: 60分、復: 60分)
- 8回 リーディングpart 7(読解問題)の学習: シングルパッセージ: 147-160 (予: 60分、復: 60分)
- 9回 リーディングpart 7(読解問題)の学習: シングルパッセージ: 161-175 (予: 60分、復: 60分)
- 10回 リーディングpart 7の学習: ダブルパッセージ: 176-180 (予: 60分、復: 60分)
- 11回 リーディングpart 7の学習: ダブルパッセージ: 181-185 (予: 60分、復: 60分)
- 12回 リーディングpart 7の学習: トリプルパッセージ: 186-190 (予: 60分、復: 60分)
- 13回 リーディングpart 7の学習: トリプルパッセージ: 191-195 (予: 60分、復: 60分)
- 14回 リーディング part 7の学習: トリプルパッセージ: 196-200 (予: 60分、復: 60分)
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40% 復習テスト 10% 単語テスト 10% 日常の授業への取り組み状況 (小テスト、課題及び宿題を含む) 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習... (予習) ガイダンス時に単語100語プリントを渡しますので、毎回必ずテキストで学習して授業に臨んで下さい。
事後学習... (復習) 授業で指定されたテキストの範囲は、必ず学習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

2回目以降、毎回単語100語テストを実施し、7回目以降、毎回リスニングの小テストを実施します。また7回目以降、毎回part 5のプリントを宿題として出します。これは試験範囲に入りますので確実に学習し理解するようにしてください。
テキストの自学の範囲で、不明な点がありましたら、授業の前後いつでも質問を受け付けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語 II
			ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEICテスト問題を扱った教材を通して、英語運用力のうち特に「聴く・読む」の受信力向上に主眼をおいて学習を進める。また、英語力の基礎となる文法学習もそれに並行して行っていく。

教科書 /Textbooks

松本 恵美子 他著 『Quick Mastery of the TOEIC Listening Test』 成美堂 ¥1300

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- TOEIC テスト公式問題集 新形式対応
- ※ どれだけ多くの問題に取り組んだかが英語力向上のカギになる。漠然と問題を解くのではなく、文頭から意味を取りながら、語彙・文法に気を配り、問われている「的」を掴む練習を日頃からやってもらいたい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション(当学期の学習内容と学習方略についての説明)
- 第2回 Unit 15 Sports
- 第3回 Unit 16 Announcement
- 第4回 Unit 17 Transportation
- 第5回 Unit 18 Review 3
- 第6回 Unit 19 Housing
- 第7回 Unit 20 Advertisements
- 第8回 Unit 21 Airport
- 第9回 Unit 22 Music
- 第10回 Unit 23 Weather
- 第11回 Unit 24 Review 4
- 第12回 復習問題(1)
- 第13回 復習問題(2)
- 第14回 復習問題(3)
- 第15回 復習問題(4)

※上記の学習項目に加えて、基礎文法の学習もプリントを配布して行っていく。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・50% 小テスト・・30% 授業への取り組み20%
欠席は原則3回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、予習は言うまでもないが、復習に力を入れてもらいたい。前回の授業で学習した範囲をマスターした上で、次の授業のテキストの問題を、本番のテストを受ける気持ちで解くようにし、わからない箇所はチェックして授業に臨んでもらいたい。こうした本番のテストを念頭に入れた学習の積み重ねは、各学期間において受験を義務としているTOEIC テストで、日頃の学習成果を遺憾なく発揮できる大きな『支え』となる。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 授業にテキストを持たずに参加し隣人に見せてもらう等して間に合わせる履修生を時に見かけるが、そのような状況ではお互いの集中力の妨げになる。教材を忘れた場合には、授業が始まる前に学習箇所を準備しておくこと。
- (2) 各授業では補充プリントを毎回配布するが、原則として欠席者のためにプリントを翌授業で追配布あるいは保管することはしていない。個人が責任をもって配布プリントの有無を確認し補充しておくこと。
- (3) 遅刻した場合は、授業が終わった後、出席扱いになっているか否かを担当教員に確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

あっという間に時間は過ぎていきます。一学期は4か月ほどしかありませんが、日常から習慣的に英語学習に取り組んだ受講生と付け焼刃の不十分な学習に甘んじた受講生とでは、その短期間でさえも取得スコアに100点以上の差が出ます。英語は日頃からの積み重ねが重要です。自分の来たるべき大事な将来に備えて、英語力の向上を常に念頭に置き、前向きな態度で自己学習に励んでください。

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

English for International Communication

教科書 /Textbooks

Smart Choice (2nd Edition) Student Book 1 (Oxford University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電池辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Unit 1 Making New Friends
- 第 2 回: Unit 2 Occupations
- 第 3 回: Unit 3 Food and Drink
- 第 4 回: Class Presentations
- 第 5 回: Unit 4 Habits and Routines
- 第 6 回: Unit 5 Everyday Activities
- 第 7 回: Unit 6 Past Events
- 第 8 回: Class Presentations
- 第 9 回: Unit 7 Shopping
- 第 10 回: Unit 8 Appearance and Personality
- 第 11 回: Unit 9 Local Attractions
- 第 12 回: Unit 10 Places around Town
- 第 13 回: Unit 11 Vacation Activities
- 第 14 回: Unit 12 Travel Plans
- 第 15 回: Class Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework and Class Participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Communicate / make friends / have fun

英語Ⅲ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

英語の4技能の向上を意識しつつ、英語で表現する力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

English writing without tears

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第5回：Prepositions
第6回～第10回：Verbs
第11回～第15回：Formulaic Expressions

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各ChapterのPointを確認しておくこと。
Learning by Heartにあげられている表現を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

English for International Communication

教科書 /Textbooks

Smart Choice (2nd Edition) Student Book 2 (Oxford University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電池辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Unit 1 Vacation Activities
- 第 2 回: Unit 2 Feelings and Emotions
- 第 3 回: Unit 3 Making a Life Plan
- 第 4 回: Class Presentations
- 第 5 回: Unit 4 Comparing Places
- 第 6 回: Unit 5 Planning a Party
- 第 7 回: Unit 6 Recommendations
- 第 8 回: Class Presentations
- 第 9 回: Unit 7 Shopping II
- 第 10 回: Unit 8 Appearance and Personality II
- 第 11 回: Unit 9 Telling Stories
- 第 12 回: Unit 10 Natural Events
- 第 13 回: Unit 11 Past Hobbies and Interests
- 第 14 回: Unit 12 Lifestyle Choices
- 第 15 回: Class Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and weekly assessments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As instructed by teacher

履修上の注意 /Remarks

必要科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Communicate / make friends / have fun

英語Ⅳ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

英語の4技能の向上を意識しつつ、英語で表現する力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

Keys to Better Paragraph Writing

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第3回：節
第4回～第6回：単文 重文
第7回～第10回：複文 関係詞節
第11回～第15回：パラグラフ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

説明文を読んでおくこと。
Writing Tipsを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業では、1年次に引き続き、TOEICテスト問題を扱った教材を通して、英語運用力のうち特に「聴く・読む」の受信力向上に主眼を置いて学習を進める。各授業では、使用テキストを用いて、リスニングとリーディングを隔週で集中的に学習していく。
(個人別の1学期目標スコア = 350 ~ 500点)

教科書 /Textbooks

松本 恵美子 他著 『Quick Mastery of the TOEIC Listening Test』 成美堂 ¥1300
David E. Bramley 他著 『New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 350』 成美堂 ¥1100

※上記2冊のテキストは、1学期・2学期の通年で使用予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC テスト公式問題集 新形式対応
※ どれだけ多くの問題に取り組んだかが英語力向上のカギになる。漠然と問題を解くのではなく、文頭から意味を取りながら、語彙・文法に気を配り、問われている「的」を掴む練習を日頃からやってもらいたい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション TOEIC学習方略(リスニング・リーディング) & 個人スコアの目標設定
- 第2回 リスニング Unit 1/2
- 第3回 リーディング Level 1 (1)
- 第4回 リスニング Unit 3/4
- 第5回 リーディング Level 1(2)
- 第6回 リスニング Unit 5/6
- 第7回 TOEIC HALF TEST (現時点での習熟度の測定を目的とした模擬テスト(100問)を実施)
- 第8回 リーディング Level 1(3)
- 第9回 リスニング Unit 7/8 (Review 2を除く)
- 第10回 リーディング Level 2(1)
- 第11回 リスニング Unit 9/10
- 第12回 リーディング Level 2(2)
- 第13回 リスニング Unit 11/12 (Review 3を除く)
- 第14回 リーディング Level 2(3)
- 第15回 リスニング Unit 13/14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% 小テスト・・・30% 授業への取り組み20%
欠席は原則3回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、予習は言うまでもないが、復習に力を入れてもらいたい。前回の授業で学習した範囲をマスターした上で、次の授業のテキストの問題を、本番のテストを受ける気持ちで解くようにし、わからない箇所はチェックして授業に臨んでもらいたい。こうした本番のテストを念頭に入れた学習の積み重ねは、各学期間において受験を義務としているTOEIC テストで、日頃の学習成果を遺憾なく発揮できる大きな『支え』となる。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 授業にテキストを持たずに参加し隣人に見せてもらう等して間に合わせる履修生を時に見かけるが、そのような状況ではお互いの集中力の妨げになる。教材を忘れた場合には、授業が始まる前に学習箇所を準備し、他人に迷惑をかけないように心掛け授業に臨むこと。
- (2) 各授業では補充プリントを毎回配布するが、原則として欠席者のためにプリントを保管することはしていない。個人が責任をもって配布プリントの有無を確認し、テストに備えること。
- (3) 遅刻した場合は、授業が終わった後、出席扱いになっているか否かを担当教員に確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

あっという間に時間は過ぎていきます。一学期は4か月ほどしかありませんが、日常から習慣的に英語学習に取り組んだ受講生と付け焼刃の不十分な学習に甘んじた受講生とでは、その短時間でさえも取得スコアに100点以上の差が出ます。英語は日頃からの積み重ねが重要です。自分の来たるべき大事な将来に備えて、英語力の向上を常に念頭に置き、前向きな態度で自己学習に励んでください。

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

新形式TOEIC® L&Rテスト問題対策の教科書を使用して、前半では各パートの問題を解く際に必要な基礎を身につけ、後半では実践問題を解くことにより、試験本番への対応力をつけることを目指します。

具体的には「重要フレーズ」、「重要センテンス」、「基本文法」などを、繰り返し学習することを通してマスターし、「実践問題」へと進むようにします。

Lesson 1～6 の総まとめをLesson 7 で、Lesson 8～13 の総まとめをLesson 14 で行い、それまで学んできた知識が身についているかを確認します。解けない問題や間違えた問題がある場合は、必ず復習をすることで単語力、英文読解力、リスニング力を高めていきます。

教科書 /Textbooks

Extreme Strategies for the TOEIC® Listening and Reading Test
(著者) 濱崎 潤之輔、 ISBN 978-4-88198-735-3
松柏社、2018年1月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEIC®テスト新公式問題集』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
Lesson 01 Part 1 ① Part 5 ①
- 2回 Lesson 02 Part 2 ① Part 6 ①
- 3回 Lesson 03 Part 3 ① Part 7 一つの文書 ①
- 4回 Lesson 04 Part 4 ① Part 7複数の文書 ①
- 5回 Lesson 05 Part 1 ② Part 5 ②
- 6回 Lesson 06 Part 2 ② Part 6 ②
- 7回 Lesson 07 復習Lesson 01-06
- 8回 Lesson 08 Part 1 ③ Part 5 ③ Part 2 ③ Part 7 ②
- 9回 Lesson 09 Part 3 ② Part 5 ④ Part 4 ②
- 10回 Lesson 10 Part 1 ④ Part 6 ③ Part 2 ④ Part 7 複数の文書 ②
- 11回 Lesson 11 Part 3 ③ Part 7 複数の文書 ③ Part 4 ③
- 12回 Lesson 12 Part 2 ⑤ Part 5 ⑤ Part 3 ④ Part 7 一つの文書 ③
- 13回 Lesson 13 Part 4 ④ Part 7 一つの文書 ④
- 14回 Lesson 14 復習Lesson 08-13
- 15回 Lesson 15 実力テスト (Part 2-Part 4, Part 5 & Part 7)

英語V (律政群 2 - 1) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・35% 期末試験・・・65%

尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各Lessonで間違えた箇所がある場合は、必ず復習をしましょう。
ダウンロードした音声を活用すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業では、前学期に引き続き、TOEICテスト問題を扱った教材を通して、英語運用力のうち特に「聴く・読む」の受信力向上に主眼をおいて学習を進める。各授業では、使用テキストを用いて、リスニングとリーディングを隔週で集中的に学習していく。
(個人別の1学期目標スコア = 400 ~ 550点)

教科書 /Textbooks

松本 恵美子 他著 『Quick Mastery of the TOEIC Listening Test』 成美堂 ¥1300
David E. Bramley 他著 『New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 350』 成美堂 ¥1100

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC テスト公式問題集 新形式対応
※ どれだけ多くの問題に取り組んだかが英語力向上のカギになる。漠然と問題を解くのではなく、文頭から意味を取りながら、語彙・文法に気を配り、問われている「的」を掴む練習を日頃からやってもらいたい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 リスニング Unit15/16
- 第2回 リーディング Level 3 (1)
- 第3回 リスニング Unit 17/18
- 第4回 リーディング Level 3(2)
- 第5回 リスニング Unit 19~20
- 第6回 リーディング Level 3(3)
- 第7回 TOEIC HALF TEST (現時点での習熟度の測定を目的とした模擬テスト(100問)を実施)
- 第8回 リスニング Unit 21/22
- 第9回 リーディング 復習
- 第10回 リスニング Unit 23/24
- 第11回 リーディング 復習
- 第12回 リスニング Review 1 /2
- 第13回 リーディング 復習
- 第14回 リスニング Review 3/4
- 第15回 リーディング 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% 小テスト・・・30% 授業への取り組み20%
欠席は原則3回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、予習は言うまでもないが、復習に力を入れてもらいたい。前回の授業で学習した範囲をマスターした上で、次の授業のテキストの問題を、本番のテストを受ける気持ちで解くようにし、わからない個所はチェックして授業に臨んでもらいたい。こうした本番のテストを念頭に入れた学習の積み重ねは、各学期間において受験を義務としているTOEIC テストで、日頃の学習成果を遺憾なく発揮できる大きな『支え』となる。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 授業にテキストを持たずに参加し隣人に見せてもらう等して間に合わせる履修生を時に見かけるが、そのような状況ではお互いの集中力の妨げになる。教材を忘れた場合には、授業が始まる前に学習箇所を準備し、他人に迷惑をかけないように心掛け授業に臨むこと。
- (2) 各授業では補充プリントを毎回配布するが、原則として欠席者のためにプリントを保管することはしていない。個人が責任をもって配布プリントの有無を確認し、テストに備えること。
- (3) 遅刻した場合は、授業が終わった後、出席扱いになっているか否かを担当教員に確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2学期は、1学期よりも上を目指しましょう。たとえ1学期に目標に達することができなかったとしても、歩を緩めてはいけません。学習に取り組んでいれば、着々と自分の中に英語力は育っています。500のスコアを超えるようになるころから、理解できる表現が多くなり、面白みが出てきます。遠いことではありません。継続して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 律政群 2 - 1 / 律政群 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

ジャパントイムズ社が発刊している英字新聞Student Times から環境、自然、科学、スポーツ、社会、文化等をテーマにした様々な内容の英文記事を読み、英語の運用能力を高めると同時に、「自分の社会的な視野を広げる」ことを目的とします。
記事を読むことに加えて「ライティング」や「リスニング」の演習を通し「英語で伝える」力へとつなげて行きます。音声データを活用して「読める英語は聞こえてくる」ことを実感してもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

Intro to Reading The Japan Times ST / 『週刊ST』からはじめる時事英語
(編著) 富永美喜
松柏社、2018年1月
ISBN 978-4-88198-740-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明
Unit 1 Secondhand Mamachari Popular in London
- 2回 Unit 2 Djokovic Joins Greats with First French Open Title
- 3回 Unit 3 24,000 People Taken to Hospitals for Heatstroke, Record for July0
- 4回 Unit 4 Aomori Is Japan's Top Festival Destination: JTB Survey
- 5回 Unit 5 Cassiopeia Sleeper Train Makes Final Regular Service Run
- 6回 Unit 6 Food Shortages in Quake- Hit Area as Search for Survivors Continues
- 7回 Unit 7 Quakes Prompt Calls to Switch off Nuclear Reactors
- 8回 Unit 8 Hokuriku Shinkansen Links Tokyo, Kanazawa
- 9回 Unit 9 Obama Calls for Nuclear- Free World in Historic Hiroshima Visit
- 10回 Unit 10 Still the Greatest: Boxing Legend Muhammad Ali Dies, Age 74
- 11回 Unit 11 Hanyu Wins Grand Prix Final with Another Record Total
- 12回 Unit 12 Shakespeare's London
- 13回 Unit 13 Trump Beats the Odds, Becomes U.S. President in Huge Upset
- 14回 Unit 14 Pope Urges World Leaders to Act Without Delay on Climate Change
- 15回 Unit 15 Solar-Powered Flight、まとめ

英語VI (律政群 2 - 1) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・35% 期末試験・・・65%

尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ①各Unitの演習問題はTOEIC対策問題として活用しますので、必ず取り組みましょう。
- ②巻末付録の「語彙リスト」を復習に活用しましょう。
- ③授業以外でも英字新聞や英語ニュースを通して時事英語にふれるようにしましょう。
- ④各unitで取り上げられたテーマの内容を理解するため日本語の新聞にも目を通しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ①授業以外でも英字新聞や英語ニュースを通して時事英語にふれるようにしましょう。
- ②辞書を持参すること。

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 律政群 2 - G / 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VII
			ENG202F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for discussion purposes. Students will practice critical thinking and language skills, which will then be applied to the discussion of socially relevant topics.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 SYLLABUS / ESSENTIAL CLASSROOM ENGLISH REVIEW
- 2 回 ASKING / ANSWERING PERSONAL INFORMATION – EXPANDING INFORMATION
- 3 回 TOPIC 1 – ONE WORLD LANGUAGE
- 4 回 TOPIC 1 EXPANSION
- 5 回 TOPIC 2 – CYBER MONEY
- 6 回 TOPIC 2 EXPANSION
- 7 回 TOPIC 3 – VOTING RIGHTS
- 8 回 TOPIC 3 EXPANSION
- 9 回 TOPIC 4 – EQUAL PAY FOR EQUAL WORK
- 10 回 TOPIC 4 EXPANSION
- 11 回 TOPIC 5 – ALTERNATIVE ENERGY
- 12 回 TOPIC 5 EXPANSION
- 13 回 TOPIC 6 – KIDS AND CELL PHONES
- 14 回 TOPIC 6 EXPANSION
- 15 回 FINAL TEST PREPARATION CLASS

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10% Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework will be assigned.

履修上の注意 /Remarks

Japanese/English Dictionary required.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is a class which involves full participation on the part of every student. Idea sharing and practice will heavily depend on pair and group work. Weekly class attendance is expected.

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	自己管理能力		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

- ①まずKey Word Studyを行う。
- ②次に基本的な語学力を向上させるためListening Practice 1,2をやる。
- ③さらに語彙力の充実を図るためにComprehension CheckとSummaryを試みる。
- ④最後にReadingのコーナーによって、ニュース英語の世界や語学的特質の理解を深める。

[授業のねらい]

- ①WAAの映像ニュースで取り上げられた環境、健康、科学技術に関連し、様々な最新的话题に触れながら、映像を通して、多方面的の英語ニュースを理解し、時事英語の「理解力向上」を目指す。
- ②多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- ③英語のReading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

『AFP World Focus—Environment, Health, and Technology』
編注者：宍戸真、高橋真理子、Kevin Murphy
発行：成美堂、2017年1月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、講義の課題と方法の説明、勉強方法の解説 (シラバス使用)
- 第2回 Lesson 1 地球温暖化と気候変動
- 第3回 Lesson 1 地球温暖化と気候変動
- 第4回 Lesson 2 食習慣：長生きの為にスーパーフードを探す
- 第5回 Lesson 2 食習慣：長生きの為にスーパーフードを探す
- 第6回 Lesson 3 自動車運転の未来：座るだけで安全に目的地に到着
- 第7回 Lesson 3 自動車運転の未来：座るだけで安全に目的地に到着
- 第8回 Lesson 4 生物多様性の都市開発
- 第9回 Lesson 4 生物多様性の都市開発
- 第10回 Lesson 5 3Dプリンターの医療利用
- 第11回 Lesson 5 3Dプリンターの医療利用
- 第12回 Lesson 6 ITと教育：発展途上国のタブレット利用
- 第13回 Lesson 6 ITと教育：発展途上国のタブレット利用
- 第14回 Lesson 7 免震構造：自然災害への備え
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

英語VII (律政群 2 - 1) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業参加、授業貢献度、発表 (20%)
- ② レポート、小テスト (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意 /Remarks

- ① 英和辞典、英英辞典、和英辞典は必ず持参のこと。(電子辞書可)
- ② 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。
- ③ 授業中の携帯電話の使用を禁ずる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
- ② 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。
- ③ 予習、復習は、必須である。ノート作成をすること。

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語Ⅷ
			ENG212F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in one on one debate. Students will practice critical thinking and language skills which will allow them to express their opinions and influence others through logical, reasoned discussion.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 SYLLABUS / ESSENTIAL CLASSROOM ENGLISH
- 2 回 CRITICAL THINKING – LISTENING FOR KEY WORDS AND ANALYZING IDEAS
- 3 回 CRITICAL THINKING – AGREEING, DISAGREEING AND PROVIDING REASONS
- 4 回 CRITICAL THINKING – STARTING & ENDING A DEBATE
- 5 回 IDEA MATCHING PRACTICE
- 6 回 DEBATE TOPIC 1 – “THE PRO / PRO DEBATE”: STAYING POSITIVE
- 7 回 DEBATE TOPIC 1 PRESENTATION
- 8 回 PRO / CON MATCHING PRACTICE
- 9 回 DEBATE TOPIC 2 – “THE PRO / CON DEBATE”: PERSUADING
- 10 回 DEBATE TOPIC 2 PRESENTATION
- 11 回 INCLUDING RESEARCH IN DEBATE
- 12 回 DEBATE TOPIC 3 – “THE WELL INFORMED DEBATE”: BEING FACTUAL
- 13 回 DEBATE TOPIC 3 PRESENTATION
- 14 回 FINAL TEST: ORIGINAL DEBATE PREPARATION I
- 15 回 FINAL TEST: ORIGINAL DEBATE PREPARATION II

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework will be assigned.

履修上の注意 /Remarks

Japanese/English Dictionary required

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is a class which involves full participation on the part of every student. Idea sharing and practice will heavily depend on pair and group work. Weekly class attendance is expected.

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語Ⅷ
			ENG212F

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

- ①まずKey Word Studyを行う。
- ②次に基本的な語学力を向上させるためListening Practice 1,2をやる。
- ③さらに語彙力の充実を図るためにComprehension CheckとSummaryを試みる。
- ④最後にReadingのコナーによって、ニュース英語の世界や語学的特質の理解を深める。

[授業のねらい]

- ①WAAの映像ニュースで取り上げられた環境、健康、科学技術に関連し、様々な最新的话题に触れながら、映像を通して、多面での英語ニュースを理解し、時事英語の「理解力向上」を目指す。
- ②多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- ③英語のReading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

『AFP World Focus—Environment, Health, and Technology』
編注者：宍戸真、高橋真理子、Kevin Murphy
発行：成美堂、2017年1月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、講義の課題と方法の説明、勉強方法の解説 (シラバス使用)
- 第2回 Lesson 8 ドローンの実用性
- 第3回 Lesson 8 ドローンの実用性
- 第4回 Lesson 9 ごみ問題を考える
- 第5回 Lesson 9 ごみ問題を考える
- 第6回 Lesson 10 摂食障害：プラスサイズモデルの人気
- 第7回 Lesson 10 摂食障害：プラスサイズモデルの人気
- 第8回 Lesson 11 バーチャルリアリティ：期待される医療への応用
- 第9回 Lesson 11 バーチャルリアリティ：期待される医療への応用
- 第10回 Lesson 12 観光開発と自然保護
- 第11回 Lesson 12 観光開発と自然保護
- 第12回 Lesson 13 ウエアラブルの進化
- 第13回 Lesson 13 ウエアラブルの進化
- 第14回 Lesson 14 食品ゴミを減らす：お持ち帰り袋の活用
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業参加、授業貢献度、発表 (20%)
- ② レポート、小テスト (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意 /Remarks

- ① 英和辞典、英英辞典、和英辞典は必ず持参のこと。(電子辞書可)
- ② 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。
- ③ 授業中の携帯電話の使用を禁ずる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
- ② 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。
- ③ 予習、復習は必須である。ノートを作成すること。

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年次 単位 /Credits 1単位 1単位 学期 /Semester 1学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 講義 クラス /Class 済営律政 3 年 済営律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅸ	ENG301F

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test 2 (4th Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Reading Sectionの英文の意味を確認しておくこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力のさらなる伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 リスニング プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行うこと。

英語X (済営律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 X I	ENG302F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class, 3rd edition』 (2015) Talandis, G. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Golden rules
- 3回 Exchanging basic information
- 4回 Majors, school years, and clubs
- 5回 Part-time jobs
- 6回 Daily routines
- 7回 Hardest/easiest days of the week
- 8回 Spending time
- 9回 Hometown attractions
- 10回 Hometown likes and dislikes
- 11回 Where to live in the future
- 12回 Travel experiences
- 13回 Future travel ideas and plans
- 14回 Planning a trip
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare (about 60 min.) and review (about 60 min.) for each class.

英語XI (済営律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 3年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語ⅩⅡ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class, 3rd edition』 (2015) Talandis, G. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course and online resources
- 2回 Registering in the online course
- 3回 Talking about breaks and vacations
- 4回 Talking about free time activities
- 5回 Talking about hobbies
- 6回 Talking about music
- 7回 Talking about movies
- 8回 Talking about TV, reading, and games
- 9回 Talking about eating
- 10回 Likes and dislikes
- 11回 Exotic foods and eating out
- 12回 Imagining life in five years
- 13回 Discussing life issues
- 14回 Dream jobs
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare (about 60 min.) and review (about 60 min.) for each class.

英語XII (済営律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor: ホウ ラメイ (彭腊梅) / ラメイ ホウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次 単位 /Credits: 1単位 学期 /Semester: 1学期 授業形態 /Class Format: 講義 クラス /Class: 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2 回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3 回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4 回 総合知識
- 5 回 総合練習
- 6 回 第四課 紹介
- 7 回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8 回 第五課 入国・北京紹介
- 9 回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10 回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11 回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12 回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13 回 第七課 交通、練習問題
- 14 回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15 回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor ホウ ラメイ (彭腊梅) / ラメイ ホウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|------|------|-----------------|
| 1 回 | 第九課 | 買い物をする・義烏と横店紹介 |
| 2 回 | 第九課 | 買い物、練習問題 |
| 3 回 | 第十課 | お金を両替・西安と洛陽紹介 |
| 4 回 | 第十課 | 銀行にて、練習問題 |
| 5 回 | 第十一課 | ホテルに泊まる・成都紹介 |
| 6 回 | 第十一課 | ホテルにて、練習問題 |
| 7 回 | 第十二課 | 電話を掛ける・昆明紹介 |
| 8 回 | 第十二課 | 電話、練習問題 |
| 9 回 | 第十三課 | 興味について語る・広州紹介 |
| 10 回 | 第十三課 | 興味、練習問題 |
| 11 回 | 第十四課 | 見方について語る・大連紹介 |
| 12 回 | 第十四課 | 語り合い、練習問題 |
| 13 回 | 第十五課 | 搭乗手続き・日本の紹介 |
| 14 回 | 第十五課 | 空港での搭乗手続き・免税店にて |
| 15 回 | 総合練習 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40 % 暗誦・・ 30 % 日常の授業への取り組み・・ 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 周 艶陽 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 周 艶陽 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2017年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社（2017年3月）、2,200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか【願望・勧誘形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作成すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）
 日谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			朝鮮語Ⅳ	KRN112 F

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法における類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形 1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞 1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字 1【【おいからですか】【買い物】】
- 3回 助詞 2、漢数字 2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日?】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形 2【해오体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形 2【해오体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해오体」の不規則、固有数字 1【一つ、二つ...】
- 8回 「해오体」のドリル、固有数字 2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ベアの質問と応答練習】【못~,~지 못해오】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 会話テスト(韓国語でグループ発表)、民族遊び
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...40% 会話テスト...20% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。期末試験前に会話テストがあるので、履修者は全員受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語 2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語I・II』の復習
- 第3回目 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 第4回目 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 第5回目 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 第6回目 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 第7回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【文法、単語】
- 第8回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 第11回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 第12回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
- 第13回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語Ⅶと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営人律政群 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかり学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V』の復習
- 第3回目 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 第4回目 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 第5回目 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 第6回目 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 第7回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 第8回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 第11回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 第12回目 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 第13回目 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事などを報告してもらい、自然な日常会話に慣れるよう心がける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語 改訂版』、白水社 (2017年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 7回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 8回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 14回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅷ	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事を報告してもらい、自然な会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語 改訂版』、白水社 (2017年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
- 3回 ファンの集いへ行ってみたんですけど。【感想を言う】
- 4回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 5回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 6回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 7回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 8回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 9回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 10回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 11回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 12回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 13回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 14回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：宿題と、これから学習するところを予習する。
事後学習：学習した部分を確かめながら、どのくらい理解できたのか復習する。

朝鮮語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 学習状況...20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意 /Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、スタート時期に欠席するのは好ましくない。

ロシア語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 学習状況 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅲ	RUS102 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習 60分、復習 60分です。)

ロシア語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英中国済営比人律
/Class 政1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしてしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

ロシア語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、書き言葉に特徴的な複文（関係代名詞、関係副詞、分詞構文）の「文法・語法」学習、動詞の体の用法・派生、運動の動詞など、より複雑な文法の学習を行う。到達目標は、文章語の読解力を養うこと。

教科書 /Textbooks

古賀・鴻野著『ロシア語の教科書』（第2版）、ナウカ出版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○ブリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 定動詞・不定動詞(1)、完了体・不完了体
- 2回 関係代名詞(1)、形容詞・副詞の比較級と最上級
- 3回 個数詞と名詞句の結合、年齢表現、値段表現
- 4回 時間表現、不定使用法、不規則変化動詞
- 5回 不定人称文、仮定法(1)、複文(1)
- 6回 移動動詞の派生、曜日表現
- 7回 関係副詞、関係代名詞(2)、勧誘法表現、年月日表現
- 8回 相互代名詞、述語生格、仮定法(2)、普遍人称文
- 9回 無人称動詞、定動詞・不定動詞(2)、再帰所有代名詞、「春の祝日について」
- 10回 副動詞、形動詞現在
- 11回 完了動詞・不完了動詞の派生、祝辞表現
- 12回 時刻表現、概数、姓の格変化
- 13回 複文(2)、存在状態を表す動詞と動作動詞(「横たわっている」と「横になる・横たわせる」)
- 14回 形動詞過去、間接命令法
- 15回 定代名詞、特殊変化動詞、「呼格について」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・課題・学習状況 ... 40%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には、テキストの読み、練習問題の課題を課すので準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語V【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数（数十冊以上）ありますので利用してください。

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211F

授業の概要 /Course Description

テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。さらに、マスコミ記事などの読解を通じて、ロシア社会、ロシア文化についての理解を深める。
到達目標は、ノーマルスピードのやさしい会話が理解できるようになること、読解力を養うこと。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので準備が必要。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数(数十冊以上)ありますので利用してください。

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅶ	RUS202 F

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜、アンナ・パーニナ校閲、ナウカ出版、2016年改訂版
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第9 課① 【動詞の未来形】、【無人称文】
- 2回 第9 課② 【夏休みの計画】、【特殊変化】
- 3回 第9 課③ 会話練習
- 4回 第10 課① 【命令形】、【否定性格】
- 5回 第10 課② 【全否定の表現】、【不規則動詞】
- 6回 第10 課③ 【様々は...が痛い】、【私は気分がいい】
- 7回 第10 課④ 会話練習
- 8回 第11 課① 【造格】
- 9回 第11 課② 【移動動詞 ①】
- 10回 第11 課③ 【先生の語り】
- 11回 第12 課① 【移動動詞 ②】、【不完了体と完了体】
- 12回 第12 課② 【体のペア】、【体の用法】
- 13回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 14回 ビデオ学習② 会話練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」、「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名
 /Instructor

ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
 /Year

単位 1単位
 /Credits

学期 2学期
 /Semester

授業形態 講義
 /Class Format

クラス 英中国済営比人律
 /Class 政 2年

対象入学年度
 /Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅷ	RUS212 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「ロシア語の教科書」古賀義顕・鴻野わか菜、アンナ・パーニナ校閲、ナウカ出版、2016年改訂版
 DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第12 課③ 【完了体未来】
- 2回 第12 課④ 【手紙を書く】
- 3回 第12 課⑤ 会話練習
- 4回 ビデオ学習① 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習【У ВРАЧА】
- 6回 ビデオ学習③ 作文【Я И СПОРТ】
- 7回 第13 課① 【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【形容詞・副詞の比較級 ①】
- 8回 第13 課② 【形容詞・副詞の比較級 ②】
- 9回 第13 課③ 【学生たちの会話】
- 10回 第13 課④ 会話練習
- 11回 第14 課① 【個数詞と名詞】、【年齢の表現】
- 12回 第14 課② 【値段の表現】、【時核の表現】
- 13回 第14 課③ 会話練習
- 14回 第14 課④ 【コートを買うに】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語III」、「ロシア語IV」、「ロシア語VII」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101 F

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。
学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻/あいさつ(2)/時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う/アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物/メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie/命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語/建物など 文法：名詞の性/定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持つてる? 持つてない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物/値段 文法：名詞と冠詞の3格/複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

ドイツ語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
前回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「テレビでドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。
ただし、毎時間必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。
授業の中でもドイツ語圏の社会や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語II	GRM111F

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識およびコミュニケーション力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
前回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提にして行われます。受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。

ドイツ語II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。ドイツ語IIの時間でも、必要に応じてドイツ語圏の生活や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語VI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫言いで話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 être の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属CDを聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語II	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のCDをつけて聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてなによりもフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音展・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

アミカルマン<ブリュス> -フランス語・フランス文化への誘い- リリアヌ・ラタンジオ 他著、駿河台出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の子音と母音
- 2回 あいさつ
- 3回 自己紹介
- 4回 年齢、趣味
- 5回 質問する(1)
- 6回 質問する(2)
- 7回 ものや人物の説明(1)
- 8回 ものや人物の説明(2)
- 9回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)
- 10回 予定
- 11回 過去のことを言う(1)
- 12回 過去のことを言う(2)
- 13回 時間と天候
- 14回 依頼する
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)、学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習内容は講義中に指示します。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

フランス語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同じく基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

アミカルマン<ブリュス>-フランス語・フランス文化への誘い リリアンヌ・ラタンジオ他 著、駿河台出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 贈り物をする(1)
- 2回 贈り物をする(2)
- 3回 日常の行動(1)
- 4回 日常の行動(2)
- 5回 旅行する
- 6回 過去のことを言う(3)
- 7回 過去のことを言う(4)
- 8回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)
- 9回 未来の計画(1)
- 10回 未来の計画(2)
- 11回 未来の計画(3)
- 12回 街を歩く
- 13回 夢を語る
- 14回 感情を表現する
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)と学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習内容は講義中に指示します。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

会話文と日記文を通して初級で学んだ文法を復習し、より複雑な表現を口頭練習や作文練習を通して定着させます。

教科書 /Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ フランスの世界遺産と食文化を巡る旅2』藤田裕二著（朝日出版 2017年 2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 受動態
- 2回目 なぜ?—なぜなら、の表現 (1課終了)
- 3回目 形容詞の最上級
- 4回目 関係代名詞1 (2課終了)
- 5回目 関係代名詞2
- 6回目 勧誘と応答の表現 (3課終了)
- 7回目 疑問代名詞
- 8回目 不定代名詞 on (4課終了)
- 9回目 条件法現在
- 10回目 条件法過去 (5課終了)
- 11回目 代名動詞の複合過去
- 12回目 複合過去復習 過去分詞の性数一致 (6課終了)
- 13回目 半過去
- 14回目 指示代名詞 ce (7課終了)
- 15回目 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：20% 小テスト：20% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキスト準拠ホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後学習として、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳、例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

辞書（紙でも電子でもよい）を必携すること。1年次で使用したテキストを復習用として活用すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、中級レベルの会話文や日記文を参考にして、より正確にまたニュアンスのある表現力を身に着けます。

教科書 /Textbooks

『パリ・ブルゴーニュ フランスの世界遺産と食を巡る旅2』藤田裕二著（朝日出版社 2017年 2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 接続法現在
- 2回目 「~のように見える」の表現（8課終了）
- 3回目 位置を表す前置詞
- 4回目 勧誘・提案の表現3（9課終了）
- 5回目 現在分詞
- 6回目 ジェロンディフ（10課終了）
- 7回目 副詞について
- 8回目 時と場所の副詞（11課終了）
- 9回目 所有代名詞
- 10回目 お礼の表現（12課終了）
- 11回目 間接話法
- 12回目 時制の一致（13課終了）
- 13回目 強調構文
- 14回目 時を表す前置詞句（14課終了）
- 15回目 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：20% 小テスト：20% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト準拠のホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを把握しておくこと。事後には文法を項目ごとにまとめ、単語帳と例文リストを作成し暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

授業には辞書を必携すること。1年次に使用したテキストを復習用として活用すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的にプリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1 : 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1 : 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1 : 自己紹介 (復習)
- 4) unité 2 : 質問する (前半)
- 5) unité 2 : 質問する (後半)
- 6) unité 2 : 質問する (復習)、小テスト
- 7) unité 3 : 買い物をする (前半)
- 8) unité 3 : 買い物をする (後半)
- 9) unité 3 : 買い物をする (復習)
- 10) unité 4 : いつ (前半)
- 11) unité 4 : いつ (後半)
- 12) unité 4 : いつ (復習)、小テスト
- 13) unité 5 : どこ (前半)
- 14) unité 5 : どこ (後半)
- 15) 前期の復習、小テスト

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト(3回)・・・ 60%
期末テスト・・・ 20%
授業中の「取り組み」は20%ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要 /Course Description

日常的なシーンでのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、定期的プリントを配布したり、映像を流したりして、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Rythmes & communication

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6 : 誰 (前半)
 - 2) unité 6 : 誰 (後半)
 - 3) unité 6 : 誰 (復習)、リスニング
 - 4) unité 7 : 何 (前半)
 - 5) unité 7 : 何 (後半)
 - 6) unité 7 : 何 (復習)、小テスト
 - 7) unité 8 : どのように (前半)
 - 8) unité 8 : どのように (後半)
 - 9) unité 8 : どのように (復習)、読解
 - 10) unité 9 : 過去について (前半)
 - 11) unité 9 : 過去について (後半)
 - 12) unité 9 : 過去について (復習)、小テスト
 - 13) unité 10 : 仮定、条件 (前半)
 - 14) unité 10 : 仮定、条件 (後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト(2回)・・・ 40%
プレゼンテーション・・・ 20%
レポート・・・ 20%
授業中の「取り組み」は20%ですが、出席が評定の前提となっています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは5つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせなので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書 /Textbooks

『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

口ボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
- 2回 5つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
- 3回 名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
- 4回 人称代名詞、一般動詞の活用（3つのタイプ）：直説法現在
- 5回 一般動詞の活用（1）と基本文例、肯定文、否定文
- 6回 一般動詞の活用（2）と基本文例、否定文、疑問文
- 7回 一般動詞の活用（3）と基本文例、目的語と前置詞
- 8回 一般動詞の復習、形容詞
- 9回 ser動詞とestar動詞（1）
- 10回 ser動詞とestar動詞（2）およびhayについて
- 11回 疑問詞を使った疑問文（1）
- 12回 疑問詞を使った疑問文（2）
- 13回 不規則動詞の活用、指示詞
- 14回 短文を読む（プリント）
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

外国語の学習には辞書が必須です。毎回の授業前には単語の意味を調べておきましょう。また、テキストの各課には「練習問題」がありますが、回答を正しく表記できるか問題文（スペイン語）を含めて、自分で書いてください。強制ではありませんが、毎回提出すれば、教員が「赤」を入れて返却します。

スペイン語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。授業中に質問の時間を設けています。わからないことがあれば、いつでも質問しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制です。一般動詞（規則動詞）に加えて、重要な不規則動詞の活用とその基本的文例を幅広く学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインの歴史や文化、およびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』改訂版（朝日出版）
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅰの復習
- 2回 直説法現在一不規則動詞の活用（1）
- 3回 指示代名詞と基本文例
- 4回 指示形容詞と基本文例
- 5回 不規則動詞の活用（2）
- 6回 所有形容詞と文例、人称代名詞目的格
- 7回 不規則動詞の活用（3）直接目的格
- 8回 不規則動詞の活用（4）間接目的格
- 9回 前置詞と基本文例
- 10回 前置詞と人称代名詞
- 11回 gustar型の動詞（1）
- 12回 gustar型の動詞（2）
- 13回 再帰動詞と基本表現
- 14回 無人称表現、曜日・日付の表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず授業の前に、辞書で単語の意味を調べてください。毎回授業には辞書を持参しましょう。また、教科書の各課には練習問題があります。授業で終わった段階で、練習問題文（スペイン語）を含めて、回答を正確に表記できるか確かめましょう。できれば、毎回提出すれば、「赤」を入れて返却します。

スペイン語II【昼】

履修上の注意 /Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペインもイバナアメリカも「情熱の国です!」。熱意でスペイン語に挑戦!

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser, estar, hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅰ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声を出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://los40.com/> (スペイン語圏に広がるFMラジオ放送のサイト。音楽が中心。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、会話表現の文法事項を学びながら、モデル会話を覚え、語彙を増やして行きましょう。会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。口に出して発音をすることでフレーズを覚えましょう。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2016第1版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：<http://www.rtve.es/>

<http://los40.com/>

<http://www.cadena100.es/>

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。改訂版なので昨年の2年生で使ったものとは違いますので、注意して下さい（現在生協で売っているものです）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プロGRESSIVEスペイン語辞典（小学館）
 パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1年の復習(代名詞を中心に)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)
- 3 再帰動詞、無人称文など
- 4 再帰動詞、無人称文など
- 5 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)
- 6 同上
- 7 ここまでの復習
- 8 点過去、現在完了の用法
- 9 同上
- 10 同上
- 11 線過去の用法
- 12 同上
- 13 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習
- 14 視聴覚教材を使って
- 15 同上

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材(プリント配布)を視聴覚教材として随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストに対するプリントなどの補助教材はポータルから送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをします。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントも文書管理に残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 未来形とその関連時制の用法
 - 2 同上
 - 3 前期を含め、様々な構文のまとめ（受け身、使役、放任、比較など）
 - 4 同上
 - 5 過去完了と時制の一致
 - 6 受け身文、無人称文
 - 7 同上
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法
 - 10 接続法の用法
 - 11 スペイン語版トトロを理解する
 - 12 スペイン語版トトロを理解する
 - 13 スペイン語版トトロを理解する
 - 14 スペイン語版トトロを理解する
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

上記テキスト以外のプリントなどの補助教材はポータルから送ります。授業時に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布（テキスト購入不要）
始めの方は前年度の教科書を持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、自己紹介
- 2回 他人の紹介、人についての表現
- 3回 一日のスケジュール
- 4回 日常の紹介(1)
- 5回 日常の紹介(2)
- 6回 買い物(1)
- 7回 買い物(2)
- 8回 好きなこと
- 9回 食事について(1) パエージャの作り方
- 10回 食事について(2)
- 11回 旅行
- 12回 休暇の過ごし方 どこへ?
- 13回 スペイン語圏について
- 14回 町の紹介
- 15回 まとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

スペイン語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上の字幕付きビデオを見て、内容把握をしてもらうこと。

事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/>（スペイン国営放送 TVE）

<http://los40.com/>（スペイン語圏に広がる音楽FM放送）

<http://www.cadena100.es/>（スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

前期のスペイン語Ⅶをさらに発展させていきます。プリントとビデオでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。そのうえで、実際の場面に応じた会話をペアやグループで行い、時折発表もします。会話表現内で、学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(テキスト購入不要)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。
詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期表現の復習、休暇中のこと
- 2回 さあ食べよう！今日の定食
- 3回 趣味の事(1)
- 4回 趣味のこと(2)
- 5回 仕事の紹介
- 6回 企業について
- 7回 旅行(1)
- 8回 旅行(2)
- 9回 過去の出来事(1)
- 10回 小さかった時
- 11回 過去の出来事(2)
- 12回 現在の推測
- 13回 スペイン語のDVDを理解する(1)
- 14回 スペイン語のDVDを理解する(2)
- 15回 まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

スペイン語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：会話のテキストを配るので、指定された箇所を予習してくる。また、指定されたWeb上のビデオを見て、字幕を読み予習をしてくること。

事後学習：授業中に行う和訳をもとに、もう一度、その日の授業内でのスペイン語会話（スクリプトや会話プリント）を全て読み、文法事項と内容の把握に努めること。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。疑問に思ったことはどんどん辞書を引いてください。

スペイン語I・II・III・IV・V・VIIの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の2年目前期を終え、会話実例がどんどん出てくることに慣れてきたと思います。後期では過去形もふんだんに使用するビデオを見ていきます。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも訓練の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができます。また、オンラインで見られる映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> など

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

法学総論【昼】

担当者名 梁田 史郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

意識するかどうかは別として、日本社会で生活していく以上、法の問題は誰もが関わりを持たざるを得ない。身近な例を題材として、自分たちと法の関わりを確認しつつ、日本の法体系、法原則を学ぶ。

教科書 /Textbooks

池田真朗ほか著『法の世界へ』（有斐閣アルマ）
『ポケット六法』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

南野森編『ブリッジブック法学入門』（信山社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 法とは何か
3. 日本の法体系
4. 法の解釈
5. 日常生活と契約
6. 意思表示と法律行為
7. 債務不履行と損害賠償
8. 不法行為と損害賠償
9. 民事責任と刑事責任
10. 欠陥製品による被害
11. 悪徳商法による被害
12. 婚姻と離婚
13. 親子関係と法
14. 相続
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%
遅刻・欠席や不真面目な受講態度は減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、テキストを一読し、読み方や意味の分からない言葉については辞書で調べておくこと。
事後学習として、講義の内容を復習し、関連事項を自分で調べてノートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

テキストを使用して講義を進めるので、必ずテキストを持参してください。
「六法」は指定のものでなくてもかまいません。

法学総論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

黒板に書かれたことを写すだけでなく、講師の話聞いたうえで、整理してノートをとることを心がけてください。
法学は、やや難しい言葉で説明されることが多く、専門用語に限らず、不明確な言葉は辞書で確認する習慣をつけてください。また言葉になれるためにテキストや法律の条文を音読すると良いでしょう。

キーワード /Keywords

憲法 民法 民事責任 刑事責任 契約 損害賠償

現代法曹論I【昼】

担当者名 /Instructor 川上 修 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代法曹制度やそれが抱える課題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代法曹論 I

LAW200M

授業の概要 /Course Description

身近に起こりうる様々な法律問題の検討を通じて、法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）及び法律に携わる様々な職業（司法書士など）の役割と現代的意義を理解することを目的とします。

講義の他に、法律実務家による講演を予定しています。法律実務家の生の声を聞くことで、各職業の内容だけでなく、やりがいや苦労についても知ることができます。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法曹三者についての基礎知識
- 2回 「裁判官の業務と現代的意義(1)」 「司法権」
- 3回 「裁判官の業務と現代的意義(2)」 「非訟、訴訟」
- 4回 「検察官の業務と現代的意義(1)」 「公益の代表者」 「捜査」 「起訴独占主義」 「起訴便宜主義」 「公判」
- 5回 「弁護士の業務と現代的意義(1)」 「弁護士自治」 「代理業務の独占」
- 6回 刑事裁判手続きにおける法曹三者の役割(1) 「捜査」 「逮捕」 「勾留」 「起訴」
- 7回 刑事裁判手続きにおける法曹三者の役割(2) 「公判」 「無罪推定」 「自白法則」 「補強法則」
- 8回 民事裁判手続きにおける法曹の役割(1)
- 9回 民事裁判手続きにおける法曹の役割(2)
- 10回 ビジネス法務と法曹の役割
- 11回 裁判官、裁判所書記官講師による講演
- 12回 検察官、検察事務官講師による講演
- 13回 弁護士講師による講演
- 14回 周辺他種業講師による講演（司法書士を予定）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講演後のレポート・・・ 70%
定期試験・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テーマとなっている職業の特徴を事前に調べておくこと。
それぞれの職業の立場の違いを意識して、各種法律を学ぶこと。

履修上の注意 /Remarks

現代法曹論I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合によって、スケジュールが変更になることがあるので、注意してください。

講演のときの遅刻、早退、私語は、講師に失礼となるので厳禁です。

第一線で活躍する法律実務家の生の声を聞くことができる貴重な機会になると思います。講演終了後に質疑応答の時間を設けますので、積極的に質問や意見をぶつけてみてください。

キーワード /Keywords

現代法曹論II 【昼】

担当者名 /Instructor 天久 泰 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代法曹制度やそれが抱える課題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代法曹論II

LAW201M

授業の概要 /Course Description

「法曹」とは裁判官、検察官、弁護士の総称です。平成21年5月に裁判員制度が始まり、市民と法曹との距離が一段と近くなりました。本講義では刑事事件、少年事件、家事事件、その他の社会的に意義のある事件について、具体的なケースを通じて法曹に求められる技術、思考手順や実務の様子について学んで頂くとともに、様々な紛争の場面で法律がどのように用いられているか考えてみます。

教科書 /Textbooks

指定なし。各回レジュメ、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

平成30年版 六法・小六法

例：ポケット六法（有斐閣）、有斐閣判例六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）、模範小六法（三省堂）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

<全15回>

- 第1回 法曹制度概説（歴史、養成課程、活動する場面など）
- 第2回 刑事法（1）- 刑事裁判の仕組み
- 第3回 刑事法（2）- 弁護人の役割
- 第4回 刑事法（3）- 検察官の役割
- 第5回 刑事法（4）- 裁判員裁判、少年事件
- 第6回 民事法（1）- 民事事件の基礎（法律要件論など）
- 第7回 民事法（2）- 民事裁判の構造
- 第8回 民事法（3）- 弁護士による事件処理
- 第9回 民事法（4）- 離婚、相続
- 第10回 民事法（5）- 借金・負債の整理
- 第11回 労働事件
- 第12回 その他の事件（社会問題関連）
- 第13回 その他の事件（弁護士会の活動）
- 第14回 法曹界の現状、法曹に期待される役割
- 第15回 法曹の役割についてのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の成績により評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

レジュメで引用する制度、条文について主体的な復習を心がけて下さい。また、日頃から、新聞、テレビなどで報道される裁判、事件、社会問題について授業内容と関連づけて考えてみて下さい。

履修上の注意 /Remarks

リアクションペーパーを不定期に書いて頂きます。成績評価とは無関係です。

現代法曹論II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちの生活と法律は、切り離せない関係にあります。皆さんは社会の一員として、法律の規制を受けながら、法律を利用して生きていかなければなりません。

法曹の役割を学ぶことは、法律が実際に適用される場面を通じて、社会や生き方について学ぶことにもなります。

講義内容を皆さんの生活、人生にあてはめて考え、学んで下さい。

キーワード /Keywords

法律実務論I【昼】

担当者名 本多 寿之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 法曹・準法曹の実務の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのキャリアラムマップで確認してください。		法律実務論 I LAW390M

授業の概要 /Course Description

「街の身近な法律家」と呼ばれる司法書士の、主に不動産登記手続き、民事・家事裁判手続きの実務について解説します。
 不動産登記手続きでは、不動産取引の実際と、司法書士が安全な不動産取引の実現のため法律家として担っている役割、日本の不動産登記制度の持つ機能や効果と、登記簿、登記申請などについて解説をします。
 民事・家事裁判手続きでは、これらの裁判手続きの特徴、実際の民事裁判手続きがどのように進められるか、司法書士が市民の権利実現と紛争解決のために裁判手続きにおいて担っている役割などを解説します。
 いずれも、民法などの実体法が社会生活でどのように適用され、そこで生じる権利が不動産登記法、民事訴訟法などの手続法によってどのように反映・実現されていくのか、司法書士の実務を通してより具体的なものとして理解することを大きな目的としています。
 その他、司法書士制度の歴史、背景や役割、隣接法律専門職との関係などについても解説をします。
 司法書士試験合格を目指す学生においては、関係法令の概要について学習ができ、実務内容を通して法令が適用される具体的な場面を知ること、法令の理解に役立ちます。
 また、司法書士試験の受験を考えていない学生においても、法律専門職の実務内容を通して、社会生活における法令の果たす機能のいくつかの例を理論的、具体的に学ぶことができます。
 2学期に開講予定の、商業登記・成年後見を中心とした「法律実務論II」を受講すると、司法書士の実務の全体を学ぶことができます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。
講義の進捗に応じ、講義レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本の法律専門職と司法書士
- 2回 司法書士の実務と民法との関係
- 3回 司法書士の実務の全体像
- 4回 不動産取引の実際
- 5回 不動産取引における司法書士の役割と不動産登記
- 6回 不動産登記法I(総論・登記簿等)
- 7回 不動産登記法II(登記申請・所有権の登記)
- 8回 不動産登記法III(登記申請・抵当権その他の登記)
- 9回 不動産取引と不動産登記(まとめ)
- 10回 民事・家事裁判手続きの種類と概要
- 11回 民事訴訟I(民事訴訟の仕組み)
- 12回 民事訴訟II(民事訴訟の実際・訴状の構成)
- 13回 不動産登記手続き、民事・家事裁判手続きと成年後見制度
- 14回 司法書士制度の歴史、背景と隣接法律専門職との関係
- 15回 まとめ

法律実務論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

提出課題・・・ 20%
学期末試験・・・ 70%
日常の授業への取り組み・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義において、人々の生活において民法等が果たしている役割について解説したことを踏まえて、自分の普段の生活において、特に契約と債務の履行の場面で、日常の行為の一部と法令が関連していることを意識してください。また、契約書の例を挙げて、民法等の法令を確認している部分、または修正している部分等を解説するので、各種契約書を目にすることがあれば、民法等の法令との関係を考えてみてください。これらにより、社会生活における法令の果たす機能を実際に体験・実感でき本講義の理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

講義で配布したレジュメは、その後の講義で使用することがあるので、各自ファイリングして講義の際に必ず持参してください。
コンパクトなもので構いませんので民法が収録された六法を持参してください。
授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民法を既に通講していた場合、本講義の理解がより深いものになります。
また、実務において民法が適用される場面を解説するので、これから民法の講義を受講する際に講義の理解に役立ちます。

キーワード /Keywords

司法書士 不動産 登記 民事裁判 家事裁判 国家試験 成年後見

法律実務論II 【昼】

担当者名 細川 真二 / HOSOKAWA SHINJI / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法曹・準法曹の実務の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法律実務論II

LAW391M

授業の概要 /Course Description

司法書士試験を目指す学生に対して、司法書士の業務を紹介しながら、試験科目の一つである商業登記法に対応した講義を行います。また、将来会社設立を考えている学生にも、会社法と会社の登記がどのように連動しているのかを理解していただきます。さらに、司法書士の新しい業務である成年後見人やADR（裁判外紛争解決手続）についても紹介します。

教科書 /Textbooks

商業登記法入門（有斐閣）神崎満治郎著
また、適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

成年後見教室（実務実践編・課題検討編）（成年後見センター・リーガルサポート編）日本加除出版 各¥2,500
ADR理論と実践（和田仁孝編）有斐閣 ¥2,200
調停への誘い（レビン小林久子）日本加除出版 ¥2,000

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商業登記法概論
- 2回 会社設立①（取締役会設置会社）
- 3回 会社設立②（一人会社）
- 4回 会社の機関
- 5回 役員変更
- 6回 新株発行
- 7回 組織再編
- 8回 会社合併
- 9回 会社分割
- 10回 その他の登記
- 11回 成年後見制度と司法書士
- 12回 任意後見・法定後見
- 13回 成年後見制度の課題
- 14回 ADR制度と司法書士
- 15回 メディエーション（コンフリクトマネジメント）

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 日常の授業への取り組み・・・30% 小テスト・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に関連する会社法の条文を事前に目を通し、授業内容の復習を行うこと。

法律実務論II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「会社法」を既に受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。
民法の行為能力、後見、保佐、補助を理解していると本講義の理解が深まります。
法律実務論Iの不動産登記法を中心として司法書士講座を履修すると司法書士業務の全体が理解できます。
予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください（特に、下記のメッセージ欄も参照のこと）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実務で使う申請書、議事録、契約書などを多く配布するので、その整理や復習することが授業の理解をより高めますので注意してください。

キーワード /Keywords

会社設立 役員変更 新株発行 合併 会社分割 成年後見制度 後見人 保佐人 補助人 ADR 裁判外紛争解決手続 メディエーション
調停人

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Ⅰの目標は、これから法学部で学ぶさまざまな法制度の現状と課題を学ぶために必要かつ有益な能力を身につけることです。

具体的には、

- (1) 日常・非日常を問わず、社会で生じている実際の事件や紛争、そして、それらを解決するための法システムに存在する問題点を発見する方法
- (2) 問題点を検討するにあたって資料・文献を検索・収集する方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）
- (3) 集めた資料を精読・分析する方法
- (4) ゼミ内で検討結果としての自分の考えを発表する方法
- (5) 論点についてお互いに討論する方法

などを学びます。

教科書 /Textbooks

弥永真生著『法律学習マニュアル』第3版（有斐閣・2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにしますが、とりあえず例えば以下のもの。

池田 眞朗 ほか著『判例学習のA to Z』（有斐閣・2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針を確認し、役割分担を決める。
授業の受け方・講義ノートの取り方・レポート作成上の注意を学ぶ。
- 第2回 パソコンを利用して情報を検索したり、図書館等を利用して実際の情報や資料を入手する方法を学ぶ。
- 第3回 各自、興味のある法律問題・事件について調べる。
そのうえで候補テーマに関して、文献資料や判例等がどの程度存在しているのか調査する。
- 第4回 各自、問題・テーマを決定して、それについての報告を行う準備をする。
- 第5回 文献の要約の仕方を学ぶ。
- 第6回 報告書（レジュメ）の作り方、口頭発表の仕方・討論の仕方について学習する。
報告者の順番を決める。
- 第7回 レポートの作成方法を学ぶ。
- 第8回～第15回 報告順番に従って、毎回、担当者が報告を行い、参加者全員で議論する。

法学基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%・ディスカッションへの参加度50%
無断欠席、ならびに、ゼミを3分の1以上欠席した場合には、ゼミ放棄とみなします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが求められます。具体的には以下のとおりです。

- 1, 報告者にはレジユメの作成と参加者への配布を行うこと
- 2, 原則として報告一週間前までにレジユメを配布できるように事前の準備作業を行うこと
- 3, 報告者以外の受講者は、事前に報告予定者のレジユメを読み込みみんでおき、質問事項を準備すること
- 4, 事後的に論点についての議論を振り返ったうえで、自説をまとめておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1, ゼミへの積極的な参加を希望します。
- 2, 報告者は、翌週の講義回においては報告担当者のために「司会者」の役割を果たすことになります。
- 3, 2名以上のグループ学習・討論の機会が設けられることがあります。

キーワード /Keywords

文献検索、レジユメの作成、ディスカッション、文献引用法

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

法学学習は、それ自体が多くの知識と多彩なスキルを前提としている。この演習は、法学の学び方を学ぶためのものであり、法学学習に必要な基礎知識とスキルの習得を目的とする。

本演習は、次の手順で行われる。

- ① 報告者を決めて、全員で基礎的な法学文献を読む、
- ② リーガルリサーチの仕方や文献引用の方法などを学ぶ、
- ③ その実践として、履修者は一定のテーマについて<情報収集→分析→レジユメの作成→報告→討論>を行う、
- ④ それを受けてレポートを作成する。

教科書 /Textbooks

道垣内正人『自分で考えるちょっと違った法学入門（第3版）』（有斐閣、2007年）、安念潤司ほか編著『論点 日本国憲法（第2版）』（東京法令出版、2014年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井田良ほか著『法を学ぶ人のための文章作法』（有斐閣、2016年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法学の基礎知識
- 第3～6回 基礎的な法学文献の講読と検討
- 第7回 リーガルリサーチ① -法令・判例・文献の探し方
- 第8回 リーガルリサーチ② -文献の種類と文献引用の仕方
- 第9～14回 履修者の報告と討論
- 第15回 まとめ

※受講人数等によって、構成の変更がありうる

成績評価の方法 /Assessment Method

レジユメおよび報告（40%）、日常の授業への取り組み（40%）、レポート（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された授業外学習を行うこと。
情報収集、レジユメ作成、報告、討論への参加、レポート提出が求められる。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「法学基礎演習II」とセットで受講することが望ましい。
小型の六法を持参すること。

法学基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、憲法、刑法、社会法の基本判例の分析、議論を通じて、法的思考の基本（他の学生の意見を尊重しつつ自らの意見を説得的に語る力、判例を分析する力、基本的な法律知識など）を身に付けることです。

演習で取り上げる判例は、①『憲法判例百選I 6版』（有斐閣、2013年）、②『刑法判例百選1総論 7版』（有斐閣、2014年）、③『民法判例百選3親族・相続』（有斐閣、2015年）から選びます（法学基礎演習Iでは①、③の判例を中心に取り上げます）。受講生に身近な問題を扱った判例を選びたいと思います。また、DNA鑑定と嫡出推定に関する最高裁判決やNHKの受信料に関する最高裁判決なども読みたいと思います。そのほか、尊属殺人の合憲性、死刑制度の合憲性、公務員に対する争議行為の制限、採用差別と採用の自由などを取り上げる予定です。

受講生全員に判例を読んできていただきます。ただし、個々の受講生に判例の内容を報告することは求めません。個々の判例について演習参加者で議論し、これによって法的思考を涵養することに本演習の目的があります。

教科書 /Textbooks

とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『憲法判例百選I 6版』（有斐閣、2013年）
- 『刑法判例百選1総論 7版』（有斐閣、2014年）
- 『民法判例百選3親族・相続』（有斐閣、2015年）

法学基礎演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 判例の検討
- 第3回 判例の検討
- 第4回 判例の検討
- 第5回 判例の検討
- 第6回 判例の検討
- 第7回 判例の検討
- 第8回 判例の検討
- 第9回 判例の検討
- 第10回 判例の検討
- 第11回 判例の検討
- 第12回 判例の検討
- 第13回 判例の検討
- 第14回 判例の検討
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 発言の度合い・授業態度 (60%)
- 学期末のレポート (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習で扱う判例を毎回熟読してきてください。
また、演習で取り扱った判例をさらに深く学習すること（事後学習）も重要です。
学期末には簡単なレポートを提出していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

法学の基本文献を輪読しながら、法律学の基本概念、基本的な考え方を知るとともに、主要な法律の基本的な仕組みや、制度、判例について理解を深めることを目的としています。

教科書 /Textbooks

佐藤幸治＝鈴木茂嗣＝田中成明＝前田達明著 法律学入門第3版補訂版 有斐閣 2008年 2,000円
その他必要に応じてレジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定
- 3回 財産と家族(1)【私的自治】
- 4回 財産と家族(2)【人】
- 5回 財産と家族(3)【所有権】
- 6回 財産と家族(4)【私的自治】
- 7回 財産と家族(5)【過失責任】
- 8回 財産と家族(6)【夫婦・親子】
- 9回 財産と家族(7)【相続】
- 10回 犯罪と刑罰(1)【犯罪と刑罰】
- 11回 犯罪と刑罰(2)【刑事手続】
- 12回 個人・社会・権力(1)【個人・国家・主権】
- 13回 個人・社会・権力(2)【個人・集団・共生】
- 14回 法の仕組みと運用(1)【法の実質・機能・構造・法源】
- 15回 法の仕組みと運用(2)【裁判・法の適用・法の解釈】・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート(4,000字程度)……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、教科書や参考文献を参照しながら、内容を整理して参加してください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、主要項目ごとにノートを作成して理解を深めてください。

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジュメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。

「民法総則」を並行して履修していると一層理解が深まると思います。
法学基礎演習IIもあわせて履修するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

まず、法令、判例、文献など法律情報の調べ方を習得します。
次に、大学におけるレポートとはどのように構成すればよいか、その書き方を学習します。

本授業は、レポートの書き方に重点を置いたものです。

受講生との話し合いにより、テーマを選定します。
そのテーマに関し報告者がレポートを作成します。
このレポートを基にグループで議論しながら、受講生が授業中にこのレポートを添削します。
他の受講生の添削を参考に、改めてレポートを作成し、担当者に、後日、提出します。

自己でレポートを作成すること、他の受講生の作成したレポートを添削すること、添削に併せてグループで議論することにより、レポート作成方法、法律的思考方法を習得します。

テーマは、法律一般に関する時事的なもの、その他受講生の希望により決定します。

グループ学習を基本とします。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

はじめの授業で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業の進め方について、報告者決定
- 2回 判例、文献、法令の調べ方について
- 3回 以下、順次、個別テーマについてレポート提出
- 4回～14回 順次、個別テーマについてレポート提出
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告テーマについて、報告者が図書館の資料、データベースによる判例の検索、インターネットの活用等により、資料を収集する。
この資料を基に自分の見解をまとめ、レポートを作成する。(必要な学習時間の目安は、90分。)

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的な発言、参加を希望します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、情報収集・分析・プレゼンテーション能力といった、これから法学を学ぶ者にとって必要な技能の習得を目的とします。講義前半では、リーガルリサーチの方法について学習し、講義後半では、主に憲法の重要判例を題材に、グループ報告またはディベートを行ってもらいます。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
- 第2回 リーガルリサーチ(1)【法令の調べ方】
- 第3回 リーガルリサーチ(2)【判例の調べ方】
- 第4回 リーガルリサーチ(3)【文献の調べ方】
- 第5～14回 グループ報告またはディベート
- 第15回 まとめ

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」に関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを、本演習の目的とする。
これらの著作は、法学をこれから学ぶ者が一読しておくべき、古典的名著である。また、それと同時に、J・ロールズやR・ノージックなどの現代正義論との関連からも、その理論的射程が再検討されるべきものでもある。本演習では、古典と現代という二重の問題意識をもちつつ、以下のテキストを読み進めていきたい。
これまでおそらく教科書的知識のみで知っているつもりとなっていたであろう古典的著作を、翻訳でではあれ、直接読むことにより、必ずやなんらかの点において知的に触発されるものがあると思われる。既読者にとっても、いずれの著作も読むたびに新たな発見や関心を喚起するような性質をもった名著である。また、実定法学を学ぶ上でも、これらの著作からは、理論的基礎として大いに得るものがあるであろう。

教科書 /Textbooks

ジョン・ロック『統治二論』（岩波文庫、1320円）
ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』（光文社古典新訳文庫、933円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロック『全訳 統治論』（柏書房）
○ 浜林正夫『ロック』（研究社出版）
○ 森村進『ロック所有論の再生』（有斐閣）
○ 西嶋法友『ルソーにおける人間と国家』（成文堂）
○ 川合清隆『ルソーとジュネーヴ共和国』（名古屋大学出版局）

法学基礎演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 ロック『統治二論』第1回(自然状態についてなど)
(あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながらテキストを順に読み進める。以下同様)
- 第3回 ロック『統治二論』第2回(所有権についてなど)
- 第4回 ロック『統治二論』第3回(政治社会と統治の目的についてなど)
- 第5回 ロック『統治二論』第4回(父親の権力、政治権力、専制権力についてなど)
- 第6回 ロック『統治二論』第5回(統治の解体についてなど)
- 第7回 ロック『統治二論』第6回(『統治二論』前編についてなど)
- 第8回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第1回(社会契約についてなど)
- 第9回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第2回(一般意志についてなど)
- 第10回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第3回(政府一般についてなど)
- 第11回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第4回(政府の設立についてなど)
- 第12回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第5回(投票や公民宗教についてなど)
- 第13回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第6回(主権についてなど)
- 第14回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第7回(法の制定についてなど)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を事前に必ず考え、予習し準備しておくこと。授業の後は、レジュメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ジョン・ロック『統治二論』(岩波文庫)は、2010年11月に文庫版として出版されました。それまでの岩波文庫版は、『市民政府論』の名で、『統治二論』の後編だけが訳出・刊行されていました。本演習では、後編を中心に扱いますが、前編についても第7回目に概観をする予定です。

キーワード /Keywords

社会契約 自然状態 統治 主権 一般意志

法学基礎演習I【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

この授業では、我が国の法体系、基本的な法律用語、判例や法律文献の探し方、文献の引用方法、討論の練習など、これから法学を学習するために必要な基本的な知識・技能を習得することに加え、民法の有名な判例を受講者全員で読むことを通して、法律文献を読む力を養成することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第7版）』（有斐閣、平成27年） 本体2100円＋税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 我が国の法体系
- 第3回 基本的な法律用語の確認
- 第4回 判例・法律文献の探し方（図書館ツアー）
- 第5回 文献の引用方法
- 第6回 討論の練習(1)【議題の設定】
- 第7回 討論の練習(2)【準備】
- 第8回 討論の練習(3)【討論とまとめ】
- 第9回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(1)【事実の概要】
- 第10回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(2)【判決理由（前半）】
- 第11回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(3)【判決理由（後半）】
- 第12回 信玄公旗掛松事件-大審院大正8年3月3日判決(1)【事実の概要】
- 第13回 信玄公旗掛松事件-大審院大正8年3月3日判決(2)【判決理由（前半）】
- 第14回 信玄公旗掛松事件-大審院大正8年3月3日判決(3)【判決理由（後半）】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された予習、復習その他の授業外学習を必ず行うこと。

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

民法総則・法学総論・日本国憲法原論の講義科目を並行して受講することが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学を学習する上で必要な基本的な知識・技能を確実に身につけられるように、積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

法学 民法

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法学に関する基本的なトレーニングを行います。報告やディベート等を通じて、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることや、法学に必要な情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～3回 法を学ぶ意義や法の役割を学ぶ。
- 4回～9回 ディベートをやってみよう
- 10回～14回 各担当者による報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年次生を対象とし、法学を学ぶ上での基礎的知識の修得を目的とする。といっても、この科目は「演習」科目であるから、教員からの指示に従うという「受け身」的姿勢ではなく、自らの問題関心を基礎とした積極的な調査・報告を行い、率直な意見を述べ他人と討論する能力を身につけることが必要とされる。間違いを恐れず、積極的に発言・参加することを求める。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じてレジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に使用しない。必要に応じて適切なものを指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本演習では、前半で、法律学特有の言葉や言い回し、法の構造などについてレクチャーすると共に、大学での勉強に欠かせない図書館の使い方や文献検索の仕方などについて身につける。後半では、初学者にとって最もなじみやすいと思われる「判例」を用いて、抽象的に書かれた法の具体的な適用・解釈の方法を学ぶ。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 法律基礎講座①～法律の構造
- 第3回 法律基礎講座②～法律用語～
- 第4回 法律基礎講座③～法律のヒエラルキー～
- 第5回 判例・文献の調べ方①～「判例」とは何か～図書館に足繁く通おう！～
- 第6回 判例・文献の調べ方②～図書館を活用しよう～
- 第7回 判例・文献の調べ方③～法令・文献等の引用表記～
- 第8回 判決文を読み込む①～判決書の構造～
- 第9回 判決文を読み込む②～事案・当事者の主張の把握～
- 第10回 判決文を読み込む③～グループ報告～
- 第11回 判決文を読み込む④～裁判所の判断～
- 第12回 判決文を読み込む⑤～グループ報告～
- 第13回・第14回 各グループによる事案報告会
- 第15回 まとめ

* 具体的な実施スケジュール・方法などは、ゼミ生の人数・関心などを考慮し、開講後に決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の演習への貢献度に応じて総合的に判断する。以下の記述は、あくまでおおよその目安として考えてほしい。
ゼミへの参加・受講態度・・・50% 課題等提出状況及び内容・・・50%

法学基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材について、あらかじめ目を通し、疑問点をまとめる。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことで知識の定着を図る。

履修上の注意 /Remarks

単に出席しているだけでは何の能力も身に付きません。積極的に発言・参加してください。
何度が課題を出します。それまでの演習で学んだことをフルに活用してチャレンジしましょう。
無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうあれ、出席率が2/3に満たない場合は、単位認定しません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、大学（法学部）で学ぶための基礎となる知識を身につけること、及び社会的問題に対する関心を高めることを目的とする。そのために、各回を前半と後半に分け、前半部では指定教科書の講読を中心として、法学的な基礎知識の習得を行う。後半部では、法学に関連する問題を扱ったドキュメンタリー等を視聴して、社会的問題関心を涵養する。これらを通じて、以降の専門教育へのスムーズな導入を図るとともに、自ら学ぶ姿勢を身につける。

教科書 /Textbooks

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に（第2版）』（弘文堂、2017年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

法学入門書各種

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明など）
- 第2回 グループディスカッション
- 第3回 法学とは何か（1）
- 第4回 法学とは何か（2）
- 第5～13回 前半：テキスト講読・法学的基礎能力の習得、後半：社会的課題の検討
- 第14回 総合討論
- 第15回 まとめ

※参加者の人数等により内容は変更する可能性あり
※大学施設案内や図書館利用方法のガイダンス等も実施する予定

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の主体的参加状況：80%
学期末レポート：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書講読に関しては、各回内容の予習・復習。
取り上げる社会的課題について主体的に情報を収集して検討すること。

履修上の注意 /Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「法学基礎演習II」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代は、社会へ出て行くための「助走期間」に喩えられる。如何に助走したかによって、社会への飛び出し方が変わってくるはずである。本演習では、みなさんが「きちんと助走する」ことができるように手助けしていきたいと考えている。また、社会で生起するさまざまな問題への関心が高い学生の参加を希望する。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は法学を学ぶにあたり、基本的な文献を読解する能力を得るとともに、自身で表現するための練習を行います。
まずは、テキストを精読しますが、あわせて、辞書を引く力、文献を調査する能力、レジユメを作成する能力、議論能力など、今後の大学での学習の基礎体力を身につけます。

教科書 /Textbooks

道垣内弘人『プレップ 法学を学ぶ前に(第二版)』(弘文堂、2017年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

戸田山和久『論文の教室』(NHK出版、2002年)

※このほか、演習中に適宜紹介を行います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 自己紹介、ゼミのガイダンス
- 第2回 法令・判例調査について
- 第3回 文献調査について
- 第4回～6回 文献講読
- 第7回～9回 ティベート
- 第10回 各参加者による報告・議論
- 第11回 各参加者による報告・議論
- 第12回 各参加者による報告・議論
- 第13回 各参加者による報告・議論
- 第14回 各参加者による報告・議論
- 第15回 演習全体の総括討論

【参加者の状況を見て割合が変動することがあります】

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います。

1. 演習への参加状況(60%)
2. 報告レジユメを基にしたペーパー(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当者は事前にレジユメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえで演習に臨んでください。

演習での解説や参加者による報告内容及び議論をメモやノートにまとめ、期末ペーパーに反映させてください。

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

正当な理由なき欠席は慎んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

この演習（ゼミ）では、法学を学ぶうえで必須となる基礎的知識、思考、およびスキルなどを身につけることを最大の目的とします。具体的には、大学における学問（法学）に対する臨み方から始まり、法律（学）文献の調べ方、法学的な議論の仕方・方法論、パソコン（インターネット・データベース）を利用した（裁）判例などの検索（いわゆる「リーガル・リサーチ」）、判例の読み方（「法的三段論法」に基づく判決理由の論理構造の解析）の基礎を学びます。なお、本演習は、3・4年次ゼミ（専門演習I～IV）などにおいて、各自関心を持った法分野の研究をする際に、必須となるスキルを低学年次の段階で修得することを想定しています。

本演習では、上記各種の営みを通じて、「話す（ディスカッション）」、「（議論の相手方の話しをしっかりと理解しながら）聴く」、「自身の法的判断を（レポートや判例評釈等のかたちで）書く・表現する」、および「（法学文献や判決理由を精確に）読む」力を涵養します。しっかりと法律学科での「学び」の基礎を本演習で固めてください。

教科書 /Textbooks

- ①松本 恒雄ほか（編）『日本法への招待 第3版』（有斐閣、2014年）；定価（2,900円＋税）
 - ②いしかわまりこほか（指宿 信ほか監修）『リーガル・リサーチ 第4版』（日本評論社、2012年）；定価（1,700円＋税）
 - ③最新版（年度）の小型六法
- ※上記「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参考書については、演習の中で適宜、紹介します。

法学基礎演習Ⅰ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容等は、あくまで「めやす」です。受講人数等により変更される場合があります。

第1回 ガイダンス：自己紹介、グループ・報告順の決定、期末定期試験およびレポートについての説明。

第2回 議論の仕方を学び、実践する①：グループ討論（議論の素材は、教員が用意します。）

第3回 議論の仕方を学び、実践する②：グループ討論（紛争解決の種々のあり方を理解する。）

第4回 議論の仕方を学び、実践する③：グループ討論（身近な「もめごと＝紛争」の法的解決・まとめ）

第5回 リーガル・リサーチ①：図書館ツアー（5月連休明け頃を予定）

第6回 リーガル・リサーチ②：法学文献の調べ方、判例の検索方法（インターネット・データベースの活用）などを学ぶ。

第7回 リーガル・リサーチ③：より高度な法学文献・判例（評釈）等の検索方法を学ぶ。

第8回 「判例」とは何か？最高裁判決の読み方（「法的三段論法」に基づく判決理由の論理構造の解析）の基礎を学ぶ。

第9回 グループ報告（※さしあたり、3グループを想定）：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループA）。

第10回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループA）および教員による補論。

第11回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループB）。

第12回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループB）および教員による補論。

第13回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループC）。

第14回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループC）および教員による補論。

第15回 まとめ：ゲスト（当職の高校時代からの友人である弁護士）を招いての「特別ゼミ」（全学年合同）を実施予定。

※8月初旬に、レポートを提出していただきます。内容は「法（法学）」に関する【文献書評】です。対象文献は、「法（法学）」を題材とするものであれば、学術論文、教科書、小説などジャンルを問いません（ただし、マンガおよび資格試験等問題集は不可。）。読書感想文ではなく、あくまで【書評】を執筆してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容など.....50%

※レポート（文献書評）の内容.....30%

※期末定期試験の成績.....20%（※福本担当の法学基礎演習Ⅰでは期末定期試験を実施するので必ず受験すること！）

【注意】（正当な理由なき）レポート未提出者や期末定期試験未受験者には、原則として単位を付与しません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】本演習では、研究報告の準備以外に、事前準備（予習）が多く課せられます。たとえば、次の週に報告するグループの扱う判決について、様々な視点から質問することができるように種々の文献等を読み、解らないところなどを調べてくることが要求されます。

【事後学習】グループで報告した判決につき、ゼミ生個人でも復習を兼ねて、疑問点などを整理したミニ・レポートを作成していただく予定です。

履修上の注意 /Remarks

シラバスをご覧くださいお解りの通り、「楽勝ゼミ」ではありません。ご注意ください。なお、事前連絡（無理な場合は事後遅滞なき連絡）のない「無断欠席」や「遅刻等」に対しては、退ゼミ処分も含めて厳しい態度で臨みます。「ほう・れん・そう」がしっかりできるゼミ生になってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講ゼミ生には、受け身ではなく、能動的な学習姿勢を強く望みます。黙って座っているだけでは、平常点は0点だと思っておいください。よって、「緊張感」を持ってゼミには臨んでください。ですが、変な「緊張」はしなくて構いません。ゼミの雰囲気自体は至極アットホームです（これまでの経験上.....）。

キーワード /Keywords

法的思考の基礎を固める、法的三段論法、リーガルリサーチ

法学基礎演習I【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

1年生の最初の科目であるので、法学の学習をするための情報収集・分析などの基本的な能力を身につけることが、最大の目標である。内容としては、法学の中の最も基本的な分野である民法を学習することにしたい。裁判所の判決などを見ながら、法学部での学習に慣れてもらうことを心がける。また、実際に報告をするという作業を通じて、報告のやり方などに慣れてもらいたい。
2017年度より、刑法専門の大杉先生とのコラボレーションを実施している。これにより、理論的に極めて難解な民法と刑法の両方の基礎を一気にマスターすることを目指す演習としたい。かなり高度な内容となることを覚悟してほしい。
なお、1年前期に開講されている科目について、できるだけ、試験対策など学生同士の情報交換の場になると良いと思っている。
この授業に参加することで、民法と刑法の考え方が養われる。

教科書 /Textbooks

オリジナルの教科書を現在、作成中であり、4月の開講時に指示する。書店では売っていないものであり、担当者から、直接、購入してもらう。値段は、500円の予定。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、六法のひき方の説明
 - 2 法文のための用語の説明（法文の構造編）
 - 3 法文のための用語の説明（法文の作成編）
 - 4 判決の説明、レポートの書き方の説明
 - 5 法学に関する情報検索（文献と法令編）
 - 6 法学に関する情報検索（判例編）
 - 7 行為能力に関する問題
 - 8 法律行為に関する問題
 - 9 虚偽表示に関する問題
 - 10 錯誤に関する問題
 - 11 詐欺・強迫代理に関する問題
 - 12 代理に関する問題
 - 13 表見代理に関する問題
 - 14 時効に関する問題
 - 15 まとめ
- （参加者が報告するテーマを選ぶことになるので、参加者の希望により、上記の順番は変わることがあり得る。）

成績評価の方法 /Assessment Method

一定の回数、報告をやってもらい、毎回、何らかの質問を出してもらうことになる。普段の報告や授業態度で評価する。従って、平常点100%ということになる。

法学基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として民法関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室外での各種「ゼミ活動」なるものは行わない。よくありがちな初回の「自己紹介」なるものも行わない。

キーワード /Keywords

法学、民法

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。法学部における専門教育のために必要となる体系的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。
図書館見学、資料収集の方法を学ぶ機会ももうける予定。また、刑務所見学等、施設見学を行う予定もある。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～15回 選択されたテーマについて、担当者が報告する。それに基づいて議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価での総合点(授業態度50%、レポートの評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として各回の報告者が行うテーマについて教科書等の該当箇所を確認すること。復習として報告者が配布したレジュメを確認し、わからない箇所は教科書等を使って知識の確認をすること。

履修上の注意 /Remarks

報告テーマについて、予習、復習が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席する場合は連絡をすること。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習では、法学の学習に必要な調査、分析、報告を行うための基本的能力を養うことを目指します。まず日本の法制度の特徴について基本的な情報提供を行い、続けて法学におけるレポートの書き方と資料収集の方法を説明します。それを基に、主として日本の刑事司法に関する比較的身近なテーマ（裁判員制度、安楽死）を取り上げ、関連する判例を読んで要点を報告してもらいます。ここでは、判決文を「構造的に」読み解く訓練を行います。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 南野森編『ブリッジブック法学入門〔第2版〕』（信山社、2013年）
- 田高寛喜／原田昌和／秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート』（有斐閣、2015年）
- 弥永真生『法律学習マニュアル〔第4版〕』（有斐閣、2016年）
- 池田眞朗ほか『判例学習AtoZ』（有斐閣、2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の進め方に関する説明など）、自己紹介
- 第2回 法令の基礎知識（法の種類と優劣関係、条文の構造と法律用語）
- 第3回 日本の法制度の概観（司法制度の全体像、裁判の種類、判決の種類）
- 第4回 レジュメ・レポートの書き方（文章の構成・章立て、文献の引用方法）
- 第5回 図書館の使い方
- 第6回 法律文献調査の方法と実践（法学を勉強するための基本ツール、データベースの活用法）
- 第7回 判決文の読み方（判決文の基本的な構造）
- 第8回 「裁判員制度」についてのビデオ学習
- 第9回 「裁判員制度」に関する解説
- 第10回 「裁判員制度」の合憲性に関する判例の読解①【問題の所在と規範の定立：合憲性判断の基準】
- 第11回 「裁判員制度」の合憲性に関する判例の読解②【事案へのあてはめ】
- 第12回 「安楽死」に関する判例の読解①【判決文を構造的に読むための課題実施】
- 第13回 「安楽死」に関する判例の読解②【事実の概要】
- 第14回 「安楽死」に関する判例の読解③【判決理由】
- 第15回 総括

※受講者の人数と希望により、内容および進度を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（50%）、演習への参加態度ないし積極的貢献（50%）

法学基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、Moodleを通じて資料を配布します。重要用語等を、参考書などで予め確認しておいて下さい。判決の読解に際しては、データベース等で判決文を予め印刷して、一読してみることを推奨します。
授業後は、レジюмеと授業中にとったメモを読み返すようにして下さい。重要用語については、次回以降の授業で問われた際に口頭で説明できるようにしておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

法学基礎演習IとIIは、継続して受講して下さい。
無断欠席は厳禁です。やむを得ずに欠席する場合は、予め連絡して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習科目ですから、参加者のみなさんによる主体的な取り組みが期待されます。見慣れない長文の判決を読むことに、最初は戸惑いを覚えることもあるかと思いますが、「まず読んでみる」ことに大きな意義があります。「習うより、慣れろ」です。

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習IIでは、法学基礎演習Iにおいて、事件・紛争、法システムに含まれている法的問題を発見する方法、問題を検討のための資料文献等の検索収集方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、文献資料の分析方法などを学んだことを前提に、次のことをねらいとします。

すなわち、受講生自身が一番興味のある法律問題を素材にして、裁判所の判例・下級審の裁判例が実際に果たしている重要な機能を理解すること（判例とは何か、どのようにして作られ、実務をどのように拘束するかについて学ぶこと）が、目的となります。そのための教科書の輪読も予定しています。

教科書 /Textbooks

池田 眞朗 ほか著『判例学習のA to Z』（有斐閣・2010年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者自身が選択した判例（裁判例）につき、判例評釈の報告を行い、報告書を作成します。

第1回 ゼミの運営方針の説明、報告分担箇所・報告者の決定

第2回～第7回 教科書の輪読を通して、判例の意義・役割・読み方を学習する。

※以後、課外学習が非常に重要になっていくことに十分留意すること。

第2回 （判例を読む）判決文の形と判決の分析について

第3回 判例の機能と学び方（民事判例：基礎編）

第4回 判例の機能と学び方（民事判例：上級編）

第5回 判例の機能と学び方（刑事判例：基礎編）

第6回 判例の機能と学び方（刑事判例：上級編）

第7回 判例の機能と学び方（憲法判例の特殊性）

第8回 判例の機能と学び方（憲法判例：上級編）

第9回～第15回 受講者による判例評釈の発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%・ディスカッションへの参加度40%、レポート作成10%

無断欠席、3分の1以上の欠席は、ゼミ放棄とみなします。

法学基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の担当部分の報告準備とは別に、

- ①自ら興味を抱く裁判例を選択しておくこと。
- ②第9回以降に各自が順次行う（あるいは期末に提出する）判例報告を準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが求められます。

報告者には、以下の点が求められます。

- 1, 報告概要（レジюме）を作成すること。
- 2, 事前に、参加者全員にコピーを配布すること。
- 3, 報告に際しては判例の論旨を要約し、そこから論点を皆に提示すること。

他方、それ以外の参加者には、最低限、レジюмеを事前に読了しておくことが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミへの積極的な参加を希望します。

キーワード /Keywords

判例の機能、判例の読み方、判例評釈

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

法学学習は、それ自体が多くの知識と多彩なスキルを前提としている。この演習は、法学基礎演習Iに引き続き、法学の学び方を学ぶためのものであり、法学学習に必要な知識と発展的なスキルの習得を目的とする。

本演習は、次の手順で行われる。

- ① 報告者を決めて、全員で法学文献を読む、
- ② 報告者を決めて、全員で判例を読む、
- ③ 小論文執筆のための中間報告を行う、
- ④ それを受けて小（規模な）論文を執筆する。

教科書 /Textbooks

池田眞朗ほか著『判例学習のA to Z』（有斐閣、2010年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 安念潤司ほか編著『論点 日本国憲法（第2版）』（東京法令出版、2014年）
- 上田健介ほか著『憲法判例50！（START UP）』（有斐閣、2016年）
- 井田良ほか著『法を学ぶ人のための文章作法』（有斐閣、2016年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2～4回 基礎的な法学文献の講読と検討
- 第5～8回 基本的な憲法判例の講読と検討
- 第9～14回 履修者の中間報告と検討
- 第15回 まとめ

※受講人数等によって、構成の変更がありうる

成績評価の方法 /Assessment Method

小論文（40％）、中間報告（30％）、日常の授業への取り組み（30％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された授業外学習を行うこと。
情報収集、レジュメ作成、報告、討論への参加、小論文提出が求められる。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「法学基礎演習I」とセットで受講することが望ましい。
小型の六法を持参すること。

法学基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、憲法、刑法、社会法の基本判例の分析、議論を通じて、法的思考の基本（ほかの学生の意見を尊重しつつ自らの意見を説得的に語る力、判例を分析する力、基本的な法律知識など）を身に付けることです。

演習で取り上げる判例は、①『憲法判例百選I 6版』（有斐閣、2013年）、②『刑法判例百選1総論 7版』（有斐閣、2014年）、③『民法判例百選3親族・相続』（有斐閣、2015年）から選びます（法学基礎演習IIでは②の判例を中心に取り上げます）。受講生に身近な問題を扱った判例を選びたいと思います。また、DNA鑑定と嫡出推定に関する最高裁判決やNHKの受信料に関する最高裁判決なども読みたいと思います。そのほか、尊属殺人の合憲性、死刑制度の合憲性、公務員に対する争議行為の制限、採用差別と採用の自由などを取り上げる予定です。

受講生全員に判例を読んできていただきます。ただし、個々の受講生に判例の内容を報告することは求めません。個々の判例について演習参加者で議論し、これによって法的思考を涵養することに本演習の目的があります。

教科書 /Textbooks

とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『憲法判例百選I 6版』（有斐閣、2013年）
- 『刑法判例百選1総論 7版』（有斐閣、2014年）
- 『民法判例百選3親族・相続』（有斐閣、2015年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 判例の検討
- 第3回 判例の検討
- 第4回 判例の検討
- 第5回 判例の検討
- 第6回 判例の検討
- 第7回 判例の検討
- 第8回 判例の検討
- 第9回 判例の検討
- 第10回 判例の検討
- 第11回 判例の検討
- 第12回 判例の検討
- 第13回 判例の検討
- 第14回 判例の検討
- 第15回 まとめ

法学基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言の度合い・授業態度 (60%)
学期末のレポート (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習で扱う判例を毎回熟読してきてください。
また、演習で取り扱った判例をさらに深く学習すること (事後学習) も重要です。
学期末には簡単なレポートを提出していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

民法の判例を検討しながら、民法の仕組みや基本概念、基本的な考え方を知るとともに、判例の読み方、判例研究の仕方をあわせて身につけることを目的としていますが、この「法学基礎演習II」では、「法学基礎演習I」で身につけた知識や技法を主体的に実践、応用、展開し、さらに一層深く掘り下げて問題点を分析検討できるようになっていただこうと思っています。

教科書 /Textbooks

潮見佳男＝道垣内弘人編 別冊ジュリスト民法判例百選I総則・物権 [第7版] 有斐閣 2015年 2,268円
その他必要に応じてレジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定(その1)
- 3回 判例検索・文献検索の方法
- 4回 判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
- 5回 担当者報告及び討論(1) 【基本文献】
- 6回 担当者報告及び討論(2) 【関連文献】
- 7回 担当者報告及び討論(3) 【大審院及び最高裁判例】
- 8回 担当者報告及び討論(4) 【下級審裁判例】
- 9回 担当者報告及び討論(5) 【判例研究】
- 10回 報告内容・担当者の決定(その2)
- 11回 担当者報告及び討論(1) 【基本文献】
- 12回 担当者報告及び討論(2) 【関連文献】
- 13回 担当者報告及び討論(3) 【大審院及び最高裁判例】
- 14回 担当者報告及び討論(4) 【下級審裁判例】
- 15回 担当者報告及び討論(5) 【判例研究】 ・ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート(6,000字程度)……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告判例の解説や基本書を参照しながら、事案、判旨、論点を整理して参加してください。また、事後は、報告内容や教科書、参考書を参照しながら、判例、判旨、論点をまとめたノートを作成して理解を深めてください。

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジュメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。
「民法総則」、「法学基礎演習I」を履修し、「法律の読み方」を並行して履修していると一層理解が深まると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

受講生との話し合いによりテーマを決定します。
原則として、グループで作業してもらいます。
そのテーマについて、文献、判例等を調査し、担当者、他の受講生と議論をします。

この授業は、文献調査の実地的訓練、法的思考力の養成、コミュニケーション力の養成を目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマ、報告グループの決定、
- 2回 以下、順次グループによる個別報告
- 3回～14回 順次グループによる個別報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各グループで、報告テーマについて、参考文献、関連判例を調査する。
調査資料に基づいて、事前にグループで議論し、判例の評価、学説の分析、私見についてまとめる。
レジュメを作成して、授業に臨む。(必要な学習時間の目安は、90分です。)

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的な準備、発言を期待します。

キーワード /Keywords

文献調査能力 コミュニケーション力

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習では、法学基礎演習Iで学習した技能のさらなる向上を目的に、講義前半では、主に憲法の重要判例を題材にしたグループ報告を行い、講義後半では、受講者が関心のあるテーマについてレポートを執筆してもらいます。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス (授業内容の説明など)
第2～9回 グループ報告
第10～14回 レポートの執筆指導
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告40%、日常の授業への取組み40%、レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」をテーマとし、それに関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを、本講義の目的とする。この点では、法学基礎演習Iと同様の問題意識のもとで、同様の主題を発展的・継続的に扱う。
法学基礎演習Iでは、ロック、ルソーの著作をとりあげたが、法学基礎演習IIでは、さらにルソーの別の著作と、カントの「永遠平和のために」他をとりあげる。法学基礎演習IとIIを継続して受講することにより、ホブズ、ロック、ルソー、カントの社会契約説の考え方の基本を学ぶことができる。その上で、さらに現代正義論に対する理論的示唆についても、検討したいと考えている。

教科書 /Textbooks

ルソー『人間不平等起源論』（光文社古典新訳文庫、743円）
カント『永遠平和のために / 啓蒙とは何か 他3編』（光文社古典新訳文庫、700円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ルソー『社会契約論』（光文社古典新訳文庫）
カント『啓蒙とは何か 他四篇』（岩波文庫、713円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 ルソー『人間不平等起源論』第1回（献辞と序について）
（あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながら、テキストを読み進める。以下同様。）
- 第3回 ルソー『人間不平等起源論』第2回(自然状態についてなど)
- 第4回 ルソー『人間不平等起源論』第3回（憐れみの情についてなど）
- 第5回 ルソー『人間不平等起源論』第4回（文明についてなど）
- 第6回 ルソー『人間不平等起源論』第5回（不平等についてなど）
- 第7回 ルソー『人間不平等起源論』第6回（原注についてなど）
- 第8回 ルソー『人間不平等起源論』第7回（ルソーについてのまとめ）
- 第9回 カント「啓蒙とは何か」
- 第10回 カント「世界市民という視点からみた普遍史の理念」
- 第11回 カント「人類の歴史の憶測的な起源」
- 第12回 カント「万物の終焉」
- 第13回 カント「永遠平和のために」前半部
- 第14回 カント「永遠平和のために」後半部
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

法学基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を事前に必ず考え、予習し準備しておくこと。授業の後は、レジюмеやテキストをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然状態 自然法

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に引き続き、民法の有名な判例を受講者全員で読むことを通じて、法律文献を読む力を養成することを目標とする。2学期は、民法の規定の合憲性が争われた判例を中心に読んでいく予定である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第7版）』（有斐閣，平成27年） 本体2100円＋税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 1学期の基本事項の確認
- 第3回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(1)【事実の概要】
- 第4回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(2)【多数意見】
- 第5回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(3)【補足意見】
- 第6回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(4)【反対意見】
- 第7回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(1)【事実の概要】
- 第8回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(2)【法廷意見（前半）】
- 第9回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(3)【法廷意見（後半）】
- 第10回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(4)【補足意見】
- 第11回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(1)【事実の概要】
- 第12回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(2)【多数意見（前半）】
- 第13回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(3)【多数意見（後半）】
- 第14回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(4)【補足意見等】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された予習，復習その他の授業外学習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

民法総則・法学総論・日本国憲法原論の講義科目を1学期に受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

法学基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期に引き続き，積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

法学 民法

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

1学期の法学基礎演習Iに引き続き、主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法学に関する基本的なトレーニングを行います。また、後半には各自が選択したテーマについて報告してもらいます。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～8回 判例の分析
- 9回～14回 各自が選択したテーマについて個別報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年次生を対象とし、法学を学ぶ上での基礎的知識の修得を目的とする。原則として、津田が担当する法学基礎演習Iの受講者を対象とする。引き続き、自らの問題関心を基礎とした積極的な調査・報告を行い、率直な意見を述べ他人と討論する能力を身につける。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じ、レジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に使用しない。必要に応じ適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本演習では、図書館の使い方や文献の探し方などを一応身につけていることを前提に、初学者にとって最もなじみやすいと思われる「判例」を用いて、抽象的に書かれた法の具体的適用・解釈の方法を学ぶ。取り上げる判例は、参加者の問題関心をも考慮したうえで決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 判例研究のための文献収集
- 第3回 データベース利用法
- 第4回 各グループによる判例研究
- 第5回 判例の選択及び後半報告グループ分け
- 第6回・第7回 報告グループ①による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第8回・第9回 報告グループ②による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第10回 中間反省会
- 第11回・第12回 報告グループ③による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第13回・第14回 報告グループ④による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（出席、報告内容、議論に対する姿勢など）、学期末レポートの内容などをもとに総合的に評価する。下記の記載はあくまでおおよその目安である。

ゼミへの参加・受講態度・・・50% 課題等提出状況及び内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させる。

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「演習」の成立は、皆さんの積極的な参加如何で決まると言っても過言ではありません。報告グループ以外の人も、毎回、何らかの発言を求めます。予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。
無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうあれ、出席率が2/3に満たない場合、単位認定しません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は、大学（法学部）で学ぶための基礎となる知識を見つけること、及び社会的問題に対する関心を高めることを目的とする。そのために、各回を前半と後半に分け、前半部では実際の判決文や法学の専門文献（初歩的なもの）の読解を中心として、法学的な基礎知識の習得を行う。後半部では、法学に関連する問題を扱ったドキュメンタリー等を視聴して、社会的問題関心を涵養する。これらを通じて、以降の専門教育へのスムーズな導入を図るとともに、自ら学ぶ姿勢を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指導する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明など）
第2～9回 前半：判例読解・法学的基礎能力の習得、後半：社会的課題の検討
第10～14回 前半：法学文献読解・法学的基礎能力の習得、後半：社会的課題の検討
第15回 全体のまとめ

※参加者の人数等により内容は変更する可能性あり

※参加者の人数によっては、個別報告を科す可能性あり

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の議論への主体的参加状況：80%

学期末レポート：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

判例読解・法学文献読解に関しては、各回内容の予習・復習。
取り上げる社会的課題について主体的に情報を収集して検討すること。

履修上の注意 /Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「法学基礎演習Ⅰ」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代は、社会へ出て行くための「助走期間」に喩えられる。如何に助走したかによって、社会への飛び出し方が変わってくるはずである。本演習では、みなさんが「きちんと助走する」ことができるように手助けしていきたいと考えている。また、社会で生起するさまざまな問題への関心が高い学生の参加を希望する。

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

法学部における学習の基本となる、判例を用いた学習についての基本を学ぶ。
本演習は、著名な判例を調査し、それを正確に理解することを第一に目指す。
そのうえで、自身の選択した判例を素材に報告・レポートを行う。

教科書 /Textbooks

池田真朗ほか『判例学習のA to Z』（有斐閣、2010年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第3回 文献講読
第4回～第7回 判例講読
第8回～第14回 判例報告、ディベート
第15回 まとめ
【参加者の状況、人数に応じて変動することがあります】

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の点を考慮して、評価を行います。
授業への取り組み状況 50%
期末ペーパー 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】
文献講読にあたっては、事前に当該文献を精読し、それぞれのパラグラフについて「こういうことが書いてある」というのを自分の言葉で説明できるようになっておくこと。報告にあたっては、事前にレジュメを配布しておくこと。
【事後学習】
判例報告後、ディベートなどで問題となった事項を反映させておくこと。

履修上の注意 /Remarks

演習である以上は、正当な理由なき欠席は慎んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Ⅰの内容を承（う）けて、より高度な法的思考（特に、最高裁の判決理由を読む際の【法的三段論法】の駆使・錬磨）、法学文献・判例評釈等の批判的な読み方、判例（判決理由）の精確な読み方・扱い方（判例（判決理由中において定立された規範）の抽出方法・その射程の測定・分析手法、および判例評釈執筆手法）などを修得することが本演習の最大の目的です。

基礎演習Ⅰとは異なり、本演習では、報告の内容面（質の高さ）やレポートの完成度をより厳しく評価します。また、本格的な（主として民法分野の）判例研究報告を課すなど、その内容は、3・4年次に履修することとなる「専門演習Ⅰ～Ⅳ」に近いものとなります。法的思考をフル回転させて、活発な議論に受講ゼミ生全員が参加されることを切に望みます。

教科書 /Textbooks

①陶久利彦『法的思考のすすめ（第2版）』（法律文化社、2011年）；定価（1,800円＋税）

②窪田充見＝森田宏樹（編）『民法判例百選Ⅱ 債権 [第8版]（別冊ジュリスト238号）』（有斐閣、2018年3月刊行予定）；定価（未定；教科書販売時期までに確定した情報を提供します。）

③最新版（年度）の小型六法

※上記「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介します。

法学基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容等はあくまで「めやす」です。受講人数等により変更される場合があります。

第1回 ガイダンス：報告グループ&報告順の決定。期末レポート（判例評釈）についての説明。

第2回 最高裁判決の読み方の復習①（法的三段論法の錬磨）-最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁を素材として-

第3回 最高裁判決の読み方の復習②（最高裁がその判決理由の中で示した規範（判例）の「射程」の分析、大前提たる法的ルール自体を最高裁が規範定立する場合の分析。）-最大判 昭和40年11月24日 民集19巻8号2019頁を素材として-

第4回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①1～17頁）〔グループA〕。

第5回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①17～47頁）〔グループB〕。

第6回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①48～90頁）〔グループC〕。

第7回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①91～140頁）〔グループD〕。

第8回 キャリアセンター・ツアー（予定。受講生諸君には、是非とも自身のキャリア・プランについてもしっかりと考えてもらいたい。）

第9回 民事判例研究報告（グループAの1回目；事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。

※採り上げる判決は、教科書②掲載の「最高裁判決」とします（大審院判決の報告希望を妨げるものではない）。民法学の基本書・体系書、各種判例評釈、および調査官解説等を熟読し、質の高い民事判例研究報告を行ってください。また、報告担当でないグループも、報告グループの採り上げた判決について質問や意見を発表することができるように、準備を入念にしておいてください。

第10回 民事判例研究報告（グループAの2回目；規範の抽出・射程についての議論、教員による補論）。

第11回 民事判例研究報告（グループBの1回目；事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。

第12回 民事判例研究報告（グループBの2回目；規範の抽出・射程についての議論、教員による補論）。

第13回 民事判例研究報告（グループCの1回目；事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。

第14回 民事判例研究報告（グループCの2回目；規範の抽出・射程についての議論、教員による補論）。

第15回 まとめ（実務家（当職の高校時代からの友人である弁護士）を招いての「最終回特別ゼミ」を実施予定（全学年ゼミ合同）。内容は、「要件事実（論）入門」などを予定。）

※2019年2月初旬に、レポートを提出していただきます。内容は、各グループで報告した最高裁（ないし大審院）判決についての【判例評釈】です。

成績評価の方法 /Assessment Method

※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い.....40%

※民事判例研究報告の内容（レジュメの構成・報告の質・議論の内容など）.....30%

※レポート（判例評釈）の内容.....30%（レポート未提出者には、原則として単位を付与しません。）

【注意】正当な理由なき無断遅刻・無断欠席は、ゼミの受講を放棄したものと「推定」します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】本演習では、報告準備以外の事前学習（予習）が「法学基礎演習I」以上に多く課せられます（つまり、負担はより大きくなります）。たとえば、報告担当でないグループも、報告グループが採り上げた判決について、種々の観点から質問・指摘などができるように、判例評釈や調査官解説、民法学の体系書等を熟読の上、ゼミに臨むことが求められます。その他、毎回適宜、事前に熟読しておくべき資料等を指示しますので、きちんとそれらを熟読してくることが求められます。

【事後学習】各ゼミ生は、個人レベルにおいて、民事判例研究報告で扱われた最高裁（ないし大審院）判決（自身が所属する報告グループ以外のグループが報告した判決）の判決理由の読み方（判例の射程など）に関する独自の見解をまとめて、ミニ・レポートとして提出しなければなりません。

履修上の注意 /Remarks

「法学基礎演習I」の負担程度でキツイと思っている受講生にとっては、過酷な演習になるものと思われます。覚悟を持って臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は「学問」をやる場所です。遊びに来るところではありません。真剣に学問・研究に取り組んでくださいね.....と少しプレッシャーをかけてみました。

キーワード /Keywords

最高裁（ないし大審院）判決の読み方、法的三段論法、規範の射程、判決研究、自分のキャリア・プランを考える

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

基礎演習Ⅰの続きとして、法学の中の基本分野である民法を、判決を検討しながら学習する。2年生になると専門科目が増えるわけであるが、それらの学習に耐えられるような基本的能力を身につけることが目標となる。
民法科目の中に「物権法」という科目と「債権各論」という科目が1年生配当科目として存在するが、これらを理解するのは意外と難しい。この科目の単位をできるだけ取れるようにすることを目標としたい。『判例百選』シリーズを使う予定であるが、現物を購入する必要はない。報告の具体的テーマの選択に際しては、各参加者の希望も考慮する。
この授業に参加すると、民法の考え方が養われる。

教科書 /Textbooks

法学基礎演習Ⅰと同じテキストを用いる。現在、作成中であるため、4月に指示する。書店では売っていないものであり、担当者より、購入してもらう。値段は、500円の予定。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、順番の決定等
- 2 所有権移転に関する問題
- 3 不動産物権変動に関する問題
- 4 登記に関する問題
- 5 動産に関する問題
- 6 占有に関する問題
- 7 同時履行の抗弁権に関する問題
- 8 危険負担に関する問題
- 9 解除に関する問題
- 10 売買に関する問題
- 11 賃貸借に関する問題
- 12 請負に関する問題
- 13 不当利得に関する問題
- 14 不法行為に関する問題
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

一定の回数、報告をやってもらい、また、毎回、質問を出してもらうことになる。普段の報告や授業態度で評価する。従って、平常点100%ということになる。

法学基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民法関連の判決を取り扱うので、事前学習(予習)としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室外での各種「ゼミ活動」なるものは、行わない。

キーワード /Keywords

法学、民法、物権、債権

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。法学部における専門教育のために必要となる体系的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～15回 選択されたテーマについて、担当者が報告する。それに基づいて議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価での総合点(授業態度50%、レポートの評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として各回の報告者が行うテーマについて教科書等の該当箇所を確認すること。復習として報告者が配布したレジュメを確認し、わからない箇所は教科書等を使って知識の確認をすること。

履修上の注意 /Remarks

報告テーマについての予習、復習が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席する場合は連絡をすること。

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習では、自由や尊厳、公平などの基本的価値に関係する法政策的なテーマを取り上げて、ディベートを行います。その過程を通じて、①法情報検索技術を習得し、②プレゼンテーション能力および③討論能力を向上させることが、この授業の目的です。つまり、本演習の中心的課題は、「調べる」→「話す」→「書く」ことです。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年）
- 田高寛貴 / 原田昌和 / 秋山靖浩『リーガル・リサーチ&リポート』（有斐閣、2015年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ディベートの意義と方法、グループ分け
- 第3回 テーマ①：予備的調査と立論シートの作成
- 第4回 テーマ①：相手側立論シートに基づく反駁準備と想定質問に対する回答準備
- 第5回 テーマ①：ディベート
- 第6回 テーマ①：解説とディベートの講評
- 第7回 テーマ②：予備的調査と立論シートの作成
- 第8回 テーマ②：相手側立論シートに基づく反駁準備と想定質問に対する回答準備
- 第9回 テーマ②：ディベート
- 第10回 テーマ②：解説とディベートの講評
- 第11回 テーマ③：予備的調査と立論シートの作成
- 第12回 テーマ③：相手側立論シートに基づく反駁準備と想定質問に対する回答準備
- 第13回 テーマ③：ディベート
- 第14回 テーマ③：解説とディベートの講評
- 第15回 まとめ

※受講者の人数により内容および進度は変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（40%）、レポート（30%）、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献（30%）を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に臨む前に、インターネットの検索エンジン等を利用して、各テーマに関連するニュース記事などを探してみてください。立論シートの作成後は、当日グループ内での議論が可能のように、自分の疑問や意見等を予めまとめるようにして下さい。授業後は、演習中に共有された参考文献を各自で読んで、次回の議論に備えて下さい。ディベート終了後は、レポートの作成を開始して、解説および講評の内容も反映させるようにして下さい。

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

法学基礎演習IとIIは、継続して受講して下さい。
無断欠席は厳禁です。やむを得ずに欠席する場合は、予め連絡するようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習科目ですから、参加者のみなさんによる主体的な取り組みが期待されます。ここでは、自由な議論の空間が大前提です。講義科目で学び始めたことを、積極的に言葉にしてみましょう。

キーワード /Keywords

外国文献研究Ⅰ【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究Ⅰ

LAW290M

授業の概要 /Course Description

外国法や外国の法制度を知ることで、日本法および日本の法制度を考える契機としていきたいと思っております。ドイツの法学入門の文献を購読することを予定しています。日本語で書かれた外国法に関する文献も活用して、理解を深めていきましょう。この講座は、外国法制度を理解し、外国文献の読解力を育成することを目的としています。

教科書 /Textbooks

次のテキストを使用します。外国文献については、コピーを配布します。

■Robbers, Gerhard, Einführung in das deutsche Recht (Nomos Studium), 6. Aufl., Nomos, 2016.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

■村上淳一 / 守矢健一 / ハンス・ベーター・マルチュケ『ドイツ法入門(外国法入門双書)』改訂8版(東京:有斐閣・2012.08)。

※この他、必要な参考資料を適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、資料配布、担当箇所配分など
- 2回 A. Allgemeine Strukturen / I. Rechtstradition, Rechtsgebiete und Rechtsquellen, S. 21-29. (1)
- 3回 A. Allgemeine Strukturen / I. Rechtstradition, Rechtsgebiete und Rechtsquellen, S. 21-29. (2)
- 4回 A. Allgemeine Strukturen / I. Rechtstradition, Rechtsgebiete und Rechtsquellen, S. 21-29. (3)
- 5回 A. Allgemeine Strukturen / II. Gerichtsbarkeit, S. 29-32 (1)
- 6回 A. Allgemeine Strukturen / II. Gerichtsbarkeit, S. 29-32 (2)
- 7回 A. Allgemeine Strukturen / III. Juristische Ausbildung und Berufe, S. 32-34
- 8回 A. Allgemeine Strukturen / IV. Juristische Arbeits- und Hilfsmittel, S.34-36
- 9回 B. Öffentliches Recht / I. Verfassungs- und Verwaltungsrechtsgeschichte S. 37-41
- 10回 B. Öffentliches Recht / II. Verfassungsrecht / 1. Allgemeines S. 41-43
- 11回 C. Strafrecht / I. Geschichte und System / 1. Geschichte S. 109-111
- 12回 C. Strafrecht / I. Geschichte und System / 2. System S. 111-113
- 13回 D. Privatrecht / I. Geschichte und System / 1. Geschichte S. 141-143
- 14回 D. Privatrecht / I. Geschichte und System / 2. System S. 143-144
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジュメを含む)...70% 討論及び発言内容...30%

※必要に応じて、原書購読のほかにレポートの提出を求めるともあります。

※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。

外国文献研究I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者は、担当箇所日本語訳を配布してください。配布されたレポートをもとに、内容理解と日本語訳の妥当性を検討し、さらにドイツ法の法制度について検討を加えます。担当箇所を精読してくるだけでなく、その背景にある法制度などについても調べてきてください。諸外国の法制度を日本語で紹介している資料が多数あります。また、担当者は、演習終了後に、演習での検討を踏まえて修正した日本語訳を配布してください。

履修上の注意 /Remarks

この講座では、ドイツ語の原書購読を行います。したがって、何らかのドイツ語講座を受講した経験があり、ドイツ文法についてひと通りは理解していて、平易な文章であれば、辞書を利用して読むことができる程度の能力を有していることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

比較法研究の入門です。ドイツ法の世界を楽しんでいきましょう。

キーワード /Keywords

外国法 比較法 ドイツ法 外国法制度

外国文献研究I【昼】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究 I

LAW290M

授業の概要 /Course Description

本演習では、John Owen Haley『The Spirit of Japanese Law』を輪読することによって、日本の法制度の特徴について新たな視点を獲得することを目指します。
日本の法制度と法学は、明治時代に西洋の法制度を移植して以来、フランス、ドイツ、アメリカなどの諸外国の法理論と法的実践から多くを学んできました。その反面で、日本の法学研究者は「日本法が、諸外国からどのように見られているのか」については、それほど注意を払ってきませんでした。そこで、日本法研究の代表的著作であるHaleyの著書を輪読し、日本法の特徴を外から眺めてみたいと思います。

教科書 /Textbooks

John Owen Haley, The Spirit of Japanese Law (Athens, Georgia 1998).

授業で用いる箇所については、コピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 英米法の法律用語について
○田中英夫『BASIC英米法辞典』（東大出版会、1993年）
- 日本法の特徴に関する日本語の文献
○三ヶ月章『法学入門』（弘文堂、1982年）
宮澤節生 / 武藤勝宏 / 上石圭一 / 大塚浩『ブリッジブック法システム入門（第3版）』（信山社、2015年）
○川島武宜『日本人の法意識』（岩波書店、1967年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（本演習の進め方・ねらい、参考書の使い方、担当箇所の割り当て）
- 第2回 Introduction
- 第3回 1. Law's Values: Judicial Decisions as Sources of Law
- 第4回 1. Law's Values: Law and Morals
- 第5回 1. Law's Values: Learning, Authority of Legal Rules
- 第6回 1. Law's Values: Community
- 第7回 1. Law's Values: Autonomy
- 第8回 2. Law's Domain: Borders, Registries
- 第9回 2. Law's Domain: Regulatory Controls
- 第10回 2. Law's Domain: Continuing Influence of European Law, Litigation
- 第11回 2. Law's Domain: Consensus and Community Norms, Community Controls
- 第12回 3. Law's Actors I: Education and Training
- 第13回 3. Law's Actors I: Scholars
- 第14回 Conclusion
- 第15回 総括

※受講生の人数および理解度に応じて、授業の進度と内容を変更することがあります。

外国文献研究I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 (50%)、演習への積極的な取り組み (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は、英文の構造にも注意を払って、一文ずつ丁寧な日本語訳を用意して下さい。また、法律用語については、図書館等で英米法の辞典や教科書を確認するようにして下さい。報告者以外の受講生も、該当箇所を一度訳してから、授業に臨む必要があります。授業後には、全員で検討した訳文を再読して、著者の分析内容を理解するように努めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

報告者は、ワープロソフトで訳文を作成し、受講生全員に当日配布できるよう準備して下さい。また、高校生のときに使用したもので構いませんので、(紙の)英和辞典を必ず持参して下さい。用例が多く載っているものが望ましいです。本演習では、受講生各位が出席して実際に外国文献を翻訳し、内容の理解に努めることが、中心的な課題となります。したがって、無断欠席については厳しく対処します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、英文テキストの趣旨を正確に読み解くこと(インプット)を第一の目標としますが、ここでの考察対象が、他ならない「わたしたちの」法である以上、その先には批判的な分析と意見の表明(アウトプット)が期待されています。

キーワード /Keywords

日本法 法文化 法の担い手

外国文献研究II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究II

LAW291M

授業の概要 /Course Description

- 1 ドイツ語の文法を再確認する。
- 2 ドイツ民事訴訟法の文献を輪読する。
- 3 日本法との比較法的な検討を行うことができるようになることを目的とする。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文法の再確認 1
- 3回 文法の再確認 2
- 4回 文法の再確認 3
- 5回 文法の再確認 4
- 6回 文法の再確認 5
- 7回 輪読 1
- 8回 輪読 2
- 9回 輪読 3
- 10回 輪読 4
- 11回 輪読 5
- 12回 輪読 6
- 13回 輪読 7
- 14回 輪読 8
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50 %
レポート 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と授業の復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

外国文献研究II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II 【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究II

LAW291M

授業の概要 /Course Description

本演習は、主にアメリカ公法に関する文献または判例の講読を通じて、アメリカ法の理解を深めることを目的とします。なお、「外国文献」の講読を通じて「外国法」を研究する演習であって、「語学学習」の授業ではありません。

教科書 /Textbooks

テキストのコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス(授業内容の説明など)
第2～14回 報告
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の予習は必須です。その他、適宜教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

一定程度の英語のリーディング能力が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

これまでのゼミでは、現代正義論を主題として、次のようなテキストを読み進めてきた。ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥワオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥワオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマッセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥワオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』（法政大学出版局）、ハーバーマス『事実性と妥当性(上)』（未来社）、ハーバーマス『公共性の構造転換（第2版）』（未来社）、ロールズ『政治哲学史講義I』（法政大学出版局）、ナンシー・フレイザー/アクセル・ホネット『再配分か承認か？』（法政大学出版局）、G・A・コーエン『自己所有権・自由・平等』（青木書店）、ロバート・B・ピピン『ヘーゲルの実践哲学』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『物象化 承認論からのアプローチ』（法政大学出版局）、ロナルド・ドゥワオーキン『裁判の正義』（木鐸社）などである。

本年は、その延長上で、アクセル・ホネット『私たちのなかの私 承認論研究』（法政大学出版局）をテキストとして取り上げる。ヘーゲル的な承認論から出発するホネットが、現代の様々な諸理論やアクチュアルな諸問題と対峙するなかで、自らの承認論研究をいかに展開・拡張しているのかについて分析・検討する。

教科書 /Textbooks

アクセル・ホネット『私たちのなかの私 承認論研究』（法政大学出版局、2017年）、4200円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アクセル・ホネット『見えないこと』（法政大学出版局、2015年）
 アクセル・ホネット『正義の他者』（法政大学出版局、2005年）
 永井彰、日暮雅夫編著『批判的社会理論の現在』（晃洋書房、2003年）
 日暮雅夫『討議と承認の社会理論』（勁草書房、2008年）

法哲学専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 承認
- 第3回 ヘーゲル法哲学
- 第4回 手続き主義
- 第5回 労働と承認
- 第6回 権力
- 第7回 社会理論
- 第8回 正義論
- 第9回 国家間の承認
- 第10回 自己実現
- 第11回 近代化
- 第12回 精神分析
- 第13回 集団
- 第14回 自己
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回で扱う予定のテキストの箇所を事前に読み、報告者に対する質問をきちんと考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやレジュメをもとに内容を整理し、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ホネット 承認論 正義論 権力論

法哲学専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

1学期の演習では、現代正義論に関連する文献を講読したが、2学期の演習では、「現代正義論」という主題に特に限定することなく、広い意味で法哲学にかかわるテーマについて、すなわち、「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的な主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者が、その都度、参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 自由研究構想発表
- 第3回 自由研究報告①【法】（【】内は例示。以下同様）
（ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。以下同様）
- 第4回 自由研究報告②【国家】
- 第5回 自由研究報告③【正義】
- 第6回 自由研究報告④【自由】
- 第7回 自由研究報告⑤【権利】
- 第8回 自由研究報告⑥【生命】
- 第9回 自由研究報告⑦【環境】
- 第10回 自由研究報告⑧【法と国家】
- 第11回 自由研究報告⑨【自由と正義】
- 第12回 自由研究報告⑩【生命と環境】
- 第13回 自由研究報告⑪【法哲学】
- 第14回 『ゼミ論集』編集の打ち合わせ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

法哲学専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考え予習しておくこと。授業の後は、レジユメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2学期の演習では特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は、予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。

キーワード /Keywords

自由研究報告 ゼミ論集 法 国家 正義 自由 権利 生命 環境

法哲学専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

旧カリキュラムのもとでの3年生向けのゼミでは、現代正義論を主題として、次のようなテキストを読み進めてきた。ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥワオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥワオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマツセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥワオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編著『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』（法政大学出版局）、ハーバーマス『事実性と妥当性(上)』（未来社）、ハーバーマス『公共性の構造転換（第2版）』（未来社）、ロールズ『政治哲学史講義I』（法政大学出版局）、ナンシー・フレイザー/アクセル・ホネット『再配分か承認か?』（法政大学出版局）、G・A・コーエン『自己所有権・自由・平等』（青木書店）、ロバート・B・ピピン『ヘーゲルの実践哲学』（法政大学出版局）などである。

新カリキュラムのもとでの4年生ゼミでは、その延長上で、アクセル・ホネット『見えないこと 相互主体性理論の諸段階について』（法政大学出版局）、M.J.サンデル『リベラリズムと正義の限界（原著第二版）』（勁草書房）をテキストとしてとりあげてきた。今年、ユルゲン・ハーバーマス『事実性と妥当性（下）』（未来社、2003年）をテキストとしてとりあげるにより、法と民主的法治国家の手続き主義的な理解の問題を中心に、ハーバーマスの討議理論を分析・検討する。

教科書 /Textbooks

ユルゲン・ハーバーマス『事実性と妥当性（下）』（未来社、2003年）3800円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ユルゲン・ハーバーマス『事実性と妥当性（上）』（未来社、2002年）
永井彰、日暮雅夫編著『批判的社会理論の現在』（晃洋書房、2003年）
日暮雅夫『討議と承認の社会理論』（勁草書房、2008年）
中岡成文『ハーバーマス』（講談社、1996年）

法哲学専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 ハーバーマス
- 第3回 協議的政治
- 第4回 民主的手続きと中立性
- 第5回 政治的公共圏
- 第6回 権力循環
- 第7回 コミュニケーション的権力
- 第8回 私法の実質化
- 第9回 法的平等と事実に平等
- 第10回 手続き主義的法理解
- 第11回 合法性による正統性
- 第12回 法治国家の理念
- 第13回 手続きとしての国民主権
- 第14回 ナショナル・アイデンティティ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回で扱う予定のテキストの箇所を事前に読み、報告者に対する質問をきちんと考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやレジュメをもとに内容を整理し、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ハーバーマス 討議理論 法 民主的法治国家 手続き

法哲学専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

1学期の演習では、現代正義論に関連する文献を講読したが、2学期の演習では、「現代正義論」という主題に特に限定することなく、広い意味で法哲学にかかわるテーマについて、すなわち、「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的な主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者が、その都度、参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 自由研究構想発表
- 第3回 自由研究報告①【法哲学】(【】内は例示。以下同様)
(ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。以下同様)
- 第4回 自由研究報告②【法と国家】
- 第5回 自由研究報告③【正義と自由】
- 第6回 自由研究報告④【環境と生命】
- 第7回 自由研究報告⑤【法】
- 第8回 自由研究報告⑥【国家】
- 第9回 自由研究報告⑦【正義】
- 第10回 自由研究報告⑧【自由】
- 第11回 自由研究報告⑨【権利】
- 第12回 自由研究報告⑩【生命倫理と法哲学】
- 第13回 自由研究報告⑪【環境倫理と法哲学】
- 第14回 『ゼミ論集』編集の打ち合わせ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

法哲学専門演習Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考え予習しておくこと。授業の後は、レジユメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2学期の演習では特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は、予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。

キーワード /Keywords

自由研究報告 ゼミ論集 法 国家 正義 自由 権利 生命 環境

法制史専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法制史に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法制史専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

東洋・西洋を問わず様々な法と制度の影響を受けて形成されてきた日本の法を考える上で、その歴史的前提に遡って検討を加えることは、現代法をより深く理解するうえで有益な営為であると考えられます。本科目は広く日本法の歴史的な形成と展開に関する分野につき、「法制史専門演習IおよびII」の学習を踏まえ、日本のみならず日本に影響を与えた西欧の法概念形成に即して、各参加者が関心をもつテーマを選択して論文の執筆に向けた指導を行うとともに各参加者を交えた議論を行っていきます。また論文の執筆だけでなく、情報検索やプレゼンテーションの方法についても学んでいきます。

教科書 /Textbooks

事前の演習参加選抜に合格した参加予定者に掲示板等を通じて個別に指示を行っています。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者の興味関心に応じ、適宜紹介していきます。
なおテーマ撰択の一助として、以下を参照してください。
浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』(青林書院・2010年)(図書館蔵書:○)
水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』(山川出版社・2001)(図書館蔵書:○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 担当教員及び参加者の自己紹介ののち、進行についての説明、テーマ選択、文献の調べ方・プレゼンテーション・質疑応答の留意点についての小講義を行います。
- 第2回 各参加者の研究テーマ発表
- 第3回 各参加者による報告・議論
- 第4回 各参加者による報告・議論
- 第5回 各参加者による報告・議論
- 第6回 各参加者による報告・議論
- 第7回 各参加者による報告・議論
- 第8回 中間状況報告会
- 第9回 各参加者による報告・議論
- 第10回 各参加者による報告・議論
- 第11回 各参加者による報告・議論
- 第12回 各参加者による報告・議論
- 第13回 各参加者による報告・議論
- 第14回 各参加者による報告・議論
- 第15回 演習全体の総括討論

法制史専門演習Ⅲ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。

1. 演習における議論への参加状況(30%※)
2. 演習における報告(30%※)
3. 中間報告書(40%※)

※中間報告書は単位の認定にあたり必ず提出が必要です。論文の提出を確認の上、1・2の項目を総合的に勘案して成績判定を行います。中間報告書については演習中に指示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】

報告担当者は事前にレジュメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。

【事後学習】

演習中でなされた議論を整理して期末レポートに備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

履修上の注意 /Remarks

質問・相談は随時受け付けます。

演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

法制史専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法制史に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法制史専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本科目は「法制史専門演習Ⅲ」に引き続き、法制史分野のテーマに関する論文の完成と情報検索・プレゼンテーション能力のさらなる向上を目指して指導を行っていきます。

教科書 /Textbooks

なし。各参加者の論文テーマに即し、必要なテキストを自ら選びとることも本演習の大きなテーマの一つです。もちろん、適宜教員の側からアドバイスを行っていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者の興味関心に応じ、適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 各参加者の研究テーマ確認、文献の調べ方・プレゼンテーション・質疑応答の留意点についてのおさらい
- 第2回 各参加者による報告・議論
- 第3回 各参加者による報告・議論
- 第4回 各参加者による報告・議論
- 第5回 各参加者による報告・議論
- 第6回 各参加者による報告・議論
- 第7回 各参加者による報告・議論
- 第8回 中間状況報告会
- 第9回 各参加者による報告・議論
- 第10回 各参加者による報告・議論
- 第11回 各参加者による報告・議論
- 第12回 各参加者による報告・議論
- 第13回 各参加者による報告・議論
- 第14回 各参加者による報告・議論
- 第15回 演習全体の総括討論

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。

1. 演習における議論への参加状況(20%※)
2. 演習における報告(20%※)
3. 最終提出論文(60%※)

※最終提出論文は単位の認定にあたり必ず提出が必要です。論文の提出を確認の上、1・2の項目を総合的に勘案して成績判定を行います。

法制史専門演習Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】

報告担当者は事前にレジユメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。

【事後学習】

演習中でなされた議論を整理して最終論文に備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

履修上の注意 /Remarks

質問・相談は随時受け付けます。

演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

憲法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

憲法の領分は非常に広範だが、この演習では、ひとまず日本国憲法の論点に絞って、掘り下げていくことにする。

本演習の内容は以下の通りである。

- ①メインレポーターが、一定の憲法の争点について、報告する。
- ②サブレポーターが、関連する憲法判例について、報告する。
- ③全員で討議する。

※全員がメインレポートとサブレポートを最低1回ずつ担当する。

教科書 /Textbooks

大石真ほか編『憲法の争点』（有斐閣、2008年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○長谷部恭男ほか編『憲法判例百選I・II(第6版)』（有斐閣、2013年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2～14回 履修者の報告と討論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメおよび報告（40％）、日常の授業への取り組み（40％）、レポート（20％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

メインレポート40分、サブレポート20分、質疑30分に堪える準備を行うこと。自らが担当した論点か、判例について事後にレポートの提出を求める。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「憲法専門演習II」とセットで受講することが望ましい。
小型の六法を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習I【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習は、社会人となるために必須となる「読み（調べて）」「書き（まとめて）」「話す（主張する）」力に加えて、「自ら問いを立て、答えを出す」力を身につけることを目的とする。
進行の形式は次のとおり。まず指定テキスト（下記「教科書」参照）を全員で分担講読する。各回の報告担当者がレジюмеを作成した上で報告を行い、それをもとに全員で検討・議論を行う形で進めていく。

教科書 /Textbooks

新井誠編著『ディベート憲法』（信山社、2014年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告テーマ・順序決定など）
- 第2回 （“肩慣らし”として）グループ・ディスカッション
- 第3～14回 テキストの分担講読（報告及び議論）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（レジюме作成含む）：50%
各回の議論への主体的参加状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の担当回の報告には、レジюме作成も含めて入念な準備が求められる。指定テキストは、憲法学上の具体的問題について合憲側と意見側の主張を軸に、解説を付したものである。平易な叙述であるが、その内容を理解するためには、十分な読み込みが必要となる。また、必要に応じてテキスト以外の文献も参照すること。
報告者以外の参加者も、議論に参加する準備として、毎回少なくとも指定テキストを十分に読み込んでおくことが求められる。

履修上の注意 /Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「憲法専門演習II」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

憲法「学」の領分は、比較法、法思想、法制史、政治哲学、社会学など広範囲にわたる。この演習では、「憲法専門演習III・IV」での論文執筆に向けて、各自の興味関心に沿って報告をしてもらう。テーマは、必ずしも、日本国憲法に直接関わるものである必要はない。例えば、アメリカ連邦最高裁判所や欧州人権裁判所の判例、ホップズやロック、ハーバマス等の翻訳書、海外の一定の法制度の検討でもよい。もちろん、日本国憲法の論点でもよい。ほかにも、個人情報保護やハイトスピーチなどの、憲法に関わる時事的論点でもよい。

本演習の内容は以下の通りである。

- ①メインレポーターが、自らの選択したテーマについて報告する。
- ②全員で討議する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～14回 履修者の中間報告と討論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメおよび報告(40%)、日常の授業への取り組み(40%)、レポート(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

メインレポート30～60分、質疑30分に堪えうる準備を行うこと。自らが担当したテーマについて、事後にレポートの提出を求める。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「憲法専門演習I」とセットで受講することが望ましい。
小型の六法を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習II 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習は、社会人となるために必須となる「読み（調べて）」「書き（まとめて）」「話す（主張する）」力に加えて、「自ら問いを立て、答えを出す」力を身につけることを目的とする。
「演習I」を受けて、「演習II」では、「演習III」「演習IV」で論文を執筆するための準備を行う。
具体的には、参加者がそれぞれ「①論文のテーマ（問い）、②そのテーマ（問い）をめぐる社会状況や憲法学における議論状況、関連する判例、③自分の見解」をまとめたレジュメを作成して報告し、それに基づいて全員で検討・議論を行うという形で進めていく。
最終的に、論文の全体構成を練り上げることを目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告順決定など）
第2～14回 各自が決定したテーマに関する報告及び議論
第15回 論文執筆に向けたまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（レジュメ作成含む）：40%
各回の議論への主体的参加状況：40%
ゼミレポートの内容：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の担当回の報告には、レジュメ作成も含めて入念な準備が求められる。自分の立てた問いに答えるために必要な内容を、十分に・丁寧に調べてまとめることが必要となる。
報告回の前回までにレジュメを完成させて、事前に全員に配布すること。
報告者以外の参加者は、あらかじめ配布レジュメを十分に読み込んでおき、報告者にとって有益な質問・意見を述べる事が求められる。

履修上の注意 /Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「憲法専門演習I」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

憲法専門演習II 【昼】

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

これまで深めてきた憲法および憲法学に関する知見に基づき、「憲法専門演習Ⅳ」と合わせて、論文（1万5千～2万字程度）を執筆することを目的とする。

本演習は、次の手順で行われる。

- ①各自の研究テーマの決定、
- ②授業外でテーマに関する文献を読み込んで全体像を把握、
- ③隔週の研究進捗状況の報告と、それについての検討、
- ④最終的に、目次（全体の構成）と要旨を完成させる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、個別に指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2～5回 研究テーマの決定
- 第6～15回 研究報告および検討

成績評価の方法 /Assessment Method

目次と要旨の完成度（40%）、隔週の報告内容（40%）、日常の授業への取り組み（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究テーマの選択や決定の際に、その後の研究の方向性も含めて考えながら、文献にあたること。隔週の報告の間にしっかりと文献を読み込んで、報告に備えること。検討を踏まえて、次の文献にあたりつつ、全体の構成を常に考えること。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「憲法専門演習Ⅳ」とセットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テーマはかなり自由に決定してよい（それについては、憲法専門演習Ⅱのシラバスを参照）。ただしその分、憲法または関連分野に強い興味関心をもって取り組むことができる者が望ましい。

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

憲法学分野の講義や演習で学んだ内容、身につけた力を基礎として、参加者各自が関心を持つテーマに関して専門的研究を深めた上で、「個別研究指導II」と併せて論文（12,000字程度）を執筆・完成させることを目的とする。
「I」においては、研究テーマの決定及び論文の概要（全体構成）を完成させるところまでを目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要となる文献や資料等については、個別に相談の上で指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（目的や概要、スケジュールの説明など）
第2～5回 研究テーマの決定
第6～15回 研究報告・検討

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（報告資料作成含む）：40%
各回の議論への主体的参加状況：40%
論文概要（全体構成）の内容：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。それをもとにして議論を行い、次回の報告に反映させること。

履修上の注意 /Remarks

本演習は「個別研究指導II」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文を執筆・完成させることを目的とするので、着実に粘り強く研究を進める意欲のある者の受講を強く希望します。

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

これまで深めてきた憲法および憲法学に関する知見に基づき、「憲法専門演習Ⅲ」と合わせて、論文（1万5千～2万字程度）を執筆することを目的とする。「憲法専門演習Ⅲ」で作成した、目次と要旨に基づき、さらにそれを深めて肉づけし、論文を完成させる。

本演習は、次の手順で行われる。

- ① 授業外でテーマに関する文献をさらに読み込んで各章を肉づけ、
- ② 研究の中間報告と、それについての検討、
- ③ 研究の最終報告と、それについての検討、
- ④ 論文の完成。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、個別に指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2～11回 論文の中間報告
- 第12～15回 論文の最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

論文（70%）、レジュメおよび報告（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外での文献講読・執筆活動が前提となる。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「憲法専門演習Ⅲ」とセットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

憲法学分野の講義や演習で学んだ内容、身につけた力を基礎として、参加者各自が関心を持つテーマに関して専門的研究を深めた上で、「個別研究指導Ⅰ」と併せて論文（12,000字程度）を執筆・完成させることを目的とする。「Ⅱ」においては、「Ⅰ」で完成させた論文概要（全体構成）に基づいて、さらに研究を専門化、精緻化させながらゼミ論文を完成させることを目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要となる文献や資料等については、個別に相談の上で指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2～15回 研究報告・検討～論文作成

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（報告資料作成含む）：30%
各回の議論への主体的参加状況：30%
論文の内容：40%

※論文を完成させられなかった場合、原則として単位は認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。それをもとにして議論を行い、次回の報告に反映させること。

履修上の注意 /Remarks

本演習は「個別研究指導Ⅰ」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい（「Ⅱ」のみで論文を完成させることはかなりの困難を伴う）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文を執筆・完成させることを目的とするので、着実に粘り強く研究を進める意欲のある者の受講を強く希望します。

キーワード /Keywords

行政法専門演習I【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、行政法の重要判例を題材に、各回の担当班がグループ報告またはディベートを行った後、そのテーマについて受講者全員で議論します。受講者が、①行政法の体系的な理解を深める、②法的・論理的思考力を涵養する、③その他、社会人にとって必要な素養を習得することを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2～14回 グループ報告またはディベート
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習I【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

行政法学を行って行くにあたり、各個別の法制度を理解することは必須の事項に属する。しかし、実際のところ、新規の法律を読むことに学習者らが躊躇を覚えるのは無理からぬことである。
そこで、本演習では、学習者らが興味を持つ判例の前提となる法律を逐次読むことを目標とする。各コンメンタールや所掌官庁の示す指針などを適宜参照し、担当者に当該法律の全体像を説明してもらう。
そのうえで、各回の個別の条文の読解をリードしてもらう。
こうして、なじみのない法律が問題となっていた場合にも、自ら当該法律を理解する力を涵養する。

教科書 /Textbooks

吉田 利宏『新 法令解釈・作成の常識』（日本評論社、2017）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 ガイダンス・自己紹介
第二回 法分野の選択についての相談
第三～十四回 報告・議論
第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の点を総合的に評価する。
担当する法律についての報告 50 %
授業への取り組み 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自身が選択した個別法について事前に読むだけでなく、当該個別法のコンメンタールや議会資料などを読み、個別法の仕組みについて自分で説明できるようになることが報告では求められます。

履修上の注意 /Remarks

行政法総論を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個別法を読んでいくという作業は、行政法において必須の行為である。
本科目はその手助けとなるように心がける。

行政法専門演習I【昼】

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、行政法の重要判例を題材に、各回の担当班がグループ報告またはディベートを行った後、そのテーマについて受講者全員で議論します。受講者が、①行政法の体系的な理解を深める、②法的・論理的思考力を涵養する、③その他、社会人にとって必要な素養を習得することを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2～14回 グループ報告またはディベート
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み40%、レポート10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習II【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本科目では、個別法の条文をきちんと読解したうえで、学習者が選択した判例をもとに評釈を執筆する。
各回ごとの判例の報告と、これに対する質疑の形式で学習を行い、最終的に判例評釈を執筆する。
行政法に関する法的情報の収集・分析スキル及びプレゼン能力、さらには行政法を通じた課題発見能力を身につけるのを目指す。

教科書 /Textbooks

池田真朗ほか『判例学習のA to Z』（有斐閣、2010）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大村敦志ほか『民法研究ハンドブック』（有斐閣、2000）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 ガイダンス
第二～十四回 報告・討論
第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の点を考慮して評価を行います。
報告 40%
授業への取り組み20%
報告を基にしたレポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は、選択した判例について事案と判旨をまとめるとともに、当該判例において問題となっている個別法や、判例における争点についての学説や実務についても調査を事前に行うこと。
報告後には、質疑で議論されたことを判例評釈に活かしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

行政法専門演習Iを履修済みであること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

受講者が関心のある行政法のテーマについて、最終的にゼミ論文を執筆することを念頭に、個別指導を行います。論文執筆を通じて、受講者がより専門的な行政法理論を理解するとともに、分析力、表現力といった能力を身につけることを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2回 論文テーマの決定
第3～14回 論文指導
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本科目は、行政法にかかわる問題について、学生が自ら問題を発見し、それについて自分で文献・判例を調査し、これを行政法専門演習Ⅳと合わせて論文とすることを目標とします。
テーマ設定は事実上かなり自由に行ってもよいが、担当者からのコメントは行政法学の観点からのものが中心となることは留意しておいてほしい。ともあれ、自分で問題を見つけることが重要である。
行政法専門演習Ⅲにおいては、問題設定の明確化と、アウトラインの作成を行ってもらう。
学生は、履修にあたって、時事問題でもよいし、行政法学において問題となっているものでもよいので、事前にテーマを見つけておくことが期待される。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

戸田山和久『論文の教室』(NHKブックス・2002)
その他、テーマ設定や問題発見のために『行政法の争点』(有斐閣)を挙げておく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 ガイダンス 論文の執筆について
第二回 テーマ設定についての相談
第三回 文献調査
第四回～十四回 個別報告、質疑
第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%
期末の論文アウトライン 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に自身で設定したテーマについて文献調査を行うことが求められる。
報告者は事前にレジユメを作成し、ゼミに送付すること。
なお、毎回、責任質問者を設定し、中心的に質問をすることを求めることを計画している。

履修上の注意 /Remarks

行政法専門演習Ⅲを履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文の執筆にあたって、種々の法令やコンメンタール、議会資料を精力的に調査することが必要とされます。
こうした調査についての勘所を得ることも、皆さんが如何なる分野に将来進まれるのであれ、重宝するものです。

行政法専門演習Ⅲ【昼】

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

受講者が関心のある行政法のテーマについて、最終的にゼミ論文を執筆することを念頭に、個別指導を行います。論文執筆を通じて、受講者がより専門的な行政法理論を理解するとともに、分析力、表現力といった能力を身につけることを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2～14回 中間報告
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

論文50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

行政法専門演習Ⅲで設定したテーマについて論文の完成を目指す。
受講生は担当回において設定したテーマについての調査を行った結果を報告し、質疑に応えられるよう準備すること。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 目標の確認
第二回～十四回 報告・質疑
第十五回 まとめ

学生らの状況に応じて、必要な文献の理解の確認などにも答える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での報告40% 期末の論文 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にゼミ生に向けて報告者はレジユメを送付すること。
平素より文献調査を行い、報告による質疑で得た課題を論文執筆に活かすように。

履修上の注意 /Remarks

行政法専門演習Ⅲを履修済みであること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習I【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、刑法各論の基本的な判例の分析を通じて、法的問題解決能力を訓練します。

判例は、現実社会で生起する問題に法的に対応する際、第一に基準とされるものです。さらに、判例に表れた事例は、「刑法犯罪論」と「刑法犯罪各論」で学んだ理論がどのようにして適用されるのかを考えるために、格好の素材を提供してくれます。ここでは、生ける法である判例を読み解く方法を学ぶことによって、法的思考の実践力を養うことを目指します。

専門演習Iでは、判例研究の方法に慣れるとともに、犯罪の成否に関する判断の仕方を体得することに特に力を入れて取り組みます。

教科書 /Textbooks

山口厚 / 佐伯仁志編『刑法判例百選II各論（第7版）』（有斐閣、2014年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大塚裕史 / 十河太郎 / 塩谷毅 / 豊田兼彦『基本刑法II各論』（日本評論社、2014年）
- 井田良『講義刑法学・各論』（有斐閣、2016年）
- 山口厚『刑法各論（第2版）』（有斐閣、2010年）
- 川端博『集中講義刑法各論』（成文堂、1999年）
- 井田良他編『刑刑事例演習教材（第2版）』（有斐閣、2014年）

刑法専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

演習の進め方

- ①報告者は二人一組になって、上記『刑法判例百選II各論』から判例を一つ選択し、事案・争点・判例の理由付けについて要点を報告します。
- ②それに付随して、各組それぞれ異なる2つの学説から、当該判例の立場を分析し説明を行います。
- ③以上の説明を受けて、他の受講生は、事案や判旨について疑問のある点を質問し、さらには自身がいずれの報告者の説明・学説がより説得的であったと考えるのかを明らかにした上で、自説の実質的な根拠と反対説の問題点について相互に議論を深めていきます。
- ④報告者は、レジユメないしはプレゼンテーションソフトで資料を作成し、事前に受講者全員に送付して下さい。報告後には、要旨をまとめたレポートを提出して下さい。

- 第1回 演習の進め方の説明、報告者の決定とテーマ選択
- 第2回 判例の読み方と事例の解き方およびレポートの書き方の概説
- 第3回 判例①（生命・身体に対する罪）の報告・検討
- 第4回 判例②（人格的法益に対する罪）の報告・検討
- 第5回 判例③（財産犯総論）の報告・検討
- 第6回 判例④（窃盗罪）の報告・検討
- 第7回 判例⑤（強盗罪）の報告・検討
- 第8回 判例⑥（詐欺罪）の報告・検討
- 第9回 判例⑦（横領罪）の報告・検討
- 第10回 判例⑧（毀棄隠匿罪）の報告・検討
- 第11回 判例⑨（公共危険罪）の報告・検討
- 第12回 判例⑩（偽造罪）の報告・検討
- 第13回 判例⑪（風俗に対する罪）の報告・検討
- 第14回 判例⑫（国家的法益に対する罪）の報告・検討
- 第15回 総括・質疑応答

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（40%）、報告後のレポート（30%）、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献（30%）を総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は、当該判例の意義を正確に理解するために、下級審の判決および過去の関連判例も調べて下さい。
 報告者以外の受講生は、判例百選における該当事件の解説（原則、見開き2頁のみです）を必ず事前に読んで下さい。その際に、判決および解説の内容で疑問に思った点をメモしておくことを推奨します。
 授業後は、ゼミの中で出された質問に関する教科書の記述（とりわけ、各犯罪類型の基本的な成立要件）を再度確認して下さい。

履修上の注意 /Remarks

「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」を既に履修済であることが望まれます。これらの科目をまだ修了していない場合は、本演習と並行して受講して下さい。履修の仕方については、個別に相談に応じます。
 なお、受講生の希望により、合宿等の課外活動を行う可能性もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義科目にも増して、演習科目では受講者の主体的な取り組みが求められます。縁あって集ったメンバーですから、どのようにしたら受講者全員にとって有意義なフォーラムとなるのか、そのために自分に何ができるのか、私を含めてお互いに知恵を出し合い行動していきましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、刑法総論の基本的な判例の分析を通じて、法的問題解決能力を訓練します。
判例は、現実社会で生起する問題に法的に対応する際、第一に基準とされるものです。さらに、判例に表れた事例は、「刑法犯罪論」と「刑法犯罪各論」で学んだ理論がどのようにして適用されるのかを考えるために、格好の素材を提供してくれます。ここでは、生ける法である判例を読み解く方法を学ぶことによって、法的思考の実践力を養うことを目指します。
専門演習Ⅱでは、特に各学説の中心的論拠と批判、反批判の検討に重点をおき、その上で、4年次に行う卒業論文執筆を意識したレポートの作成に取り組みます。

教科書 /Textbooks

山口厚 / 佐伯仁志編『刑法判例百選I総論〔第7版〕』（有斐閣、2014年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大塚裕史 / 十河太郎 / 塩谷毅 / 豊田兼彦『基本刑法I総論〔第2版〕』（日本評論社、2016年）
- 井田良『講義刑法学・総論』（有斐閣、2008年）
- 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』（有斐閣、2013年）
- 川端博『集中講義刑法総論〔第2版〕』（成文堂、1997年）
- 井田良他編『刑法事例演習教材〔第2版〕』（有斐閣、2014年）

刑法専門演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

演習の進め方

- ①報告者は二人一組になって、上記『刑法判例百選I総論』から判例の一つを選択し、事案・争点・判例の理由付けについて要点を報告します。
- ②それに付随して、各組それぞれ異なる2つの学説から、当該判例の立場を分析し説明を行います。
- ③以上の説明を受けて、他の受講生は、事案や判旨について疑問のある点を質問し、さらには自身がいずれの報告者の説明・学説がより説得的であったと考えるのかを明らかにした上で、自説の実質的な根拠と反対説の問題点について相互に議論を深めていきます。
- ④報告者は、レジユメないしはプレゼンテーションソフトで資料を作成し、事前に受講者全員に送付して下さい。報告後には、要旨をまとめたレポートを提出して下さい。

- 第1回 演習の進め方の説明、報告者の決定とテーマ選択
- 第2回 犯罪論の体系およびディベートの方法に関する概説
- 第3回 判例①（不作為犯）および関連する学説の報告・質疑
- 第4回 判例①（不作為犯）と学説に関する質疑への回答
- 第5回 判例②（因果関係）および関連する学説の報告・質疑
- 第6回 判例②（因果関係）と学説に関する質疑への回答
- 第7回 判例③（実質的違法性）および関連する学説の報告・質疑
- 第8回 判例③（実質的違法性）と学説に関する質疑への回答
- 第9回 判例④（正当防衛）および関連する学説の報告・質疑
- 第10回 判例④（正当防衛）と学説に関する質疑への回答
- 第11回 判例⑤（責任能力）および関連する学説の報告・質疑
- 第12回 判例⑤（責任能力）と学説に関する質疑への回答
- 第13回 判例⑥（共犯）および関連する学説の報告・質疑
- 第14回 判例⑥（共犯）と学説に関する質疑への回答
- 第15回 総括・質疑応答

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（30%）、報告後のレポート（40%）、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献（30%）を総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は、当該判例の意義を正確に理解するために、下級審の判決および過去の関連判例も調べて下さい。
報告者以外の受講生は、判例百選における該当事件の解説（原則、見開き2頁のみです）を必ず事前に読んで下さい。その際に、判決および解説の内容で疑問に思った点をメモしておくことを推奨します。
授業後は、ゼミの中で出された質問に関する教科書の記述（とりわけ、各項目の基本的な成立要件）を再度確認して下さい。

履修上の注意 /Remarks

「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」を既に履修済であることが望まれます。これらの科目をまだ修了していない場合は、本演習と並行して受講して下さい。履修の仕方については、個別に相談に応じます。
なお、受講生の希望により、合宿等の課外活動を行う可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義科目にも増して、演習科目では受講者の主体的な取り組みが求められます。縁あって集ったメンバーですから、どのようにしたら受講者全員にとって有意義なフォーラムとなるのか、そのために自分に何ができるのか、私を含めてお互いに知恵を出し合い行動していきましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、刑法総論および刑法各論の主要な論点について調査報告をしてもらい、受講生全員で議論を行います。その際には、専門演習Ⅳにおいて受講者各自が卒業論文を完成させるために、選択したテーマの問題の所在を明らかにすることを主眼とし、加えて関連する文献の選択について手がかりを与えるようにします。

教科書 /Textbooks

西田典之 / 山口厚 / 佐伯仁志編『刑法の争点』（有斐閣、2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川端博 / 浅田和茂 / 山口厚 / 井田良編『理論刑法学の探求①～⑩』（成文堂、2008～2016年）
- 伊東研祐 / 松宮孝明編『リーディングス刑法』（法律文化社、2016年）
- 高橋則夫 / 杉本一敏 / 仲道祐樹『理論刑法学入門刑法理論の味わい方』（日本評論社、2014年）
- 山口厚 / 井田良 / 佐伯仁志『理論刑法学の最前線』（岩波書店、2001年）
- 川端博 / 前田雅英 / 伊東研祐 / 山口厚『徹底討論刑法理論の展望』（成文堂、2000年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

演習の進め方

- ①報告者は、上記『刑法の争点』からテーマを選択し、報告を行います。
- ②報告者は、レジュメないしはプレゼンテーションソフトで資料を作成し、事前に受講者全員に送付して下さい。

- 第1回 演習の進め方の説明、報告者の決定とテーマ選択
- 第2回 論文作成の目的と手順の説明、刑法学説の対立の源流概説
- 第3回 報告者①によるテーマと問題の所在に関する報告
- 第4回 報告者②によるテーマと問題の所在に関する報告
- 第5回 報告者③によるテーマと問題の所在に関する報告
- 第6回 報告者④によるテーマと問題の所在に関する報告
- 第7回 報告者⑤によるテーマと問題の所在に関する報告
- 第8回 報告者⑥によるテーマと問題の所在に関する報告
- 第9回 報告者⑦によるテーマと問題の所在に関する報告
- 第10回 報告者⑧によるテーマと問題の所在に関する報告
- 第11回 報告者⑨によるテーマと問題の所在に関する報告
- 第12回 報告者⑩によるテーマと問題の所在に関する報告
- 第13回 報告者⑪によるテーマと問題の所在に関する報告
- 第14回 報告者⑫によるテーマと問題の所在に関する報告
- 第15回 総括・質疑応答

刑法専門演習III 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容 (50%)、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献 (50%) を総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は、『刑法の争点』に挙げられた重要文献を読んで、自身の問題関心・設定を明らかにするようにして下さい。授業後、報告と質疑応答に基づいて、仮の目次を作成するようにして下さい。

報告者以外の受講生は、『刑法の争点』の該当箇所 (原則、見開き2頁のみです) を予め読んでから出席して下さい。その際、解説の不明な点、あるいは自分のテーマと関連しそうな点についてメモしておくことを推奨します。授業後は、議論の対象となった事柄について、各種基本書の該当箇所を確認して下さい。

履修上の注意 /Remarks

「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」を既に履修済であることが望まれます。これらの科目をまだ修了していない場合、本演習と並行して受講して下さい。履修の仕方については、個別に相談に応じます。

なお、受講生の希望により、合宿等の課外活動を行う可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義科目にも増して、演習科目では受講者の主体的な取り組みが求められます。縁あって集ったメンバーですから、どのようにしたら受講者全員にとって有意義なフォーラムとなるのか、そのために自分に何ができるのか、私を含めてお互いに知恵を出し合い行動していきましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

テーマ「刑法理論の探求（1）」
刑法学の講義・演習において修得した知識と理解を基礎にして、刑法に関する研究テーマを選定し、判例・学説の分析に基づいて具体的かつ緻密に考察する。単なる知識の取得に留まることがないように、自己の考察を説得的な文章で表現することに重点をおく。
この演習では、研究論文（ゼミ論文）を執筆する。

教科書 /Textbooks

テキストを指定しない。各自が現在使用している基本書でよい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（方針の説明・報告の配分など）
- 2回 争点と問題の所在の検討（1）
- 3回 争点と問題の所在の検討（2）
- 4回 参考文献の整理と検討
- 5回 学説の分析（1）
- 6回 学説の分析（2）
- 7回 学説の分析（3）
- 8回 最高裁判例の検討（1）
- 9回 最高裁判例の検討（2）
- 10回 最高裁判例の検討（3）
- 11回 下級審裁判例の検討
- 12回 判例理論の総括
- 13回 論証の検討（1）
- 14回 論証の検討（2）
- 15回 論証の検討（3）

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）... 60% 討論及び発言内容... 40%
試験を行わない。提出されたレポートおよび演習への参加状況（報告内容、討論および発言内容）により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

選定した研究テーマについて各回の課題レポートを作成する。提出されたレポートをもとにディスカッションを行い、検討を深める。ディスカッションと再検討の成果を、研究論文にフィードバックすることが求められる。

履修上の注意 /Remarks

専門演習Ⅲは、専門演習Ⅳと連続して展開することを予定している。これらの科目も併せて履修すること。

刑法専門演習Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究論文(ゼミ論文)の執筆を目的としている。着実に研究を進める意欲と熱意のある者の履修を期待する。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、刑法総論および刑法各論の主要な論点について調査報告をしてもらい、受講生全員で議論を行います。その際には、受講者各自が卒業論文を完成させるために、選択したテーマに関連する諸学説の要点を明らかにすることを主眼とします。

教科書 /Textbooks

西田典之 / 山口厚 / 佐伯仁志編『刑法の争点』（有斐閣、2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川端博 / 浅田和茂 / 山口厚 / 井田良編『理論刑法学の探求①～⑩』（成文堂、2008～2016年）
- 伊東研祐 / 松宮孝明編『リーディングス刑法』（法律文化社、2016年）
- 高橋則夫 / 杉本一敏 / 仲道祐樹『理論刑法学入門』（日本評論社、2014年）
- 山口厚 / 井田良 / 佐伯仁志『理論刑法学の最前線』（岩波書店、2001年）
- 川端博 / 前田雅英 / 伊東研祐 / 山口厚『徹底討論刑法理論の展望』（成文堂、2000年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

演習の進め方

- ①報告者は、専門演習Ⅲで行った報告テーマに関連する主要な学説について報告します。
- ②報告者は、レジュメないしはプレゼンテーションソフトで資料を作成し、事前に受講生全員に送付して下さい。

- 第1回 演習の進め方の説明、報告者の決定、卒業論文執筆スケジュールの確認
- 第2回 報告者①による主要学説の比較検討・質疑応答
- 第3回 報告者②による主要学説の比較検討・質疑応答
- 第4回 報告者③による主要学説の比較検討・質疑応答
- 第5回 報告者④による主要学説の比較検討・質疑応答
- 第6回 報告者⑤による主要学説の比較検討・質疑応答
- 第7回 報告者⑥による主要学説の比較検討・質疑応答
- 第8回 報告者⑦による主要学説の比較検討・質疑応答
- 第9回 報告者⑧による主要学説の比較検討・質疑応答
- 第10回 報告者⑨による主要学説の比較検討・質疑応答
- 第11回 報告者⑩による主要学説の比較検討・質疑応答
- 第12回 報告者⑪による主要学説の比較検討・質疑応答
- 第13回 報告者⑫による主要学説の比較検討・質疑応答
- 第14回 受講生各位による論文要旨説明
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（20%）、論文（60%）、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献（20%）を総合的に評価します。

刑法専門演習Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は、テーマに関連する多様な学説の相互関係を整理し、他の受講生が概要を把握できるよう簡便な見取り図を示せるよう準備して下さい。授業中に挙げられた質問は、報告終了後、直ちに論文に反映させるようにして下さい。
報告者以外の受講生は、事前に共有されるレジюмеを必ず一読してからゼミに臨むようにして下さい。授業後、論文の形式面も含めて、報告者が指摘された点について、自分の論文にも直ちに反映させるようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」を既に履修済であることが望まれます。これらの科目をまだ修了していない場合、本演習と並行して受講して下さい。履修の仕方については、個別に相談に応じます。
なお、受講生の希望により、合宿等の課外活動を行う可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文の執筆は、大学における4年間の学修の集大成です。慣れない作業に大変な思いをすることも多いと思いますが、目標を達成した先には、一皮むけた自分が待っています。奇をてらわず、地道にやり遂げることを目指しましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

テーマ「刑法理論の探求（2）」
刑法学の講義・演習において修得した知識と理解を基礎にして、刑法に関する研究テーマを選定し、判例・学説の分析に基づいて具体的かつ緻密に考察する。単なる知識の取得に留まることがないように、自己の考察を説得的な文章で表現することに重点をおく。
この演習では、研究論文（ゼミ論文）を執筆する。

教科書 /Textbooks

テキストを指定しない。各自が現在使用している基本書でよい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、草稿の提出
- 2回 草稿の検討（1）
- 3回 草稿の検討（2）
- 4回 草稿の検討（3）
- 5回 草稿の検討（4）
- 6回 論文構成の検討
- 7回 問題の所在と論証の再検討（1）
- 8回 問題の所在と論証の再検討（2）
- 9回 問題の所在と論証の再検討（3）
- 10回 問題の所在と論証の再検討（4）
- 11回 研究報告（1）
- 12回 研究報告（2）
- 13回 研究報告（3）
- 14回 研究報告（4）
- 15回 まとめ・研究論文の提出

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）... 30% 討論及び発言内容... 30% 研究論文（ゼミ論文）... 40%
試験を行わない。提出されたレポートおよび演習への参加状況（報告内容、討論および発言内容）、研究論文（ゼミ論文）により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

選定した研究テーマについて各回の課題レポートを作成する。提出されたレポートをもとにディスカッションを行い、検討を深める。ディスカッションと再検討の成果を、研究論文にフィードバックすることが求められる。

刑法専門演習Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

専門演習Ⅳは、専門演習Ⅲと連続して展開することを予定している。これらの科目も併せて履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究論文（ゼミ論文）の執筆を目的としている。着実に研究を進める意欲と熱意のある者の履修を期待する。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑事訴訟法専門演習Ⅰ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅰ

SEM311M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
第2回～15回 設定したテーマについて学生が主体となって報告、議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、議論への参加状況を考慮して行う(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジюме作成を行うこととなります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

出席が前提となるので、疾病、就職試験等のやむを得ない場合を除き欠席はしないようにしてください。無断欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は必ず連絡を取ること。
報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。
ゼミで学んだ知識を前提としながら議論を発展させていくので、各回毎の復習が必要となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミナールは学生主体で運営していくものです。積極的な参加を希望します。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
第2回～15回 設定したテーマについて学生が主体となって報告、議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、議論への参加状況を考慮して行う(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジюме作成を行うこととなります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

出席が前提となるので、疾病、就職試験等のやむを得ない場合を除き欠席はしないようにしてください。無断欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は必ず連絡を取ること。
報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。
ゼミで学んだ知識を前提としながら議論を発展させていくので、各回毎の復習が必要となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミナールは学生主体で運営していくものです。積極的な参加を希望します。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合があります。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書 /Textbooks

関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回~15回 関心に応じたテーマについて報告、議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、報告の内容での総合点(授業態度50%、報告の内容の評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジュメ作成を行うこととなります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミは学生主体で行うものです。積極的な参加が求められます。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書 /Textbooks

関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回~15回 関心に応じたテーマについて報告、議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、報告の内容での総合点(授業態度50%、報告の内容の評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジュメ作成を行うこととなります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミは学生主体で行うものです。積極的な参加が求められます。

キーワード /Keywords

刑事学専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、アメリカの代表的な犯罪学テキストであるLarry J. Siegel, Criminology 11th ed., 2012 を輪読します。原書テキストを講読することで、専門的知識や英語によるコミュニケーション力を身につけることを目指します。本年度、分析・検討する予定のテーマは、昨年度に引き続き「アメリカの刑事司法制度」(Siegel, Part Four The Criminial Justice System, pp.577-6617)です。専門演習Ⅲでは、主に警察と裁判制度の諸問題について検討します。刑事施設の参観も実施します(昨年度は沖縄刑務所、府中刑務所、市原刑務所、北九州医療刑務所、北九州自立更生促進センターなどを参観しました)。相談の上、ゼミ論文集の刊行を目指します。

教科書 /Textbooks

○Larry J. Siegel, Criminology 11th ed., Wadsworth: Belmont, CA. 2012

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ジェフリー・ライマン/ポール・レイトン著『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ：アメリカ刑事司法制度失敗の実態』(花伝社、2011)
○サミュエル・ウォーカー著『民衆司法—アメリカ刑事司法の歴史—』(中央大学出版部、1999)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(アメリカの刑事司法制度の概観)
- 2回 Siegel, Ch. 17 Police and Society
- 3回 Siegel, Ch. 17 Law Enforcement Agencies Today
- 4回 Siegel, Ch. 17 Preventing and Deterring Crime
- 5回 Siegel, Ch. 17 Targeting Crimes
- 6回 Siegel, Ch. 17 Investigating Crime
- 7回 Siegel, Ch. 17 Changing the Police Role
- 8回 施設参観予定
- 9回 Siegel, Ch. 17 The Adjudication Process
- 10回 Siegel, Ch. 17 Court Structure
- 11回 Siegel, Ch. 17 Actors in the Judicatory Process
- 12回 Siegel, Ch. 17 Pretrial Procedures
- 13回 Siegel, Ch. 17 Criminal Trial
- 14回 ビデオ鑑賞 Netflix「殺人者への道」(原題 Making a Murderer)
- 15回 17章 まとめ(質疑応答)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% レポート...40%

刑事学専門演習Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題読書として指定されたテキストの該当箇所を毎回事前に読み込んでおくこと。
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

履修上の注意 /Remarks

犯罪学および刑事司法政策I及びIIの講義科目、3年次「刑事学専門演習I及びII」を履修済みであることが望ましい。
「刑事学専門演習Ⅲ」は、「刑事学専門演習Ⅳ」と一体的・連携的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、アメリカの代表的な犯罪学テキストであるLarry J. Siegel, Criminology 11th ed., 2012、Ch. 18 (pp. 618-657)を輪読します。専門演習Ⅳでは、とくにアメリカの刑罰及び矯正制度について検討します。刑事施設の参観も実施します（刑事学専門演習Ⅲと同じ）。相談の上、ゼミ論文集の刊行を目指します。

教科書 /Textbooks

Larry J. Siegel, Criminology 11th ed., Belmont, CA: Wadsworth, 2012

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェフリー・ライマン/ポール・レイトン著『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ：アメリカ刑事司法制度失敗の実態』（花伝社、2011）
- サミュエル・ウォーカー著『民衆司法——アメリカ刑事司法の歴史——』（中央大学出版部、1999）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Siegel, Ch. 18 A Brief History of Punishment
- 2回 Ch. 18 The Goals of Punishment
- 3回 Ch. 18 How People Are Sentenced
- 4回 Ch. 18 The Death Penalty
- 5回 Ch. 18 The Death Penalty---continued
- 6回 Ch. 18 ビデオ鑑賞「アイリーン」(原題 Life and Death of a Serial Killer)
- 7回 施設参観予定
- 8回 Ch. 18 Correcting Criminal Offenders
- 9回 Ch. 18 Probation
- 10回 Ch. 18 Jails
- 11回 Ch. 18 Prisons
- 12回 Ch. 18 Prisons---continued
- 13回 Ch. 18 Parole
- 14回 Ch. 18 まとめ (質疑応答)
- 15回 Ch.18 ゼミ論文集の企画編集

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、テキストの指定された箇所を事前に読み込んでおくこと。
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

刑事学専門演習Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

犯罪学および刑事司法政策I&IIを履修済みまたは履修中であることが望ましい。参考書として指定したアメリカ刑事司法制度に関する文献を事前に可能な限り、読むことを強く推奨します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習I【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

社会保障法判例研究（又は基本文献講読）を中心に行う。
実際の判決文を一つ一つ丁寧に読み進めることを通じて、講義では触れられない詳細な法理論を身につける訓練をする。
また、判例研究以外にも、受講者の希望によって、一定のテーマに特化した報告という形態も考えられる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じて適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

取り上げる判例や報告順序等については、受講者と相談の上決定する。
基本的に2回の演習で1つの判例・テーマを取り上げ、グループによる報告・検討を基礎に、全員で討論を行う。これを通じて、当該問題・課題に対する自らの見解をまとめあげる。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回・第3回 第1報告・討論・意見交換
- 第4回・第5回 第2報告・討論・意見交換
- 第6回・第7回 第3報告・討論・意見交換
- 第8回 中間相互評価会
- 第9回・第10回 第4報告・討論・意見交換
- 第11回・第12回 第5報告・討論・意見交換
- 第13回・第14回 第6報告・討論・意見交換
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、討論への参加等、総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させる。

社会保障法専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

2学期に開講する「社会保障法専門演習II」も併せて受講すること。
「社会法総論」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講していると、関心も深まりやすく、多くの視点から分析できるようになる。
各回のテーマ理解に必要な基本的事項は、予習・復習により理解の定着を図り、その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

1学期に社会保障法専門演習Iを受講した者を対象とし、引き続き社会保障法判例研究（又は基本文献講読）を中心に行う。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じて適宜レジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

取り上げる判例や報告順序等については、受講者と相談の上決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回・第3回 第1報告・討論・意見交換
- 第4回・第5回 第2報告・討論・意見交換
- 第6回・第7回 第3報告・討論・意見交換
- 第8回 中間相互評価会
- 第9回・第10回 第4報告・討論・意見交換
- 第11回・第12回 第5報告・討論・意見交換
- 第13回・第14回 第6報告・討論・意見交換
- 第15回 今年度全体の総まとめと来年度の課題設定

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

1学期に開講する「社会保障法専門演習I」も併せて受講すること。
「社会法総論」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講していると、関心も深まりやすく、多くの視点から分析できるようになります。
各回のテーマ理解に必要な基礎的事項については、予習・復習により定着を図り、その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障法専門演習II 【昼】

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

主として「社会保障法専門演習Ⅰ・Ⅱ」を昨年度以前に受講済みの者を対象とし、社会保障法分野において、自らの関心のある特定のテーマを設定し、それについての判例及び学術論文を輪読・討論する。最終的には、2学期終了時に一定のゼミ論文を作成・提出してもらう。そのための指導の一環として位置付けているので、その点を考慮した上、受講すること。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。各人の研究テーマに応じて、適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講者と相談の上決定する。

- 第1回 各自の問題関心の具体化
- 第2回～第3回 それぞれの問題関心に沿った学術文献を探す
- 第4回～第14回 各自持ち寄った文献を参加者全員で輪読し討論する。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させ、自身の論文に活かす。

履修上の注意 /Remarks

時間帯等については、受講者と相談の上決定する。
各自が問題関心をしっかり持ち、論文執筆に向け努力を怠らないことが重要。
そのため、講義等を通じて指摘された事項について、各自予習・復習を行うとともに、自発的な授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

津田の担当する「個別研究指導Ⅰ」を受講済みの者を対象とし、1学期に引き続き、自らの関心のある特定のテーマについて、ゼミ論文を作成・提出するための指導を行う。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。各人の研究テーマに応じて適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談の上決定する。

- 第1回 1学期および夏季休業期間中の総括
- 第2回～第14回 各受講者の論文指導
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。

ゼミへの参加・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 自身の論文に向き合い、疑問点・課題を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させ、論文に反映させる。

履修上の注意 /Remarks

時間帯等については、受講生と相談の上決定する。

ゼミ論執筆のため、各自予習・復習を怠らず、講義等を通じて指摘された事項についての授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習は、下記教科書に掲載されている労働法に関する具体的な事例を素材として、現在の労働法がどのようなルールを採用しているかを把握し、そのルールが本当に正しいかを受講者全員で議論するものです。労働をめぐる現代的な諸課題について議論し、一定の結論に至ることのできる能力を涵養するところに本演習の目的があります。

教科書 /Textbooks

大内伸哉編著『労働法演習ノート』（弘文堂、2011年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○土田道夫『労働契約法 第2版』（有斐閣、2016年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業で扱うテーマは、各自の興味、関心に応じて設定します。あえて例示すると、以下のような進捗が考えられます。

- 第1回 男女雇用機会均等法
- 第2回 障害者雇用差別禁止法
- 第3回 正社員と非正社員の均衡処遇
- 第4回 解雇
- 第5回 有期労働契約
- 第6回 労働者派遣
- 第7回 労働時間
- 第8回 休日、休暇
- 第9回 過労死
- 第10回 配転
- 第11回 出向、転籍
- 第12回 成果主義賃金
- 第13回 就業規則による労働条件の変更
- 第14回 高年齢者の雇用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 発言の度合い・授業態度...40% レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者が周到な準備をしてくることは当然ですが、報告者でない学生諸君にも、毎回、自らの考えや意見を提示していただきます(事前学習)。また、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること(事後学習)が重要です。

労働法専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

2学期の「労働法専門演習II」も同時に履修して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習は、下記教科書に掲載されている労働法に関する具体的な事例を素材として、現在の労働法がどのようなルールを採用しているかを把握し、そのルールが本当に正しいかを受講者全員で議論するものです。労働をめぐる現代的な諸課題について議論し、一定の結論に至ることのできる能力を涵養するところに本演習の目的があります。

教科書 /Textbooks

大内伸哉編著『労働法演習ノート』（弘文堂、2011年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

土田道夫『労働契約法 第2版』有斐閣、2016年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業の進行は、各自の興味や関心に応じて選択されたテーマによりますが、あえて例示すると、以下のような進行が考えられます。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 労働組合の歴史
- 第3回 ストライキ
- 第4回 組合活動
- 第5回 団体交渉
- 第6回 支配介入と不利益取扱い
- 第7回 労働組合法上の労働者
- 第8回 労働協約による労働条件変更
- 第9回 労働組合による労働者の統制
- 第10回 コーポレートガバナンスと労働組合
- 第11回 公共部門の労使関係法
- 第12回 従業員代表制度
- 第13回 労働組合の存在意義
- 第14回 労使関係法の将来
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 発言の度合い・授業態度...40% レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者が周到な準備をしてくることは当然ですが、報告者でない学生諸君にも、毎回、自らの考えや意見を提示していただきます(事前学習)。また、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること(事後学習)が重要です。

労働法専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

1学期の「労働法専門演習I」も同時に履修して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自が労働問題の中から任意に選択したテーマについて、一定の成果物（レポートあるいは論文）を完成させること、これが、この演習の目的です。正社員と非正社員の処遇格差、過労死、雇用差別、賃下げや解雇といった現代的な労働問題について、各自が文献を調査、分析し、報告するという形で演習を進めます。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業で扱うテーマは、各自の興味、関心に応じて設定します。あえて例示すると、以下のような進捗が考えられます。

- 第1回 男女雇用機会均等法
- 第2回 障害者雇用差別禁止法
- 第3回 正社員と非正社員の均衡処遇
- 第4回 解雇
- 第5回 有期労働契約
- 第6回 労働者派遣
- 第7回 労働時間
- 第8回 休日、休暇
- 第9回 過労死
- 第10回 配転
- 第11回 出向、転籍
- 第12回 成果主義賃金
- 第13回 就業規則による労働条件の変更
- 第14回 高年齢者の雇用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末に提出されるレポート（60%）と発言を通じた授業への参加度合い（40%）によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者が周到な準備をしていくことは当然ですが、報告者でない学生諸君にも、毎回、自らの考えや意見を提示していただきます（事前学習）。また、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

労働法専門演習Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自が労働問題の中から任意に選択したテーマについて、一定の成果物（レポートあるいは論文）を完成させること、これが、この演習の目的です。労働組合の存在意義、ストライキ、組合活動、労働協約などをめぐる現代的な労働問題について、各自が文献を調査、分析し、報告するという形で演習を進めます。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業の進行は、各自の興味や関心に応じて選択されたテーマによりますが、あえて例示すると、以下のような進行が考えられます。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 労働組合の歴史
- 第3回 ストライキ
- 第4回 組合活動
- 第5回 団体交渉
- 第6回 支配介入と不利益取扱い
- 第7回 労働組合法上の労働者
- 第8回 労働協約による労働条件変更
- 第9回 労働組合による労働者の統制
- 第10回 コーポレートガバナンスと労働組合
- 第11回 公共部門の労使関係法
- 第12回 従業員代表制度
- 第13回 労働組合の存在意義
- 第14回 労使関係法の将来
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末に提出されるレポート（60％）と発言を通じた授業への参加度合い（40％）によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者が周到な準備をしてくることは当然ですが、報告者でない学生諸君にも、毎回、自らの考えや意見を提示していただきます（事前学習）。また、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

労働法専門演習Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法専門演習I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、いわゆる「国際問題」に関連する「事例」や「判例（国内判例も含む）」等の研究を通じ、国際社会を規律する主要な法体系としての「国際法」が、規範の面で、またそれを担保するシステムの面で、どのような現状に置かれているのか、また、国際政治や国際経済などどのようにかかわってきているのか、その理解をより一層深めていくことを目的とします。
また社会人基礎力として必要とされる諸能力の涵養を目指します。

教科書 /Textbooks

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂，2015年） 1500円+税
必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，係決め
- 第2回 リサーチの仕方
- 第3回 特定課題テーマの提示と調査
- 第4回 フリー・ディスカッション
- 第5回 学生が選定するグループ課題①
- 第6回 グループ準備（テーマ調査）
- 第7回 グループ準備（主張等の整理）
- 第8回 グループ準備（プレゼン資料の作成）
- 第9回 発表等
- 第10回 学生が選定するグループ課題②
- 第11回 グループ準備（テーマ調査）
- 第12回 グループ準備（主張等の整理）
- 第13回 グループ準備（プレゼン資料の作成）
- 第14回 発表等
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。

- ゼミへの参加...100%
- 課題①への取り組み...40%
- 課題②への取り組み...40%
- 授業への貢献...20%

国際法専門演習I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

実際の指導は選抜時より始めます。予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。受講申請にあたってはこの点に注意してください。
国際法専門演習IIとセットで受講してください。
4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード /Keywords

【事例 / 判例研究を通じた国際法の基本的運用力の涵養】 【社会人基礎力の涵養】

国際法専門演習II【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、学生が社会に出る / 出ようとするときに、国際法ゼミで勉強してきたことを少しでも活かすことができるようにするためのプログラムを用意します。つまりなぜこの仕事・進路をしようとしているのかとの問いに対し、大学の国際法ゼミで勉強してきたなかで○○の点に興味を持ったからですと明確に答えられるようにするためのプログラムです。ここまでやりましたと胸を張って言えるものを、頑張って一緒に作って行きましょう。

教科書 /Textbooks

必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，役職決め
- 第2回 国際法ゼミとの関連でのキャリア研究：グループ分け
Group A: 自治体と国際法
Group B: 企業と国際法
Group C: 国際機関と国際法 など
- 第3回 グループによる予備調査①
- 第4回 グループによる予備調査②
- 第5回 精読文献等の選定・提出（各グループ）
- 第6回 文献精読①「自治体と国際法G」（全員）
- 第7回 同②「企業と国際法G」（全員）
- 第8回 同③「国際機関と国際法G」（全員）
- 第9回 グループ作業（プレゼン準備）
- 第10回 グループ作業（プレゼン準備）
- 第11回 グループ作業（プレゼン準備）
- 第12回 Group Aの発表
- 第13回 Group Bの発表
- 第14回 Group Cの発表
- 第15回 まとめ

国際法専門演習II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。

- ゼミへの参加...100%
- 課題①への取り組み...40%
- 課題②への取り組み...40%
- 授業への貢献...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。
国際法専門演習Iとセットで受講してください。4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード /Keywords

【キャリアと国際法】

国際法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。
受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者のニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第I段階

- ①問題意識の確認→ゼミ論文のテーマ設定
- ②論文作成の可能性の探究→関連文献リストの作成

第II段階

- ①問題の所在の明確化→事実関係等の整理
- ②先行研究の整理→文献報告
- ③関連文献の整理→情報カードの作成・蓄積

第III段階 ゼミ論文のアウトラインの作成・報告会

予定

- 第1回 インTRODクシヨN【ゼミ論文作成の流れの理解】
- 第2回 問題意識の確認①【ゼミ論文のテーマに関する個別相談・指導】
- 第3回 問題意識の確認②【ゼミ論文のテーマの設定・報告会】
- 第4回 論文作成の可能性の探究【関連文献リストの作成・読み込みスケジュールの策定・報告会】
- 第5回 関連文献等の読み込みによる事実関係等の整理と問題の所在の明確化【個別相談・指導】
- 第6回 問題の所在の明確化【論文の意義の明確化・報告会】
- 第7回 先行研究の精読とレジュメ作成，報告①【文献A】
- 第8回 先行研究の精読とレジュメ作成，報告②【文献B】
- 第9回 先行研究の精読とレジュメ作成，報告③【文献C】
- 第10回 先行研究の精読とレジュメ作成，報告④【文献D】
- 第11回 先行研究の精読とレジュメ作成，報告⑤【文献E】
- 第12回 関連文献の整理①【進捗状況の相談・指導：第1次】
- 第13回 関連文献の整理②【進捗状況の相談・指導：第2次】
- 第14回 ゼミ論文のアウトラインの構想【個別相談・指導】
- 第15回 ゼミ論文のアウトラインの報告会【章・節・項レベルの目次設定，「はじめに」の文章化】

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。
アサインメントの実施状況...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。
受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。

国際法専門演習Ⅳとセットで受講してください。

なお無断欠席をした者はもちろん欠席が複数回にわたる者や、やる気の感じられない者に対しては、本研究論文指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業時に「大学時代、これだけは一生懸命に勉強しました。」と、自信を持って、胸を張って、言えるようになるために、一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

【ゼミ論文】【課題研究】

国際法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者の人数やニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第Ⅳ段階

- ①ゼミ論文アウトラインの確定
- ②ゼミ論文の中間報告

第Ⅴ段階

- ①ゼミ論文初稿の提出→添削指導→修正
- ②ゼミ論文第2稿の提出→添削指導→再修正

第Ⅵ段階

ゼミ論文完成稿の提出→ゼミ論文集に

予定

- 第1回 インTRODクシヨン【ゼミ論文完成までの流れ】
- 第2回 アウトラインの確定【報告会】
- 第3回 中間報告に向けた進捗状況のチェック①【第1章，個別相談・指導】
- 第4回 中間報告に向けた進捗状況のチェック②【第2章，個別相談・指導】
- 第5回 中間報告に向けた進捗状況のチェック③【第3章，個別相談・指導】
- 第6回 中間報告と質疑応答①【担当A】
- 第7回 中間報告と質疑応答②【担当B】
- 第8回 中間報告と質疑応答③【担当C】
- 第9回 中間報告と質疑応答④【担当D】
- 第10回 中間報告と質疑応答⑤【担当E】
- 第11回 中間報告と質疑応答⑥【担当F】
- 第12回 初校の提出と相互チェック【添削指導】
- 第13回 二校の提出【添削指導】
- 第14回 最終校の提出
- 第15回 まとめ【論文集の作成】

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況とゼミ論文をもとに評価します。
アサインメントの実施状況...50% ゼミ論文...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていってもらう必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保してもらうことになります。受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。
国際法専門演習Ⅲとセットで受講してください。
なお無断欠席をした者はもちろん欠席が複数回にわたる者や、やる気の感じられない者に対しては、本研究論文指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

あともう一踏ん張りです。卒業時に「大学時代、これだけは一生懸命に勉強しました。」と、自信を持って、胸を張って、言えるようになるために、一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

【ゼミ論文】 【課題研究】 【ゼミ論文集】

民法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。そこで、家族法の判例や事例問題を各自で分担して研究発表する形でゼミを行ないます。個々の規定や制度の検討を通じて、民法の理想とする家族像、家族関係のあるべき姿を一緒に考えていただきたいと思います。

この「民法専門演習I」では、親族法上の問題を演習で取り扱うテーマとします。相続法上の問題は「民法演習II」で扱います。

到達目標は以下の通りです。

- ・ 親族法上の重要論点を知り、論点解明に必要な判例や学説を主体的に検索収集、分析整理することができるようになっていただきます。
- ・ 問題解決に向けた説得力のある立論ができるようになっていただきます。

教科書 /Textbooks

水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選III親族・相続』有斐閣 2016年 2,100円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 有地 亨『新版家族法概論 補訂版』法律文化社 2005年
- 泉 久雄『親族法』有斐閣 1997年
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年
- 内田 貴『民法IV [補訂版] 親族・相続』有斐閣 2004年
- 大村敦志『家族法 [第2版補訂版]』有斐閣 2004年
- 中川善之助＝泉 久雄『相続法 (第4版)』有斐閣 2000年
- 窪田充見『家族法』有斐閣 2011年
- 二宮周平『家族法 第3版』新世社 2009年
- 我妻 栄『親族法』有斐閣 1951年

民法専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定(その1)
- 3回 判例検索・文献検索の方法
- 4回 判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
- 5回 担当者報告及び討論(1)【基本文献】
- 6回 担当者報告及び討論(2)【関連文献】
- 7回 担当者報告及び討論(3)【大審院及び最高裁判例】
- 8回 担当者報告及び討論(4)【下級審裁判例】
- 9回 担当者報告及び討論(5)【判例研究】
- 10回 報告内容・担当者の決定(その2)
- 11回 担当者報告及び討論(1)【基本文献】
- 12回 担当者報告及び討論(2)【関連文献】
- 13回 担当者報告及び討論(3)【大審院及び最高裁判例】
- 14回 担当者報告及び討論(4)【下級審裁判例】
- 15回 担当者報告及び討論(5)【判例研究】 ・ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート(6,000字程度)……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告判例の解説や基本書を参照しながら事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や教科書、参考書を参照しながら、事案、判旨、論点をまとめたノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジュメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。

「親族法」、「相続法」だけでなく、「法律の読み方」、民法財産法の講義科目をすべて履修しておくこと、一層理解が深まると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミ論文集を作成して研究の成果をまとめます。論文集掲載に向けて、研究に主体的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

民法専門演習I【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「債権法判決研究（民事判例研究報告および判例評釈執筆）」。本演習では、民法（財産法分野）、なかでも、債権法分野に関わる重要判決の分析を通じて、最高裁判所（または大審院）がその判決理由の中で示した（定立した）と考えられる「規範（判例）」の抽出および当該規範の「射程」等の検討を行う。ゼミ生諸君は、まず、この「専門演習I」において、民事判例研究報告、質疑・応答および教員による解説・補論等を通じて、判決の読み方（判例〔規範〕の分析手法）の基礎・基本を徹底的に叩き込まれることになる。このような「法的思考（特に、法的三段論法に拠る判決の分析）の練磨」を通じて、判例評釈を執筆する基礎体力をまずは涵養していただく。

さらに、ゼミ生同士の議論や教員との議論（「規範」の抽出をめぐって、また、債権法上の種々の諸制度に関する知識・理解に関して）を通じて、自身の見解（法的思考のプロセスおよび判断）を、他者に対して分かりやすく、説得力あるかたちで正確に発信する力（議論は当然のこと、判例評釈を執筆するという形においても。）も養われるであろう。ちなみに、今年度演習では、2017（平成29）年6月に公布（施行は2020年4月頃？）された改正民法についても、その内容を逐次フォローする。そして、改正前民法下および改正民法下において、研究報告で扱う判決の位置づけ等がどのように変容するのについても、議論・考究を深めていければと考えている。

よって、これら種々の【力】を向上させるためにも、報告・議論等への積極的参加は、本演習における絶対的義務であることを申し述べておきたい。

教科書 /Textbooks

- ①窪田 充見＝森田 宏樹（編）『民法判例百選II 債権 [第8版]（別冊ジュリスト238号）』（有斐閣、2018年3月刊行予定）；定価（未定；教科書販売時期までに確定した情報を提供します。）
 - ②陶久利彦『法的思考のすすめ〔第2版〕』（法律文化社、2011年）；定価（1,800円＋税）
 - ③最新版（年度）の六法（判例つき六法が望ましい。）
 - ④民法（債権各論または契約法）の基本書・体系書（改正民法にも対応しているものが望ましい。）
 - ⑤潮見佳男『民法（債権関係）改正法の概要』（金融財政事情研究会、2017年）；定価（3,200円＋税）
- ※上記「5点セット」を毎回必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

民法専門演習Ⅰ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容は、ゼミ受講人数等により若干左右されるので、あくまで「めやす」である。

第1回：ガイダンス（自己紹介、ゼミ役職等の決定）

第2回：「法的思考」の再確認—最大判 昭和40年11月24日 民集19巻8号2019頁を素材として—および報告順・報告する最高裁（大審院）判決の決定（※教科書①掲載の判決から選択すること。）

第3回：改正民法の概略研究（教科書②を用いる。各自検討を深めておくこと。なお、教科書②についても、各自で分析を進めておくこと。）

第4回：教員による「民事判例研究報告」その①（採り上げる判決は、最（二小）判 昭和43年2月23日 民集22巻2号281頁とする。報告および質疑応答（事案の理解および最高裁の判決理由のロジックの検討【法的三段論法に依拠した解析】）※改正前民法下における本判決の位置づけについての議論）

第5回：教員による「民事判例研究報告」その②（議論中心。特に、報告対象とした最高裁判決の「改正前民法下における位置づけ」が改正によってどのように変容していくと考えられるかについて、議論を深めたい。）

第6回：ゼミ生（2018年度は5名予定）Aによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）

第7回：ゼミ生Aによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（判決の射程等の分析、改正民法下における当該判決の位置づけについての分析、および教員による補足）

第8回：ゼミ生Bによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）

第9回：ゼミ生Bによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（判決の射程等の分析、改正民法下における当該判決の位置づけについての分析、および教員による補足）

第10回：ゼミ生Cによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）

第11回：ゼミ生Cによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（判決の射程等の分析、改正民法下における当該判決の位置づけについての分析、および教員による補足）

第12回：ゼミ生Dによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）

第13回：ゼミ生Dによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（判決の射程等の分析、改正民法下における当該判決の位置づけについての分析、および教員による補足）

第14回：ゼミ生Eによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）

第15回：ゼミ生Eによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（判決の射程等の分析、改正民法下における当該判決の位置づけについての分析、および教員による補足）および「まとめ」

※なお、（実務家（弁護士）をお招きして、要件事実〔論〕入門特別ゼミ等を別途実施する予定である。）

※8月初旬に、民事判例研究報告で扱った判決についての「判例評釈」をレポートとして提出してもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

※演習における発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容など……50%

※【注意】期末定期試験の成績……20%（※福本担当の「専門演習Ⅰ」では期末定期試験を実施するので、必ず受験すること。試験範囲は、「改正民法」によってこれまでの位置づけが大きく変わる代表的最高裁判決とする。）

※レポート（判例評釈）の内容……30%

【注意】レポート（判例評釈）未提出者には単位を付与しないので、注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、当然のことだが、報告に当たっていないゼミ生には、報告担当ゼミ生が扱う判決について、各種評釈・調査官解説などを熟読し、ゼミにおいて積極的に質問ができるよう入念に準備をしていくことが求められる。

事後学習として、民事判例研究報告で扱われた最高裁判決が改正民法下においてどのような新たな位置づけを与えられるかについて、ゼミでの議論を踏まえ、ミニ・レポートを作成することが求められる。

履修上の注意 /Remarks

教科書②および③をゼミ開講後、できる限り早い段階（できれば、ゼミ開講前段階）で通読しておくことが望ましい。民事判例研究報告の準備等を入念に行うのは当然のことである。また、民事訴訟法の基本書・体系書もできれば読んでおいてもらいたい。その他、注意点として、民法（財産法）科目は当然のこと、「民事訴訟法総論・各論」も受講しておくこと。ゼミにおける議論に大いに役立ち、議論の内容の深みが増すものと思われる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2018年度福本ゼミは、これまでの正統な当ゼミの伝統を受け継ぎ、アットホームな雰囲気を守りつつも厳しいゼミでありたいと想っています。ゼミは、ゼミ生が主役です。議論の盛り上がり大いに期待しています。

キーワード /Keywords

債権法判決研究、法的三段論法、判例評釈、改正民法下における従来の最高裁判決の位置づけを考える

民法専門演習Ⅰ【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅰ

SEM311M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている民法（特に債権法分野）改正について考える。民法改正をめくっては、2017年5月に改正法が成立したわけであるが、学習という観点からは、『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』（商事法務、2009年）も重要である。この授業では、その中の前の4分の1について考えることとしたい。常に、現行民法、基本方針、改正法の三者を比較検討することが望まれる。この授業は、法律学科所定のいわゆるゼミ募集で選抜された者のみが受講資格を有する。この授業に参加することで、民法の考え方が養われる。演習科目であるから、復習よりも、各自の担当箇所の予習が重要である。

教科書 /Textbooks

なし。但し、上記の『債権法改正の基本方針』（商事法務）は、購入すると、理解しやすい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 民法典の対象と編別について、法律行為
- 3回 意思表示（錯誤まで）
- 4回 意思表示（詐欺以降）
- 5回 代理、授權
- 6回 表見代理、無権代理
- 7回 無効、取消、条件、期限
- 8回 期間、時効等
- 9回 債権・通則、契約の成立
- 10回 契約の無効及び取消、契約の内容
- 11回 債権の基本的効力
- 12回 強制履行、損害賠償
- 13回 解除
- 14回 受領遅滞、期間制限、事情変更
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業のときに一定の回数、出席し、かつ報告をしていることを前提に、レポート……100%

民法専門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として民法総則及び債権総論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意 /Remarks

上記「授業の概要」の項目を参照のこと。他の科目と同様、六法は、持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

民法専門演習I【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

担保物権法の判例研究を行う。
取り扱う判例は、『民法判例百選 総則・物権（第7版）』に収録されているものの中から、受講者の希望等を踏まえて決定する（下記の「授業計画・内容」は一例である）。
授業の進め方については、原則として、2週間（2回）で1つの判例を分析する予定である。
1週目は、指定された判例を理解する上で必要な基礎知識を、担保物権法の講義で使用した教科書を用いて全員で確認する。
そして2週目は、指定された判例について、受講者が判例百選の解説を各自で事前に読んできていることを前提に、その判例の意義・学説の状況・結論の妥当性等を受講者全員で議論する。
この授業を通して、判例評釈を読んでその内容を理解する力、判例を多面的に分析する力を養成する。

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II—物権（第3版補訂）』（有斐閣Sシリーズ，平成22年） 本体1900円＋税
潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選 総則・物権（第7版）』（有斐閣，平成27年） 本体2100円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 留置権の対抗力(1)【基礎知識の確認】
- 第3回 留置権の対抗力(2)【判例研究】
- 第4回 民法295条2項の類推適用(1)【基礎知識の確認】
- 第5回 民法295条2項の類推適用(2)【判例研究】
- 第6回 抵当権の効力の及ぶ範囲(1)【基礎知識の確認】
- 第7回 抵当権の効力の及ぶ範囲(2)【判例研究】
- 第8回 抵当権の物上代位(1)【基礎知識の確認—賃料債権】
- 第9回 抵当権の物上代位(2)【判例研究—賃料債権】
- 第10回 抵当権の物上代位(3)【基礎知識の確認—債権譲渡との優劣】
- 第11回 抵当権の物上代位(4)【判例研究—債権譲渡との優劣】
- 第12回 先取特権の物上代位(1)【基礎知識の確認】
- 第13回 先取特権の物上代位(2)【判例研究—請負代金債権】
- 第14回 先取特権の物上代位(3)【判例研究—一般債権者の差押え】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

民法専門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中の議論に参加できるように，教科書や判例百選の解説を事前にしっかりと読み込んで内容を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが履修の条件である。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて，ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事前に十分な準備をした上で，授業中は積極的に議論に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

民法 担保物権法 判例研究

民法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。そこで、家族法の判例や事例問題を各自で分担して研究発表する形でゼミを行ないます。個々の規定や制度の検討を通じて、民法の理想とする家族像、家族関係のあるべき姿を一緒に考えていただきたいと思います。

この「民法専門演習Ⅱ」は、相続法上の問題を演習で取り扱うテーマとします。

到達目標は以下の通りです。

- ・ 相続法上の重要論点を知り、論点解明に必要な判例や学説を主体的に検索収集、分析整理することができるようになっていただきます。
- ・ 問題解決に向けた説得力のある立論が出来るようになっていただきます。

教科書 /Textbooks

水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選Ⅲ親族・相続』有斐閣 2015年 2,100円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 有地 亨『新版家族法概論 補訂版』法律文化社 2005年
- 内田 貴『民法Ⅳ[補訂版]親族・相続』有斐閣 2004年
- 中川善之助＝泉 久雄『相続法(第4版)』有斐閣 2000年
- 泉 久雄『親族法』有斐閣 1997年
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年
- 大村敦志『家族法[第2版補訂版]』有斐閣 2004年
- 二宮周平『家族法 第3版』新世社 2009年
- 我妻 栄『親族法』有斐閣 1951年

民法専門演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定(その1)
- 3回 判例検索・文献検索の方法
- 4回 判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
- 5回 担当者報告及び討論(1) 【基本文献】
- 6回 担当者報告及び討論(2) 【関連文献】
- 7回 担当者報告及び討論(3) 【大審院及び最高裁判例】
- 8回 担当者報告及び討論(4) 【下級審裁判例】
- 9回 担当者報告及び討論(5) 【判例研究】
- 10回 報告内容・担当者の決定(その2)
- 11回 担当者報告及び討論(1) 【基本文献】
- 12回 担当者報告及び討論(2) 【関連文献】
- 13回 担当者報告及び討論(3) 【大審院及び最高裁判例】
- 14回 担当者報告及び討論(4) 【下級審裁判例】
- 15回 担当者報告及び討論(5) 【判例研究】 ・ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート(6,000字程度)……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告判例の解説や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、事案、判旨、論連をまとめたノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジュメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。
相続法は「民法専門演習I」で扱う親族法と密接に関連していますから、「家族法」だけでなく、「民法専門演習I」も履修しておくことをおすすめします。また、相続は包括的な財産の承継制度ですから、相続法について理解を深めるためには、民法財産法の知識が不可欠です。民法財産法の講義科目をすべて履修しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミ論文集を作成して研究の成果をまとめます。論文集掲載に向けて、研究に主体的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

民法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「改正民法契約法文献研究およびゼミ論文執筆」。本演習の目的・目標は、次の二つである。一つは、輪読形式による研究報告を通じて、ゼミ生みんなで、「契約法学の本格的体系書（平成29年民法（債権法）改正対応のもの）を一冊読破すること」である。この研究を通じて、ゼミ生諸君には、文献渉猟や問題点・課題の発見等といった専門分野のより高度なスキルを身につけてもらいたい。

もう一つは、「民法専門演習I」で培った債権法に関する重要判決（判例）・学説についての知見および改正民法（主に契約法分野）についての知見を駆使して、ゼミ生諸君の本演習における研究成果を「ゼミ論文」のかたちで結実させることである。さらに、他者（他のゼミ生および教員等）との議論を重ねることで、自身の見解（法的思考のプロセスおよび法的判断）を他者に対して解りやすく、説得的に伝える力を一層向上させることも本演習の目的といえる。「専門演習II」では、「書く力による発信＝ゼミ論文の執筆・添削指導」に最も重点を置く。

これら一連の営みを通じて、ゼミ生諸君には、4年次に履修することとなる必修科目「民法専門演習III・IV（福本担当クラス）」で執筆予定の「卒業論文」への「基礎固め」をしっかりと行ってもらいたい。

教科書 /Textbooks

- ①中田裕康『契約法』（有斐閣、2017年）；定価（4,800円＋税）
 - ②最新版（年度）の六法（判例付きの六法が望ましい。）
 - ③教科書①以外の民法（契約法）の体系書・基本書（改正民法にも対応しているものが望ましい。）
- ※上記「3点セット」を毎回必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

民法専門演習Ⅱ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容は、ゼミ受講人数等により変更される可能性もあるので、あくまで「めやす」である。

第1回：ガイダンス（ゼミ論文の研究テーマ設定および確認）

第2回：教科書①の輪読箇所の確認および報告順等の決定

第3回：文献輪読①（以下、レジュメを作成の上、報告・議論）〔教科書①1～74頁【序章＜民法改正と契約法＞および第1章＜契約の意義＞】）およびゼミ論文指導（論文テーマの確定）

第4回：文献輪読②（教科書①75～180頁【第2章＜契約の成立＞および第3章＜契約の効力＞】）およびゼミ論文指導（仮目次作成）

第5回：文献輪読③（教科書①181～257頁【第4章＜契約の終了＞および第5章＜契約の変更＞】）およびゼミ論文指導（目次と導入部分執筆）

第6回：文献輪読④（教科書①261～341頁【第6章＜贈与＞および第7章＜売買＞】）およびゼミ論文指導（導入部分の添削指導）

第7回：文献輪読⑤（教科書①343～485頁【第8章＜交換＞、第9章＜消費貸借＞、第10章＜使用貸借＞、および第11章＜賃貸借＞消費貸借から賃貸借の終了まで】）およびゼミ論文指導（本体部分の執筆と添削）

第8回：文献輪読⑥（教科書①487～552頁【第12章＜雇用＞、第13章＜請負＞、第14章＜委任＞、および第15章＜寄託＞】）およびゼミ論文指導（大まかな結論部分の添削指導）

第9回：文献輪読⑦・完（教科書①553～602頁【第16章＜組合＞、第17章＜終身定期金＞、および第18章＜和解＞】）およびゼミ論文指導（中間報告レジュメの添削）

第10回：（2018年度3年ゼミ生は5名を予定）ゼミ生Aの「ゼミ論文中間報告」および論文指導（添削のつづき）

第11回：ゼミ生Bの「ゼミ論文中間報告」および論文指導（添削のつづき）

第12回：ゼミ生Cの「ゼミ論文中間報告」および論文指導（添削のつづき）

第13回：ゼミ生Dの「ゼミ論文中間報告」および論文指導（添削のつづき）

第14回：ゼミ生Eの「ゼミ論文中間報告」および論文指導（添削のつづき）

第15回：まとめ（各ゼミ生の提出前荒原稿の確認）※実務家（弁護士）をお迎えしての「特別ゼミ」を実施予定。

※2019年2月初旬に、「ゼミ論文（9,000字程度）」を提出してもらおう。なお、ゼミ論文指導は、ゼミの時間内だけでは充分とはいえない。よって、自主ゼミやオフィス・アワーなども積極的に活用すること。

成績評価の方法 /Assessment Method

※ゼミ中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容（文献輪読）など……70%

※「ゼミ論文」の内容（論文執筆過程の評価も含む。）……30%

【注意】「ゼミ論文」未提出者には、原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習；文献輪読の際、次回において扱う部分について、解らない箇所を箇条書きにしたペーパーを作成し、ゼミ生間での情報（疑問点）・理解度共有を図ることが求められる。

事後学習；ゼミ論文の添削を受けて、その内容をしっかりと原稿の内容修正に活かすことが求められる。

履修上の注意 /Remarks

教科書①をゼミ開講後、できる限り早く読み進めておくことが肝要である（夏休みに必ず読破しておくこと！）。また、文献輪読報告の準備を入念に行うことは当然である。なお、「ゼミ論文」については、添付ファイルで原稿（途中経過）をゼミの前々日中までに教員に毎週送信することが望まれる。「専門演習」もⅡになると、もはや受け身の学習姿勢では、ゼミに在籍している意味は全くなってしまう。この点、特に留意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「2018年度福本ゼミ」は、常にアットホームな雰囲気になりたいと考えています。「厳しくも温かみのあるゼミ」でありたいと想っています。ゼミの主役はゼミ生。キラリと光る内容の「ゼミ論文」、大いに期待しています。

キーワード /Keywords

文献研究、改正民法（契約法）、ゼミ論文執筆

民法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている民法（特に債権法分野）改正について考える。民法改正をめぐっては、2017年5月に改正法が成立したわけであるが、学習上は、『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』（商事法務、2009年）も重要である。この授業では、全体を4分割したと仮定して、第二の4分の1の部分について考えることとしたい。現行民法、基本方針、改正法の三者を常に比較検討することが望まれる。この授業は、法律学科所定のいわゆる「ゼミ募集」で選抜された者のみが受講資格を有する。この授業に参加することで、民法の考え方が養われる。演習科目であるから、復習よりも、担当箇所等についての予習が重要である。

教科書 /Textbooks

なし。但し、上記の『債権法改正の基本方針』（商事法務）は、購入すると、理解しやすい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 債権者代位権
- 3 詐害行為取消権
- 4 弁済・総則
- 5 弁済による代位、供託
- 6 相殺
- 7 更改、一人計算
- 8 免除、混同、債権時効の対象及び時効期間
- 9 債権時効障害
- 10 債権時効期間満了の効果
- 11 債権譲渡
- 12 債務引受、契約上の地位の移転
- 13 有価証券
- 14 多数の債権者
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業のときに一定の回数、出席し、かつ報告をしていることを前提に、レポート……100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として債権総論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

民法専門演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

上記「授業の概要」の項目を参照のこと。他の法律科目と同様に、六法は、持参することが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

民法専門演習II 【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、担保物権法の判例研究を行う。
取り扱う判例は、『民法判例百選! 総則・物権（第7版）』に収録されているものの中から、受講者の希望等を踏まえて決定する（下記の「授業計画・内容」は一例である）。
授業の進め方については、原則として、2週間（2回）で1つの判例を分析する予定である。
1週目は、指定された判例を理解する上で必要な基礎知識を、担保物権法の講義で使用した教科書を用いて全員で確認する。
そして2週目は、指定された判例について、受講者が判例百選の解説を各自で事前に読んできていることを前提に、その判例の意義・学説の状況・結論の妥当性等を受講者全員で議論する。
この授業を通して、判例評釈を読んでその内容を理解する力、判例を多面的に分析する力を養成する。

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II—物権（第3版補訂）』（有斐閣Sシリーズ，平成22年） 本体1900円＋税
潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選! 総則・物権（第7版）』（有斐閣，平成27年） 本体2100円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 抵当権に基づく妨害排除請求(1)【基礎知識の確認】
- 第3回 抵当権に基づく妨害排除請求(2)【判例研究】
- 第4回 法定地上権(1)【基礎知識の確認】
- 第5回 法定地上権(2)【判例研究】
- 第6回 不動産の取得時効の完成と抵当権(1)【基礎知識の確認】
- 第7回 不動産の取得時効の完成と抵当権(2)【判例研究】
- 第8回 譲渡担保権者の清算義務(1)【基礎知識の確認】
- 第9回 譲渡担保権者の清算義務(2)【判例研究】
- 第10回 譲渡担保権の対外的効力(1)【基礎知識の確認】
- 第11回 譲渡担保権の対外的効力(2)【判例研究—複数の譲渡担保の競合】
- 第12回 譲渡担保権の対外的効力(3)【判例研究—譲渡担保と動産先取特権の競合】
- 第13回 所有権留保(1)【基礎知識の確認】
- 第14回 所有権留保(2)【判例研究】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

民法専門演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中の議論に参加できるように，教科書や判例百選の解説を事前にしっかりと読み込んで内容を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが履修の条件である。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて，ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事前に十分な準備をした上で，授業中は積極的に議論に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

民法 担保物権法 判例研究

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。そこで、家族法の判例や事例問題を各自で分担して研究発表する形でゼミを行ないます。個々の規定や制度の検討を通じて、民法の理想とする家族像、家族関係のあるべき姿を一緒に考えていただきたいと思います。

この「民法専門演習Ⅲ」では、親族法上の問題を演習で取り扱うテーマとします。相続法上の問題は「民法演習Ⅳ」で扱います。

到達目標は以下の通りです。

- ・ 親族法上の重要論点を知り、論点解明に必要な判例や学説を主体的に検索収集、分析整理することができるようになっていただきます。
- ・ 問題解決に向けた説得力のある立論ができるようになっていただきます。

教科書 /Textbooks

水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選Ⅲ親族・相続』有斐閣 2015年 2,286円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 有地 亨『新版家族法概論 補訂版』法律文化社 2005年
- 泉 久雄『親族法』有斐閣 1997年
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年
- 内田 貴『民法Ⅳ[補訂版]親族・相続』有斐閣 2004年
- 大村敦志『家族法[第2版補訂版]』有斐閣 2004年
- 中川善之助＝泉 久雄『相続法(第4版)』有斐閣 2000年
- 窪田充見『家族法』有斐閣 2011年
- 二宮周平『家族法 第3版』新世社 2009年
- 我妻 栄『親族法』有斐閣 1951年

民法専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定(その1)
- 3回 判例検索・文献検索の方法
- 4回 判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
- 5回 担当者報告及び討論(1)【基本文献】
- 6回 担当者報告及び討論(2)【関連文献】
- 7回 担当者報告及び討論(3)【大審院及び最高裁判例】
- 8回 担当者報告及び討論(4)【下級審裁判例】
- 9回 担当者報告及び討論(5)【判例研究】
- 10回 報告内容・担当者の決定(その2)
- 11回 担当者報告及び討論(1)【基本文献】
- 12回 担当者報告及び討論(2)【関連文献】
- 13回 担当者報告及び討論(3)【大審院及び最高裁判例】
- 14回 担当者報告及び討論(4)【下級審裁判例】
- 15回 担当者報告及び討論(5)【判例研究】 ・ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート(6,000字程度)……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告判例の解説や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や教科書、参考書を参照しながら、事案、判旨、論点をまとめたノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジユメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。
「親族法」、「相続法」だけでなく、「法律の読み方」、民法財産法の講義科目をすべて履修しておくこと、一層理解が深まると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミ論文集を作成して研究の成果をまとめます。論文集掲載に向けて、研究に主体的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「卒業論文執筆に向けて-『改正民法』の内容検討および中間論文執筆-」

本演習の目的は、2つである。1つは、民法・財産法、なかでも債権法分野を主たる考察対象とした研究論文（「専門演習Ⅲ」は中間論文）の執筆である。もう一つは、平成29（2017）年6月に公布された（施行は2020年4月頃？）改正民法の概要を検討することである。この検討は、債権法研究を行い、「卒業論文」を執筆する上で必須の作業・営みといえよう。

本演習では、「民法専門演習Ⅳ（必修）」で扱う「卒業論文」執筆のための最低限の基礎的作業を行うに過ぎない。よって、当然のことだが、ゼミ生各自、分析等足りないと考え部分については、積極的に資料収集、判例研究、および文献研究等を行ってほしい。3年次の「民法専門演習Ⅰ・Ⅱ」以上に、「忍耐と根気」が要求される科目ある。したがって、生半可な気持ちでの履修は一切認めない。また、本演習では、上記「改正民法」についての研究報告を通じたプレゼンテーション能力の一層の向上も目指していく。

教科書 /Textbooks

- ① 潮見佳男『民法（債権関係）改正法の概要』（金融財政事情研究会、2017年）（定価3,200円＋税）
- ② 最新版（年度）の六法（判例付きのものが望ましい。）
- ③ 受講ゼミ生が普段使用している債権法の体系書・基本書（改正民法にも対応のものが望ましい。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※中間論文執筆に当たって参照すべき文献・資料等は、ゼミ生および教員が適宜、情報提供・渉猟する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・スケジュールは、受講人数等の諸事情により若干変更される場合がある。よって、一応のめやすに過ぎない。

- 第1回：ガイダンス（卒業論文構想発表）※3年次の研究テーマから変更する者は、事前に教員まで必ず相談しておくこと。
- 第2回：「改正民法」の検討・報告箇所の決定、および中間論文執筆指導開始（研究計画をしっかりと立てて、ゼミの時間以外にもこまめに研究室に向くなどして、論文指導を受けること。）
- 第3回：改正民法成立までの軌跡についての講義（いわゆる『債権法改正の基本方針』から『民法改正法案』可決まで）（教員による解説）
- 第4回：改正民法の検討①（※教科書①を熟読の上、レジュメを作成して報告・議論。以下、同じ。）【改正民法1条～98条の2まで】
- 第5回：改正民法の検討②【改正民法99条～174条まで】
- 第6回：改正民法の検討③【改正民法399条～472条の4まで】
- 第7回：改正民法の検討④【改正民法473条～520条の20まで】
- 第8回：改正民法の検討⑤【改正民法521条～554条まで】
- 第9回：改正民法の検討⑥【改正民法555条～642条まで】
- 第10回：中間論文プレ報告（※報告30分程度、質疑応答60分程度予定）および添削指導。
- 第11回：改正民法の検討⑦【改正民法643条～666条まで】
- 第12回：改正民法の検討⑧【改正民法667条～696条まで】
- 第13回：改正民法の検討⑨【改正民法697条～708条まで】
- 第14回：改正民法の検討⑩・完【改正民法709条～724条の2まで】
- 第15回：まとめ（中間論文報告会；報告時間は45分とする。）

民法専門演習Ⅲ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

※ゼミ中の発言・報告内容（改正民法についての研究内容の質の高さ）、議論への参加の度合い……30%

※「中間論文報告会」報告会の内容……20%

※中間論文の内容（8月初旬提出・10,000字程度）……50%

【注意】中間論文を提出しない者には単位は付与しない。また、十分な指導を受けずに中間論文を提出した場合も先に同じとみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習；教科書①を事前に熟読して、改正民法の諸制度について、理解を深めておくことが求められる。

事後学習；中間論文の添削指導を受けた後、必ずその内容を確認・吟味し、執筆中の原稿の内容修正に活かすことが求められる。

履修上の注意 /Remarks

中間論文執筆に際して、教員が事前に指示した文献・資料等を必ず調べてくること。また、添削内容を必ず原稿の内容に活かすこと。これらの作業をコツコツとこなしていくことが肝要である。よって、これらの作業を怠る者には、単位は付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

じっくり腰を据えて、「卒業論文」の土台を創り上げていきましょう！併せて、改正民法の内容にも目を向けよう！

キーワード /Keywords

卒業中間論文、改正民法

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている民法（特に債権法分野）改正について考える。昨年5月に民法改正法が成立したが、しかし、学習という観点からは『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』（商事法務、2009年）も重要である。この授業では、全体を4分割したと仮定して、第三の4分の1の部分について考えることとしたい。適宜、現行民法、基本方針、改正法の三者を比較検討することが望まれる。この科目の履修は、所定の法律学科ゼミ募集において、担当者から出席可と言われた者に限る。この講義に参加することで、民法の考え方が養われる。

教科書 /Textbooks

なし。但し、上記の『債権法改正の基本方針』は、購入すると、理解しやすい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 多数の債務者
- 3 一般の保証
- 4 連帯保証、根保証
- 5 売買の意義と成立
- 6 売主の義務
- 7 売買の場合の各種担保責任
- 8 買主の義務
- 9 特殊の売買、交換、贈与の意義と成立
- 10 贈与の効力
- 11 特殊の贈与
- 12 質貸借の意義と成立、第三者との関係
- 13 質貸人の義務、質借人の義務
- 14 質貸借の終了、使用貸借
- 15 まとめ、レポートの提出

なお、受講生の関心により、上記のテーマに加え、別のテーマの発表となることもあり得る。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業のときに一定の報告をしていることを前提に、レポート 100%

民法専門演習Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として債権総論及び各論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意 /Remarks

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むこと。
但し、他の科目と同様に、六法は、持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が各自関心を持っている担保物権法の判例について、判例研究をしてもらう。
毎回の授業は、担当者による判例研究の報告と、それに対する質疑応答という形で進めていく予定である。
判例研究を通して、判例を様々な角度から分析する力を養成する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 判例研究の方法，報告の割り当て
- 第3回～第14回 判例研究（報告担当者による報告，質疑応答）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（報告の内容，質疑応答への参加状況などを総合的に評価）...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当者は、割り当てられた授業日に確実に報告ができるように、責任を持って準備を行うこと。
それ以外の受講者は、次回の報告担当者が報告予定の判例に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて、ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

民法 担保物権法 判例研究

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。そこで、家族法の判例や事例問題を各自で分担して研究発表する形でゼミを行ないます。個々の規定や制度の検討を通じて、民法の理想とする家族像、家族関係のあるべき姿を一緒に考えていただきたいと思います。

この「民法専門演習Ⅳ」は、相続法上の問題を演習で取り扱うテーマとします。

到達目標は以下の通りです。

- ・ 相続法上の重要論点を知り、論点解明に必要な判例や学説を主体的に検索収集、分析整理することができるようになっていただきます。
- ・ 問題解決に向けた説得力のある立論が出来るようになっていただきます。

教科書 /Textbooks

水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選Ⅲ親族・相続』有斐閣 2015年 2,286円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 有地 亨『新版家族法概論 補訂版』法律文化社 2005年
- 内田 貴『民法Ⅳ [補訂版] 親族・相続』有斐閣 2004年
- 中川善之助＝泉 久雄『相続法 (第4版)』有斐閣 2000年
- 泉 久雄『親族法』有斐閣 1997年
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年
- 大村敦志『家族法 [第2版補訂版]』有斐閣 2004年
- 二宮周平『家族法 第3版』新世社 2009年
- 我妻 栄『親族法』有斐閣 1951年

民法専門演習Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定（その1）
- 3回 判例検索・文献検索の方法
- 4回 判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
- 5回 担当者報告及び討論（1）【基本文献】
- 6回 担当者報告及び討論（2）【関連文献】
- 7回 担当者報告及び討論（3）【大審院及び最高裁判例】
- 8回 担当者報告及び討論（4）【下級審裁判例】
- 9回 担当者報告及び討論（5）【判例研究】
- 10回 報告内容・担当者の決定（その2）
- 11回 担当者報告及び討論（1）【基本文献】
- 12回 担当者報告及び討論（2）【関連文献】
- 13回 担当者報告及び討論（3）【大審院及び最高裁判例】
- 14回 担当者報告及び討論（4）【下級審裁判例】
- 15回 担当者報告及び討論（5）【判例研究】 ・ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート（6、000字程度）……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告判例の解説や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や参考書を参照しながら、事案、判旨、論点をまとめたノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジユメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。
相続法は「民法専門演習Ⅲ」で扱う親族法と密接に関連していますから、「家族法」だけでなく、「民法専門演習Ⅲ」も履修しておくことをすすめます。また、相続は包括的な財産の承継制度ですから、相続法について理解を深めるためには、民法財産法の知識が不可欠です。民法財産法の講義科目をすべて履修しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミ論文集を作成して研究の成果をまとめます。論文集掲載に向けて、研究に主体的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「『卒業論文』執筆」。本演習では、民法、なかでも債権法分野を考察対象とした研究論文の執筆を、受講生の研究進捗状況等に応じて指導する。言うまでもないが、研究論文執筆には、「受け身」ではなく、「能動的」な研究姿勢が強く求められる。この点、特に留意されたい。

また、本学法律学科卒業に相応しい基礎学力がつかいかどうか、「法学検定試験」や「期末定期試験（卒業試験的な内容）」でも判定する予定である。卒業論文の指導内容としては、参照すべき文献・裁判（判決）例などの指示・検討および論文添削である。中途半端な気持ちでの履修は一切認めないので注意すること。

なお、本演習では、法的問題点の抽出、文献収集・渉猟の力を高め、また、論文課題・分析基軸の設定を通じた課題発見・分析力等の向上、そして、2回の論文報告会等を通じたプレゼンテーション能力の一層の向上・完成をも目指すものとする。

教科書 /Textbooks

※使用しない。卒業論文執筆に必要な文献・資料等については、各自購入するなり、図書館から借りる等すること。また、教員も必要な文献等のコピーを指示・用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参照すべき文献・資料等は、ゼミ生および教員が適宜、収集・渉猟する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容は、受講人数等の諸事情により変更する場合がある。したがって、一応のめやすに過ぎない。なお、受講生が1~2名の場合、3年ゼミ「民法専門演習Ⅰ・Ⅱ」にも適宜参加してもらう予定である。

第1回：ガイダンス：論文題目・目次（概要）確認。 ※大幅な変更を考えている者は必ず開講前に相談すること。

第2回：論文指導①（仮目次の作成・指導）

第3回：論文指導②（目次の確定・分析基軸のブラッシュ・アップ）

第4回：論文指導③（導入部分の執筆・添削指導）

第5回：論文指導④（導入部分の手直しに対する再指導）

第6回：論文指導⑤（導入部分の完成および本体部分の執筆に当たっての文献渉猟等についてのアドバイス）

第7回：論文指導⑥（本体部分の添削・指導）

第8回：論文指導⑦（本体部分の添削・指導および第1回卒業論文報告会に向けたレジュメ作成の指導）

第9回：（予定）「第1回卒業論文報告会」（報告30分程度、質疑・応答60分程度を予定）

第10回：論文指導⑧（本体部分の手直し等）

第11回：論文指導⑨（本体部分の添削・指導および第2回報告会に向けたレジュメ作成の指導）

第12回：（予定）「第2回卒業論文報告会」（報告45分程度、指導45分程度を予定）

第13回：論文指導⑩（結論部分の添削・指導）

※なお、実務家（当職の高校時代からの友人である弁護士）をお招きしての「特別論文指導」も予定している。

第14回：論文指導⑪・完（結論部分の最終確認。脚注等、細部の添削）。

第15回：まとめ（論考講評および製本作業についての説明をもって「まとめ」とする。）

※2018年2月上旬：卒業論文提出。 * 論文の詳細な執筆要綱については初回ガイダンスの際に説明する。

民法専門演習Ⅳ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

※卒業論文および完成までの研究姿勢(指導内容を反映させたいうえで執筆を進めたかどうか。)……70%
※「法学検定試験」ベーシック合格または「期末定期試験(当ゼミ卒業試験)」……30%(※スタンダード・アドヴァンスト合格の場合は大幅に加点する。)

【注意】論文未提出者には、原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】論文指導の際、教員が次回指導時までには調べておくことを指示した文献・資料等については、必ず涉猟・咀嚼し、論文内容の修正に活かすこと。

【事後学習】添削指導を受けた後、書き直した論文(原稿)の内容を逐次メール等(添付ファイルで原稿を送信すること。)で教員に報告すること。この作業を着実にこなしていくことが論文完成につながる。よって、この作業を疎かにする者には一切指導は行わない。よって、単位も付与しない。

履修上の注意 /Remarks

就活が忙しいことなどを理由に卒論指導を積極的に受けない者には単位は付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2016(平成28)年度より4年ゼミが必修となったことで、本演習における「卒業論文」の位置づけは、従前以上に重要なものとなった。卒業論文を真摯に執筆しようとする受講生には、教員も最大限のサポートをさせていただく。是非、一生の宝物になる論文を書き上げよう。ゼミ生諸君の奮励努力に期待する。

キーワード /Keywords

卒業論文、債権法、卒業期末試験

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている民法（特に債権法分野）改正について考える。民法改正をめくっては、昨年5月に改正法が成立したわけであるが、学習上は、『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』（商事法務、2009年）も重要である。この授業では、全体を4分割したと仮定して、最後の4分の1の部分について考えることとしたい。適宜、現行民法、基本方針、改正法の三者を比較検討することが望まれる。そして、受講生が関心を持ったテーマについての小論文執筆も予定している。いわゆる卒論については、小論文を卒論にまで高めたいという希望者がいれば、一定の指導を行う。無理に卒論を書く必要はない。この科目の履修は、所定の法律学科ゼミ募集で担当者から出席可と言われた者に限る。この講義に参加することで、民法の考え方が養われる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 消費貸借
- 3 ファイナンス・リース
- 4 役務提供
- 5 請負
- 6 委任
- 7 寄託
- 8 雇用
- 9 組合
- 10 終身定期金、和解
- 11 第三者のためにする契約
- 12 継続的契約等、法律に基づく債権
- 13 受講生の興味を持ったテーマの小論文発表の準備（資料収集など）
- 14 受講生の興味を持ったテーマの小論文発表と検討
- 15 まとめ、レポート（小論文）の提出

なお、受講生の関心により、上記のテーマに加え、別のテーマの発表となることもあり得る。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に所定の報告をやっていることを前提に、レポート（小論文）…… 100%

民法専門演習Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として債権各論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意 /Remarks

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、受講者が各自関心を持っている担保物権法の判例について、判例研究をしてもらう。
毎回の授業は、担当者による判例研究の成果の報告と、それに対する質疑応答という形で進めていく予定である。
判例研究を通して、判例を様々な角度から分析する力を養成する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス、報告の割り当て
第2回～第14回 判例研究(報告担当者による報告、質疑応答)
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(報告の内容、質疑応答への参加状況などを総合的に評価)…100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当者は、割り当てられた授業日に確実に報告ができるように、責任を持って準備を行うこと。
それ以外の受講者は、次回の報告担当者が報告予定の判例に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法(ポケット六法等の小型のもので良い)を持参すること。
受講者の希望に応じて、ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

民法 担保物権法 判例研究

民事訴訟法専門演習Ⅰ【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習Ⅰ

SEM311M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する基本的な論点について学習し、知識を習得することを目的とします。
原則として、グループで報告してもらいます。
毎回、一つの問題、または判例について、報告グループから報告を受け、全員で討議します。

教科書 /Textbooks

初回の授業時に使用テキストを受講生と話し合いの上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義のときに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進行方法についての説明、報告グループの決定
- 2回 以下、順次、個別報告
- 3回～14回 順次、個別報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各グループで報告テーマについて、判例、学説を収集し、分析する。
グループで議論して、私見をまとめる。
レジュメを作成する。(必要な学習時間の目安は、90分)。

履修上の注意 /Remarks

各授業時間開始までに、報告課題について、教科書やその他の文献で事前学習をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的に発言してください。また、報告前には、各グループで報告内容について、調査、分析の上、十分な準備をしてください。

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する重要な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。

原則として、グループで報告してもらいます。

毎回、一つの問題、または判例について、報告グループから報告を受け、全員で討議する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定します。民事訴訟法専門演習Iで使用した教科書を使用する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業の時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告者の決定
- 2回 以下、順次、グループ報告
- 3回～14回 順次、グループ報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各グループで報告テーマについて、判例、学説を収集し、分析する。

グループで議論して、私見をまとめる。

レジュメを作成する。(必要な学習時間の目安は、90分。)

履修上の注意 /Remarks

事前に、報告テーマについて、教科書やその他の文献で予習をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する発展的な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。
原則として、個人で報告してもらいます。
毎回、一つのテーマについて、報告者から報告を受け、全員で討議する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業の時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告者の決定
- 2回 以下、順次、グループ報告
- 3回～14回 順次、グループ報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講生が報告テーマについて、判例、学説を収集し、分析する。
私見をまとめる。
レジュメを作成する。(必要な学習時間の目安は、90分。)

履修上の注意 /Remarks

事前に、報告テーマについて、教科書やその他の文献で予習をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する発展的な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。
原則として、個人で報告してもらいます。
毎回、一つのテーマについて、報告者から報告を受け、全員で討議する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業の時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告者の決定
- 2回 以下、順次、報告
- 3回～14回 順次、報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講生が報告テーマについて、判例、学説を収集し、分析する。
私見をまとめる。
レジュメを作成する。(必要な学習時間の目安は、90分。)

履修上の注意 /Remarks

事前に、報告テーマについて、教科書やその他の文献で予習をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本ゼミでは、①企業と企業との間の取引、②企業と公共団体との取引、③公法人の収益事業、④企業と一般消費者との取引などに関する法的問題を取り扱った文献や重要判例の分析・検討を行います。

この作業を通して、商取引法・金融取引法の理解を深めます。

ゼミ参加者がみずから選択した文献あるいは判例について、ゼミ内で報告討論することによって、企業法上の問点や課題を発見したり、それらに取り組む楽しさを味わうこと、そして、企業法上のテーマに関する情報を収集・分析・整理するスキルを磨き、プレゼンテーションやディスカッションの能力を高めることが目標となります。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、各自のテーマ毎に、随時、適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献については、各自のテーマ毎に、随時、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ゼミ運営方針の説明、判例研究・事例研究の意義を理解する。

第2回 各自が選択を希望する判例・事例等について、選択にあたっての問題意識を確認・明確化する。

担当判例の決定、報告要旨(レジュメ)作成の方法についての説明、報告順番の決定。

第3回 受講者各自で、選択しようとしている判例に関連する裁判例や判例解説がどの程度あるのかを図書館・資料室で調べる。この作業を通して、研究対象にしやすい判例かどうかを見極める。

第4回～第15回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論

(1)判例研究の場合：

担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告します。

その後、担当者は、当該判例の位置づけ(射程距離)などについて、問題提起を行います。

それを受けて参加者全員で議論します。

(2)文献紹介の場合：

担当者が、当該文献の概要について一通り報告します。

その後、担当者は、当該文献の論旨展開のあり方についての評価・批評などを行います。

それを受けて参加者全員で議論します。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%・ディスカッションへの参加度50%

無断欠席、ならびに、3分の1以上の欠席は、ゼミ放棄とみなします。

企業法専門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 報告担当者は、報告発表の要旨 = レジユメを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、2号館4階2-414研究室前のテーブルの上に提出しておくこと
- ・ 報告者以外のゼミ参加者についても、上記コピーを事前に受領して目を通すことにより、問題点・争点等を把握した上でゼミに参加すること
- ・ ゼミでの議論を振り返り、事後的に再度、論点に関する自説をまとめ直してみることに

履修上の注意 /Remarks

- ・ 原則として、企業法専門演習IとIIは、セットで受講してください。
- ・ 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業後の希望進路を意識しながら研究テーマを設定することなどを通して、ゼミ学習と業界研究を効率的に行うことができるよう工夫することが重要です。

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めること、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力を身につけること、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

①企業間の取引、②企業と国 / 地方公共団体との取引、③公法人が行う収益事業、④企業と一般消費者との取引などに関わる法律問題を対象とする判例・論文等の分析・検討を行います。

本演習は、受講者がゼミ形式の授業をすでに経験し、法律文献の読み方についての基礎知識があることを前提に実施されるものです。参加者が選択した文献・判例について、報告・討論する能力を高めると共に、期末にレポートを作成することが最終目標となります。

教科書 /Textbooks

テキストは、特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自が選択した判例・文献に応じて、その都度、参考文献を指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション判例研究・事例研究の意義を再確認する。
- 第2回 各自が選択を希望する判例・事例等について、選択にあたっての問題意識を確認・明確化する。
- 第3回 選択しようとしている判例に関連する裁判例や判例解説がどの程度あるのかを調べる。
研究対象にしやすい判例かどうかを見極める。
担当判例の決定、報告要旨（レジュメ）作成の方法についての説明、報告順番の決定。
- 第4回～第14回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論
- (1)判例研究の場合：
担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告します。
その後、担当者は、当該判例の位置づけ（射程距離）などについて、問題提起を行います。
それを受けて参加者全員で議論します。
- (2)文献紹介の場合：
担当者が、当該文献の概要について一通り報告します。
その後、担当者は、当該文献の論旨展開のあり方についての評価・批評などを行います。
それを受けて参加者全員で議論します。
- 第15回 今年度の総括と来年度の課題（研究テーマ）設定ないしは絞り込み

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 50%、ディスカッションへの参加度 40%、レポート作成 10%
無断欠席、3分の1以上の欠席は、ゼミ放棄とみなします。

企業法専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 報告担当者は、報告発表の要旨 = レジユメを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、2号館 4 階2-414研究室前のテーブルの上に提出しておくこと
- ・ 報告者以外のゼミ参加者は、上記コピーを事前に受領して目を通したり、自らも関連資料に目を通したりして、問題点・争点等を把握した上でゼミに参加すること
- ・ 議論を振りかえって、論点に関する自説を事後的に再度まとめ直すこと

履修上の注意 /Remarks

原則として、企業法専門演習IとIIは、セットで受講してください。
授業中に指示された範囲の予習・復習をはじめ、授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めること、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力を身につけること、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

企業取引法・金融取引法に関する重要判例などの分析検討を通じて、企業取引法・金融取引法に関する理解をさらに深めることを目的とします。
また、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力をさらに高め、卒業後の進路を見据えた上でのプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を磨くことを目的とします。
なお、この授業は受講者それぞれに対して個別に実施されるものと、受講者全員に対して集団的に実施されるものとから成り立っています。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際のスケジュールの詳細については、受講者のニーズに合わせて受講者と相談の上で決定します。

- 第1回 (1)運営方針についてのガイダンス
(2)各自が興味を持っているテーマについての発表を通して問題意識を明確化する
- 第2回～第3回 自分の問題関心に沿った卒業レポート作成の難易度を査定する作業を各自が行う
図書・データベース等の情報検索を通して関連文献リストを、各自作成する。
- 第4回～第14回 個別報告とディスカッション
- 第15回 卒業レポート提出へ向けたアウトライン中間報告会
(目次設定・これまでの参考文献一覧、夏休みに読む参考文献目録の提出)

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%
無断欠席、3分の1以上の欠席は、ゼミ放棄と見做します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の授業外学習に積極的・主体的に取り組むこと
報告時の議論を振り返り、再度、関連する追加資料にあたっうえで、レポートの作成に努めること

企業法専門演習Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 時間帯等については、受講者と相談の上で決定します。
- ・ 企業法専門演習Ⅰ・Ⅱをすでに受講済であることが望ましい。
- ・ 企業法専門演習Ⅲ・Ⅳは、原則としてセットで受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する新しい判例等の検討により、会社法に関する理解を更に深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

会社法Ⅱを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

企業取引法・金融取引法に関する重要判例の分析を通じて、企業取引法・金融取引法の理解をさらに深めることがねらいです。また、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力をさらに高め、卒業後の進路を見据えた上でのプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を磨くことを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対して個別指導の形で実施されるものと、受講者全員に対して集団的に実施されるものにより成り立っています。スケジュールの詳細は、受講者のニーズに合わせて受講者と相談の上で決定します。

- 第1回 1学期および夏休み期間中の研究活動の総括と今後の流れの確認
各自が関心を持っているテーマについての発表を通して問題意識を明確化する
- 第2回～第14回 各受講者による中間報告会と各受講者に対する個別論文指導
- 第15回 総まとめ（卒業レポート提出へ向けた最終校正作業の確認）

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%
無断欠席、3分の1以上の欠席は、ゼミを放棄したものとみなします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は事前にレジュメを作成して受講者に配布すること
受講期間を通して、卒業レポート作成へ向けた課外学習に積極的に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 時間帯等については、受講者と相談の上で決定します。
- ・ 企業法専門演習Ⅰ・Ⅱをすでに受講済であることが望ましいです。
- ・ 企業法専門演習Ⅲ・Ⅳは、原則としてセットで受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業法専門演習Ⅳ【昼】

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する最近の論点の検討を通じて、会社法に関する理解を更に深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

会社法ⅠⅡを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法思想史【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法思想史の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法思想史上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、様々な法思想の歴史を学ぶことにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法思想史

LAW210M

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探究する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたいうでそれを相対化することもまた、可能となってくるであろう。

教科書 /Textbooks

瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）、2800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史 [第2版]』（有斐閣、1997年）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）
- 三島淑臣『法思想史 [新版]』（青林書院、1993年）
- F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社、1995年）
- 長谷部恭男『法とは何か 法思想史入門』（河出ブックス、2015年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法思想史とは
- 第2回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史① ~ J・ロックの自然権論
- 第3回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史② ~ 近代的自然法論
- 第4回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史③ ~ 古典的自然法論（トマス・アクィナスなど）
- 第5回 法思想史とは（中間考察） ~ 「法典論争」（サヴィニーなど）
- 第6回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史④ ~ ケルゼンの純粹法学
- 第7回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史⑤ ~ ハートの法の概念：J・オースティンとハート
- 第8回 「法と正義」をめぐる法思想史① ~ J・ロールズの功利主義批判：ベンサムやミルの関連から
- 第9回 「法と正義」をめぐる法思想史② ~ J・ロールズの正義論
- 第10回 「法と正義」をめぐる法思想史③ ~ R・ノージックのリバタリアニズム：J・ロールズとの関連から
- 第11回 「法と正義」をめぐる法思想史④ ~ R・ノージックのリバタリアニズム：J・ロックとの関連から
- 第12回 「法と正義」をめぐる法思想史⑤ ~ R・ドゥオーキンの権利論
- 第13回 「法と正義」をめぐる法思想史⑥ ~ R・ドゥオーキン（裁判と法解釈）
- 第14回 「法と正義」をめぐる法思想史⑦ ~ 共同体主義：アリストテレスとの関連から
- 第15回 法思想史のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

法思想史【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、テキストの巻末の索引を利用しながら該当箇所を読み、予習すること。講義後には、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

「現代正義論」を1年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然法論 法実証主義 正義論 権利論

外国法【昼】

担当者名 /Instructor 森谷 克之 / Katsuyuki Moriya / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	外国法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	外国法における課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える外国法に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国法

LAW212M

授業の概要 /Course Description

二大法体系のひとつとして、大陸法との対比として論じられる英米法とはいかなる法体系なのかを、コモン・ローの契約法および不法行為法を通じて学んでいく。
契約法においては、契約書などの様式を成立要件としない口頭契約（simple contract）の成り立ち、不法行為法においては不法行為の法的責任の理論の変遷について考察します。

教科書 /Textbooks

なし。
必要な資料は講義において配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○別冊ジュリスト 英米判例百選。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1 契約の成立【外国法を学ぶ意味】
 - 2 契約の効力1【約束：意思の合致とその法的効力】
 - 3 契約の効力2【捺印契約（様式契約）と口頭規約】
 - 4 契約の効力3【約束の法的効力の根拠としての約因】
 - 5 約因法理生成の歴史1【金銭債務訴訟と捺印契約訴訟】
 - 6 約因法理生成の歴史2【action of assumpsitの登場】
 - 7 約因法理生成の歴史3【Slade's Case】
 - 8 約因法理生成の歴史4【約因法理とは】
 - 9 約因法理生成の歴史5【simple contractの定義】
 - 10 不法行為【責任の根拠】
 - 11 不法行為【ネグリジェンス】
 - 12 不法行為【トレスパス】
 - 13 不法行為【ニューサンス】
 - 14 不法行為【過失責任主義の再検討】
- 講義内容については変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価は、講義への取組み 約40%と、学期末試験約 60%との総合評価によりいます。
ただし、出席については加点はしません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料をよく読み、講義と合わせて理解に努めてください。
各自の責任で、ノートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

外国法【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米法 コモン・ロー 契約 約因 トート ネグリジェンス

日本法制史【昼】

担当者名 山口 亮介 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本法制史の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本法制史上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、それらを検討する中で、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、歴史的な日本法の考え方や制度を学ぶことにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本法制史

LAW312M

授業の概要 /Course Description

本講義は、わが国における「法」のあり方、すなわち成文の法規・法典と呼ぶべきものだけでなく、それぞれの時代において「罪」や「制裁」、さらに広く法をめぐって観念される「権利」なるものがどのように考えられていたかについて、古代から近現代に至るまでのそれぞれの時代における国家や社会のあり方にも意識を置きつつ見通していく。またあわせて、諸外国法が日本に与えた影響や、それらの法と我が国の法との比較にも積極的に触れていく。

教科書 /Textbooks

出口雄一ほか編『概説 日本法制史』(弘文堂・2017年)
※基本的にレジュメ(資料)と板書によって講義を進め、適宜上記テキストを参照する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』(青林書院・2010年)
水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』(山川出版社・2001年)(図書館蔵書:○)
川口由彦『日本近代法制史[第2版]』(新世社・2014年)(図書館蔵書:○)
※このほか、講義中に適宜紹介していく。

日本法制史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス (この講義について)
- 2 古代(1)【「法」の起源】
- 3 古代(2)【律令法】
- 4 古代(3)【公家朝廷法】
- 5 中世(1)【中世の土地と国家】
- 6 中世(2)【鎌倉幕府の法】
- 7 中世(3)【鎌倉幕府の訴訟とその手続】
- 8 中世(4)【室町期の法と裁判】
- 9 中世(5)【戦国期の法と裁判】
- 10 近世(1)【江戸幕府の法源と統治組織】
- 11 近世(2)【土地制度】
- 12 近世(3)【親族・相続法】
- 13 近世(4)【刑事法】
- 14 近世(5)【裁判制度】
- 15 前近代法から近代法へ
- 16 幕末～明治期の西欧法の受容
- 17 中央権力機構の形成と法
- 18 近代司法制度
- 19 近代裁判制度
- 20 明治憲法の形成
- 21 明治憲法体制の展開
- 22 刑事法(1)【近代刑法の形成】
- 23 刑事法(2)【明治時代の罪と罰】
- 24 陪審法制
- 25 訴訟法制の近代化
- 26 民事法(1)【民法典の編纂・民法典論争】
- 27 民事法(2)【土地法制・財産法制】
- 28 社会法制の形成と展開
- 29 近代法から現代の法へ
- 30 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。

1. 平常の学習状況 (進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある) (全体の20%)
2. 講義全体の内容についての期末テスト (全体の80%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】それぞれの授業テーマごとに事前に参考書等を通読するとともに、それぞれの時代の方のあり方に各自で大体のイメージを持っていただきたい

【事後学習】講義を踏まえ、事前学習で得た法のイメージがどのように変化したかを整理するとともに現代法のあり方との比較検討を行っていただきたい

履修上の注意 /Remarks

【注意事項】

- ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
- ・ 質問・相談は随時受け付ける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高等学校において日本史Bを履修していない者は、同科目の教科書 (出版社は問わない) の制度史・政治史に関する部分を通読した上で講義に臨んでいただきたい。

キーワード /Keywords

法制史 / 法史学 / 古代法 / 中世法 / 近世法 / 近代法 / 裁判 / 権利

法社会学【昼】

担当者名 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法社会学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法社会学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法社会学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法社会学

LAW211M

授業の概要 /Course Description

法社会学は、実定法解釈学とは異なる視角から、広い意味での法・規範現象を観察・分析し、言語化する学問です。みなさんが普段学んでいる法解釈学が、法システムの「内部」に関する学知だとするならば、ひとまず法社会学は、法システムをその「外部」から観察していく学知であるといえ、法や社会規範が、社会の中で、いかなる意味や機能を纏っているのかにつき、多様なアプローチを用いつつ考察していくのが大きな特徴です。

「自明（＝当たり前）」と思っていたことでも、ちょっとだけ視点をずらせば、まったく違った見え方になる—こういった経験は、多少なりとも、みなさんお持ちではないでしょうか。それと同じように、法社会学というメガネを通して眺めてみれば、日々の現実が、実は、さまざまな仕組みの複雑な関係の上にして多分に「偶発的に」成立していることが見えてきます。本講義を通じて、まずはこの「自明性を相対化する思考」（＝別様でもありえた／ありえる視点）を実感していただければと思います。

でもそれは、社会の裏側を知るためでも黒幕（！）の存在を暴くためでもありません。ましてや、他人を批判・非難して自己満足するためのものでもありません。わたしたちの社会のなかで生じる現象は、どんな些細なことであれ、決して一枚岩ではないことを知ること、そして現実への単純な意味づけを求めてしまいがちな自分自身の感性をリフレクシヴに高めていくこと、さらにそうした現実に応答しうるための柔軟な思考を磨くこと、これらをみなさんが日々主体的に実践していくことをいくらかでもお手伝いできれば、本講義の目的の大半は達成されたことになりそうです。

もし私たちの社会が単純明快に見えたとすれば（ちなみに「実は裏で○×が糸を引いている！」類の陰謀観もまた、ある意味究極の明快さ＝単純さを持ってますよね）、それを自明視させている「仕掛け」こそが問われるべきでしょうし、ひょっとしてそれは観察者自身のメガネが曇っているからなのかもしれません。

目先の効用・有効性とは距離をとった地点から、法的・社会的現象を理論的に思考する。「何でそんなことを考える必要があるのか」「決まりきっているではないか」という地点を「あえて」踏み越え／追い込み考えてみる。そんな知的／時間的余裕をもてることこそ「大学生の特権」だとすれば、本講義はまさにその「特権」を最大限に行使してゆく、ということになるのでしょうか。このように、講義のねらいはいささか抽象的です。少なくとも、定型の正しい情報の教授／暗記をすればよしとする向きにはまったく！期待に沿えないと思います。ポイントは、講義を聴き終えた時に「多様で柔軟な思考」のノリや勘どころをどのくらい「実感」できるか—ですが最終的には、それはみなさん方一人ひとりの日常「実践」にかかっています。

受講生には、こうした法社会学的思考の多元性やその意義を理解してもらい、それを以って法解釈学的な知見を豊饒化してもらおうとともに、日々の生活の中での問題発見・問題構築の力を養っていくことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○江口厚仁 / 林田幸広 / 吉岡剛彦編、『境界線上の法 / 主体 - - 屈託のある正義に向けて』、ナカニシヤ出版、2018年。
そのほかは講義中に指示します。

法社会学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(講義の進め方等についての説明)
- 2回 法社会学的観察とは何か(1)【法システムの「内部」と「外部」】という視点
- 3回 法社会学的観察とは何か(2)【法社会学的アプローチの多元性】
- 4回 法社会学的観察とは何か(3)【法社会学の学問的出自と歴史的系譜】
- 5回 社会秩序の根拠は何か(1)法学における【秩序問題】
- 6回 社会秩序の根拠は何か(2)社会学における【秩序問題】
- 7回 現代社会における法の機能(1)【法機能】の多元化
- 8回 現代社会における法の機能(2)【現代法化論】の両義性
- 9回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(1)【フリーライダー問題の「かたち」】
- 10回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(2)【「正解」の出ない社会問題への対処】
- 11回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(3)【ゲーム理論】を援用した対処とその問題
- 12回 現代法化社会を考える(1)法と【権力】
- 13回 現代法化社会を考える(2)法と【リスク】
- 14回 現代法化社会を考える(3)法と【主体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

全編論述式の定期試験(70%)と毎講義ごとのレスポンスペーパー(30%)により評価します(より詳しくは初回講義時に説明しますので必ず出席してください)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:プリントが事前に配布される際には、それに目を通し、自分なりに概要や流れを掴んでおくこと。意味の分からない語句については自分なりに調べたうえで授業に臨むこと。

事後学習:授業終了後には、配布されたレスポンスペーパーに、その回のコメントや感想などを書いてください。その際、なぜそう考えるのかの理由と、考えに伴って新たに生まれてくる(ハズの)問いを自分なりの言葉で説明するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

抽象的・論理的思考を厭わないでください。いつけん「あたりまえなこと」を前に、それが「なぜ/いかにして」あたりまえになっているのかを、折に触れて考えるようにしてください。

初回の講義において、講義の運営方法や評価方法、そして法社会学という学問分野の「ノリ」の一端を紹介しますので、必ず出席の上お聞き逃しの無いように願います。そのうえで、あなた自身が本講義にどのように取り組んでいくのかにつき、自己決定してください(この場合の自己決定には自己責任が伴います)。なお、補助資料(プリント)を配布することがありますが、再配布(増刷)はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、法学の隣接科目に興味があり抽象思考を厭わない方々を歓迎します。逆に、(授業)理解と(情報)暗記を同一視される向きには全くそくいません(蛇足ながら、この点前もって強くお伝えしておきます)。(唯一の)正解にたどり着かないと不安な方は、不安になるばかりだと思いません。そんな授業です。

キーワード /Keywords

法哲学【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法哲学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法哲学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法哲学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学

LAW310M

授業の概要 /Course Description

現代社会が抱える諸問題や実定法学が投げかける具体的な諸問題を考える上で、思考枠組みとしての法理論は不可欠である。人間の共同生活を考える上で不可欠なものとしての法を捉え直すための基本的な視座を探究することが、本講義の目的とするところである。

教科書 /Textbooks

瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）、2800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
- 平野仁彦、亀本洋、服部高宏著『法哲学』（有斐閣、2002年）
- 三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂、2002年）
- 大橋智之輔、三島淑臣、田中成明編『法哲学綱要』（青林書院、1990年）
- 田中成明『現代法理学』（有斐閣、2011年）
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣、1997年）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）
- レイモンド・ワックス『法哲学』（岩波書店、2011年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法哲学とは ～ 概要説明
- 第2回 法と道徳① ラートブルフの法律を越える法
- 第3回 法と道徳② ハート・フラール論争
- 第4回 法と道徳③ 悪法論 ～ ドイツの戦後処理をめぐる
- 第5回 法と道徳④ ハート・デブリン論争 ～ 法による道徳の強制
- 第6回 法と道徳⑤ 理論史1 ～ カント
- 第7回 法と道徳⑥ 理論史2 ～ ラートブルフ
- 第8回 法と強制① ～ ケルゼンの純粋法学
- 第9回 法と強制② ～ 法と合意形成
- 第10回 法・社会・国家① ～ エールリッヒ・ケルゼン論争
- 第11回 法・社会・国家② ～ M・ヴェーバーと形式法の実質化
- 第12回 法・社会・国家③ ～ ハーバーマースと法化
- 第13回 法と生命 ～ 安楽死・尊厳死
- 第14回 法と正義
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

法哲学【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、テキストの巻末の索引を利用しながら該当箇所を読み、予習すること。講義後には、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

「法思想史」を2年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法と道徳 法と強制 ケルゼン ハート

比較法文化論 【昼】

担当者名 篠森 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	比較法文化論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法文化を比較する上での課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、法文化間の比較をすることにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較法文化論

LAW313M

授業の概要 /Course Description

日本の民法典は、1898（明治31）年の施行以来、幾度となく改正を受けてきました。最近では2017年6月に債権法の大改正が行われ、現在は相続法改正作業が進行中です（2018年1月現在）。それにもかかわらず、その根幹部分は、今なお施行当時の民法典（いわゆる「明治民法」）のものを維持しているといっても過言ではありません。

明治民法は、近代西ヨーロッパ諸国（特にドイツ、フランス）の民法典の強い影響のもとで編纂されました。その意味で、明治民法は「比較法の所産」と評されています。ドイツ、フランスの各民法典は古代ローマ法の伝統を基礎として、それぞれの社会状況の中で成立し、展開してきました。したがって、日本の民法典は、ドイツ、フランス両国の民法典を通じてローマ法の影響下にあるということが出来るのです。民法の講義で、先生方がドイツやフランスの民法の規定を引き合いに出すことが多いのは、そうした方が日本の民法の理解をいっそう深められるからなのです。

この講義では、日本民法上の諸問題を、現在のドイツ、フランスの状況と比較し、さらにその淵源でローマ法にもさかのぼって検討していきます。この作業を通じて、民法が単なる技術の集積ではなく、歴史の所産であるとともに、文化現象でもあることを確認する機会としたいと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。講義資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田慶吉『日本民法典の史的素描』（創文社、1954年）（○）

原田慶吉『ローマ法〔改訂版〕』（有斐閣、1955年）（○）

石部雅亮＝笹倉秀夫『法の歴史と思想—法文化の根柢にあるもの』（放送大学教育振興会、1995年）

ウルリッヒ・マンテ（田中実＝瀧澤栄治訳）『ローマ法の歴史』（ミネルヴァ書房、2008年）

木庭顕『ローマ法案内—現代の法律家のために』（羽鳥書店、2010年）（○）（同書新版・勁草書房、2017年10月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、「比較法文化論」とはなにか 【比較法】【西洋法制史】【法解釈学】
- 2回 日本民法典の成立 【条約改正】【旧民法】【法典調査会】【明治民法】
- 3回 日本民法の現代的問題：受遺者選定委託遺言（日本） 【相続】【遺言】
- 4回 日本民法の現代的問題：受遺者選定委託遺言（ドイツ・フランス） 【ドイツ民法典】【フランス民法典】
- 5回 日本民法の現代的問題：受遺者選定委託遺言（ローマ） 【ローマ法】
- 6回 ローマ法史概説 【ユスティニアヌス帝】【ローマ法大全】【学説彙纂】【ローマ法の継受】
- 7回 日本民法の現代的問題：家族信託（日本） 【後継ぎ遺贈】【信託法】
- 8回 日本民法の現代的問題：家族信託（ドイツ・フランス）
- 9回 日本民法の現代的問題：家族信託（ローマ） 【信託遺贈】
- 10回 ローマ遺言法と遺言実務 【パピルス学】【碑文学】
- 11回 ローマ私法概説：売買 【売買】【問答契約】【握取行為】
- 12回 ローマ私法概説：遺言 【銅衡遺言】
- 13回 ローマ私法概説：不法行為 【不法行為】
- 14回 ローマ私法概説：事務管理 【事務管理】
- 15回 筆記試験

比較法文化論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (60%)、筆記試験 (40%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

六法は必ず持参してください。また、講義のテーマに対応する民法の教科書が手許にあると便利です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「比較法文化論」という講義名は、格調の高い、たいへん有意義なものです。しかし、皆さんの先輩方の声を聞くと、講義名から講義内容をイメージしづらい面があるようです。そこで、皆さんは、「少し変わった民法の講義」くらいのつもりで話を聞きに来てください。民法に苦手な意識をもつ人も歓迎します。民法を少し深く勉強したいと思っている人、民法上の諸問題について論文やレポートを書きたいと思っている人には、特に受講をすすめます。歴史好きの法学部生はもちろん大歓迎です。

キーワード /Keywords

民法 比較法 西洋法制史 ローマ法 法継受 ローマ法大全

紛争処理論 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 紛争処理論に関する理論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 紛争処理上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える紛争処理上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

紛争処理論

LAW311M

授業の概要 /Course Description

紛争処理論は法社会学の一分野です。よって、みなさんが普段学んでいる実定法解釈学とは別の視角から、広義の法現象を観察・分析・理論化していく、というスタンスは法社会学と共通です。そのうえで、本講義は、法に期待される重要な機能である民事紛争処理というテーマに照準をあわせ、それを法社会的に考察していきます。

いうまでもなく、裁判をはじめとする司法システムには、日々さまざまな種類の紛争が持ち込まれます。その意味で司法は、それら多様な紛争を事案として受け入れ、法的な判断を下していく、まさに「法の現場」である、といえるでしょう。そしてその「現場」において - - いわゆる法的三段論法をはじめとする - - 法解釈学的「知」が発揮されるのであり、また、そうした「専門知」の行使を通じて（こそ）、紛争は「解決」へと至る、といったストーリーは、（とりわけ法学にとってみれば）それほど疑われる余地はない = 疑ってはいけない？ のかもしれません。しかし、そうした法的判断や「専門知」は、さまざまな形態を纏っているハズの個々別々の紛争を、法特有の論理へと「加工」してゆく側面をもっているのではないのでしょうか。そして時として、紛争の「総体」を切り縮めたり、紛争の「文脈」を削ぎ落としたりする場面を生じさせるのではないのでしょうか。

本講義は、こうした問題関心に基づき、まずは、紛争の多主体性・主観性・連続性を視野化することで、紛争の把握や解決が実はとても困難であることを提示したいと思います。その上で、本来的に把握・解決困難な紛争に対し、裁判をはじめとする民事の紛争処理手続は、いかなる対応が可能なのかについて、法解釈学とは異なる視角から考えてゆきます。その際、中心に置かれるのは紛争当事者の視点です。具体的には、実際に紛争を抱える素人当事者が、自身の力で、「法の現場」である司法の中で、紛争と向きあい折り合っていく可能性を検討してみたいと思います。さらに、その場合に求められる「専門知」とはどのようなものかについても、法専門職論として、あわせて考えたいと思います。

以上から示唆されるように、本講義は、紛争を直ちに固定化・対象化し、迅速かつオートマティックに効率よく処理していく技法（スキル） - - ましてやそれがリーガルマインドだなんて！ - - の体得に向けられるのではなく、ある意味でそれとは正反対の思考、すなわち、紛争のもつダイナミズムを直視した上で、それいかにして向き合っていくのかについて考えることとなります（よって本講義は、紛争を管理・解決する為の「ノウハウ」や「技術」、ひいては「正しい方法」 - - そういものが実際にアレバの話ですが - - などを求める期待には全く応えられません）。紛争事案に法を「あてはめる」のではなく、紛争当事者にとっての解決とは何か、その場合法や専門家は何をなすうのか、といった「問い」と併走する講義です。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

江口厚仁 / 林田幸広 / 吉岡剛彦編、『境界線上の法 / 主体』、ナカニシヤ出版、2018年。
そのほかの参考文献については講義中に指示します。

紛争処理論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：授業の進め方等について説明します
- 2回 紛争概念の再構成（1）：【紛争の多主体性】…紛争主体は「甲と乙と丙」だけか？
- 3回 紛争概念の再構成（2）：【紛争の主観性】…命はカネにかえられる？
- 4回 紛争概念の再構成（3）：【紛争の連続性】…「判決+執行」で本当に紛争は終わるか？
- 5回 紛争概念の再構成（4）：【紛争解決の困難性】…法的解決 / 生活実態との乖離
- 6回 法 = 権利とは何か？（1）：西欧継受の法 = 権利…権利による【近代化】
- 7回 法 = 権利とは何か？（2）：権利観念の氾濫と拡散…【法の三類型モデル】
- 8回 法 = 権利とは何か？（3）：当事者同士の【共同体】…【権利の言説】
- 9回 法専門職の臨界（1）：弁護士偏在の理由と変化…需要の掘り起こしと【公設事務所】
- 10回 法専門職の臨界（2）：弁護士像（モデル）の変遷…社会正義とビジネスを超えて？
- 11回 法専門職の臨界（3）：弁護士と当事者のかかわり…【関係】と【協働】
- 12回 当事者主体の紛争処理に向けて（1）：【ADR】の多層性
- 13回 当事者主体の紛争処理に向けて（2）：【専門知】のあやうさ
- 14回 当事者主体の紛争処理に向けて（3）【メデイエーション論】の可能性
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論述式の定期試験（70%）と毎講義ごとのレスポンスペーパー（30%）により評価します（より詳しくは初回講義時に説明しますので必ず出席してください）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：プリントが事前に配布される際には、それに目を通し、自分なりに概要や流れを掴んでおくこと。意味の分からない語句については自分なりに調べたうえで授業に臨むこと。

事後学習：授業終了後には、配布されたレスポンスペーパーに、その回のコメントや感想などを書いてください。その際、なぜそう考えるのかの理由と、考えに伴って新たに生まれてくる（ハズの）問いを自分なりの言葉で説明するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

紛争処理という名称から、ごくたまに、国際紛争や武力衝突をテーマにした科目と勘違いする学生さんがいますので、どうか間違わないでください。本科目が扱うのは、民事の司法的紛争処理です。

皆さんが普段学んでいる法解釈学的思考が、実際の紛争現場に対していかなる作用を果たしているのか、そこに問題は無いのか、ということを常に念頭においておくこと。

事前に配布する資料をかならず通読しておくこと。

本講義は民事の紛争処理過程について考察しますが、法社会学同様、法解釈学的視点とは違った角度からの講義です。この点注意してください（「法社会学とはいかなる学問領域なのか」についての総論めいたお話は法社会学で扱っていますので、法社会学を受講している方が、よりスムーズに本講義に入ってゆけると思われます）。なお、同一プリントの再配布（増刷）はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「法は何のためにあるのか」 - 少なくとも民事の紛争に限って言えば、法は、紛争を抱えた当事者たちのためにあるべきでしょう。本講義は、この「素朴な命題」を愚直に受け止め、話をすすめていきます。なお、本講義は—法社会学と同様—（授業）理解と（情報）暗記を同一視される向きには全くそぐいません（蛇足ながら、この点前もってお伝えしておきます）。むしろ正解や情報の暗記を苦手とする（＝正解を覚えること自体に獲いたる疑問を抱く）方のほうがひょっとしたら向いているのかもしれない。憶えるのではなく考え / 批判すること、その用意がある方を歓迎します。

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論

LAW120M

授業の概要 /Course Description

日本国憲法は、一方では国家の「統治構造（国家の組織や権限行使の仕組み）」を規定し、他方では個々の国民に「人権」を保障している。

この講義のねらいは、次の4つである。

- ① 統治の基本原則（国民主権や権力分立）、
- ② 国家の組織や権限（国会、内閣、裁判所）、
- ③ 人権保障の基本構造、
- ④ いくつかの人権保障場面。

教科書 /Textbooks

駒村圭吾編『プレステップ憲法』（弘文堂、2014年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
- 野中俊彦ほか著『憲法（第5版）』（有斐閣、2012年）
- 安念潤司ほか編著『論点 日本国憲法（第2版）』（東京法令出版、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 -イントロダクション
- 第2回 統治の諸原則 -国民主権と権力分立
- 第3回 代表民主制と選挙（権）
- 第4回 国会
- 第5回 内閣
- 第6回 裁判所
- 第7回 平和主義
- 第8回 人権総論
- 第9回 信教の自由
- 第10回 表現の自由
- 第11回 経済的自由
- 第12回 人身の自由
- 第13回 社会権
- 第14回 平等権
- 第15回 幸福追求権

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書等の該当箇所を事前・事後に読む。

日本国憲法原論【昼】

履修上の注意 /Remarks

小型六法を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国民主権 権力分立 代表民主制 国会 内閣 裁判所 人権保障

憲法人権論【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における人権分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える人権に関する諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法人権論

LAW220M

授業の概要 /Course Description

憲法学の中の、人権論と呼ばれる領域を学ぶ。
人権という概念をめぐる思想史、体系論などの総論を踏まえた上で、類型化された憲法上の権利の検討へと進んでいく。特に原理論的考察を重視する。
それらを通じて、人権が憲法上の権利として保障されていることの意義、具体的適用のあり方、社会における問題状況等への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

安藤高行編『新・エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室 第3版』（日本評論社、2016年）
- 芦部信喜『憲法 第6版』（岩波書店、2015年）
- 長谷部恭男『憲法 第6版』（新世社、2014年）
- 野中俊彦ほか『憲法I 第5版』『憲法II 第5版』（有斐閣、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権思想史-人権と憲法上の権利
- 第2回 憲法上の権利の類型
- 第3回 権利の享有主体
- 第4回 制約原理-公共の福祉
- 第5回 幸福追求権
- 第6回 平等権
- 第7回 思想・良心の自由
- 第8回 表現の自由
- 第9回 信教の自由①
- 第10回 信教の自由②-政教分離原則
- 第11回 職業選択の自由と財産権
- 第12回 受益権
- 第13回 社会権①-生存権
- 第14回 社会権②-その他の社会権
- 第15回 参政権

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書や参考図書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。

憲法人権論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「日本国憲法原論」を予め履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 憲法上の権利

憲法機構論 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における統治機構分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代政治における諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法機構論

LAW221M

授業の概要 /Course Description

日本国憲法が規定する、国家の統治権行使の仕組み、すなわち統治機構について概説する。国民主権、民主主義、権力分立といった基本概念を把握した上で、国会、内閣、裁判所、地方自治など統治機構の全体構造や相互関係を理解することを目指す。
また、現実の政治動向などへの関心も喚起するような内容としたい。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 安藤高行編『新・エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）
- 芦部信喜『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
- 長谷部恭男『憲法（第6版）』（新世社、2014年）
- 安念潤司編著『論点日本国憲法（第2版）』（東京法令出版、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 -全体の導入
- 第2回 国民主権と民主主義
- 第3回 象徴天皇制
- 第4回 内閣(国の行政組織)① -内閣と行政権
- 第5回 内閣(国の行政組織)② -議院内閣制
- 第6回 内閣(国の行政組織)③ -内閣と行政各部
- 第7回 内閣(国の行政組織)④ -内閣の運営と責任
- 第8回 国会① -国会の地位
- 第9回 国会② -衆議院と参議院
- 第10回 国会③ -国会の活動
- 第11回 国会④ -国会議員
- 第12回 国会⑤ -政党と会派
- 第13回 裁判所① -司法権と裁判所
- 第14回 裁判所② -違憲審査制
- 第15回 地方自治

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業計画を参考に、次回の予定内容を参考書等で予習しておくこと。
また、国会や内閣等の動向、注目の裁判などの報道に関心を持ち、講義内容と関連づけて考察すること。

履修上の注意 /Remarks

「日本国憲法原論」を受講していることが望ましい。

憲法機構論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国民主権 民主主義 権力分立 国会 内閣 裁判所 地方自治

憲法訴訟論 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法訴訟の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法訴訟に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法訴訟論

LAW320M

授業の概要 /Course Description

憲法も、他の法律と同様に、訴訟（その結果として形成される判例）を通じて、その内容が形成されていく。したがって、その実態を知るには、判例を見ていかなければならない。しかし、本学の公法学の講義の構成上、人権2単位、統治2単位で、判例に触れる機会が少ない。したがって、より多くの判例に触れることを目的とする。

また日本には、固有の憲法訴訟法が存在しない。基本的に、憲法訴訟は、他人の禱で相撲を取るしかない。憲法をより深く知るには、刑事訴訟や民事訴訟、行政訴訟において、憲法上の規定がどのように用いられているかを注意深く観察する必要がある。その点にも留意しながら、講義を進める。

最終的には、すべての公務員試験およびその他の試験（司法書士、行政書士等）に対応できる判例理解が獲得される。

教科書 /Textbooks

長谷部恭男ほか編『憲法判例百選I・II〔第6版〕』（有斐閣、2013年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

資格試験研究会編『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ5 憲法』（実務教育出版、2017年）

憲法訴訟論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 幸福追求権に関する判例報告
- 第3回 平等権に関する判例報告
- 第4回 選挙権に関する判例報告
- 第5回 思想・良心の自由に関する判例報告
- 第6回 信教の自由に関する判例報告
- 第7回 表現の自由に関する判例報告
- 第8回 結社の自由に関する判例報告
- 第9回 学問の自由に関する判例報告
- 第10回 職業の自由に関する判例報告
- 第11回 財産権に関する判例報告
- 第12回 生存権に関する判例報告
- 第13回 労働基本権に関する判例報告
- 第14回 教育権に関する判例報告
- 第15回 まとめ

【講義の進め方】

本講義の進め方と評価の方法はきわめて特殊である。この点を十分に理解・承諾したうえで受講すること。

本講義では、受講生がA 4一枚のフォーマットに、指定された判例をまとめて10分で報告する。一回の授業で8人が報告する。教員が適宜コメントする。誰が何の報告をするかは、初回の講義・イントロダクションで決定する（1人が何回報告することになるかは受講者数次第である。場合によっては、報告しないこともありうる）。作成した報告資料は、講義2日前までに教員にメールで送ること。

これにより最大112件の判例を知ることができ、公務員試験に必要なすべての憲法判例を知ることができるのと同時に、最大112件の判例がコンバクトにまとまった資料が手に入る。判例は公務員試験の演習書等を参照して、重要なものを担当教員がセレクトする。

自分の報告回以外では、他の学生の報告を聞くことが主となり、試験は行わないため、出席することが基本となる。なお、出席はカードリーダーにより管理する。

※受講者が20名に満たない場合には、別の構成にする。

成績評価の方法 /Assessment Method

①報告をした者

→原則A評価となる。Sが欲しい場合には、レポートも提出すること。

②報告をしなかった者

→レポートで評価を決定する。

※欠席は3回までは考慮する。4回目以降は、評価を一段階ずつ低下させる（カードリーダーによる管理を行う）。

※報告予定者が、欠席した場合、即D評価とする。報告が難しくなった場合には、代替報告者を見つけるか、一週間前までに担当教員にメールすること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：次回の該当判例を事前に読むこと。

事後：作成された資料を見直し、修正すること。

履修上の注意 /Remarks

小型六法を持参すること。

事前にMoodleに次回判例・資料をアップするので、各自印刷して持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

良い資料を作ることが自分のためにもみんなのためにもなるので、全力で取り組むこと。1回程度10分の報告をして、基本的に出席すれば、Aがくると考えると、さほど負担は大きくないと思われる。

キーワード /Keywords

憲法判例

行政法総論【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政法学上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法総論

LAW121M

授業の概要 /Course Description

行政法とは、主として、国や地方公共団体の活動をコントロールするさまざまな法の総称です。本講義では、行政法の基礎理論、行政の行為形式、行政手続や情報公開といった諸制度について概説します。そのうえで受講者が、行政法の基本的知識を修得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政法とは
- 第2回 行政法の基本原理(1)【法律による行政の原理】
- 第3回 行政法の基本原理(2)【行政法の一般原則】
- 第4回 行政組織(1)【行政組織の概念】
- 第5回 行政組織(2)【国、地方の行政組織】
- 第6回 行政立法(1)【法規命令】
- 第7回 行政立法(2)【行政規則】
- 第8回 行政行為(1)【行政行為の概念、類型】
- 第9回 行政行為(2)【行政行為の効力】
- 第10回 進度調整
- 第11回 行政行為(3)【行政行為の瑕疵】
- 第12回 行政行為(4)【職権取消しと撤回】
- 第13回 行政行為(5)【行政行為の附款】
- 第14回 行政裁量(1)【行政裁量の概念】
- 第15回 行政裁量(2)【裁量の存否】
- 第16回 行政裁量(3)【裁量審査】
- 第17回 行政契約
- 第18回 行政指導
- 第19回 行政計画
- 第20回 行政の実効性確保手段(1)【行政上の強制執行】
- 第21回 行政の実効性確保手段(2)【行政罰】、即時強制
- 第22回 行政調査
- 第23回 行政手続(1)【行政手続の意義】
- 第24回 行政手続(2)【申請処分手続と不利益処分手続】
- 第25回 行政手続(3)【手続の瑕疵の効果】
- 第26回 行政情報(1)【情報公開制度】
- 第27回 行政情報(2)【情報公開争訟】
- 第28回 行政情報(3)【個人情報保護制度】
- 第29回 公法と私法
- 第30回 まとめ

行政法総論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、中間テスト20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政争訟法 【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 行政争訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える行政争訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政争訟法

LAW222M

授業の概要 /Course Description

既に行政法総論を学んでいると思われるが、行政法総論において勉強した「法律による行政の原理」などの、国民の権利を守るための原理は、行政救済法と呼ばれる領域によってその実効性を確保される。
行政争訟法では、違法行為の是正を行政自身に求める行政上の不服申立てと、裁判所に求める行政訴訟につき概説し、多くの裁判例を通じて、行政訴訟法における訴訟要件等の理解を深化させる。
これらにより、行政争訟法の体系的理解に必要な専門的知識を習得し、個別の事案で適切な訴訟方法を選択してそれがなぜ認められるのかを判断できるようになり、更には行政争訟法の果たす国民の権利保護機能について再確認する。

教科書 /Textbooks

初回授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回講義で指示する。
何らかの形で判例集は持っておくのが望ましい。
『行政法判例百選II(第7版)』(有斐閣、2017)又は『ケースブック行政法(第6版)』(弘文堂、2018)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスー行政法総論と行政争訟
- 第2回 行政上の不服申立て
- 第3回 処分性(1)——処分性の概念
- 第4回 処分性(2)——近時の判例における処分性
- 第5回 原告適格(1)——原告適格の判断基準
- 第6回 原告適格(2)——近時の判例
- 第7回 訴えの利益
- 第8回 その他の訴訟要件、取消訴訟の審理
- 第9回 取消訴訟の判決
- 第10回 執行停止制度
- 第11回 無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟
- 第12回 義務付け訴訟
- 第13回 差止訴訟
- 第14回 当事者訴訟
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において行政訴訟の判例を学ぶが、当該事件において問題となった条文を事前に読み込むことなく授業を理解するのは不可能に近い。予習指示を行うので、ぜひ条文を参照したうえで各判例を検討しておいてほしい。

行政争訟法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

行政法総論を履修していることを前提とする。
また民事訴訟法の科目を履修していることは、本科目の理解において助けになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

司法制度改革に伴い、行政事件訴訟法が改正された後、爆発的に重要な判例が増えた分野です。
判例をかなりの数扱うことになるため、予習を必ず行ってください。

キーワード /Keywords

国家補償法【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 国家補償法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える国家補償法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国家補償法

LAW321M

授業の概要 /Course Description

違法な公権力の行使が生じたとき、まずもって当該公権力の行使の違法性を是正するのは行政争訟法の守備範囲であるが、公権力の行使によって損害を生じた私人としては、損害の填補を国家賠償法によって求めることが出来る。

このように、本科目は、行政争訟法とあわせて、国民に対して実効的な権利の救済を保障するものである。

本科目では、

- ① 国家賠償、損失補償を請求するための基本的な要件を学ぶ。
- ② 具体的な事実をもとに、当該事件において国家賠償・損失補償が請求できるか否かを論じることが出来る。

これらにより、国家賠償法の体系的理解に必要な専門的知識を習得し、個別の事案について国家賠償法上の解決がどうなるかを論じることができ、更には、現代における国家賠償法の役割についても理解することを目指す。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で指示する。

判例はレジュメに記載するように努めるが、何らかの形で最新の判例集を持っておくのが望ましい。

『行政法判例百選II(第7版)』(有斐閣、2017)又は『ケースブック行政法(第6版)』(弘文堂、2018)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 不法行為法について
- 第3回 代位責任
- 第4回 国家賠償法一条の要件① 【公権力の行使、国又は地方公共団体、公務員】
- 第5回 国家賠償法一条の要件② 【違法性、過失】
- 第6回 規制権限の不行使
- 第7回 立法や司法権の行為など
- 第8回 営造物責任
- 第9回 営造物責任、その他の国家賠償法の問題
- 第10回 損失補償——その制度と憲法上の位置づけ
- 第11回 損失補償——損失補償の判断基準
- 第12回 国家賠償の谷間
- 第13回 公法訴訟の選択
- 第14回 原子力損害賠償など個別の法制度
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

国家補償法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に指示する判例に目を通し、該当条文を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

行政法総論、行政争訟法を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目では、理解の助けとなるよう必要な限りで、民事不法行為法に言及することがあります。
受講者自身においても、国家賠償法の説明を、民事不法行為法と関連付けながら受講してみてください。

キーワード /Keywords

地方自治法 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える地方自治法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治法

LAW223M

授業の概要 /Course Description

「地方自治」は本来われわれの生活に身近な存在である。授業においては、まず地方自治に関する法制度の原理と仕組みの概要を把握することがねらいである。さらに国と地方公共団体との役割分担と相互関係、それらを前提とした諸問題の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点から関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『地方自治法概説【第7版】』（有斐閣、2017年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中川義朗編 『これからの地方自治を考える』（法律文化社、2010年）

磯部力ほか編 『地方自治判例百選[第4版]』（有斐閣、2013年）

地方自治法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 地方自治の基礎理論 (1) わが国における地方制度の沿革	第16回 住民の権利義務 (3) 参加権
第 2回 地方自治の基礎理論 (2) 地方自治の意義、地方自治に関する法源	第17回 住民の権利義務 (4) 公の施設利用権
第 3回 地方自治の基礎理論 (3) 自治権の本質、地方自治制度の基本枠組み	第18回 国と地方公共団体との関係 (1) 相互関係の在り方、関与の在り方
第 4回 地方公共団体の種類 (1) 普通地方公共団体、特別地方公共団体	第19回 国と地方公共団体との関係 (2) 係争処理の仕組み
第 5回 地方公共団体の種類 (2) 基礎的地方公共団体、広域の地方公共団体 大都市制度、市町村合併、道州制	第20回 国と地方公共団体との関係 (3) 事務配分と財源配分
第 6回 地方公共団体の事務 (1) 地方公共団体の事務の区分	第21回 国と地方公共団体との関係 (4) 地方公共団体の財政、税源、補助金等
第 7回 地方公共団体の事務 (2) 事務配分のあり方	第22回 情報公開制度 (1) 情報公開制度の概要
第 8回 地方公共団体の権能 (1) 自治のための権能	第23回 情報公開制度 (2) 情報公開制度の諸問題
第 9回 地方公共団体の権能 (2) 自治行政権とその統制原理	第24回 個人情報保護制度 (1) 個人情報保護制度の概要
第10回 地方公共団体の権能 (3) 自治立法権の意義と限界	第25回 個人情報保護制度 (2) 個人情報保護制度の諸問題
第11回 地方公共団体の機関 (1) 地方議会	第26回 住民監査請求 (1) 住民監査請求の制度
第12回 地方公共団体の機関 (2) 執行機関、補助機関	第27回 住民監査請求 (2) 住民監査請求と住民訴訟
第13回 地方紅葉団体の機関 (3) 長と議会との関係	第28回 住民訴訟 (1) 住民訴訟の意義と要件
第14回 住民の権利義務 (1) 住民の参政権	第29回 住民訴訟 (2) 住民訴訟における諸問題
第15回 住民の権利義務 (2) 直接請求権	第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法学(統治機構論)および行政法総論を履修していることが望ましい。
授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報公開・個人情報保護法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える情報公開・個人情報保護法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報公開・個人情報保護法

LAW322M

授業の概要 /Course Description

情報公開・個人情報保護の法制度は、国の法律と各地方公共団体の条例により構成されている。情報公開制度は、国民・住民が国・地方レベルで政治に参画するための手段である。また情報化社会の進展により情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。情報公開及び個人情報保護の仕組みはどのようになっているのか、それらは現実にはどのように運用されているのか、具体的にどのような法律解釈上の問題が生じているのかということについて、概要を把握することが授業の狙いである。
授業では、情報公開制度及び個人情報保護制度について、基本的知識を体系的に理解すること、問題点の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『新・情報公開法逐条解説[第7版]』（有斐閣、2016年）
同 『個人情報保護法の逐条解説[第5版]』（有斐閣、2016年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著 『情報公開法』（有斐閣、1999年）
園部逸夫編集 『個人情報保護法の解説<<改訂版>>』（ぎょうせい、2005年）
行政情報システム研究所編 『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 情報公開の意義 情報公開とは何か	第10回 個人情報保護制度の憲法上の基礎 個人の尊厳とプライバシー
第 2回 情報公開制度の憲法上の基礎 知る権利、国民主権	第11回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（1） 個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者
第 3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（1） 情報・行政文書の意義	第12回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（2） 個人情報の収集、管理、利用
第 4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（2） 個人情報の不開示とプライバシー保護	第13回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（3） 開示請求、不開示情報、訂正等請求
第 5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（3） 法人等情報及び意思形成過程情報の不開示	第14回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（4） 不服申立て、審査会による審査
第 6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（4） 事務事業情報、安全・公安情報、外交等情報の不開示	第15回 まとめ
第 7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（5） 部分開示、応答拒否、裁量的開示	
第 8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（6） 開示手続、不服申立て、審査会による審査	
第 9回 個人情報保護の意義 個人情報保護とは何か	

情報公開・個人情報保護法【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法総論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪論

LAW130M

授業の概要 /Course Description

刑法総論の授業では、すべての犯罪に共通する、犯罪の一般的な成立要件の体系(犯罪論体系)について学びます。刑法は、刑罰という強力な規制手段と、その発動の前提条件(犯罪の成立要件)を定めています。それゆえ、犯罪の成否は恣意性を排して安定的に判断されなければなりません。公平な法適用を実現するためには、基本的な概念を厳密に定義することと、体系的・論理的に考えることが強く求められます。本講義では、具体的事例を議論の出発点として、刑法の基本原則や基本概念を正確に理解し、刑法解釈の「型」を修得することを目指します。

教科書 /Textbooks

教科書は、受講者の選択に委ねます。

参考までに、大塚裕史 / 十河太郎 / 塩谷毅 / 豊田兼彦『基本刑法I総論(第2版)』(日本評論社、2016年)を推奨します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 判例を学習するために
○十河太郎 / 豊田兼彦 / 松尾誠紀 / 森永真綱『刑法総論判例50!』(有斐閣、2016年)
- 各学説を理解するための基本書
○井田良『講義刑法学・総論』(有斐閣、2008年)
○山口厚『刑法総論(第3版)』(有斐閣、2016年)
○川端博『刑法総論講義(第3版)』(成文堂、2013年)
- 事例の解法を学習するために
島伸一編『たのしい刑法I 総論』(弘文堂、2012年)

刑法犯罪論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 刑法とは何か？刑法総論では何を学ぶのか？
 - 第2回 刑法の機能・目的と刑罰の機能・目的：刑罰論、新旧刑法学派の争い
 - 第3回 刑法の基本原則（罪刑法定主義、謙抑主義、責任主義）と刑法の適用範囲
 - 第4回 犯罪の基本概念と犯罪論の体系（構成要件該当性、違法性、責任）
 - 第5回 構成要件の概念と行為論（一般的行為概念、実行行為、犯罪の主体、作為と不作為の区別）
 - 第6回 因果関係論①：条件説と相当因果関係説
 - 第7回 因果関係論②：結果的加重犯、客観的帰属論
 - 第8回 不作為犯：真正不作為犯と不真正不作為犯の区別、作為義務
 - 第9回 故意論：故意の種類、未必の故意
 - 第10回 事実の錯誤①：具体的事実の錯誤
 - 第11回 事実の錯誤②：抽象的事実の錯誤
 - 第12回 過失犯：新旧過失論、注意義務の内容、信頼の原則
 - 第13回 違法性の本質と違法性阻却事由
 - 第14回 正当行為と被害者の承諾
 - 第15回 正当防衛①：正当防衛状況（対物防衛、急迫性、積極的加害意思、緊急救助）
 - 第16回 正当防衛②：正当防衛行為（防衛意思、偶然防衛、過剰防衛）
 - 第17回 緊急避難
 - 第18回 正当化事情の錯誤：誤想防衛
 - 第19回 責任の意義と本質
 - 第20回 責任能力と原因において自由な行為
 - 第21回 違法性の錯誤
 - 第22回 未遂犯
 - 第23回 不能犯と中止犯
 - 第24回 正犯と共犯の区別
 - 第25回 共同正犯の意義と処罰根拠
 - 第26回 共同正犯の諸問題：共謀共同正犯、承継的共同正犯
 - 第27回 間接正犯
 - 第28回 共犯の従属性と共犯の処罰根拠
 - 第29回 教唆犯と幫助犯
 - 第30回 罪数論：犯罪の個数と犯罪の競合
- ※履修者の理解度その他の理由により、講義の順序等は変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間考査（10％）、期末試験（90％）
各試験の形式については、講義の際に別途説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、配布用の資料をMoodleにアップします。導入事例を確認した上で、空欄となっている重要用語や定義などを教科書で確認し、自分で書き込んでみて下さい。
授業後は、各項目の成立要件を一覧にし、実際にその要件を一つ一つ事例にあてはめる練習をして下さい。その際に、事例に含まれた争点についても、教科書で問題の所在と各学説の論拠および批判の内容を再度確認して下さい。

履修上の注意 /Remarks

毎回、「最新の」六法を必ず持参して下さい。刑法総論は、学説が激しく対立し抽象的な議論が行われているので、最初は戸惑うかも知れません。予習と復習を通じて粘り強く学習に取り組んで下さい。その意味で、ノートの作成ははじめ受講生の主体的な取り組みが期待されます。授業内外での質問も大歓迎です。
また、この科目の理解をより深めるためにも、同じ刑事法科目に属する刑法犯罪各論、刑事訴訟法、刑事司法政策をさらに履修することを推奨します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は実践の学問です。具体的な事例を常に想定して、条文に規定されたそれぞれの要件にあてはまる事実があるかどうかを検討することで、法的解決を導くよう意識して下さい。そのために、判例とそこに現れた事案は好個の材料を提供してきます。一読してみましよう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 犯罪論

刑法犯罪各論I【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論I

LAW230M

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開（1）」

この講義が対象とする「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論Iにおいては、個人的法益に対する罪のうち人身に対する罪（財産罪を除く。）と国家的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念および各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、論理的思考力を習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する（Moodleから各自がダウンロードすること。）。

初回の講義において、テキストや参考書について説明する。

①六法（2018年版・平成30年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問わない。）。

②刑法各論の基本書（基本的には、受講者の任意に委ねる。）

山中敬一『刑法概説II各論』（成文堂・2008.10）。

井田良『入門刑法学・各論（法学教室Library）』（有斐閣・2013.12）。

井田良『講義刑法学・各論』（有斐閣・2016.12）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○井田良『基礎から学ぶ刑事法（有斐閣アルマ）』6版（有斐閣・2017.03）。

○山口厚『刑法各論』2版補訂（有斐閣・2010.03）。

○西田典之『刑法各論（法律学講座双書）』6版（弘文堂・2012.03）。

十河太郎 / 豊田兼彦 / 松尾誠紀 / 森永真綱『START UP刑法各論判例50!』（有斐閣・2017.12）。

○山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト221号）』7版（有斐閣・2014.06）。

刑法犯罪各論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。
- 1回 ガイダンス・刑法各論の基礎
 - 2回 生命に対する罪(1)殺人罪・墮胎罪(人の始期と終期)
 - 3回 生命に対する罪(2)自殺関与罪
 - 4回 生命に対する罪(3)遺棄罪(遺棄概念と遺棄罪の類型)
 - 5回 身体に対する罪(1)暴行罪と傷害罪①(暴行行為の性質・傷害概念)
 - 6回 身体に対する罪(2)暴行罪と傷害罪②(傷害罪の故意・同時傷害の特例)
 - 7回 自由に対する罪(1)逮捕監禁罪・脅迫罪・略取誘拐罪
 - 8回 自由に対する罪(2)強姦罪・強制わいせつ罪
 - 9回 私生活の平穩に対する罪 住居侵入罪・秘密侵害罪
 - 10回 名誉・信用に対する罪(1)名誉毀損罪と侮辱罪
 - 11回 名誉・信用に対する罪(2)信用毀損罪・業務妨害罪
 - 12回 国家の存立に対する罪 内乱罪・外患誘致罪・私戦予備陰謀罪
 - 13回 国家の作用に対する罪(1)公務執行妨害罪・逃走罪・犯人蔵匿罪・証拠隠滅罪
 - 14回 国家の作用に対する罪(2)偽証罪・虚偽告訴罪・職権濫用罪
 - 15回 国家の作用に対する罪(3)賄賂罪の基礎・収賄罪の諸類型・贈賄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30%、期末試験...70%
この他に随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく解らない箇所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の内容を要約して講義に臨む(必要な学習時間の目安は60分)。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、講義後に講義ノートを整理して不足事項を基本書・参考書・判例集等で補う(必要な学習時間の目安は60分)。
事前に事例課題をMoodleで提示するので、解答を作成して講義に参加することを推奨する(必要な学習時間の目安は1課題60分)。講義後には、講義をもとに解答を再度作成することが望ましい。1回の授業で概ね2つの事例問題を検討する予定である。

履修上の注意 /Remarks

この講義では、学生との対話形式で講義を進める。正答を求めるものではないので、積極的な発言を期待する。
この講義では「刑法総論」を理解していることを前提に講義を行う。そこで、この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」を受講しておくことを強く推奨する。また、この科目を承継する「刑法犯罪各論II」、および関連する他の刑事法系科目を受講することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのが、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論II

LAW330M

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開（2）」
この講義が対象とする「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論IIにおいては、刑法犯罪各論Iに続けて、個人的法益に対する罪のうち財産罪と社会的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念および各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、論理的思考力を習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する（Moodleから各自がダウンロードすること。）。
初回の講義において、テキストや参考書について説明する。
①六法（2018年版・平成30年版）
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問わない。）。
②刑法各論の基本書（基本的には、受講者の任意に委ねる。）
山中敬一『刑法概説II各論』（成文堂・2008.10）。
井田良『入門刑法学・各論（法学教室Library）』（有斐閣・2013.12）。
井田良『講義刑法学・各論』（有斐閣・2016.12）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○井田良『基礎から学ぶ刑事法（有斐閣アルマ）』6版（有斐閣・2017.03）。
○山口厚『刑法各論』2版補訂（有斐閣・2010.03）。
○西田典之『刑法各論（法律学講座双書）』6版（弘文堂・2012.03）。
十河太郎 / 豊田兼彦 / 松尾誠紀 / 森永真綱『START UP刑法各論判例50!』（有斐閣・2017.12）。
○山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑判判例百選II各論（別冊ジュリスト221号）』7版（有斐閣・2014.06）。

刑法犯罪各論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。
- 1回 ガイダンス・財産罪(1) 財産罪の基礎と窃盗罪①
 - 2回 財産罪(2) 財産罪の基礎と窃盗罪②
 - 3回 財産罪(3) 毀棄隠匿罪
 - 4回 財産罪(4) 強盗罪
 - 5回 財産罪(5) 強盗罪の諸問題(事後強盗・強盗致死傷罪)
 - 6回 財産罪(6) 詐欺罪・恐喝罪
 - 7回 財産罪(7) 詐欺罪の諸類型
 - 8回 財産罪(8) 横領罪・背任罪
 - 9回 財産罪(9) 盗品関与罪
 - 10回 公共危険罪(1) 騒乱罪・多衆不解散罪・出水罪・水利妨害罪・往来妨害罪
 - 11回 公共危険罪(2) 放火罪・失火罪(放火罪の基礎・焼損)
 - 12回 公共危険罪(3) 放火罪・失火罪(公共危険の発生とその認識)
 - 13回 公共の信用に対する罪(1) 文書偽造罪(文書偽造罪の基礎・文書概念・偽造概念)
 - 14回 公共の信用に対する罪(2) 通貨偽造罪・有価証券偽造罪
 - 15回 風俗に対する罪 わいせつ罪・重婚罪・賭博罪・死体損壊遺棄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30%、期末試験...70%
この他に随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく解らない箇所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の内容を要約して講義に臨む(必要な学習時間の目安は60分)。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、講義後に講義ノートを整理して不足事項を基本書・参考書・判例集等で補う(必要な学習時間の目安は60分)。
事前に事例課題をMoodleで提示するので、解答を作成して講義に参加することを推奨する(必要な学習時間の目安は1課題60分)。講義後には、講義をもとに解答を再度作成することが望ましい。1回の授業で概ね2つの事例問題を検討する予定である。

履修上の注意 /Remarks

この講義では、学生との対話形式で講義を進める。正答を求めるものではないので、積極的な発言を期待する。
この講義では「刑法総論」を理解していることを前提に講義を行う。そこで、この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」を受講しておくことを強く推奨する。また、この科目を承継する「刑法犯罪各論II」、および関連する他の刑事法系科目を受講することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのが、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑事訴訟法総論【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事手続に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法総論

LAW231M

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的事例を中心に刑事訴訟の基本構造、特に捜査の終結までについて概説する。簡潔且つ明瞭な解説を行いながら密度の濃い内容を提供し、未知の問題にも、原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

教科書 /Textbooks

渡辺直行『入門刑事訴訟法（第2版）』（成文堂、2013年）この教科書以外にも、各自の判断で使いやすいものを選択することを認める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選（第10版）」（有斐閣、2017年）、○「刑事訴訟法の争点」（有斐閣、2013年）等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、刑事訴訟法の目的と構造
- 第2回 刑事訴訟の関与者 (1)【法曹三者】
- 第3回 刑事訴訟の関与者 (2)【その他の訴訟参加者】
- 第4回 捜査総説
- 第5回 令状主義と強制処分法定主義
- 第6回 捜査の端緒
- 第7回 証拠の収集保全 (1)【捜索・差押え】
- 第8回 証拠の収集保全 (2)【鑑定、検証等】
- 第9回 逮捕
- 第10回 無令状捜索・差押
- 第11回 勾留
- 第12回 別件逮捕・勾留に関する問題
- 第13回 被疑者の取調べ、自己負罪拒否権
- 第14回 被疑者の防御権、接見交通権に関する問題
- 第15回 捜査の終結後の事件処理、公訴提起に関わる諸問題、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

刑事訴訟法を学ぶ際に、憲法学に関する議論の理解が前提となる部分が多く、憲法を履修していることが望ましいです。また、刑法上の概念が問題となる場面もあるので、刑法の履修が済んでいる、または平行して履修するとよいでしょう。

刑事訴訟法総論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自が選択した教科書の該当部分を読んである程度予習してくることをすすめます。授業後の復習はしておいてください。質問等も歓迎です。市民の司法参加が行われる時代です。刑事裁判の基本構造、理念などを十分に理解しておく必要があると思います。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法、公正な裁判

刑事訴訟法各論【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 刑事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事手続に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法各論

LAW331M

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的事例を中心に公判の開始（公訴提起）から、裁判の終結（確定判決）までを中心に概説する。法学的思考方法を身につけ、未知の問題にも原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

教科書 /Textbooks

渡辺直行『入門刑事訴訟法（第2版）』（成文堂、2013年）この教科書以外にも、各自の判断で使いやすいものを選択することを認める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選（第10版）」（有斐閣、2017年）、○「刑事訴訟法の争点」（有斐閣、2013年）等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 公訴の提起（起訴便宜主義、起訴状一本主義）
- 第2回 審判対象論
- 第3回 訴因の特定・変更
- 第4回 訴訟条件
- 第5回 公判の諸原則、公判期日の手続
- 第6回 裁判員制度
- 第7回 被害者参加
- 第8回 公判の準備（公判前整理手続、証拠開示）
- 第9回 証拠裁判主義
- 第10回 自由心証主義、証拠能力と証明力
- 第11回 違法収集証拠排除法則
- 第12回 自白法則
- 第13回 伝聞法則
- 第14回 裁判
- 第15回 上訴、再審

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

刑事訴訟法を学ぶ際に、憲法、刑法の知識が必要となる場面があります。これらの講義を履修済み、平行して履修するのがよいでしょう。また、刑事訴訟法総論で学んだ知識（捜査の終了まで）が前提となります。復習しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自が選択した教科書の該当部分を読んである程度予習してくることをすすめます。授業後の復習はしておいてください。質問等も歓迎です。市民の司法参加が行われる時代です。刑事裁判の基本構造、理念などを十分に理解しておく必要があると思います。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法、公正な裁判

犯罪学【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 1学期 (ペア)
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	犯罪学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪学上の諸問題について、自らの関心を高める。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

犯罪学

LAW232M

授業の概要 /Course Description

犯罪学という学問は、「なぜ人は犯罪を犯すのか」「なぜ犯罪が生起するのか」という素朴な疑問に答えようとする科学的試みの中で生成・発展してきたものです。本授業では、犯罪原因に関する「理論」をできるだけ多く取り上げて、各理論の長所・短所などを批判的に分析・検討することにします。

教科書 /Textbooks

○守山正・小林寿一編『ピギナーズ犯罪学』（成文堂、2016年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 藤本哲也『犯罪学原論』（日本加除出版、2003年）4,300円
- 瀬川 晃『犯罪学』（成文堂、1998年）
- G.B.ヴォルド＝T.J.バーナード『犯罪学：理論的考察[原書第3版]』（東大出版会、1990年）
- 宮澤浩一・藤本哲也・加藤久雄編『犯罪学』（青林書院、1995年）
- ジェフリー・ライマン＝ポール・レイトン『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ』（花伝社、2011年）
- リリー、カレン、& ポール『犯罪学 理論的背景と帰結 第5版』（金剛出版、2013年）
- A.ウォルシュ『犯罪学ハンドブック』（明石書店、2017年）

犯罪学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(犯罪学の学習方法についての助言・指導)
- 2回 犯罪学とは何か【刑事学、犯罪学、刑事政策、刑事司法政策】
- 3回 犯罪の定義【不法行為、非行、異常行動、逸脱行動】
- 4回 犯罪学の調査研究方法論(その1)【サーベイ・リサーチ、コーホート調査、公式統計調査、実験、直接観察、面接法】
- 5回 犯罪学の調査研究方法論(その2)【公式犯罪統計、被害化調査、自己報告調査、暗数】
- 6回 犯罪学における理論の役割とは何か【理論、パラダイム、パースペクティブ】
- 7回 古典主義犯罪学
- 8回 実証主義犯罪学
- 9回 批判的犯罪学
- 10回 三大パラダイムの相互比較
- 11回 シカゴ学派
- 12回 異質的接触理論
- 13回 社会的学習理論
- 14回 アノミー理論
- 15回 一般的緊張理論(GST)と制度的アノミー理論(IAT)
- 16回 非行副次文化理論
- 17回 異質的機会理論
- 18回 ラベリング理論
- 19回 コンフリクト理論
- 20回 社会統制理論
- 21回 セルフ・コントロール理論
- 22回 被害者学理論(被害者特性論、被害者誘発仮説、状況的アプローチ)
- 23回 ライフスタイル・モデル
- 24回 犯罪の経済学理論(合理的選択理論)
- 25回 ルーティン・アクティビティ理論
- 26回 発達論的犯罪学(ライフコース犯罪学)
- 27回 各種犯罪の現状とその原因論的説明(その1)【暴力犯罪(殺人・強盗)】
- 28回 各種犯罪の現状とその原因論的説明(その2)【財産犯罪(窃盗)】
- 29回 各種犯罪の現状とその原因論的説明(その3)【性犯罪(強姦)】
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたっては、テキストの指定された部分を読み込んでおくこと。
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

履修上の注意 /Remarks

専門教育科目の「刑事司法政策I&II」をあわせて受講すればわかりやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策I【昼】

担当者名 朴 元奎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 刑事司法政策の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事司法政策上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事司法政策 I

LAW332M

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに現代日本の刑事制裁の特色および問題点、並びに刑事司法制度の構造と機能について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策【第3版】』（成文堂、2017年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①朴元奎・太田達也編『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年）
- ②国家公安委員会・警察庁編『平成29年度 警察白書』（日経印刷、2017年）
- ③法務省法務総合研究所編『平成29年度 犯罪白書』（昭和情報プロセス株式会社、2017年）
- ④内閣府『平成29年版 犯罪被害者白書』（日経印刷、2017年）
- ⑤ジェフリー・ライマン=ポール・レイトン『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ』花伝社（2011年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 刑事政策の概念 【教科書 第1講 1-15頁】
- 2回 刑事政策の歴史 【教科書 第2講 16-42頁】
- 3回 刑事政策の動向 【教科書 第3講 43-55頁】
- 4回 犯罪予防 【教科書 第4講 56-72頁】
- 5回 刑事制裁 【教科書 第5講 73-84頁】
- 6回 刑事司法・少年司法機関の役割(1)【警察】【微罪処分】【教科書 第6講 85-88頁】
- 7回 刑事司法・少年司法機関の役割(2)【検察】【裁判】【起訴猶予】【執行猶予】教科書 第6講 88-94頁】
- 8回 刑事司法・少年司法機関の役割(3)【矯正保護】【少年司法機関】【】【教科書 第6講 95-110頁】
- 9回 犯罪被害者の支援と法的地位【教科書 第7講 111-126頁】
- 10回 死刑【教科書 第8講 127-141頁】
- 11回 自由刑【教科書 第9講 142-157頁】
- 12回 財産刑【教科書 第10講 158-169頁】
- 13回 保安処分【教科書 第11講 170-188頁】
- 14回 予備日(実務家による特別講義予定)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、テキストの指定された箇所を事前に読みこんでおくこと。
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

刑事司法政策I【昼】

履修上の注意 /Remarks

「犯罪学」「刑事司法政策II」とあわせて受講すればわかりやすい。刑事法関連科目のうち「刑法」「刑事訴訟法」をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。
刑事司法の実務家による特別講義を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策Ⅱ 【昼】

担当者名 朴 元奎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 刑事司法政策の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事司法政策上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事司法政策Ⅱ

LAW333M

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに犯罪者処遇および更生保護の分野における問題点ならびに現代日本社会において関心の高いいくつかの重要犯罪を選んでその現状、原因及び刑事政策的対応について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策【第3版】』（成文堂、2017年4月刊行予定）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 朴元奎・太田達也編『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年）
- 法務省法務総合研究所編『平成28年度 犯罪白書』（日経印刷、2016年）
- ジェフリー・ライマン＝ポール・レイトン『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ』花伝社（2011年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 犯罪者の処遇 【教科書 第12講189-203頁】
- 2回 施設内処遇(1) 【矯正処遇】 【改善指導】 【教科書 第13講204-233頁】
- 3回 施設内処遇(2) 【刑務作業】 【刑事施設視察委員会】 【教科書 第13講204-233頁】
- 4回 社会内処遇(1) 【保護観察】 【教科書 第14講224-243頁】
- 5回 社会内処遇(2) 【仮釈放】 【教科書 第14講224-243頁】
- 6回 個別犯罪と対策(1) 交通犯罪 【教科書 262-279頁】
- 7回 個別犯罪と対策(2) 薬物犯罪 【教科書 280-293頁】
- 8回 個別犯罪と対策(3) 来日外国人犯罪 【教科書 294-305頁】
- 9回 個別犯罪と対策(4) 組織犯罪 【教科書 306-318頁】
- 10回 個別犯罪と対策(5) 高齢者犯罪 【教科書 319-331頁】
- 11回 個別犯罪と対策(6) 企業犯罪 【教科書 332-343頁】
- 12回 個別犯罪と対策(7) 性犯罪 【教科書 344-358頁】
- 13回 個別犯罪と対策(8) 家庭内・近親者間犯罪 【教科書 359-383頁】
- 14回 実務家による特別講義予定
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、テキストの指定された箇所を事前に読みこんでおくこと。
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

刑事司法政策II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「犯罪学」「刑事司法政策I」とあわせて受講すればわかりやすい。刑事法関連科目のうち、「刑法」「刑事訴訟法」をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。
実務家による特別講義を一回予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法総論 【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会法の基本的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法総論

LAW140M

授業の概要 /Course Description

私たちが生きていくためには、「社会」との関係は切り離すことはできない。「社会」という概念は広範にわたるものであるため、「社会法」というと、法と呼ばれるもの全部が社会法ということもできるかもしれない。しかし、法学分野で「社会法」と捉えられているものは、主として労働法及び社会保障法である。本講義では、2年次生から専門的に学ぶことになるこれら2領域の基本的な問題について理解を深める。一般に「社会人」と呼ばれる人々はどういう人々だろうか？皆さんは「学生」で「社会人」とは呼ばれない（むしろ、中には「社会人」の方々もおられるが）。つまり、一般には、「社会人」とは、働いている＝労働している人々を指していると考えられる。この講義では、雇用労働に就いた労働者の職業活動をめぐる様々な問題（労働法領域）や、我々が生活を送っていく上で遭遇する諸問題（社会保障法領域）に対し、法がどのように関わっていくのかについて、できる限り具体的な例を提示しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布し、これに従って進行する。
ただし、法律科目であるので、講義中（試験も含め）関係する法律の条文を引くことになるため、関係諸法律が掲載されている六法を用意してもらうことになる。詳細は、初回講義時に説明するので、受講者は必ず出席すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

労働法、社会保障法領域における基礎的な知識の修得を目的とする。具体的には、雇用労働の場において労働者と使用者との間を規律するルールにはどのようなものがあるのか、それはどのような考え方に基づくものであるのか、労働と緊密な関係にある各種社会保険制度（特に労働保険領域）では、労働者の生活を守るためにどのような仕組みが作られているのか、そこではどのような個別具体的な問題が生じているのか、などについて講義する。

おおよその予定は以下の通りであるが、受講生の反応・希望により変更する可能性もある。

- 第1回 イントロダクション～「社会法」とは？
- 第2回 労働法の世界①～労働法の主要アクターと労働条件の決定
- 第3回 労働法の世界②～採用プロセスの規制と平等原則【採用内定】【試用】
- 第4回 労働法の世界③～賃金・労働時間の規制
- 第5回 労働法の世界④～休憩・休日等の規制【時間外労働】【三六協定】
- 第6回 労働法の世界⑤～休業等の規制【年次有給休暇】
- 第7回 労働法の世界⑥～解雇に関する規制【解雇権濫用法理】
- 第8回 社会保障法の世界①～労災保険って？
- 第9回 社会保障法の世界②～業務災害【業務起因性】、通勤災害
- 第10回 社会保障法の世界③～労災を起こした使用者の責任【労災民訴】
- 第11回 社会保障法の世界④～雇用保険って？
- 第12回 社会保障法の世界⑤～基本手当①【支給要件】
- 第13回 社会保障法の世界⑥～基本手当②【給付内容】
- 第14回 労働法・社会保障法領域における近年の動向
- 第15回 まとめ

社会法総論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験により評価する。
* 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習) 配布されたレジюмеに目を通し、疑問点を抽出する。
(事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講した後、「雇用関係法」「労使関係法」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講すると、社会法領域の知識をまんべんなく修得できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会サービス法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 現代社会が抱える社会サービス法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会サービス法

LAW242M

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、個々の制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、障害者総合支援法の制定や介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。

- 第1回 インタロダクション～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保障① ～医療供給体制～
- 第3回 医療保障② ～医療保険の保険関係（保険者・被保険者）～
- 第4回 医療保障③ ～保険医療の仕組み～
- 第5回 医療保障④ ～医療保険の保険給付①～
- 第6回 医療保障⑤ ～医療保険の財政①～
- 第7回 医療保障⑥ ～医療保険の財政②、高齢者医療～
- 第8回 社会福祉① ～社会福祉の法体系とその展開～
- 第9回 社会福祉② ～社会福祉の給付方式～
- 第10回 社会福祉③ ～サービス利用の法律関係～
- 第11回 社会福祉④ ～福祉サービスの提供体制～
- 第12回 社会福祉⑤ ～権利擁護システム～
- 第13回 社会福祉⑥ ～不服申立制度～
- 第14回 質問事項に対する講義（医療・福祉）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100%）。

社会サービス法【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 配布されたレジюмеに目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

- ・「社会保障法」としての体系的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目(憲法・民法・行政法領域)を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。
- ・授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

所得保障法 【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	所得保障法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える所得保障法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

所得保障法

LAW243M

授業の概要 /Course Description

「所得保障法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」に属するものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、これら各制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「所得保障法」という枠組みとして、年金、公的扶助（生活保護）等についての基本的な構造理解、「法的」諸問題の概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「所得保障法」領域においても、年金制度の統合問題や財政負担問題等についての検討も行なわれているし、芸能ニュースでも話題になった生活保護の不正受給や保護基準の問題なども議論となっている。

本講義では、単なる制度の概観だけにとどまらず、「法的」角度からの社会保障への理解を深める。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

大まかには以下のような予定で進行するが、受講者の反応や希望等により前後・変更することもある。

第1回 インTRODクシヨン～「所得保障法」とは？

第2回 年金保険① ～公的年金保険の構造～

第3回 年金保険② ～公的年金保険の保険関係～

第4回 年金保険③ ～公的年金保険の保険給付①（老齢給付・障害給付）～

第5回 年金保険④ ～公的年金保険の保険給付②（遺族給付）～

第6回 年金保険⑤ ～公的年金保険の保険給付③（年金給付の調整・離婚分割）～

第7回 年金保険⑥ ～公的年金保険の財政及び不服申立～

第8回 年金保険⑦ ～公的年金制度と私的年金制度～

第9回 公的扶助① ～我が国における公的扶助制度、生活保護制度の基本原則①（生保1・2条）～

第10回 公的扶助② ～生活保護制度の基本原則②（生保4条）～

第11回 公的扶助③ ～生活保護実施に関する4つの原則～

第12回 公的扶助④ ～保護の種類と方法～

第13回 公的扶助⑤ ～保護の実施機関とプロセス～

第14回 公的扶助⑥ ～不服申立制度～

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験のみで評価する（期末試験...100％）。

所得保障法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 配布されたレジュメに目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての体系的な理解のためには、「社会サービス法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が強いため、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目(憲法・民法・行政法領域)を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。
- ・ 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 雇用関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 雇用関係法と社会のつながりを確認し、雇用関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

雇用関係法

LAW240M

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集団的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、個別的労働関係法に焦点を当てます。個別的労働関係法は、労働組合（労働者集団）と使用者の関係を規制する集団的労働関係法と異なり、労働契約の成立、展開、終了にかかわる個別の労働者と使用者の関係を規制するものです。本講義の目的は、多くの人が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働基準法や労働契約法をはじめとした個別的労働関係法の基本事項に関する知識を身に付けること、個別的労働関係における現代的諸課題に関する基本的な分析の視点を養うこと、これらを通じて雇用社会に対する関心を高めること、にあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2016年）を使用予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第11版』（弘文堂、2016年）
土田道夫『労働法概説 第3版』（弘文堂、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「就労」の意義と労働法の役割
- 2回 労働契約関係の成立
- 3回 労働条件決定の法的仕組み
- 4回 労働時間規制
- 5回 休暇、休日、休業
- 6回 健康と安全
- 7回 懲戒処分
- 8回 人事異動
- 9回 労働条件の変更
- 10回 労働契約の終了
- 11回 期間の意義と定年制
- 12回 労働者派遣の法規制
- 13回 雇用差別禁止法
- 14回 企業組織の変動と労働関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

普段から労働問題に関心を持って情報を収集するとともに（事前学習）、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

履修上の注意 /Remarks

雇用関係法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労使関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 労使関係法と社会のつながりを確認し、労使関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労使関係法

LAW241M

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集団的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、集団的労働関係法に焦点を当てます。集団的労働関係法は、労働組合と使用者の関係を規律する労働組合法を中心とするものですが、労働組合の組織率の低下により、そのあり方が問われています。本講義の目的は、多くの人が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働組合法を中心とする集団的労働関係法の基本事項を身に付けるとともに、集団的労働関係法の将来像を模索することを通じて、雇用社会への関心を高めるところにあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2016年）を使用予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第11版』（弘文堂、2016年）
土田道夫『労働法概説 第3版』（弘文堂、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 労使関係法の意義と目的
- 2回 労働組合の歴史と機能
- 3回 団体交渉の仕組みとその主体
- 4回 団体交渉の目的と態様
- 5回 争議行為
- 6回 組合活動
- 7回 労働協約
- 8回 不当労働行為制度（1）【不利益取扱いと支配介入】
- 9回 不当労働行為制度（2）【制度の趣旨とその主体】
- 10回 労働組合による労働者の統制
- 11回 労働組合の衰退と合同労組
- 12回 公共部門の労使関係法
- 13回 従業員代表制度
- 14回 労使関係法の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

普段から労働問題に関心を持って情報を収集するとともに（事前学習）、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

履修上の注意 /Remarks

労使関係法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

独占禁止法【昼】

担当者名 /Instructor 諏佐 マリ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 独占禁止法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える独占禁止法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

独占禁止法

LAW340M

授業の概要 /Course Description

「経済憲法」または「経済の基本法」と呼ばれる独占禁止法によって規制される行為、および違反行為に対する措置の内容を学びます。まず、最初に、独占禁止法の執行・運用を中心的に担っている公正取引委員会の組織およびその手続について学びます。そのうえで、違反行為に対する公正取引委員会およびそれ以外の主体による措置についても学びます。そして、具体的な違反行為としての、カルテル・談合や、「私的独占」行為、競争制限的な合併、「不公正な取引方法」などについて、具体的事例に接しながら理解してもらいます。

教科書 /Textbooks

土田和博ほか『条文から学ぶ独占禁止法』（有斐閣、2014年）2500円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金井貴嗣ほか編「経済法判例・審決百選（第2版）」（有斐閣、2017年）2800円＋税
鈴木孝之・河谷清文『事例で学ぶ独占禁止法』（有斐閣、2017年）4600円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 独占禁止法の目的と仕組み
- 2 公正取引委員会の組織と手続
- 3 違反行為に対する民事上の責任
- 4 違反行為に対する刑事上の責任
- 5 競争制限行為の禁止
- 6 「私的独占」行為の禁止
- 7 「不当な取引制限」行為の禁止
- 8 事業者団体の行為の規制
- 9 企業集中規制
- 10 「不公正な取引方法」の禁止（1） 取引拒絶行為の規制
- 11 「不公正な取引方法」の禁止（2） 不当廉売行為の規制
- 12 「不公正な取引方法」の禁止（3） 不当顧客誘引行為の規制
- 13 「不公正な取引方法」の禁止（4） 拘束条件付取引の規制
- 14 「不公正な取引方法」の禁止（5） 優越的地位の濫用の規制
- 15 国際的な経済活動の展開と独占禁止法

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に必要な読書等を行うこと。

独占禁止法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

最新の独占禁止法の条文を必ず手元に用意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

独占禁止法、消費者、競争、経済活動の自由、公正取引委員会

知的財産法【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 知的財産法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える知的財産法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

知的財産法

LAW341M

授業の概要 /Course Description

これからの取引社会において、営業上の信用を含む知的資産がもたらす価値は更に増大するものと考えられる。「知的財産法」では、当該知的資産の全体像を、思想または感情の創作物に関わるもの・製品等の開発販売過程で創作されるもの・営業上の信用が化体されているものに大別して、権利客体の把握や侵害訴訟における各種権利の基本的機能を概説する。同時に、音楽ソフトのネットワークを利用した配信行為に代表される、情報通信技術の進展に伴う新たな課題についても検討を加え、現代の取引社会で知的財産権が関与する事象を総合的に判断する能力形成をはかる。

教科書 /Textbooks

山口大学作成「知的財産権法テキスト」 教室で配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村善之著「著作権法概説」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 知的財産法の全体像と基本理念～営業上の信用を含む無形の知的財産保護法制の概要説明
2. 情報通信技術の進展と知的財産権制度～ネットワーク等の技術進展がもたらす諸問題を考える
3. 著作権法～著作物と著作者の権利(著作権、著作人格権)、著作隣接権、出版権、侵害訴訟
4. 著作権法～プログラム等の保護、放送ないしは映画の権利関係、マルチメディア作品の権利関係
5. 特許法・実用新案法～工業所有権四法(特実意商)の基本的枠組み、製品開発と産業財産権四法
特許侵害訴訟の基本、パリ条約及びその他の条約
6. 特許法・実用新案法～特許要件、発明実施概念、特許権、特許発明の同一性判断と侵害訴訟
7. 特許法・実用新案法～、法定通常実施権、パテントマップの作成、ライセンス契約
8. 意匠法～意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断、ライセンス契約
9. 商標法～商標登録要件、侵害訴訟の基本、商標権、商標の類否判断と侵害訴訟、
10. 商標法～法定通常実施権、出願実務とライセンス契約
11. 不正競争防止法～不正競争行為概説、著名周知商品表示の模倣、営業秘密の不正取得等
12. 不正競争防止法～商品形態の模倣、技術的制限手段の解除等(スクランブル解除等)
13. デザイン保護法制～著作権法・意匠法・不正競争防止法の各法域における適用形態と境界領域
14. ソフトウェア保護法制～著作権法・特許法の各法域における適用形態
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

評価は、毎時間実施する小テスト(小レポート)計15回分の累積で行う。出席は成績評価の欠格要件とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

著作権の基礎知識は下記WEBサイト上の学習用ビデオを事前に視聴してください。
<http://www.kim-lab.info/domescon/2015video/cp/cp.html>

知的財産法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>
単なる教科書の知識だけでなく、ウェブ上の情報も取捨選択しながら、企業経営等の実務的側面から考えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

知的財産 特許 実用新案 意匠 商標 著作権者の権利

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor 下村 英嗣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境法

LAW342M

授業の概要 /Course Description

環境法は、環境基本法を頂点とした環境問題にかかわる法律群・法体系の総称である。環境法の対象領域は、各種の公害の防除、開発事業の環境影響評価、循環型社会の形成、自然保護や文化財保護、化学物質の管理・規制など多岐にわたる。循環型社会や持続可能な社会、環境にやさしい社会を家とするならば、環境法は、その家の柱、骨組みといえよう。

この講義では、環境基本法の規定を中心に環境法全般に共通する理念や原則、手法を学んだ上で、重要な国内環境問題を事例として取り上げ、個別の環境法に関する内容・特質・問題・判例・学説を概説する。授業は、1つないし少数の個別環境法を詳細に講義するのではなく、現代社会が直面する環境問題に関連する個別環境法を幅広く取り上げる。また、環境法の理解を深め、特徴をとらえやすくするため、比較法的視点も取り入れて講義を行う。

講義で取り上げる具体的な環境問題や個別環境法は、後述の「授業計画・内容」を参照すること。

教科書 /Textbooks

北村喜宣『環境法』(有斐閣、2015年) (有斐閣ストウディアシリーズ)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ①『ベーシック環境六法』(第一法規)
- ②北村喜宣『環境法(第4版)』(弘文堂、2017年)
 - ①は講義時にできる限り持参してください。
 - ②は発展的に学習したい人向けです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 概要(環境と法律)、環境法の史的展開
- 第2回 環境法の理念・原則
- 第3回 環境権の意義と機能
- 第4回 環境法の手法 / 小テスト(30分)
- 第5回 規制的手法①(大気汚染防止法)
- 第6回 規制的手法②(水質汚濁防止法)
- 第7回 環境法のその他の手法
- 第8回 土壌汚染対策法(汚染土壌の浄化制度) / 小テスト(30分)
- 第9回 廃棄物処理法①(廃棄物の定義)
- 第10回 廃棄物処理法②(適正処理の確保:業と施設の許可制)
- 第11回 リサイクル関連法(容器包装、家電、自動車)
- 第12回 環境影響評価法(開発事業の事前審査) / 小テスト(30分)
- 第13回 自然保護関連法①(土地利用規制)
- 第14回 自然保護関連法②(生物多様性)
- 第15回 エネルギー問題と環境法(原発事故の影響) / 小テスト(30分)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト4回・・・100% (1回あたり25%)

環境法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業計画を参照して、講義テーマに対応する教科書の部分を一読し、予習すること。
- ・ 教科書とノートを参照して、授業内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

- ①教科書に書いていない内容を講義することもあるため、受講時は、しっかりと話を聞き、ノートを取る。
- ②講義で取り上げた環境法の条文を六法等でチェックすること。
- ③予習として教科書を一読しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一方通行の講義にならないよう、受講生と対話しながら(問題を投げかけながら)講義を進めたいと思っています。

キーワード /Keywords

社会法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会法における現代的問題の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法の現代的展開

LAW343M

授業の概要 /Course Description

労働法と社会保障法を二本柱とする社会法は、現代人の社会生活の安定と展望の形成に関して、他の法系にはゆだねられない固有の役割を担っている。近年の雇用不安や格差と貧困の拡大などによって、労働者の保護と国民の生活保障を担う社会法の伝統的な役割はますます大きなものになっている。しかし他面では、国際的な市場の拡大と競争の激化によって、より抑制された社会法への改編を求める要請も高まっている。現代社会法は、伝統的な社会法の法理と実体社会の変容を背景にして提示される様々な新しい法理との統合を果たす課題に直面しているといえる。

この講義では、第一部で、社会法発展の歴史と現代社会法の概要を学習し、第二部では、社会法の本質的意義とその基本法理を学習し、そして、その観点を踏まえて、第三部では、市場原理主義的なグローバル化の浸透する中で進行している現代社会法改革の特徴と課題を学習する。

具体的には、以下の事項を学習することによって、社会法の現代的展開の中で生じている課題を客観的で広い視野に立って判断し、社会法の将来の方向を推知するために必要となる専門的知識を身につけるとともに、法と社会法の普遍的理念に立脚して、みずから積極的にその解決に関与する態度を習得することを目的として講義を行う。

【学習事項】

1. 社会法の歴史と現代社会法の概要
2. 市民法の基礎的規律と社会法の本質的意義とに関する古今の諸学説
3. 社会法の定義と法原理、社会法の体系的展開、社会法各部門の法原則および法的性格など、社会法の基本法理
4. 市場原理主義的構造改革の特徴と近年の社会法改革動向の関係
5. 統計資料等にみられる国民の社会権保障の現況と現代社会法の課題

教科書 /Textbooks

柴田滋著「社会法総論-社会法の基本法理とその現代的展開」大学教育出版.ISBN978-4-86429-346-4.2800円
および、パワーポイント資料（開講時に配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジョン・ロック著「市民政府論」、ジンツハイマー著・檜崎二郎他訳「労働法原理第二版」、ハイエク著「隷属への道」など、その他はテキストに案内しています。

社会法の現代的展開 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【第1部 社会法の歴史と現代社会法の概要】

- 第1回社会法の形成 → 資本主義の発達、工場法、救貧法、労働者保険
- 第2回戦後社会法の発展 → 社会権の人権、戦後福祉国家計画、社会法の沿革
- 第3回現代労働法の概要 → 労働基準法、労働組合法、雇用保険法
- 第4回現代社会保障法の概要(Ⅰ) → 社会保険、社会手当
- 第5回現代社会保障法の概要(Ⅱ) → 公的扶助、社会福祉サービス

【第2部 市民法の基礎的規律と社会法の基本法理】

- 第6回法の原理と市民法 → J・ロックの自然法論、市民法原則の普遍性と特殊性、「法典の欠缺」
- 第7回市民法的労働関係規範 → 労働契約、債権契約説と身分契約説、契約外的労働関係規範
- 第8回市民法的配分の秩序 → 配分と再配分の正義、ネオリベラリズム、現代配分的正義論
- 第9回社会法の基本法理(Ⅰ) → 労働者の従属性、社会法の諸部門、労働法の定義・目的・体系・原則
- 第10回社会法の基本法理(Ⅱ) → 社会保障法の定義・目的・保障方法・体系・原則

【第3部 市場原理主義と現代社会法の展開】

- 第11回市場原理主義と労働法改革(Ⅰ) → 市場原理主義的構造改革、労働力の流動化、「小さな政府」
- 第12回市場原理主義と労働法改革(Ⅱ) → 労働契約法、労働者派遣法、男女雇用機会均等法、パート労働法
- 第13回市場原理主義と社会保障法改革(Ⅰ) → 「自立と社会連帯」、アクティベーション
- 第14回市場原理主義と社会保障法改革(Ⅱ) → 確定拠出年金、地域完結型保健医療福祉、第2のセーフティネット
- 第15回社会法の当面する課題 → 国民経済動向と貧困・排除の拡大

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習(比重30%)、および定期試験(比重70%)によって評価します。
定期試験は記述式試験(テキスト等持込み可)で行う予定です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料、テキストを活用して予習・復習に取り組むよう心掛けてください。その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

労働法や社会保障法を履修していなくても受講できるように、第1部において予備的な講義を行うように配慮しています。
雇用不安や格差と貧困の拡大を抑止することは、今日の喫緊の課題となっています。日ごろ身近に経験する生活上の諸問題に注目しながら、この講義のテーマについて学習を進めていってほしいと思います。

キーワード /Keywords

人格権不可譲、「民法典の欠缺」、ロックの「労働所有論」
労働契約に関する債権契約説と身分契約説、契約外的労働関係規範、
ヘーゲルの市民社会論、メンガーの経済的基本権と生存権
市民法的自由、ハイエクの「隷属への道」、現代配分的正義論、市場原理主義的社会政策
労働力の流動化、社会的排除、「見えない貧困」、「自立と連帯」、個人の尊厳、アクティベーション

国際法Ⅰ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅰ

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってこようようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認
- 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務
- 第5回 まとめ

第II部「国際法主体としての個人」

- 第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定
- 第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援
- 第8回 国際犯罪
- 第9回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第10回 まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」

- 第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
- 第12回 海と国際法：海上交通
- 第13回 海と国際法：海洋資源
- 第14回 空と国際法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。

詳細は北方モデルの情報で確認してください。

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

国際私法【昼】

担当者名 /Instructor 小林 啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際私法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		現代社会が抱える国際私法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	生涯学習力	●	
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際私法

LAW252M

授業の概要 /Course Description

日本人同士の日本での結婚・売買等には日本の法律（民法など）が適用される。それでは、日本人が外国人と結婚・売買等をおこなう場合に適用されるのはいずれの国の法律であろうか。

国際私法はこのような問題を解決するための法律である。この授業では、国際私法とはどのような法律か、いかなる問題が国際私法によって解決できるかという点について、できるだけ身近な具体例を用いながら考えてみたい。

教科書 /Textbooks

使用しません（レジュメを配布しますが、授業時に口頭や板書等で適宜補足する場合があります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松岡博編『国際関係私法入門（第3版）』（有斐閣、2012年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
- 2回 国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
- 3回 国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
- 4回 国際家族法(1)属人法と、婚姻の準拠法【国際結婚と法】
- 5回 国際家族法(2)離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
- 6回 国際家族法(3)その他の問題【氏、相続など】
- 7回 国際財産法(1)契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
- 8回 国際財産法(2)契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
- 9回 国際財産法(3)不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
- 10回 国際財産法(4)自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
- 11回 国際財産法(5)その他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
- 12回 国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
- 13回 国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
- 14回 国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
- 15回 まとめ

※順番を入れ替えることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題等... 40% 期末試験... 60%

※出席点はありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の学修は特に必要としないが、レジュメを中心にして事後の学修（集中講義なので特に迅速におこなう必要がある）をおこなうことが求められる。

履修上の注意 /Remarks

事前準備は特に不要。復習すべき要点を授業中に指摘する。

受講に際しては六法が必要です。

法律学科以外の学生は、「法の適用に関する通則法」をコピーでもよいから準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

他の受講生の受講機会を阻害するような私語には（もしあれば）厳しく対処します。

キーワード /Keywords

国際結婚、国際家族法、国際財産法、国際民事紛争の解決

国際取引法【昼】

担当者名 大隈 一武 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際取引法

LAW350M

授業の概要 /Course Description

国際取引法は、単独法として存在するものではない。企業実務において展開されてきた実務先行で、学問としてはまだ確立していない分野である。企業実務における経験から、それを国際契約法、海外投資・企業経営関係法、通商法の3つに分類して授業を行う。

教科書 /Textbooks

なし。プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大隈一武『国際契約法入門』（中央経済社・1996）
外務省経済局監修『世界貿易機関を設立するマラケシュ協定WTO』（日本国際問題研究所・1997）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際契約：英米法契約理論-例えば、【約因】【コモンロー】【衡平法】理論・判例検討
- 2回 契約条件と国際貿易条件【インコタームズ】、契約約款などを検討
- 3回 国際取引と制限：OECD賄賂禁止条約、輸出管理ワッセナー取り決め、歴史的展開
- 4回 国際契約書の起草：海外工事請負契約UNCITRALガイド参照、契約書のドラフティング
- 5回 国際取引諸条約（国際海上物品運送・国際物品売買条約【CISG】など）や荷為替信用状規則【L/C】など
- 6回 海外進出：投資・企業経営-単独進出と企業買収・合併など実務的な展開と内容を検討
- 7回 企業経営：株式会社・パートナーシップの異同を理解し、海外合併事業の方法論、実務
- 8回 投資協定、投資保証、多国間投資保証機関【MIGA】
- 9回 OECD多国籍企業ガイドライン
- 10回 通商法：自由貿易地域と関税同盟の異同、実態、国際的動向、わが国の対応などを検討
- 11回 ブロック経済と世界貿易機関【WTO】：上記10との関連で、WTOの調整・問題点を検討
- 12回 GATTからWTOへ：WTO、TPPなど国際機関・協定
- 13回 WTOの組織、諸協定
- 14回 紛争解決のメカニズム
- 15回 OECD、IBRD、IMFなどの国際機関の機能と役割：WTO以外の重要な国際機関の機能と役割を理解し、わが国の対応のあり方についても検討

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%
なお、出席が授業回数の3分の2に満たない場合は期末試験の受験資格を認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことが重要である。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

集中講義修了次第、試験となる日程なので、特に毎日復習をすること。

キーワード /Keywords

現代国際関係法【昼】

担当者名 /Instructor 沼田 隆一 / Takakazu Numata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際関係法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代国際関係法

LAW351M

授業の概要 /Course Description

本授業は国際機関（国連本部、国連専門機関などを中心に）の国際社会における役割と其中で不可欠な交渉とうものに焦点を当て、さまざまな場年での交渉に必要なエリメンツを説明しながら交渉というスキルと国連機関をはじめとする多文化間でのインターパソなるスキルの基礎的なものを習得するため、後半ではワークショップも交え学生とインターアクティブに論じます。

1. 外交とは何か
2. 外交の歴史
3. 外交の主な特質
4. 国際機関はどのように作られたのか
5. 国際機関はどのように運営されるのか
6. 主要国連機関の役割と諸問題
7. 交渉とは何か
8. 交渉に必要なもの
9. 交渉の実例
10. 交渉ワークショップ

教科書 /Textbooks

特定の書籍は使いません。その毎回パワーポイントで要点をまとめたものを学生と共有します。必要に応じて論文や参考書籍を提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

国際機構論 横田洋三編著 国際書院、国連再生のシナリオ モーリスベルトラン著 横田洋三監訳 国際連合・その役割と機能 植木安弘 日本評論社

現代国際関係法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

このクラスは4日間の集中講義で概要で挙げたサブジェクトを4日間でカバーします。講義はおおむね以下のような流れで行われます。ただしスピードは受講生の集中力、積極性、その他の状況で臨機応変に行います。講義を中心にワークショップも後半で取り入れ、集中講義ですので集中力と積極性の持続が期待されます。

- 1回：コースガイダンス
- 2回：外交とは何か
- 3回：外交の歴史-コ大アジア、ヨーロッパ、中近東の例
- 4回：外交の特質-外交特権と諜報
- 5回：続・外交の特質-外交問題解決手段と外交のタイプ
- 6回：国際機関はどのように作られたのか-国際機関設立の歴史、現代社会と国際機関とのかかわり
- 7回：国際機関はどのように運営されるのか-構成、国連及び国連専門機関や地域機関の例
- 8回：続・国連機関はどのように運営されるのか-財政基盤及び意思決定
- 9回：国連機関の役割-国連本部、UNICEF、UNESCO、UNDP
- 10回：続・国連機関の役割-世界銀行、IAEA、WHO、UNEP
- 11回：国連機関の持つ諸問題-誠意介入、活動分野の多様化、拡大。問題の深刻化。各機関の合理化、NGOとの関わり、ドナー国との連携
- 12回：交渉とは何か-交渉の概念、交渉と人間行動学や心理学との接点、かつ国文科や宗教から来る特筆すべき点を解説
- 13回：交渉に必要な物-交渉に必要なエリメンツを分析・解説
- 14回：交渉の実例-実例を挙げて交渉のスキル、戦術、戦略を解説
- 15回：ワークショップ-交渉の準備及び戦略の策定を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験のみとし、論文形式で(400字5枚から8枚程度)テーマは指定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際法の基礎知識は必須です。さらに国際関係論や国際開発論などの基礎知識は望ましいですが必須ではありません。

履修上の注意 /Remarks

質問は授業中でも授業外でも受け付けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際機関についての理解を深めていただくこととどんな場面でも応用に聞く交渉というスキルの基礎的なスキルを身に付けることが目的です。国際機関への就職に興味のある方は雇用プロセスについてもお話しします。

キーワード /Keywords

民法総則【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民法に共通する諸概念や基本的考え方の理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法通則上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法総則

LAW160M

授業の概要 /Course Description

この授業では、主に民法第1編「総則」(民法1条~174条の2)について、判例・学説の解説を中心に講義を行う。全30回の講義を通して、民法の全体像を理解するとともに、民法総則に関する基本的な法解釈の能力を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

教科書 /Textbooks

山田卓生ほか『民法I—総則(第4版)』(有斐閣Sシリーズ,平成30年) 本体1800円+税
このほか、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権(第7版)』(有斐閣,平成27年) 本体2100円+税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

民法総則 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 民法とは何か？
- 第3回 民法の基本原則
- 第4回 法律行為と意思表示
- 第5回 権利の主体(1)【権利能力，意思能力】
- 第6回 権利の主体(2)【行為能力-未成年者】
- 第7回 権利の主体(3)【行為能力-成年後見制度】
- 第8回 権利の主体(4)【行為能力-制限行為能力者の相手方の保護】
- 第9回 権利の主体(5)【住所，死亡，不在者の財産管理，失踪宣告】
- 第10回 権利の主体(6)【法人】
- 第11回 権利の主体(7)【権利能力なき社団】，権利の客体
- 第12回 法律行為(1)【法律行為とは何か？】
- 第13回 法律行為(2)【公序良俗違反，強行法規違反】
- 第14回 法律行為(3)【意思表示の効力，心裡留保】
- 第15回 法律行為(4)【虚偽表示】
- 第16回 法律行為(5)【錯誤】
- 第17回 法律行為(6)【詐欺，強迫】
- 第18回 法律行為(7)【無効と取消し】
- 第19回 代理(1)【代理とは何か？】
- 第20回 代理(2)【代理権】
- 第21回 代理(3)【代理行為】
- 第22回 代理(4)【無権代理】
- 第23回 代理(5)【無権代理と相続】
- 第24回 代理(6)【表見代理】
- 第25回 条件，期限，期間の計算
- 第26回 時効(1)【時効とは何か？】
- 第27回 時効(2)【時効の援用】
- 第28回 時効(3)【時効の完成の障害】
- 第29回 時効(4)【取得時効，消滅時効】
- 第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

授業中に条文を参照することができるように，必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業終了前に質問時間を設けるので，分からないことは放置せず，積極的に質問して欲しい。

キーワード /Keywords

民法 民法総則

物権法 【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	物権法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

物権法

LAW260M

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）のうち、担保物権を除いた部分（物権総則、占有権、所有権、用益物権）について、判例・学説の解説を中心に講義を行う。全15回の講義を通して、物権法に関する基本的な法解釈の能力を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II-物権（第4版）』（有斐閣Sシリーズ，平成29年） 本体1900円＋税
このほか、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選 総則・物権（第7版）』（有斐閣，平成27年） 本体2100円＋税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス，序論(1)【物権の意義と性質】
- 第2回 序論(2)【物権の種類，物権の客体】，物権の優先的効力
- 第3回 物権的請求権，物権の変動
- 第4回 不動産物権変動における公示(1)【公示方法としての登記，「対抗」の意義】
- 第5回 不動産物権変動における公示(2)【登記を必要とする物権変動】
- 第6回 不動産物権変動における公示(3)【第三者の範囲，登記の手続】
- 第7回 動産物権変動における公示
- 第8回 立木等の物権変動と明認方法，物権の消滅
- 第9回 占有権(1)【意義，占有の成立と態様】
- 第10回 占有権(2)【占有権の取得，占有の効果，占有権の消滅】
- 第11回 所有権(1)【意義，所有権の内容，相隣関係，所有権の取得】
- 第12回 所有権(2)【共有，建物の区分所有】
- 第13回 地上権，永小作権
- 第14回 地役権
- 第15回 入会権，まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

民法総則の講義科目を受講済みであることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように，必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

物権法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業終了前に質問時間を設けるので，分からないことは放置せず，積極的に質問して欲しい。

キーワード /Keywords

民法 物権

債権総論【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 債権総論に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 債権総論をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、債権総論の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

債権総論

LAW263M

授業の概要 /Course Description

私たちの生活においては、常に何らかの債権が発生している。(例えば、スーパーで買い物をした場合など)。この講義では、債権について一般的に規定している「債権総論」と呼ばれる部分について講じる。債権総論分野の諸問題・諸課題について学習することで、法的な分析や論理的思考に基づいて、解決方法を提示することができるようにならねばならない。また、債権総論分野の諸問題を学習することで、民法と(現代)社会とのつながりも再確認できるはずである。
近時、債権法の改正が法学専門家の間で話題となっており、2017年5月に、ついに改正法が成立した。従って、これを学ばないわけにはいかないのであるが、しかし、施行は2020年の予定となっており、現行法となっているわけではない。また、改正法を知るためには、現行民法について一定の知識が必要であることも事実である。そこで、改正法を重視しつつも、現行民法についてもきちんと学ぶという、いわば両にらみで講義を行う。

教科書 /Textbooks

改正があったので、現時点では、新しい教科書の販売状況が分からない。そのため、テキストは未定とし、開講時に指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 1, 民法典の債権編の概観、2, 債権とは何か(物権との違い)
- 2回(週) 3, 債権に基づく妨害排除請求の可否、4, 債務と責任
- 3回(週) 5, 種類債権、6, 利息債権
- 4回(週) 7, 履行の強制、8, 債務不履行(履行遅滞)
- 5回(週) 9, 債務不履行(履行不能)、10, 債務不履行(不完全履行)、安全配慮義務
- 6回(週) 11, 債務不履行の現代的問題(範囲の拡張等)、12, 損害賠償の範囲
- 7回(週) 13, 損害賠償の調整、14, 受領遅滞
- 8回(週) 15, 債権者代位権、16, 債権者代位権の転用
- 9回(週) 17, 詐害行為取消権の法的性質・要件、18, その効果
- 10回(週) 19, 債権の消滅一般、弁済、20, 債権の準占有者に対する弁済
- 11回(週) 21, 相殺の要件、22, 差押えと相殺
- 12回(週) 23, 債権の譲渡性、24, 債権譲渡の対抗要件
- 13回(週) 25, 異議を留めない承諾、26, 多数当事者の債権関係
- 14回(週) 27, 連帯債務、28, 保証債務
- 15回(週) 29, 債権法改正のその他の議論、30, まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

持ち込み一切不可の定期試験(60分).....100% の予定

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講じる箇所について、法文とテキストの該当箇所を読むことが望ましい。予習をすることはもちろん大事ではあるが、むしろ、講義で触れられた点についての復習を心がけることをお勧めする。さらに、時間があれば、講義で触れた裁判例の判決原文を読むと良いであろう。

債権総論【昼】

履修上の注意 /Remarks

俗に言うレジユメ等は、一切、配布しないし、板書もしないので、とにかく自分で、ノートや教科書に担当者が話したことを書くべきである。いわゆるパワーポイントなるものは、使用しない。「民法総則」及び「物権法」が履修済である方が、理解しやすい。また、「債権各論」、「担保物権法」、家族法（親族・相続）も併せて学習することを勧める。受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むこと。この講義では、講義中の写真撮影及び録音は厳禁である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

債権各論【昼】

担当者名 /Instructor 堀田 泰司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 債権各論に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 債権各論をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、債権各論の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

債権各論

LAW262M

授業の概要 /Course Description

わが国の民法典は、その第三編第二章～第五章（民法521条～724条の2）において、「債権の発生原因」である、①契約、②事務管理、③不当利得、および④不法行為に関する規定を設けている。本講義のねらいは、これら①～④の法制度の基本構造およびこれらの法制度を定める重要条文に関わる解釈（論）について、要点を絞った解説を加えることで、「債権の発生原因」であるこれらの法制度が現代社会において、どのような機能を果たしているのかについて、理解を深めてもらうことにある。

とりわけ、我々の日常生活の一部を形成している契約（たとえば、コンビニでお菓子を買うのは、売買契約であり、マンションを借りるのは不動産賃貸借契約、お金を借りるのは金銭消費貸借契約となる。）および現代社会において不可避免的に発生する不法行為（たとえば、交通事故が代表例。）の判例解説・学説の解析に重点を置く。

ところで、2017（平成29）年5月、ついに「民法の一部を改正する法律案」が国会において可決・成立し、同年6月に改正民法が公布された。ただし、改正法の施行が約2年先（2020年中の予定）になるため、現行法（改正前民法）の規定の学習は依然重要である。よって、本講義では、できる限り「平成29年民法（債権関係）改正法」にも解説を加える予定だが、あくまでも、「現行法」の解釈（論）に軸足を置いて講義を進めていきたい。

教科書 /Textbooks

- ①堀田泰司ほか（編著）『債権法各論（スタンダード民法シリーズIV）』（嵯峨野書院、2016年）：定価（3,200円＋税）
- ②窪田充見＝森田宏樹（編）『民法判例百選II債権[第8版]（別冊ジュリスト238号）』（有斐閣、2018年3月頃発行予定）：定価（未定：教科書販売時期までに確定した情報を提供します。）
- ③最新版（年度）の小型六法は必携。
- ※上記「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参考書については、授業の際に適宜指示する。

債権各論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：序論（債権各論で学ぶこと、債権の発生原因としての契約、事務管理、不当利得、および不法行為の概略）
 第2回：契約総論1：序説（契約の意義と機能、契約の種類）
 第3回：契約総論2：契約の成立（申込みと承諾、懸賞広告）
 第4回：契約総論3：契約の効力①同時履行の抗弁権
 第5回：契約総論4：契約の効力②危険負担（改正民法536条1項の問題点など）
 第6回：契約総論5：契約の効力③第三者のためにする契約
 第7回：契約総論6：契約の解除①意義と要件
 第8回：契約総論7：契約の解除②行使と解除権の消滅
 第9回：契約総論8：契約総論のまとめ
 第10回：契約各論1：契約各論序説（任意債権の意義と類型、贈与）
 第11回：契約各論2：売買①（意義・成立要件など、予約、手付）
 第12回：契約各論3：売買②（売主の担保責任、瑕疵担保責任）
 第13回：契約各論4：売買③（特殊な売買、買戻し、再売買の予約、交換）
 第14回：契約各論5：消費貸借契約、使用貸借契約
 第15回：契約各論6：賃貸借①（意義・成立要件など）
 第16回：契約各論7：賃貸借②（借地借家法概説）
 第17回：契約各論8：雇用、請負
 第18回：契約各論9：委任、寄託
 第19回：契約各論10：組合、終身定期金、和解
 第20回：契約各論11：任意債権関係のまとめ、および次回以降の法定債権関係への導入編
 第21回：法定債権関係1：事務管理
 第22回：法定債権関係2：不当利得
 第23回：法定債権関係3：不法行為①（不法行為とは何か、一般不法行為の要件[故意・過失]）
 第24回：法定債権関係4：不法行為②（権利または利益の侵害）
 第25回：法定債権関係5：不法行為③（損害の発生、因果関係）
 第26回：法定債権関係6：不法行為④（特殊的不法行為、特別法上の不法行為）
 第27回：法定債権関係7：不法行為⑤（不法行為の効果）
 第28回：法定債権関係8：不法行為⑥（不法行為の効果の残りの部分、改正民法724条および同上の2）
 第29回：法定債権関係9：法定債権関係のまとめ
 第30回：債権各論のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※期末定期試験の成績【80分間】・・・70%
 ※日常の授業への取り組み(ミニッツペーパー、小テストを含む)・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習の内容】毎回の講義の後半部分（約15分程度）で、次回講義の要点を説明するので、教科書①の該当部分を中心に、あらかじめ読み込んでくること。
 【事後学習の内容】適宜、講義の要点の理解度を確認するために、ミニッツペーパー、小テストを複数回実施する。

履修上の注意 /Remarks

「民法総則」を履修済みであれば、本講義の理解はより確実なものとなろう。逆に、「民法総則」を全く学習していない場合、本講義の理解はきわめて困難なものとなろう。よって、自学習でもよいから、「民法総則」の内容を理解しておくことを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代社会では、契約、不法行為などと無関係に生活することは、事実上不可能であろう。すなわち、債務不履行と不法行為が損害賠償の二大請求原因といわれるゆえんである。自らが、これらの当事者にならないためにも、予防法学として本講義の内容を確実に理解することが大切である。

キーワード /Keywords

債権の発生原因、契約、事務管理、不当利得、不法行為、平成29年民法（債権関係）改正法の規律内容

親族法 【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 親族法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 親族法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、親族法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

親族法

LAW264M

授業の概要 /Course Description

民法第四編親族が主な講義の内容です。民法第五編相続の概要も説明します。婚姻、離婚、親子、親権、後見、扶養、相続を規律の対象とする家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思いがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講読親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社 2007年 3,000円
水野紀子他編著『民法判例百選III親族・相続』有斐閣 2015年 2,286円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 泉久雄『親族法』有斐閣 1997年 3,500円
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
- 窪田充見『家族法』有斐閣 2011年 4,000円
- 中川善之助＝泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 2000年 6,000円
- 有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 2005年 3,800円
- 二宮周平『家族法(第3版)』新世社 2009年 3,200円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻制度史】【婚約】
- 3回 婚姻制度②【内縁】【婚姻の成立】
- 4回 婚姻制度③【婚姻の効果】
- 5回 離婚制度①【離婚制度史】【協議離婚】
- 6回 離婚制度②【裁判離婚】【裁判離婚】
- 7回 離婚制度③【離婚の一般的效果】【親権者決定】【面会交流】
- 8回 離婚制度④【離婚の財産的效果】【財産分与】
- 9回 親子制度①【実子】【嫡出推定】【認知】
- 10回 親子制度②【養子】
- 11回 親子制度③【親権】【後見】
- 12回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 13回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【相続財産】
- 14回 法定相続制度②【単純承認】【相続放棄】【遺産分割】
- 15回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 定期試験... 80%

親族法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当部分、参考判例を読んでおいてください。事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

「法律の読み方」「民法総則」、「物権法」「債権各論」を履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。「債権総論」と併せて受講することを勧めます。講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

民事訴訟法総論【昼】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 2単位 2単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class クラス 2年 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事訴訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法総論

LAW286M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法における判決手続に関する基本的な知識について解説する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりです。

- ① 民事訴訟法の基本的構造を理解するために必要な専門的知識を修得できる。
- ② 民事訴訟法についての原則、重要単語を理解することができるようになる。
- ③ 民事裁判についての手続構造を理解することができるようになる。
- ④ 修得した知識により、簡易裁判所で民事裁判を自ら提起できるようになる。

教科書 /Textbooks

石川明編「みぢかな民事訴訟法」（不磨書房）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 民事訴訟とは 【各種訴訟】 【判決手続】
- 第2回 訴訟手続の概要について 【手続の流れ】
- 第3回 当事者 【当事者能力】 【訴訟能力】
- 第4回 裁判所 【裁判権】 【管轄】
- 第5回 訴えの提起 【訴えの種類】
- 第6回 訴えの利益 【訴えの利益】 【当事者適格】
- 第7回 争点整理手続1 【弁論準備手続】
- 第8回 争点整理手続2 【弁論準備手続】
- 第9回 口頭弁論1 【処分権主義】 【弁論主義】
- 第10回 口頭弁論2 【口頭弁論】
- 第11回 証拠1 【証拠】
- 第12回 証拠2 【証明責任】
- 第13回 訴訟の終了1 【判決】 【既判力】
- 第14回 訴訟の終了2 【既判力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書を読み、理解できない点を把握しておく。図書館の参考文献を利用して、その点について、自分で調べる。
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

民事訴訟法総論【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキスト、参考文献等を利用しての授業の予習、配布プリントを利用しての復習をかかさないようにすること。
民法の知識を修得していることが望ましい。
民事訴訟法各論を履修する前に、民事訴訟法総論を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的かつ自主的な学習を期待します。

キーワード /Keywords

民事訴訟法各論【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事訴訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法各論

LAW267M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法における判決手続に関する重要な問題（重要な判例があるもの、学説が対立しているもの）について学習します。
民事訴訟法総論（民事判決手続I）に比べると、内容は高度です。

この授業の主な到達目標は以下のとおりです。

- ① 民事訴訟法についての法的な問題点を見出すことができるようになる。
- ② 問題解決に必要な判例・学説を分析、整理できるようになる。
- ③ 具体的な解決方法について、自ら考えることができるようになる。
- ④ 学習した知識を将来の社会生活で実践できるようになる。

教科書 /Textbooks

石川明編「みぢかな民事訴訟法」（不磨書房）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の際に紹介します。適宜、プリントを配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 当事者 【当事者】
- 3回 代理人 【法定代理人】、【任意代理人】
- 4回 裁判所I 【管轄】
- 5回 裁判所II 【民事裁判権】
- 6回 訴えの提起I 【訴えの種類】
- 7回 訴えの提起II 【二重起訴】
- 8回 口頭弁論I 【処分権主義】
- 9回 口頭弁論II 【弁論主義】
- 10回 証拠I 【自白】
- 11回 証拠II 【違法収集証拠】
- 12回 判決I 【既判力の時的限界】、【口頭弁論終結後の承継人】
- 13回 判決II 【既判力の客観的範囲】、【訴訟の終了】
- 14回 上訴 【上訴の利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、教科書を読んで理解できない点を確認しておくこと。

事後に、図書館の参考文献等を利用して、授業で理解できなかった点について、理解できるよう努めること。

民事訴訟法各論【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「民事訴訟法総論」が基礎的な科目なので、先ず「民事訴訟法総論」を履修しておくこと。
- ・ 1学期に比べ、内容的に高度なので、テキストによる予習、配布プリント・板書ノート等による予習・復習を欠かさないことが重要である。
- ・ 授業の進行状況等により、授業項目（【当事者】等の授業での主要テーマ）が、変更、前後することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倒産処理法 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	倒産処理法制度の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える倒産処理法制度上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倒産処理法

LAW382M

授業の概要 /Course Description

債務者が経済的に破綻状態になったときには、利害関係人の利害を公平に調整する必要が生じます。この利害関係人の中の利益を調整することを目的とする法体系を、倒産法といいます。近年の経済状況の激変を受け、倒産法制度の改革が現在進んでいます。本講義を受講することにより、倒産処理の中心となる破産法についての知識を得ることができます。

この授業の主な到達目標は以下のとおりです。

- 1 倒産処理の基本的な法的手続構造を理解できるようになる。
- 2 倒産処理についての専門用語が理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

宗田親彦編 『やさしい倒産法 [第9版]』 (法学書院) 2014年 2808円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、最初の講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倒産とは、 【破産】、【民事再生】、【会社更生】
- 2回 破産手続の概要
- 3回 手続の開始、 【裁判所】、【破産管財人】
- 4回 債権の行使方法I 【債権の届出】
- 5回 債権の行使方法II 【債権の確定】
- 6回 担保権の行使 【担保権】
- 7回 相殺権の行使 【相殺権】
- 8回 否認権の行使I 【否認権】
- 9回 否認権の行使II
- 10回 取戻権の行使 【取戻権】
- 11回 双務契約の処理 【売買契約】
- 12回 貸借契約、雇用契約等の処理 【貸借契約】、【雇用契約】
- 13回 配当、免責、手続の終了 【免責】
- 14回 民事再生法について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書を読み、理解できない点を把握しておく。図書館の参考文献を利用して、その点について、自分で調べる。
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

倒産処理法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

自主的にテキストを使った予習、講義ノートを使った復習をしてください。
進行状況等により、講義スケジュールが前後することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事執行法【昼】

担当者名 春日川 路子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事執行法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事執行法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事執行法

LAW363M

授業の概要 /Course Description

この授業では、民事執行法の体系的理解に必要な専門知識を学習します。具体的には、強制執行手続、担保権実行手続、形式的競売、財産開示手続について取り扱います。これら民事執行手続につき課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力の習得を図ります。その過程で、現代社会が抱える民事執行法上の諸問題への関心が高まり、法と社会のつながりを再認識することにもなるでしょう。

教科書 /Textbooks

上原敏夫・長谷部由紀子・山本和彦著『民事執行・保全法』（第5版、有斐閣アルマ、2017）¥2000＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

上原敏夫・長谷部由紀子・山本和彦編『別冊ジュリスト 民事執行・保全判例百選』（第2版、有斐閣、2012）
その他、適宜授業中にも紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業の進捗状況等により、計画を変更する場合がある。
第1回 ガイダンス、民事執行手続の世界
第2回 執行手続の主体 執行当事者、執行機関
第3回 強制執行手続の開始と進行（1） 強制執行の要件
第4回 強制執行手続の開始と進行（2） 債務名義、執行文
第5回 強制執行手続の開始と進行（3） 執行の対象
第6回 強制執行手続の開始と進行（4） 執行関係訴訟、手続の進行
第7回 金銭執行（1） 不動産に対する強制執行その1
第8回 金銭執行（2） 不動産に対する強制執行その2
第9回 金銭執行（3） 船舶・動産に対する強制執行
第10回 金銭執行（4） 債権及びその他財産権に対する強制執行その1
第11回 金銭執行（5） 債権及びその他財産権に対する強制執行その2
第12回 金銭執行のまとめ、非金銭執行
第13回 担保権実行手続および換価のための競売（1）
第14回 担保権実行手続および換価のための競売（2）
第15回 授業全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80%、小テスト...10%、ミニレポート...10%

民事執行法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習

授業で使用了教科書を再度読み返すなど、民事訴訟法の内容を復習しておくこと。

教科書やその他参考書など、民事執行法について説明している書籍に授業開始前に目を通しておくこと。

事後学習

教科書やテキストを読み返すなど、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する前に、民法および民事訴訟法の授業を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱えている、企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業活動と法

LAW273M

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』という法体系の中から、特に、「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題（課題）をいくつか取り上げ、これらにつき法解釈論上ならびに立法論上の解説を行うことです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

以上を通して、現代型企業ビジネスが抱えている問題に関心をもち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることが最終目標となります。

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです（毎回、必ず持参してください）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略，以下の順で進みますが，受講生の関心・理解度等により，進度・順番が変わりうることをご了解願います。

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 商人・商行為とは何か
- 第3回 商法の特徴(1)【営利主義】
- 第4回 商法の特徴(2)【外観主義】
- 第5回 商法の特徴(3)【公示主義】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護
- 第9回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(4) 名板貸人の責任
- 第10回 現代型取引と名板貸制度【フランチャイズ】【ショッピングモール】
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人とは何か】
- 第12回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第13回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【支配人の義務】
- 第14回 営業・事業譲渡をめぐる法律問題
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート20% 期末試験80%

企業活動と法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に配布されるレジユメには、随時、以下の事項が記載されていきます。

- ①予習すべき教科書の箇所、
- ②授業後に取り組むべき復習問題、
- ③レポート提出用の課題など

事前に配布される「レジユメ」や「判例資料」をよく読んで、指示された範囲の予習・復習を心がけ、課題に積極的に取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

- 1, 本講義が対象とする「商法」は、応用科目としての性格が非常に強いものです。つまり、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「物権法」「会社法」「民事訴訟法」などの諸科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。
- 2, 配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したもも持参の上、講義を受けるようにしてください。
配布済レジユメや裁判例プリントなどを持参しないで受講すると授業の理解度が著しく低くなります。
- 3, 欠席した場合には、教員研究室前に置かれている残余分レジユメを受領してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法総則、会社法総則、不正競争防止法

会社法I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法I

LAW270M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の設立
- 6回 株式と株主の権利
- 7回 株式会社の機関(1)【株主総会】
- 8回 株式会社の機関(2)【取締役】【取締役会】
- 9回 株式会社の機関(3)【代表取締役】
- 10回 株式会社の機関(4)【監査役】【会計監査人】【社外取締役】
- 11回 株式会社の機関(5)【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
- 12回 株式会社の機関(6)【善管注意義務と忠実義務】【役員報酬】
- 13回 株式会社の機関(7)【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(8)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法II

LAW271M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式の譲渡】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【自己株式】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【新株予約権発行の瑕疵】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】【資本金・準備金の減少】
- 11回 株式会社の解散・清算
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【合併】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【会社分割】【事業譲渡】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業取引法(商取引法)の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える企業取引法(商取引法)上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法 I

LAW272M

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象テーマとなる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶然のリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引を取り扱います。

また、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の体系的かつ基本的枠組みを理解することにあります。

火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する「法解釈論上ならびに立法論上」の諸問題や保険犯罪を取り上げながら、保険法体系の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。

また、現在社会において実際に取引されている保険商品の実態、証券投資取引におけるのと同様の説明義務違反をめぐる紛争や保険募集の適正性に関わる問題点についても、できるかぎり言及する予定です。

教科書 /Textbooks

初回講義時に指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、以下の通りですが、受講生の関心・理解の度合い等により、進度や順番が変わる可能性があることにつき、ご了承ください。(【】はキーワード)

- 第1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 第2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 第3回 保険法改正の概要
- 第4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 第5回 保険契約における告知義務(1)告知義務制度の背景・告知者とその相手方
- 第6回 保険契約における告知義務(2)告知義務の内容・告知事項
- 第7回 保険契約における告知義務(3)告知義務違反の効果
- 第8回 保険契約における告知義務(4)事例研究とまとめ
- 第9回 保険契約における事情変更・失効
- 第10回 損害保険契約 【被保険利益】
- 第11回 損害保険契約 【保険代位】
- 第12回 保険者(保険会社)の免責と約款における免責条項の有効性
- 第13回 各種の損害保険契約一個別の問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 第14回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、授業の理解度を把握するために不定期に実施する小テスト等の結果20%

企業取引法I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に配布されるレジユメには、①予習すべき教科書の箇所、②復習問題、③レポート提出用の課題などが、随時記載されていきます。よく読んで、指定された範囲の予習や講義後の復習を心がけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

- 1, 配布される資料は、以後の講義のために「事前に」配付されるのが通例です。従って、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領した資料レジユメについても持参の上、講義を受けるようにしてください(講義当日配布される予習用のレジユメでは当日の講義には役に立たない場合が多いです)。
- 2, 欠席した場合、配付済レジユメ等は講義担当者の研究室横の棚にスタックされています。各自の責任において入手するようにしてください(残余部数には限りがあります)。
- 3, 配布済レジユメや裁判例プリントなどを持参しないまま受講すると授業の理解度が著しく低くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1, 企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」と合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
- 2, また、私生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠責保険、火災保険、地震保険、医療保険、

企業取引法Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法Ⅱ

LAW372M

授業の概要 /Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをすることも増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジットカードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法（とりわけ私法）は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手法の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動していただいただけでは、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名をしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手法を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち（振出人、受取人、所持人等）の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

教科書 /Textbooks

大塚龍見他「商法III - 手形・小切手〔第4版〕」（有斐閣Sシリーズ・2011年）2,100円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①体系書：川村正幸「手形・小切手法〔第3版〕」（新世社・2005年）、関俊彦「金融手形小切手法〔新版〕」（商事法務研究会・2003年）。
- ②判例：神田秀樹他編「手形小切手判例百選〔第7版〕」（別冊ジュリスト222号）（有斐閣・2014年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 手形・小切手法を学ぶこと
- 第2回 手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（1）【有価証券】
- 第4回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（2）【証拠証券、免責証券、金券】
- 第5回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（3）【原因関係、商業手形、融通手形】
- 第6回 手形・小切手を振り出してみる（1）【手形署名、手形行為】
- 第7回 手形・小切手を振り出してみる（2）【手形理論、権利外観理論】
- 第8回 手形・小切手を振り出してみる（3）【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
- 第9回 手形・小切手を振り出してみる（4）【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
- 第10回 手形・小切手を振り出してみる（5）【手形要件】
- 第11回 手形・小切手を振り出してみる（6）【白地手形】
- 第12回 手形を満期前に譲渡する（1）【裏書、裏書の連続】
- 第13回 手形を満期前に譲渡する（2）【人的抗弁の制限】
- 第14回 手形が盗まれてしまった！（1）【善意取得】
- 第15回 手形が盗まれてしまった！（2）【公示催告、除権決定、手形訴訟】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。

企業取引法II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。また、講義前にMoodleに講義レジュメ、資料等をアップしておくので、これに目を通して予習しておくこと。予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である（手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...）。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

講義後は、講義中に採ったノートを整理して、どのような内容を学んだのか、適宜、復習して定期試験に備えること。

履修上の注意 /Remarks

講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること（プロセス）が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあつて、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、（できれば最新の）六法（但し、コンパクトなものでよい）を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

約束手形 為替手形 小切手 有価証券 企業決済 企業金融

証券市場と法 【昼】

担当者名 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融商品取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	金融商品取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場と法

LAW370M

授業の概要 /Course Description

証券市場は言うまでもなく企業の資金調達の間である。また、われわれ一般市民においても、その資産の一部を証券投資に回している。1929年10月24日合衆国を襲った「暗黒の木曜日」は、単に証券取引所での証券価格の大暴落とどまらず、企業の倒産、大量の失業者・破産者の発生、最終的には世界大戦に至るほどの経済の低迷を招いた。近年でも、やはり合衆国におけるサブプライム問題に端を発した、2008年9月の「リーマン・ショック」は、世界的な金融危機を招いた事件であった。続いてギリシャ国債等のデフォルト危機は、EUばかりでなく、世界経済全体を揺さぶった。証券市場は、証券を保有する者に限らず、経済活動のインフラストラクチャーとして、われわれの生活にも大きな影響を持っている。

本講義を受講することで、金融商品、証券市場、上場会社の情報開示、公認会計士による財務諸表監査の意義、証券会社の投資勧誘規制、投資者保護の意味等について、その基本的な仕組みとその関係を知ることができる。おもに「金融商品取引法」を中心に講義が進むが、悪文で知られる同法の条文について、同法の体系、趣旨を踏まえ、個別の問題（粉飾決算に関する損害賠償請求、インサイダー取引規制、証券会社の説明義務違反等）を同法がどのように規制し、どのように解決しようとしているのかを知ることができる。講義は、総論部分（第1回～第4回）の後、情報開示（第5回～第9回）、市場規制（第10回～第11回）および投資勧誘規制（第12回～第15回）まで、全体で4部構成である。

教科書 /Textbooks

徳本穰編著「スタンダード商法Ⅳ 金融商品取引法」（法律文化社・2018年9月刊行予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

近藤光男＝吉原和志＝黒沼悦郎「金融商品取引法入門（第4版）」（商事法務研究会・2015年）、河本一郎＝大武泰南他「新・金融商品取引法読本」（有斐閣・2014年）、松尾直彦「金融商品取引法（第4版）」（商事法務研究会・2016年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 百年に一度の危機?! 証券市場の暴落で大損した人あるいは大儲けした人【大恐慌から生まれた証券取引法】
- 第2回 金融商品とは何か?(1)【有価証券、デリバティブ取引】
- 第3回 金融商品とは何か?(2)【ニクソン・ショック、ポートフォリオ・セレクション、金融自由化】
- 第4回 金融商品取引法の目的【投資者保護、自己責任原則】
- 第5回 発行会社として情報を開示する(1)【有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書】
- 第6回 発行会社として情報を開示する(2)【内部統制システム、内部統制報告書、財務諸表に対する会計士監査】
- 第7回 粉飾決算で投資者から訴えられた!【粉飾決算】
- 第8回 粉飾決算で投資者から訴えられた!【有価証券報告書虚偽記載、発行会社・役員等の責任】
- 第9回 企業買収に関する情報開示【TOB、5%ルール】
- 第10回 証券市場はどのように規制されているのか?(1)【相場操縦、風説の流布・偽計取引】
- 第11回 証券市場はどのように規制されているのか?(2)【インサイダー取引】
- 第12回 金融商品取引業者とは何だろうか?【証券会社、登録制】
- 第13回 証券会社は顧客を喰い物にしているか?(1)【適合性原則】
- 第14回 証券会社は顧客を喰い物にしているか?(2)【説明義務】
- 第15回 証券会社は顧客を喰い物にしているか?(3)【金融庁、証券取引等監視委員会】

証券市場と法 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果の観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。その場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義を受ける前に教科書・講義レジюмеを予習した上で講義に出席すること。講義前にMoodleに講義レジюме、資料等をアップするので、これに目を通し、予習して講義に出席すること。予習せずに講義を聞いただけで、金融商品取引法の問題を理解することは困難である(金融商品取引法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

講義後は、講義中に採った講義ノートを整理し、適宜、復習して、定期試験に備えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記をするのではなく、考えてみること(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあつて、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

講義中に、金融商品取引法、金融商品の販売等に関する法律、消費者契約法、会社法、商法、手形法、刑法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(金融商品取引法は毎年のように改正されるので)最新の六法(但し、コンパクトなものでもよい)を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融商品 有価証券 株式 株券 社債 デリバティブ取引 セキュライゼーション 粉飾決算 有価証券報告書虚偽記載 内部統制システム 公認会計士 TOB 相場操縦 インサイダー取引 証券会社 証券市場 適合性原則 説明義務 金融庁 証券取引等監視委員会 金融商品取引法 証券取引

企業法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法の現代的展開

LAW371M

授業の概要 /Course Description

主として著作権法と不正競争防止法の領域を扱い、特許法領域については職務発明等の知財管理で要点となる部分のみを扱う。ここでは、単なる法解釈だけでなくコンテンツ産業の契約実務、新コンテンツ産業を立ち上げる際の戦略的立法等まで含めた内容を扱う。音楽産業と法律、映画産業と法律、出版産業と法律、放送事業と法律・・・等々、各産業毎に前述した法領域の諸問題を検討する

教科書 /Textbooks

判決文を木村研究室ホームページから配信します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

有斐閣別冊ジュリスト「著作権判例百選」
鹿毛丈司著「音楽著作権と原盤権ケーススタディ」音楽之友社
有斐閣別冊ジュリスト「商標・意匠・不正競争判例百選」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要
2. 著作権の保護客体～著作物の定義と種類、プログラムの著作物、データベースの著作物二次的著作物および編集著作物、キャラクター、タイプフェイス等
3. 著作者～著作者、法人著作
4. 著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権
5. 著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
6. 著作権(著作財産権)Ⅰ～複製権、上演権及び演奏権、上映権、公衆送信権、口述権、展示権、頒布権
7. 著作権(著作財産権)Ⅱ～譲渡権、貸与権、翻訳権・翻案権等、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利
8. 著作隣接権～概論
9. 出版権～概論
10. 著作権侵害
11. 音楽産業と契約実務
12. 映画産業と契約実務
13. 放送事業と契約実務
14. 商標権侵害・不正競争行為
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

評価は、毎時間実施する小テスト(小レポート)計15回分の累積で行う。出席は成績評価の欠格要件とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ネット上の最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に直近の知財判決速報を参照して下さい。
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>

企業法の現代的展開 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、パテントサロンの情報を利用します。事前に参照して下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
単なる教科書の知識だけでなく、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

著作権 著作者人格権 著作隣接権 原盤権 出版権

政治学 【昼】

担当者名 秦 正樹 / HATA Masaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学

PLS100M

授業の概要 /Course Description

本講義では、①「政治」が必要であること理由、②戦後日本における政治過程、③政治家・官僚や有権者などの様々なアクターの意思決定や行動様式など、政治学の基盤となる理論や概念について概説します。また本講義では、現在日本が抱える諸問題の原因がどこに（何に）あるのかを自ら発見し、その解決策を模索するための基礎的能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せず、毎回、レジュメを作成し配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹（2017）『政治学』有斐閣。
砂原庸介（2015）『民主主義の条件』東洋経済新報社。
伊藤光利編（2009）『ポリティカル・サイエンス事始め（第3版）』有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション 【政治と政治学】【規範】【実証】
2. 政治と権力(1) 【直接民主制】【間接民主制】【国民主権】
3. 政治と権力(2) 【権力】【権威】
4. 日本の政治(1) 【保守と革新】【自社対立】【55年体制】
5. 日本の政治(2) 【政治改革】【民主党】【小泉自民党】【無党派層】
6. 日本の政治(3) 【政権交代】【改革勢力】【安倍政権と自民党】【維新の会】
7. 政治制度 【二大政党制】【選挙制度】【アメリカ政治】
8. 政党制度 【社会的亀裂】【多党制】【ヨーロッパ政治】
9. 議員と官僚 【官僚主導】【政治主導】【本人—代理人理論】
10. 地方政治(1) 【二元代表制】【地方分権】【団体自治】
11. 地方政治(2) 【足による投票】【都市の限界】【住民自治】
12. 市民と政治(1) 【政治参加】【若者の低投票率】【投票行動】
13. 市民と政治(2) 【市民参加】【新しい公共】【NPO/NGO】
14. 国際政治 【リアリズム】【コンストラクティビズム】【紛争発生】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：80%
- ・ 講義への参加の積極性（リアクションペーパー・授業中の質問など）：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として事前にその週の授業内容に関連する政治ニュースを調べておいてください。また、各授業内容のレジュメには毎回参考文献を示しているため、それら文献を読むなどの復習をしてください。

政治学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義の性質上，授業の中で時事的なトピックに触れることがありますので，積極的に新聞やテレビなどで政治のニュースに触れるようにしておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校までの公民や現代社会・政治経済などでは知識を習得することがメインだったかと思いますが，本講義では，むしろ皆さん自身が考えて答えを出すための材料を提供することが重要だと考えています。政治学の知見の習得を通じて，さまざまな社会問題に対する処方箋を考えてみましょう！

キーワード /Keywords

政治理論・実証政治学・行政学

都市環境論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市環境（水・大気・廃棄物など）に関する体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 都市環境に関する政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論

PLC111M

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。当時を知る患者さんたちや支援者たちがなくなっている現在、後世に伝えていくためにも、水俣に関する学習を行う必要があるでしょう。

また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当に「うまい」と感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」、加工食品にどのような添加物がどれくらい入っているのか食品表示の見方といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

これらを知るために、グループ・ディスカッションを行うこともあります。また、私のゼミ生から取り組んでいるアクティビティを通じた環境の話を発表してもらいます（藍島、食品ロス削減学生プロジェクト）。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチェル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成26年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

都市環境論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】	
第2回	環境目標の設定、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育) : : 簡単な環境意識度チェック	【ESD】
第3回	三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告・藍島プロジェクト・食ロス削減プロジェクト	【環境学習旅行】
第4回	水俣病とは? 水俣学とは? 多角的検証	【水俣病】
第5回	日本の環境政策の歴史と課題	【環境政策】
第6回	廃棄物管理 その原理と現状~一般廃棄物、産業廃棄物、3R	【廃棄物管理】
第7回	食と農~健康の源=自らの食を見直そう	【食農】
第8回	上水道 : : (アクティビティ=きき水比べ)	【おいしい水】
第9回	下水処理をめぐって~下水処理の原理	【水質汚濁】
第10回	大気汚染~汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは?	【大気汚染】
第11回	大気汚染~身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定	【CO2計測】
第12回	北九州市の環境の現状	【北九州市】
第13回	途上国の都市環境問題	【途上国】
第14回	環境保全・環境教育に取り組む人々= エコツーリズムに関わろう!	【エコツーリズム】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、自らの身の回りの生活状況の各項目の把握と教科書の該当箇所の熟読、事後学習は、授業で学習したことの実生活への適用とその実践活動を記録化。

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施、同時に授業の事前に新聞から関係ある記事を読んでおく。
授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境都市としての北九州」の同時受講も勧めておきます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全は楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

ESD(持続可能な開発のための教育)、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ、エコライフ・チェック

日本政治論 【昼】

担当者名 秦 正樹 / HATA Masaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本政治上の政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の政治が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本政治論

PLS110M

授業の概要 /Course Description

数年前までは崩壊寸前だった自民党が、今や無類の「強さ」を誇っているのはなぜなのだろう。逆に、歴史的な政権交代を果たした民主党（当時）を母体とするリベラル系野党（立憲民主党など）が未だ復調できないのはなぜなのだろう。あるいは一定の期待を受けているにも関わらず、改革を掲げる政党（旧みんなの党、日本維新の会、希望の党など）が離合集散を繰り返すのはなぜなのだろう。本講義では、こうした日本政治のパズルを解く鍵として、「イデオロギー」の役割に着目します。一般的に「右派と左派」「保守と革新」で表現されるイデオロギーは、いわば「政治を見るモノサシ」を意味します。イデオロギーは、政治家と世論が相互に影響し合いながら、時代に応じてその意味を変化させるのです。本講義では、「イデオロギーの変遷」の視点から戦後日本政治の構造とそれが形作られてきた社会的背景との関係を概説します。そのため、本講義では①戦後日本のイデオロギー概念の変遷、②戦後日本では政治家と有権者はいかなる対応関係を有していたのかを説明します。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せず、毎回、レジュメを作成し配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

蒲島郁夫・竹中佳彦(2012)『イデオロギー』東京大学出版会。
石川真澄・山口二郎(2010)『戦後政治史 第三版』岩波新書。
山田真裕(2016)『政治参加と民主政治』東京大学出版会。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【民主主義】【規範理論】【実証】
- 2回 政治を見る「ものさし」 【イデオロギー】【改革】【日本国憲法】
- 3回 日米安保とイデオロギー 【占領政策】【日米安保】【55年体制】
- 4回 高度経済成長とイデオロギー 【経済政策】【学生運動】【もはや戦後ではない】
- 5回 革新自治体とイデオロギー 【革新勢力】【市民の台頭】
- 6回 多様化する政党とイデオロギー 【公明党】【環境権】【包括政党】【福祉政策】
- 7回 自民党派閥とイデオロギー 【三角大福】【派閥政治】【自民党システム】
- 8回 新自由主義とイデオロギー【第二次臨調】【サッチャリズム】【小さな政府】
- 9回 ポスト冷戦とイデオロギー 【脱イデオロギー】【非自民政権】【政治腐敗】
- 10回 バブル崩壊とイデオロギー 【失われた20年】【選挙制度改革】【無党派層】
- 11回 萌芽する「改革」イデオロギー 【小泉改革】【自民党の集票構造】【規制緩和】
- 12回 政権交代とイデオロギー 【古い自民党】【民主党】【みんなの党】
- 13回 「回帰する保守」と自民党 【アベノミクス】【憲法改正】【不安定化するアジア】
- 14回 「リベラル」・「改革」と政党乱立 【野党共闘】【リベラル結集】【改革保守】
- 15回 市民の中のイデオロギー 【SEALDs】【労働組合】【日本会議】【右傾化】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：85%
- ・ 日常授業への取り組み：15%

日本政治論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として各授業で扱う時代の社会的背景を簡単に調べておいてください。また、日本政治論は時系列的に連続しているため、各授業内容についてはレジユメに示した参考文献を読むなどの復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

「政治学」をすでに履修している場合、本講義の理解がより深いものになります。
「日本政治論」は、具体的な日本の政治過程や構造の紹介を重点的に取り扱います。こうした実際の現象に関する理論的な位置付けについては「政治過程論」で詳しく説明しますので、併せて受講することが望ましいです。
また、予習や復習、授業時間以外でも各自が主体的に学習に取り組むようにしてください。とくに新聞やテレビなどで政治のニュースに積極的に触れるように心がけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の性格の大部分は、どのような生活を送ってきたかに依存すると言われます。(私を含む)みなさんの中で「今の自分は完璧で性格を変える必要はない!」と胸を張っていえる人はそれほど多くないと思います。しかしそれでも、よりよくなるように前に進んでいくものです。日本政治も同じです。今の日本政治の性格も、「これまでの政治」の何を反省し、どのような過ちを繰り返しているのかを知らずして理解することはできないはずで、本講義を通じて、ぜひ一緒に日本政治の「性格診断」を試みましょう。

キーワード /Keywords

日本政治・イデオロギー・自民党・立憲民主党・希望の党・日本維新の会

行政学 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 慎式 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 行政学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政学

PA0100M

授業の概要 /Course Description

行政とは何か、行政を研究対象とする行政学とはどのような学問か、行政の抱える問題とは何かを考えるために本講義では、以下の順に行政について考えていきたい。1 行政と行政学、2 執政制度と行政制度、3 公共政策と行政活動。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤正次・出雲朋子・手塚洋輔(2016)『はじめての行政学』有斐閣ストウディア
- 西尾勝(2001)『行政学』有斐閣
- 真山達志編(2016)『政策実施の理論と実像』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
- 2回 行政と行政学① 【行政とは何か】
- 3回 行政と行政学② 【政府の役割・行政国家】
- 4回 行政と行政学③ 【行政学とは】
- 5回 行政と行政学④ 【行政の新展開】
- 6回 執政制度と行政①【国と自治体を動かすしくみ】
- 7回 執政制度と行政②【政府の姿】
- 8回 執政制度と行政③【行政を担う人々】
- 9回 執政制度と行政④【変化する日本の行政】
- 10回 公共政策と行政活動①【行政活動をデザインする】
- 11回 公共政策と行政活動②【法律・条例をつくる】
- 12回 公共政策と行政活動③【予算制度と予算編成】
- 13回 公共政策と行政活動④【公共サービスの供給形態の多様化】
- 14回 公共政策と行政活動⑤【行政と社会のインターフェース】
- 15回 まとめ 【今後の行政】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート試験100% (講義で習得した知識を踏まえて書いてもらうため、講義の内容を理解した上で書くことが大前提となります。その上で、自らの考えなどを盛り込んだ内容にまとめてもらいます)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回復習を行い講義内容を機械的な暗記ではなく理解すること。
講義で紹介した文献に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関することに注意を向けておくこと。なぜ、なんで~かといった漠然でもいいので疑問を持つこと。復習は各回行うこと。

行政学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

行政学の特徴の一つに開放性というものがあります。行政学というと一見固いイメージが先行しそうですが開けた学問なので柔軟な態度で楽しく学びましょう。

キーワード /Keywords

行政、公共サービス、公共政策

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	NPOの理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	市民社会が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民社会と政策・NPOとのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

NPO論

PLC114M

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①3人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×7回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

* 『北九州NPOハンドブック（第6版）』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』（2010年）。
坂本治也編『市民社会論-理論と実証の最前線-』（法律文化社、2017年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 第7回講演会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

第1回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご参加ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシー、ミッション、寄付

政策構想論 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 政策構想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策構想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 政策構想についての関心を高める。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策構想論

PLC110M

授業の概要 /Course Description

政策構想とは、社会の諸問題に政策を通じて適切に対処するために、様々な価値観に基づいて「あるべき未来の社会」を構想することです。履修者が自分自身の価値観に立って自分自身の政策構想を作り上げるための基礎力を身に付けることが、最終的な授業の目的です。授業では、まず、政策と価値はどのように関わっているのかを学びます。その上で、現代の政策の価値理論として最も参照されることの多い、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムの基礎理論を学びます。そして、現代日本の具体的な問題について、これらの立場からどのような政策構想が可能かを考えていきます。なお、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムなどの価値理論は一括して「正義論」と呼ばれる分野ですが、それらの展開のされ方は政治学的なもの、哲学的なもの、法学的なものまで含めてさまざまです。この授業では、机上の空論は避け、あくまで政策上の実践の観点から、これらの理論を使いこなせるようになることを目指します。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政策構想とは何か
- 第2回 政策の構造と価値
- 第3回 社会設計と政策構想
- 第4回 デモクラシーと政策構想
- 第5回 功利主義と政策構想
- 第6回 功利主義への批判
- 第7回 リベラルな平等の基礎理論I 【不平等の意味】
- 第8回 リベラルな平等の基礎理論II 【正義の二原理】
- 第9回 リベラルな平等の展開 【財産所有のデモクラシー】
- 第10回 リバタリアニズムの基礎理論I 【最小国家論】
- 第11回 リバタリアニズムの基礎理論II 【自己所有権】
- 第12回 コミュニタリアニズムの基礎理論 【負荷なき自己と共同体】
- 第13回 日本の格差：正規・非正規雇用
- 第14回 格差問題への政策構想
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、該当回パワーポイントを通読しておくこと。また授業後には書き込みを行ったパワーポイントをもとに復習すること。

履修上の注意 /Remarks

政策構想論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政策には様々な価値観が織り込まれています。その仕組みや内容を学び取り、現代の日本において、実りある政策論議がどのように可能か、考えてみてください。

キーワード /Keywords

政治過程論 【昼】

担当者名 秦 正樹 / HATA Masaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治過程の視座から政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治過程上の課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治過程論

PLS210M

授業の概要 /Course Description

政治家が政党に所属したり、あるいは離党したりするのはなぜなのか。有権者はなぜ、投票に行く（行かない）のか。マス・メディアが特定の政治家を批評するのはなぜなのか。本講義では、こうした諸アクターが「政治」を動かす際の意思決定のメカニズムについて説明します。具体的には、①「scienceとしての政治学」の視点から政治文化や政治制度の重要性について説明した上で、②諸アクターの政治的な意思決定のメカニズムについて検討します。また本講義を通じて、民主主義が成立するための条件に関する理解を深めることを目指します。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せず、毎回、レジュメを作成し配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩』有斐閣ストウディア。
久米郁男（2013）『原因を推論する：政治学方法論のすゝめ』有斐閣。
砂原庸介（2015）『民主主義の条件』東洋経済新報社。
坂本治也編（2017）『市民社会論：理論と実証の最前線』法律文化社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【民主主義】【規範理論】【実証】
- 2回 Scienceとしての政治学（1） 【因果関係】【相関関係】【変数】【反証可能性】
- 3回 Scienceとしての政治学（2） 【3つのI】【文化】【合理的選択】
- 4回 政治制度(1) 【選挙制度】【デュベルジェの法則】
- 5回 政治制度(2) 【大統領制】【議院内閣制】【議会の類型】
- 6回 政治家と政党(1)【再選・昇進・政策】【議員行動】【集合行為問題】
- 7回 政治家と政党(2)【ダウズモデル】【政党システム】【離党と新党】
- 8回 政官関係【政治主導】【官僚主導】【本人—代理人理論】【エージェント—スラック】
- 9回 政治文化【政治的社会化】【政治意識】【ソーシャルキャピタル】
- 10回 政治参加と選挙(1)【投票参加】【投票外参加】【投票義務感】
- 11回 政治参加と選挙(2)【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 12回 政治参加と選挙(3) 【圧力団体】【コーポラティズム】【NPO / NGO】
- 13回 マス・メディア(1)【強力効果論】【限定効果論】【プライミング理論】
- 14回 マス・メディア(2)【ソフトニュース】【SNS】【テレポリティクス】
- 15回 まとめ 【選挙制度改革】【18歳投票権】【シルバーデモクラシー】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：85%
- ・ 日常授業への取り組み：15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として事前にその週の授業内容に関連する政治ニュースを調べておくこと。また、政治過程論は連続しているテーマを扱うため、各授業内容についてはレジュメに示した参考文献を読むなどの復習をしておくこと。

政治過程論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「政治学」をすでに履修している場合、本講義の理解がより深いものになります。
「政治過程論」は、政治学におけるモデルやメカニズムの紹介を重点的に取り扱います。これらのモデルが日本政治においていかなる意味を持つかについては「日本政治論」で詳しく説明しますので、併せて受講することが望ましいです。
また、予習や復習、授業時間以外でも各自が主体的に学習に取り組むようにしてください。とくに新聞やテレビなどで政治のニュースに積極的に触れるように心がけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政治学は「いろいろな意見をうまくまとめる方法」を教えてくれる学問分野です。シラバスを見て難しそうと感じる人もいるかもしれませんが、授業計画の「政治」の部分をあなたが所属する集団（たとえばクラブやサークルなど）に置き換えてみると、授業で扱う内容もずっと身近に感じるのではないでしょうか。「政治」と聞いて食わず嫌いにならず、ぜひ一緒に勉強してみましょう！

キーワード /Keywords

民主主義の条件・政治制度・政治文化・実証政治学

福祉国家論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉国家、社会保障制度の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会保障制度の問題点を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会保障制度が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉国家論

PLC112M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートをとって、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第9回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%

原則として、毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点します。

*ただし、教室定員に対して受講生数が著しく多い場合は、出席による評価を変更する可能性があります。
確定された成績評価基準は、第3回目の授業でお知らせします。

福祉国家論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

西洋政治史【昼】

担当者名 /Instructor 西 貴倫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	西洋政治史の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋政治史

PLS111M

授業の概要 /Course Description

この講義では、近現代の西洋諸国、イギリス・アメリカ・フランス・ドイツの政治的経験を概観する。
具体的には、市民が政治の主体となる自由民主主義体制の形成と変容について、政治学の基本的な理解枠組みを用いながら検討していく。

教科書 /Textbooks

杉本稔編『西洋政治史』弘文堂、2014年02月刊（2,000円＋税）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- R・A・ダール著、高島通敏・前田脩訳『ポリアーキー』岩波文庫、2014年10月刊（1,080円＋税）。
- 加藤秀治郎・岩淵美克編『政治社会学』第5版、一藝社、2013年3月刊（2,600円＋税）。
- 篠原一『ヨーロッパの政治—歴史政治学試論』東京大学出版会、1986年9月刊（3,200円＋税）。
- P・ピアソン著、粕谷祐子監訳『ポリテイクス・イン・タイム—歴史・制度・社会分析』ポリテイクス・サイエンス・クラシックス5、勁草書房、2010年4月刊（3,600円＋税）。
- その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに—政治学と政治史
- 第2回 分析視角—異議申立、参加、政治変動、社会的亀裂
- 第3回 議会制の成立①—イギリスの場合
- 第4回 議会制の成立②—アメリカの場合
- 第5回 議会制の成立③—フランスの場合
- 第6回 議会制の成立④—ドイツの場合
- 第7回 政治参加の拡大①—イギリスの場合
- 第8回 政治参加の拡大②—アメリカの場合
- 第9回 政治参加の拡大③—フランスの場合
- 第10回 政治参加の拡大④—ドイツの場合
- 第11回 福祉国家の盛衰①—イギリスの場合
- 第12回 福祉国家の盛衰②—アメリカの場合
- 第13回 福祉国家の盛衰③—フランスの場合
- 第14回 福祉国家の盛衰④—ドイツの場合
- 第15回 おわりに—現代西洋政治の歴史的展望

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験（100％）でおこなう。
期末筆記試験は自筆のノートやメモの持ち込みを許可する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の受講にあたっては教科書の該当部分を一読しておくこと。
受講後は、各回ごとに、その回の内容をまとめたメモを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

初回に講義の進め方や成績評価方法などについて詳しく説明するので、履修予定者は特に留意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地方財政の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 地方財政の諸課題を認識し、課題解決に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 地域経済への関心を高め、市民生活と地方財政制度とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経済論

PLC113M

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。本講義は、都市の経済的問題を基軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。

講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとどのようなことが、域内産業の特性との関連で見ていきます。

さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。

本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村良平[2014]『まちづくり構造改革』日本加除出版
 - 川端基夫[2013]『立地ウォーズ 改訂版』新評論
 - 佐藤泰裕[2014]『都市・地域経済学への招待状』有斐閣
 - 山崎朗他[2016]『地域政策』中央経済社
 - 藤井正他[2014]『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房
 - 小長谷一之[2005]『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- その他、適宜講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか？
6. 都市空間の形成
7. 都市の成長と衰退① - 都市の構造、郊外化
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化のしくみ① - 域外マネーの獲得
10. 地域経済活性化のしくみ② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興
15. まとめ

都市経済論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席レポート30%、期末試験70%
- ・ 一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジユメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
- ・ 授業終了後は反復学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。指導に従わない場合、退室いただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は禁止します。
- ・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。近年、打ち出されている「地方創生」の理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略性の洞察は不可欠です。

キーワード /Keywords

公共政策論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは使いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものを挙げておきます。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』（東京大学出版会、2011年）

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップー』（東洋経済新報社、2012年）。

阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）

阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

公共政策論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困（6）・・・社会実験（ペリー幼稚園プログラム）とまとめ
- 10回 介護保険（1）・・・導入
- 11回 介護保険（2）・・・現状分析
- 12回 介護保険（3）・・・問題点とその検討（「下流老人」、「介護離職」の問題も含む）
- 13回 介護保険（4）・・・介護保険の改革
- 14回 シルバー・デモクラシーと公共政策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと公共政策」等をはじめ講義内容等は、学生の理解度などに応じて変更する可能性があります。ご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞむので、授業には必ず出席するようにして下さい。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険。

政策理論特講 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と関連する様々な理論の体系的な理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策理論特講

PLS213M

授業の概要 /Course Description

政策は、社会問題に対する解決策として定義されます。政策に関する知識、政策についての研究の進め方、政策をめぐる議論のあり方を理解し習得することは、社会が直面する問題を発見し、その問題に対する解決策を考案・評価するために欠かすことができません。そこで、本講義は、政策が必要とされる要因、政策を取り巻く環境や政策の捉え方の変化等を概説することから始めます。そのうえで、政策について研究するのは如何なる活動なのかに焦点を当てます。最後に、現代社会において議論が有する重要性を描出し、政策に関する議論のあり方に論及します。本講義の到達目標は、政策に関する基礎的な概念等を理解することと、社会問題を発見し、その問題に対する解決策を考案・評価するために欠かせない社会科学的視点を習得することです。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第一回授業で紹介・説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

01. イントロダクション—政策とは？政策分析とは？
02. 政策について考える①—問題解決策としての政策
03. 政策について考える②—政策を取り巻く環境
04. 政策について考える③—政策をめぐる新たな展開
05. 政策について考える④—政策と市民
06. 政策研究について考える①—政策研究の科学性
07. 政策研究について考える②—政策研究のプロセス
08. 政策研究について考える③—政策研究における計量分析と事例研究
09. 政策研究について考える④—政策研究における演繹的・数理的考察
10. 政策研究について考える⑤—政策研究における規範的・哲学的考察
11. 政策研究について考える⑥—政策研究と政策決定
12. 政策研究について考える⑦—政策研究と知識活用
13. 政策議論について考える①—現代社会における議論
14. 政策議論について考える②—議論の構造
15. 総括

※ 受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

政策理論特講 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (A) 授業内小テスト(4回程度予定).....40%
- (B) 授業内ディスカッションへの積極的参加.....60%

※ 「授業内小テスト」では、本講義で提供された知識や社会科学的思考を活用して、具体的な社会問題について考察したり、政策研究のあり方について論究することが求められます。授業内小テストが15回の授業のなかでいつ実施されるかについては公表いたしませんので、毎回出席することを強く推奨いたします。もしやむを得ない事情で小テスト実施の授業を欠席してしまった場合は、公的証明書(に準ずる書類)を提出してください。

※ 「ディスカッションへの積極的参加」では、単に授業に出席するだけでなく、授業内に行われるディスカッションに対して積極的に貢献(発言等)をすることが求められます。

※ 詳細については授業中に説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(1) 集中講義開始前

これまで受講してきた法学部の講義のなかで、特に研究のあり方や研究の目的に関わる内容を復習しておいてください。

(2) 集中講義期間中

各回の授業で解説された内容をきちんと振り返ったうえで、次の授業に臨んでください。なお、授業内小テストは、毎回の授業内容を理解しておくことを前提として実施されます。

(3) 集中講義期間終了後

集中講義15回の授業で解説された内容について、復習してください。その内容を今後の大学生活や社会人生活のなかで活用していただけると嬉しいです。

履修上の注意 /Remarks

現代社会が直面する問題やその問題への解決策をめぐる議論に、常に目を向けることを心掛けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「せっかくの夏休みなのに授業に出るなんてあり得ない！」って感じるかもしれません。しかし、せっかくの夏休みだからこそ、ちょっと頭脳を理論的思考に触れさせて、悶々と考え悩むアクティビティを楽しんでみませんか？

社会のあり方や研究の進め方等について受講生と教員の皆で考え込んだり、その考え込んだ頭で一人で小テスト解答に苦悶したりする経験は、今後の法学部生としての生活でも卒業後の社会生活でも有用となる指針を皆さんに提供してくれると確信しています。

キーワード /Keywords

政策過程論 【昼】

担当者名 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と政策過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策現象とその課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策問題に対する自らの関心を高め、日頃の市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策過程論

PLC212M

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論と Issue Network・ 制度論と合理的決定： Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、 無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、 政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係] について理解してもらう。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 (早川純一外著 学陽書房 2004年 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎 新版』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス 2015年 ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 1992年 ¥ 2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 2000年 ¥ 2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 2011年 ¥ 3,568)
- 『政策過程分析入門 第2版』 (草野厚著 東京大学出版会 2012年 ¥ 2,625)

政策過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、DVD)
- 4回 政策過程の理論1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表I
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策 (政府間関係、利益誘導政治、地方の変革・ 事例：名古屋市)
- 12回 本のレポート発表
- 13回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 14回 政策事例を選び、政策過程の分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本のレポート 20%、 ポスター 30% 期末試験 50%
(本のレポート発表・ ポスター発表をしない学生は期末試験を受けることができない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・ 事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策、政策問題、政策の決定、実施、政策調整、終了、
利益・ 価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、
ネットワーク。

現代政治思想 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 現代政治思想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 現代政治思想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代政治思想についての関心を高める。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代政治思想

PLS212M

授業の概要 /Course Description

私たちが政治や政策について語るとき、それは常に、いかに政治と社会はあるべきかということについてのビジョンに基づいています。このビジョンを背景から支える価値を理論化するのが、政治思想（政治哲学）の役割です。政治のビジョン・価値は多様であり、それらが互いに異なる政治上の立場を支持することで、現実政治のダイナミズムが生まれます。

この授業は、履修者が政治や社会に関する多様な思想を理解した上で、価値と現実の緊張関係から生まれる様々な政治現象をこの観点から分析・理解できるようになることを目指します。

教科書 /Textbooks

『政治哲学入門』（ジョナサン・ウルフ著、坂本知宏訳、晃洋書房、2000年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治哲学の問い
- 第2回 自然状態（1） 【歴史的理解】
- 第3回 自然状態（2） 【アナーキズム】
- 第4回 国家の正当化（1） 【社会契約説】
- 第5回 国家の正当化（2） 【功利主義】 【公正の原理】
- 第6回 支配者（1） 【プラトン】 【ルソー】
- 第7回 支配者（2） 【代議制民主主義】
- 第8回 自由の位置づけ（1） 【ミル】 【自由原理】
- 第9回 自由の位置づけ（2） 【自由主義】
- 第10回 財産の分配（1） 【財産】 【自由市場】
- 第11回 財産の分配（2） 【ロールズの正義論】
- 第12回 財産の分配（3） 【ロールズ批判】
- 第13回 個人主義の問題
- 第14回 政策的応用
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、該当回パワーポイントを通読しておくこと。また授業後には書き込みを行ったパワーポイントをもとに復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 壬生 裕子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論

PA0211M

授業の概要 /Course Description

地方自治の制度やしくみは、私たちの暮らしに大きな影響を与えています。この授業では、地方自治の制度や地方自治体の政策や組織など、地方自治に関する基礎的事項や最新の取り組みを学び、私たちの暮らしと地方自治の関係やこれからの地方自治のあるべき姿を考えていきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくにありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：地方自治とは
- 2 自治体の政策
- 3 自治体の機関
- 4 自治体の組織
- 5 自治体で働く人
- 6 地方自治の制度①：歴史
- 7 地方自治の制度②：地方分権
- 8 自治体の行政改革
- 9 前半の復習
- 10 自治体の政策過程
- 11 自治体の財政
- 12 自治体の広報・広聴
- 13 市民参加と協働
- 14 地域コミュニティ
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート・・・40％
定期試験・・・60％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で紹介する書籍を読んだり、資料を確認したりすること。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから自分が暮らすまちのさまざまな出来事に関心をもっておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公務員試験への出題対策というよりも、近年の地方自治の現状や課題を中心に学ぶことに重点をおきます。

地方自治論 【昼】

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、地方分権、市民参加、まちづくり

都市経営論【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体の経営に関する必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方自治体の諸課題を認識し、自治体改革に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地方自治体への関心を高め、市民生活と地方自治体とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経営論

PAD213M

授業の概要 /Course Description

人口減少社会、少子・高齢化の進展、都市間競争の拡大など、都市を取り巻く環境変化は著しく、かつ深刻な状況にある。
地方消滅の危機が議論される中、漫然とした都市経営はもはや許されず、持続的な都市社会の構築に向けて、効率的な都市運営、地域社会のガバナンス、都市の魅力の向上などの戦略的な都市マネジメントが不可欠となる。
本講座では、都市マネジメントが求められる背景、行政システムに関する基礎的な知識、NPM、ガバナンスとパートナーシップなど、今後の都市経営の方向性に関する理解とともに、学際的、多角的な思考能力と構造的な理解力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・特に指定しません。Moodle等で適宜、学習支援フォルダ等にて学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田民雄[2003]『都市政府のマネジメント』中央経済社
- 宮脇淳[2012]『図解 財政のしくみ ver.2』東洋経済新報社
講義の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市のマネジメント
2. 都市の現状と課題
3. 都市の成長と都市経営
4. 地方自治制度
5. 地方財政制度
6. 地方自治体の諸制度
7. 地方公務員の人材マネジメント
8. 地方行財政改革
9. 公共部門の民営化
10. 公共施設・空間のマネジメント
11. ガバナンスとパートナーシップ
12. ビジネス手法の活用による地域課題の解決
13. 企業と社会の関わり - 企業の社会的責任と協働
14. 地域資源の活用による地域創造
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・出席レポート30%、期末試験70%
- ・一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

都市経営論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジユメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。授業終了後は反復学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。指導に従わない場合、退室いただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は禁止します。
- ・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、経済シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有することから、都市マネジメントのポイントと行政、企業、住民の協働の実際をわかりやすく解説します。前期科目の都市政策論と併せて受講されることをお勧めします。

キーワード /Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 途上国が直面している諸課題と解決に関して体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 途上国において何が政策課題を見極め、政策的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 途上国が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、日本人の市民生活と日本政府の政策とどのようにつながっているかを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

途上国開発論

PLC215M

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはインド・バングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年、3800円
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008
- * 太田和宏『貧困の社会構造分析～なぜフィリピンは貧困を克服できないのか』法律文化社、2018年、5500円
- * 村山真弓・山形辰史編『知られざる工業国 バングラデシュ』アジア経済研究所 IDE-JETRO、5400円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|-------------------|
| 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 | |
| 第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発（SD）」の定義 | 【持続可能な開発（SD）】 |
| 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線と余るティ・線の考え方 | 【貧困概念】【アマルティア・セン】 |
| 第4回 急速の経済発展～インドのIT産業を事例として | 【IT産業】 |
| 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策の転換と先進国の少子化対策 | 【一人っ子政策】【少子化】 |
| 第6回 都市産業問題～インフォーマルセクターの存在 | 【インフォーマルセクター】 |
| 第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区 | 【スクオッタ居住区】 |
| 第8回 資源分配をめぐる（エネルギー技術のあり方） | 【資源配分】 |
| 第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など | 【森林破壊】 |
| 第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に | 【廃棄物管理問題】 |
| 第11回 保健・医療問題～感染症、下痢を中心に | 【感染症】 |
| 第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方 | 【農業・漁業】 |
| 第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA | 【ODA】 |
| 第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より | 【NGO】 |
| 第15回 まとめ | |

途上国開発論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、日ごろから途上国に関心を持ち、新聞などから記事を抽出、また、関係文献を読んでおくこと、事後学習は、授業で習ったことをノートに再度まとめ、コメントを加えておくことなどの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々な新聞記事を読み、テレビ番組を視聴しててください。
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなりのないようになっています。
同時に、授業の反復練習をしつつ、それを参考に自主的に関係文献を読み、まとめる作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。もっと本を読もう。

キーワード /Keywords

開発途上国 (インド・ バングラデシュなど)、アマルティ・ セン、環境問題、持続可能な開発目標 (SDGs)

政策評価論 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 政策評価の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 政策評価のために必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、政策を体系に評価するための基礎的で総合的な評価方法を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策評価論

PLC310M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策評価について、学部レベルで理解しておくべき基礎的な知識を提供することにあります。ただし、基礎的といっても評価研究は、理解しづらいところもあるので、そのつもりで参加するようにして下さい。

講義では、まず、アメリカを中心とした評価研究や評価手法を分析・検討します。その際、「セオリー評価」あるいは「ロジック・モデル」を中心として説明を行い、次に説明する「行政評価」の基礎的な知識を提供することにします。

次に、現代日本で最も頻繁に行われている行政評価とその問題点を検討し、今後の日本における行政評価のあり方や新しい評価手法についてみていくことにします。

教科書 /Textbooks

教科書は使いません。ほぼ、毎回プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石原俊彦編著『自治体行政評価ケーススタディ』（東洋経済新報社、2005年）
- 龍慶昭・佐々木亮『「政策評価」の理論と技法』（多賀出版、2004年）
- 安田節之・渡辺直登『プログラム評価研究の方法』（新曜社、2008年）
- 古川俊一・北大路信郷『新版・公共部門評価の理論と実践 - 政府から非営利組織まで -』（日本加除出版株式会社、2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入-「評価」とは何か？
- 第2回 「実験としての改革」-アメリカのプログラム評価の古典の意味するものは何か？！
- 第3回 実際に評価してみよう！（演習形式で）
- 第4回 セオリー評価（ロジック・モデル）
- 第5回 より複雑なロジック・モデルについて
- 第6回 プロセス評価
- 第7回 前半のまとめ-ロジック・モデル再考（NPOとの関連も含めて）
- 第8回 「行政評価」とは何か-最近15年の動向・潮流を中心に
- 第9回 先進事例の検討（三重県など）
- 第10回 「事務事業評価表」の批判的な考察
- 第11回 「評価結果」の評価
- 第12回 評価者が必要なものとは何か？
- 第13回 評価システムを支える外部評価制度？（1）-全国市区の外部評価の実態
- 第14回 評価システムを支える外部評価制度？（2）-外部評価がもたらすもの
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験40%、レポート30%、授業貢献度...30% 授業に出席しない学生には単位は与えないのでそのつもりで履修して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するプリント教材の復習を必ず行って下さい。また、授業に際しては前もって教材の指定した箇所を予習して授業に参加するようにして下さい。毎回の講義の復習をしない学生は授業についていくことが難しくなるので十分に注意して下さい。

政策評価論【昼】

履修上の注意 /Remarks

履修に際しては、行政学、地方自治論、公共政策論、自治体政策研究、政策調査論などの講義を受講しておくことがのぞましい。授業の進め方をはじめ履修にあたって重要となることを述べるので、第1回目の講義には必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

評価、セオリー評価、ロジック・モデル、アウトカム、行政評価、業績測定 (パフォーマンス・メジャーメント)

政党政治論 【昼】

担当者名 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政党政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政党政治論

PLS211M

授業の概要 /Course Description

本講義では政党政治の諸相について、①政党間の競争②政党内の組織運営、の双方を基軸にして、国際比較と実証性を重視しつつ検討します。現代民主主義の政治は（良くも悪くも）政党を中心として展開しており、政策形成を理解するためにも政党政治の分析能力が必要です（それは、企業を知らずして現代経済を理解できない事と似ているかもしれません）。適宜事例を踏まえつつ、政党政治に関する理論や分析概念を中心に講義します。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。授業資料はこちらで用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子（2011）『現代の政党と選挙（新版）』有斐閣
- 待鳥聡史（2015）『政党システムと政党組織』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと科目の位置づけ
2. 概論1：【デモクラシーと政党】【歴史的展開】
3. 概論2：【政党と有権者のつながり】
4. 政党システム論1：【政党システム概論】【有効政党数（LT数）】
5. 政党システム論2：【システム規定要因】【M+1ルール】【凍結仮説】
5. 政党システム論3：【制度効果の追求】【ドント、サン=ラゲ、ヘア他】
6. 政党システム論4：【連立形成理論】【政党位置計測の試み】
7. 政党システム論5：【新党台頭】【システム変質】【選挙ボラティリテイ】
8. 政党組織論1：【大衆政党】【幹部政党】【利益団体】
9. 政党組織論2：【包括政党】【国家と政党】【政党法】【助成金】
10. 政党組織論3：【党内一体性】【党内民主主義】【大統領制化】
11. 政党組織論4：【党と支持者の交換関係】【逆説明責任】
12. ニつの政党政治の狭間：【ウエストミンスター型】【コンセンサス型】
13. 政党政治論事例研究①
14. 政党政治論事例研究②
15. まとめ・予備回

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：80%（テークホームイグザムになる可能性あり）
- ・ 日常授業への取り組み（自主小レポートを予定）：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回授業の内容についてシラバスに挙げた参考図書の該当箇所を示しますので、適宜予習してきてください。授業スライドはmoodleにアップします。

政党政治論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修上の注意や追加参考資料については第1回授業でアナウンスします。
- ・ 政治過程論を履修済 (or受講中) であるほうが理解が深まるでしょう。
- ・ 授業各回の最後に、次回内容の予習箇所を指示します。復習用として授業内資料を配布するので各自で入手してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 政党政治論は、政治学のなかでも科学的・計量的な分析が早くから蓄積されてきた分野の一つです。そのため、授業中は頻繁に数字 (時には数式) が出てきますが、高度な数学的知識は必要ありませんので、驚かずに学んでください。むしろ、その「現代政治を明確に分析できる」強かさや面白さを楽しんでください。

キーワード /Keywords

政党・選挙・比較政治学・実証政治学

都市政策論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市の政策に関する専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 都市の諸課題と政策を理解し、新たな政策提案等を行う力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 都市に対する関心を高め、市民生活と政策とのつながりを理解する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市政策論

PLC219M

授業の概要 /Course Description

グローバル化や人口減少社会が深刻化する中、多くの都市では、経済分野、社会分野、環境分野をはじめとする多彩な政策課題が存在する。本講義では、「都市」についての基本的な理解や都市の現状と課題を概観した後、経済政策、地域コミュニティ政策、安全安心政策、環境政策、文化政策などの様々な政策分野の状況と、政策展開の実際を学んでいく。
都市政策に関する表層的な理解にとどまらず、歴史の変遷や多層性・多層性を有する都市政策の構造的な理解、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ 特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○石原武政・西村幸夫編[2010]『まちづくりを学ぶ - 地域再生の見取り図』有斐閣
・ 講義の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市政策とはなにか
2. 人口減少と都市政策課題
3. 都市政策の変遷と都市ビジョン
4. 都市政策と政策手法
5. 政策形成の実際
6. 経済産業政策
7. 社会保障制度と少子化対策
8. 地域コミュニティと市民活動
9. 安全安心のまちづくり
10. 社会資本の老朽化と空き家対策
11. 環境創造と持続可能性
12. 都市文化政策と文化創造
13. インバウンドと観光まちづくり
14. 町並み景観の保存と活用
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 出席レポート30%、期末試験70%
・ 一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業開始までにMoodleによりレジユメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
・ 授業終了後は反復学習を行ってください。

都市政策論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。指導に従わない場合、退室いただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は禁止します。
- ・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、地方自治体での豊富な政策実務経験を有することから、都市政策の理論と実際をわかりやすく解説します。後期科目である都市経営論と併せての受講をお勧めします。

キーワード /Keywords

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉サービスに関わる政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉サービスの政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 社会福祉サービスが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉政策論

PLC217M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
- 第9回 「児童福祉」 児童虐待
- 第10回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
- 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第14回 「利用者保護制度」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から3点程度減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

福祉政策論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 環境政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 環境問題とその構造を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える環境問題に対する自らの関心を高め、市民生活と経済活動そして政策とのつながりを再認識する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策論

PLC216M

授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、そして環境との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動、放射能の大気汚染）について理解し原因を分析する。

環境政策に関する専門知識の取得と政策形成能力の向上。

- ① 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ② 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ③ エネルギーと生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ④ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

教科書 /Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・孫 穎・竹歳 一紀・在間 敬子著 ミネルヴァ書房 2014年 ¥3,240）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 2010年 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 2000年 ¥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 1974年 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 2006年 ¥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 2012年 ¥840）

環境政策論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など(自分の環境概念について、書いてもらう)
- 2回 公害、環境(問題)とその構造(被害者、加害者等)
環境問題の特性とその構造(環境、社会構造と制度、技術、自然=資源、人口)
- 3回 日本の環境問題と歴史
環境権、環境政策の特徴1(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 4回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5回 環境権、環境政策の特徴2(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 6回 環境政策の手段(間の比較分析)1; 補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7回 環境政策の手段(間の比較分析)2; 有料化、road pricing等
- 8回 発表会
- 9回 自治体の環境政策(環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等)、環境自治体
- 10回 廃棄物はどこにいくのか(アジアへ、私の食卓へ、そして体へ)
- 11回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12回 地球温暖化とエネルギー政策
- 13回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15回 まとめ(試験などの質問)

成績評価の方法 /Assessment Method

ポスター発表 30%、レポート 20%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない(原発なくても)と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な~ぜ~!!

あなたは、どう思う?

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当!!

また、エネルギーナシで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの??

キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策(政策手段)、環境影響、国際環境問題、産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、地域エネルギーと原子力。

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア諸国の地域社会の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、アジアの地域社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	アジアの地域社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジア地域社会論

PLC222M

授業の概要 /Course Description

今日、アジア諸国の経済成長や社会発展は目覚ましく、今世紀の世界をリードしていくのは確実視されています。グローバル化の中でそのような経済成長が続いていますが、経済同様、アジア諸国の社会の動きも活発化しています。元来、担当教員は、バングラデシュ地域に研究の焦点を絞っていましたが、2007年以降バングラデシュ人にとって海外出稼ぎ労働の対象国として人気のある韓国に数多く足を運んで調査研究を繰り返すようになりました。ゆえに、本授業では、最初にアジア地域全体の社会を概観・分類し、次に、担当教員の研究に非常に関係のあるアジア2カ国、韓国とバングラデシュを対象に、同国の文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干（かなりかも）、マニアックになるのはお許しください。アジア大好き人間になり、学生時代には一度は同国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。北九州市、福岡市や福岡県が自らをアジアのゲートウェイと位置づけ、積極的に経済面社会面でアジアとの交流・協力を進めている現在、なおさらのこと、本授業を通して羽ばたいてください。

本授業では、以上のことから、バングラデシュと韓国の社会文化に関する知識の吸収はもとより、公正・平等・信頼といった価値観の形成を目標とし、マスコミの情報に振り回されることなく、真の国際理解ができる人を目指してもらいます。また、両国に興味を持つことによって、直接出かけるという実践力・行動力が現れることも期待しています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第3版】』明石書店、2017年
- * バク・ジョンヒュン『韓国人を愛せますか?』講談社+α新書、2008年、840円
- * 棚瀬孝雄『市民社会と法～変容する日本と韓国の社会』ミネルヴァ人文・社会科学叢書、2007年、5775円
- * クォン・ヨンスク『「韓流」と「日流」～文化から読み解く日韓新時代』NHK出版、2010年、1100円
- * 金栄勲『韓国人の作法』集英社新書、2010年、700円

アジア地域社会論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明～アジア社会一般的特徴の解説を含む
- 第2回 アジア地域の社会の概観～統計数値、料理写真を通しての社会の特徴の分類～グループ討論 【統計数値】
- 第3回 韓国とバングラデシュへのスタディ・ツアーの写真から韓国社会とバングラデシュ社会を読み解く
【スタディツアー】
- 第4回 韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画の一曲「クラシック」を通して（1） 【映画部分鑑賞】
- 第5回 韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画の一曲「クラシック」を通して（2） 【映画部分鑑賞】
- 第6回 韓国におけるバングラデシュ人労働者～彼らの本音を探る 【バングラデシュ人労働者】
- 第7回 韓国における多文化家族に見る社会～途上国からの花嫁 【多文化家族】
- 第8回 韓国の現代史、韓国社会の国際化（留学事情、学歴社会） 【現代史】
- 第9回 韓国の宗教と文化 【価値教育】
- 第10回 イスラームとは？ 【イスラーム】
- 第11回 バングラデシュの都市社会（中産階層と清掃人・ウェイストピッカー・有価廃棄物回収児童） 【雑業層】
- 第12回 バングラデシュの農村社会～農業の特徴 【農業】
- 第13回 バングラデシュのコミュニティ～日本のコミュニティ問題と比較して～グループ討論 【コミュニティ】
- 第14回 それでも、バングラデシュ！ 小ネタ集～教員の仰天体験を通して？ 【参与観察】
- 第15回 まとめ ～ 途上国に行く気になったか ～ グループ討論

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への日常的な取り組みの姿勢...30% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は教科書や参考文献で授業箇所を読んでおくことと日ごろから途上国の話題を探ること、事後学習は授業で習ったことの復習と小課題への適用です。

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施

上記アジア2国はかなり異なっている。面白く、興味深い授業を心掛けたいので、笑う時は笑い、泣く時は泣き（映画鑑賞では泣きません）、考えるべき時は考え、なにごとにも真剣に取り組んでいただきたい。

1学期の途上国開発論との抱き合わせで履修すれば本講義の理解により役立ちます。

同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復していただきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州から韓国は本当に近いので、もっともっと韓国のことを知り、複数回の韓国訪問を果たしてほしい。片やバングラデシュへの道は厳しいが、チャレンジしてほしい。

キーワード /Keywords

アジア、バングラデシュ、韓国、スタディツアー、国際理解

地域統合論 【昼】

担当者名 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域統合の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域統合論

PLS214M

授業の概要 /Course Description

近年の欧州政治の状況が示すように、ある地域統合の枠組みを巡って重要になるのは、統合を目指す利害と統合に反発する利害の、せめぎあいである。そしてそのせめぎあいを理解するにあたっては、統合の主体となっているアクター（EUの場合は国家）それぞれ固有の事情と、その内部での政治ダイナミズムを把握することが有用である。
ヨーロッパを中心に、その拡大過程で発生した大きな政治経済上の変化や、構成メンバーの利害の一致や対立を学ぶことを通じて、地域統合が抱える成果や問題点を考察する。国家間の関係のみならず、国内の地域主義などについても考慮を巡らせる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。参照が必要な事項については各回の授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回授業時に数冊推薦する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと科目の位置づけ
2. 概論 1：ヨーロッパの多様性と社会を理解する
3. 欧州統合 1：欧州統合発足：独仏政治との諸制度の発展
4. 欧州統合 2：英国への拡大：大陸欧州とアングロサクソンの衝突
5. 欧州統合 3：南欧への拡大：軍政と経済格差の問題
6. 欧州統合 4：北欧・中立国への拡大：冷戦崩壊と加盟判断の分裂
7. 欧州統合 5：東欧への拡大：きわめて異質な社会を統合する
8. 欧州統合 6：さらなる加盟候補の拡大と軋轢の拡大
9. 国家間統合：世界各地の統合機構
10. 概論 2：国内政治と国際政治の緊張に関する理論
11. 国内統合 1：地域主義 / 民族問題と内戦をめぐる政治
12. 国内統合 2：地域主義 / 民族問題と内戦の原因の量的分析
13. 国内統合 3：地域主義 / 民族問題と内戦の制度的統制およびその効果
14. 国内統合 4：地域主義 / 民族問題に人の移動が与える影響
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末筆記試験80% (テークホークイグザムになる可能性あり)
- ・ 学期内の小レポート提出20% (任意とするか必須とするかは第1回に決定する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、次回授業時の範囲にあたる文献を指定するので、それらを参照して予習する事。授業スライドはmoodleにアップする。本科目の特質上、固有の政治的事実や固有名詞が頻りに登場し、また実践科目である以上それらの知識を前提に次回授業が組み立てられていくことも想定されることから、特にそれらの知識を中心に復習に励むことを強く推奨する。

地域統合論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ヨーロッパとひとまとめにされる国々ですが，統合を巡る政治の中で様々に異なる様相を見せています。それらを，単に「それぞれ異なる事実の羅列」と捉えるのではなく（つまらないですね！），その背景に価値・利害・信念・制度といった人間の多様性がある（他方である程度の共通性や普遍性も見え隠れしている），という点に思いを巡らせることができると，面白いと感ずることができるでしょう。

キーワード /Keywords

自治体政策研究【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体における公共政策の体系的理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方自治体において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地方自治体が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

自治体政策研究

PLC214M

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④単身世帯の急増、といった問題は避けて通れない最重要課題です。本講義では、「超高齢人口減少社会」をキーワードに、①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティ、④移住政策等、といった視点から地方自治体を分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含め考えていくことにします。

また、「超高齢人口減少社会」の問題を考えるに際しては、様々なレベルでの「担い手」の問題が極めて重要になります。受講生は上記の問題とともに社会の「担い手」について本講義を通して考えてください。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）。
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農山漁村文化協会、2005年）。
- 大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）。
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）。
- 山下祐介『限界集落の真実-過疎の村は消えるのか?』（ちくま書房、2012年）。
- 藤山浩『田園回帰1%戦略-地元にとり戻す-』（農山漁村文化協会、2015年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的-超高齢人口減少社会の到来
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想の検討
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-串とお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落(1)-限界集落とは何か
- 6回 限界集落(2)-限界集落の事例の検討
- 7回 限界集落(3)-綾部市の「水源の里」条例
- 8回 限界集落(4)-限界集落の再生、「集落支援員制度」、「地域おこし協力隊」等の検討
- 9回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは何か?
- 10回 北九州市の局地的高齢化
- 11回 限界コミュニティとその再生
- 12回 団地の超高齢化、買い物難民(買い物弱者)を考える
- 13回 ふるさと納税
- 14回 小さな自治体は消滅するのか?-島根県海士町から考える
- 15回 移住1%戦略-地方は消滅しない!!

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

自治体政策研究【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加して下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の復習を必ず行うようにしていただきたい。
受講生の数に応じて、どの教室にするかを決めますので、第1回目の講義にはなるべく参加するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しなければ何も始まりません。授業には必ず参加してください。

キーワード /Keywords

人口減少社会、超高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民（買い物弱者）、超高齢社会の担い手

公共経営論【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政府民間関係の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共サービスの民営化等の課題をふまえ、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	公共サービスの民営化などが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経営論

PA0212M

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業の経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 NPM (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 PFI
- 第6回 「教育編④図書館」 PFIの問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「道路編①」 道路のしくみ
- 第10回 「道路編②」 道路公団民営化
- 第11回 「道路編③」 道路の必要性
- 第12回 「道路編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 非正規職員
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、学期末試験の得点から3点程度減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

* 図書館や学校、道路に関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

公共経営論【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

* 私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

政治文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治文化の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治文化にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治文化についての関心を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治文化論

PLS215M

授業の概要 /Course Description

政治全体を社会の問題解決のための大きなシステムと考えた時、人々が政治システムに対して様々な態度をとるのはなぜでしょうか。欧米諸国では多くの人々が民主主義を通じて政治システムに積極的に関わりますが、日本ではそうではありません。このような人々の態度を決めるものの一つに、政治文化を考慮することができます。この授業では、「政治に参加しよう」という意識の根底にある「ものの見方・考え方」とはどのようなものかを、民主主義を発展させた欧米諸国と日本の思想的比較を通じて、考えていきます。そして、政治文化が現実政治に果たす役割を理解し、日本の民主主義政治の将来について深く考える力を養うことを目指します。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治システムと政治文化
- 第2回 ヨーロッパ中世の世界観・社会観（1）【グレゴリウス改革】
- 第3回 ヨーロッパ中世の世界観・社会観（2）【法の支配】【存在のヒエラルヒー】
- 第4回 「特殊」の発展
- 第5回 ルネサンス・国家理性・主権
- 第6回 宗教改革の時代
- 第7回 ホッブズの社会契約論
- 第8回 ロックの社会契約論
- 第9回 文化芸術の発展とルソー
- 第10回 ルソーの社会契約論
- 第11回 フランス革命後の展開と保守主義
- 第12回 江戸幕府の崩壊と福沢諭吉の政治・社会観
- 第13回 丸山真男の超国家主義論
- 第14回 丸山真男の古層論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、該当回パワーポイントを通読しておくこと。また授業後には書き込みを行ったパワーポイントをもとに復習すること。

履修上の注意 /Remarks

政治文化論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民主主義社会が真つ当に成立し、それが安定的に運用されるためにはどのような政治文化が必要になるのでしょうか。この授業では、「リベラル」・「保守」・「国家」など、政治を動かすさまざまな要素が発生、展開してきた過程を追いながら、日本の民主主義文化とはどのようなものであるべきか、ともに考えたいと思います。

キーワード /Keywords

応用政策特講 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 政策と関連する様々な領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

応用政策特講

PAD214M

授業の概要 /Course Description

今年度は、「歴史政策学の試み」というテーマで講義をしたいと考えています。

歴史政策学とは、「過去に生じた事象から類似した事象、類似性を見出し、その類似性と、現在の事象との異同一同質と異質一を腑分けし、そこから未来を予測し、あるべき政策を選択するという方法」です。すなわち、過去のさまざまな政策事例を取り上げながら、そこから、現在の諸問題を考察するうえで重要な教訓を引き出し、そうした教訓を、現在および未来をデザインする政策構想に役立てようとするものです。

今年度は、まず東欧革命を手がかりに、政治文化の変化と政治システムの変動との関係を考察しながら、今日のデモクラシーのグローバル化の中で、デモクラシーをいかにして構想し実現するかについて、すなわち、「デモクラシーの政策構想」について考えてみます。また、「ワイマル民主主義の崩壊とナチズムの台頭」を手がかりに、文化的ベシミズムと政治の問題についても検討してみます。さらに、遅れて近代化したドイツと日本双方の「ポスト・モダン」を取り上げながら、ポスト・モダンと政治の問題を考察し、今後の「新しい政治」について検討します。

教科書 /Textbooks

中道寿一『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）（○）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は毎回、講義中に提示します。

たとえば、

アーネスト・メイ『歴史の教訓』岩波現代文庫、2004年（○）、

S・P・ハンチントン『第三の波』三嶺書房、1995年(○)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画・内容は以下の通りです。

- 第1回 序・・・歴史政策学とは何か【歴史】【政策学】【政治文化】【政治的社会化】
- 第2回 デモクラシーのグローバル化【東欧革命】【民主化】【市民社会】
- 第3回 政治文化と政治変動【政治文化】【政治変動】
- 第4回 まとめ（グループ討論、グループ発表を含む）
- 第5回 民主主義体制の崩壊について【民主主義体制】【権威主義体制】【体制変動】
- 第6回 ワイマル共和制の理念と現実【ワイマル憲法】【基本的権力関係】
- 第7回 政治制度の諸問題【政党制】【主要政党の特徴】【比例代表制】【大統領内閣制】
- 第8回 議会制民主主義の危機と大統領独裁【指導者民主主義】【ウェーバー】【シュミット】
- 第9回 まとめ（グループ討論、グループ発表を含む）
- 第10回 ナチズムの思想、運動、体制【イデオロギー】【プロパガンダ】【強制的同質化】
- 第11回 文化的絶望の政治について【文化ベシミズム】【ラガルド】【ラングヘーン】【メラー】
- 第12回 まとめ（グループ討論、グループ発表を含む）
- 第13回 ポストモダンの政治（日本）【満洲】【大東亜共栄圏】【近代の超克】【歴史意識】
- 第14回 ポストモダンの政治（ドイツ）【未完のプロジェクト】【啓蒙の弁証法】
- 第15回 終わりに・・・新しい政治を求めて【国民国家の虚構性】【ポスト国民国家】【環境倫理学】【 commonsの原理】

応用政策特講【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート提出：有（ただし、任意）
期末試験：各学期末に実施するが、評価は総合して行う。
講義への積極的取組... 30%
小テスト... 10%
試験... 60%
(レポート：任意 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストおよび配布レジюме（講義内容をまとめたもの）の該当箇所をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

レジюмеを多く配布するので、すべてを一つにファイルし、毎回の講義に持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3～4回の講義の後、3～4人のグループに別れ、共通のテーマについて議論し、その内容を発表する、という方法をとりますので、講義に積極的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

楽しく学びましょう。

行政組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 行政組織論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 行政学の視座から政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政組織論

PAD210M

授業の概要 /Course Description

企業・大学・政府・町内会・ボランティア団体、と周囲に溢れる組織は数え切れないほどで、誰しも皆、幾つかの組織に所属し、自分が属する組織や他の組織からの影響を受けずに生活することは不可能です。また1990年代以降、日本の中央省庁や地方自治体といった行政組織の変化には著しいものがあります。このようななか、組織論を学ぶことは、複雑な現代社会を理解する一助になると考えています。特に政策の形成・決定・実施・評価と関連、あるいは各過程において主体として行動する場合もある行政組織に着目することで、過去から現在までの制度・政策の変化や内容に関する関心・洞察を深めることにつながるのではないのでしょうか。講義全体のキープレーズは、「組織論を通じてみるひとと社会」です。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑田耕太郎・田尾雅夫(2010)『組織論：補訂版』有斐閣アルマ
 - ステイブーン・P・ロビンス[高木晴夫訳](2009)『組織行動のマネジメント：入門から実践へ』ダイヤモンド社
 - 西尾勝(2001)『新版行政学』有斐閣
- その他、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回	組織の定義と概念
3回	組織と環境・組織構造
4回	官僚制の誕生と変容
5回	官僚制：その原則と逆機能
6回	日本の行政組織(1)【官吏】【公務員】【任用と身分】
7回	日本の行政組織(2)【行政改革】
8回	中間テスト
9回	中間テストの解説と復習
10回	ストリート・レベルの官僚制、組織文化
11回	組織のリーダーシップ
12回	ひとのモチベーション
13回	組織における学習
14回	行政サービスを担う組織
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%
(遅刻入室は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時間外の学習として、事前にこのシラバスをよく読んで全体の流れと個々の回のつながりを意識できるようにしておくこと、事後は(中間テストを実施する予定であるため)授業で配布したレジュメを見返すなど、適宜振り返りの作業を行うことをおすすめします。

行政組織論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

受講するにあたって、特別に必要なことはありません。「行政組織」を軸に、組織の歴史的な流れや社会的な背景、あるいは組織のリーダーや構成員のモチベーションといった人間の意識・行動に関することを交えつつ、学んでいきます。本講義で扱うこれらについては、「行政学[日本行政論]」や「地方行政改革論」、「公共経営論」などの科目と合わせて履修することで、みなさんの理解はさらに深まるものと考えています。なお、講義の進行により、上記スケジュールを変更することがあります（特に中間テストの実施日については、授業中にアナウンスする予定なので要注意）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対外政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 講義 クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	対外政策論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対外政策論

PLC213M

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、資本・貿易・経済の国際化などの国際システム・レベルの要因が、先進諸国の経済政策にどのような影響を与えるのか、つまり各国は国際経済の制約下どのような経済政策を実行し、そしてその経済政策が今度は国際システムや自国・他国経済にどのような影響を及ぼすのかを検証する。まず資本・貿易・経済の国際化がどのような経済環境を創出したかを概観し、次にこの環境が諸国にいくつもの制約を課するかを分析する。そしてその制約下、各国政府がいくつもの経済政策を施行し、その経済政策が自国・他国経済にどのような影響を与えるのかを検証する。

ここでいう「経済政策」とは、広い意味での経済政策で、具体的には雇用、経済成長、福祉、財政、教育、貿易、金融、通貨などの政策を含む。このクラスは、言葉を変えて言えば、「国際化された経済から、先進諸国はどのような影響を受け、それに各国政府がどのように対応し、どのような政策を実行するか。また、その政策が各国の社会経済（社会や人々の生活、企業など）にどのような影響を与えるのか」についてのクラスである。

教科書 /Textbooks

Thomas Oatley. 2011. International Political Economy: Interests and Institutions in the Global Economy, 5th ed. New York: Pearson Longman.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示

対外政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人は、しりごみしないで受講してください。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 国際政治経済とは何か
3. Political Economy of International Trade Cooperation
4. Society-Centered Approach to Trade Politics
5. State-Centered Approach to Trade Politics
6. International Monetary System
7. International Monetary Arrangements
8. Society-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy
9. State-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy
10. Catch-Up and Review
11. Catch-Up and Review
12. International Finance
13. Import Substitution Industrialization
14. Market Reform
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2)研究論文あるいは期末総合テストが60%(どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に担当教員が決める。(1)の授業での発言・参加と(2)の論文/テストのどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は、研究論文の場合、学期末提出の論文の質で決める。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

論文の場合、A4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

総合テストの場合は、テキストや授業で学んだ内容をどれだけ良く理解しているかを、総合的に問い、論文形式で答えてもらう。

なお事後学習についてであるが、学期末の試験・レポートでは授業の内容を理解しているかどうか問われるので、必要に応じて行うこと。また、時間的にあとに行う授業はそれ以前の授業の知識の上に行うので、授業の内容を理解するよう努めてください。ただし、事前学習と事後学習との間で時間的衝突に直面する際は、事前学習を優先してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記を参照せよ

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計、国際関係論、国際経済論を勉強することを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

比較政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	比較政策論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較政策論

PLC210M

授業の概要 /Course Description

このクラスは、先進諸国が様々な政策分野で、どのような政策を実行し、政策がどのような結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は、経済、教育、労働、福祉、規制、財政、貿易、産業、競争、金融、家族政策など。違う政策が、国の経済パフォーマンスや人々の福祉に、どのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、どのような政策のセットが経済成長、雇用、平等、幸福などを達成する際に望ましいかを考察する。言葉を変えて言うと、人々や社会を幸せで豊かなものにするには、どのような政策が有効か、望ましいかを理論とデータを使って考える際に、その分析の基礎となる分析的枠組みを学ぶ。また、これらの政策の相違は、諸国の政治経済体制の種類に呼応していることを学ぶ。

これらのサブジェクトの学習により、比較政治経済、比較福祉政策、比較政治学の基礎知識を得る。

教科書 /Textbooks

Jessica R. Adolino and Charles H. Blake. 2007. Comparing Public Policies: Issues and Choices in Six Industrialized Countries. Washington, D.C.: CQ Press.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

比較政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人はしりごみしないで受講してください。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 政策決定のモデル
3. 政策決定の理論I (経済)
4. 政策決定の理論II (政治)
5. 政策の規定要因 - 制度・アクターI (経済)
6. 政策の規定要因 - 制度・アクターII (政治)
7. 先進各国の政治システム
8. 社会・福祉政策
9. Catch-up
10. 財政政策
11. 教育政策
12. 税政策
13. Catch-up and review
14. 国際化の中の政策決定
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1) テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2) 研究論文あるいは期末総合テストが60% (どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に担当教員が決める。(1)の授業での発言・参加と(2)の論文/テストのどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は、研究論文の場合、学期末提出の論文の質で決める。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

論文の場合、A4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1) オリジナルな研究論文にする、(2) 理論や説明の論理的整合性、(3) 理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

総合テストの場合は、テキストや授業で学んだ内容をどれだけ良く理解しているかを、総合的に問い、論文形式で答えてもらう。

なお事後学習についてであるが、学期末の試験・レポートでは授業の内容を理解しているかどうか問われるので、必要に応じて行うこと。また、時間的にあとに行う授業はそれ以前の授業の知識の上に行うので、授業の内容を理解するよう努めてください。ただし、事前学習と事後学習との間で時間的衝突に直面する際は、事前学習を優先してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記を参照せよ

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

国際機構論I【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構(主に国際連合)の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構(主に国際連合)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	其他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論I

IRL312M

授業の概要 /Course Description

現代世界では、少なくとも数百にのぼる国際機構が設立され、活動しています。これらの機構は、国家や私たちの生活にとってどのような意味をもつのでしょうか。

この講義では、第1に、代表的な国際機構である国際連合に焦点を当てて、その設立、目的、任務、制度、活動状況、国家との関係、課題などを学びます。

第2に、国際連合のような地球規模の機構の先駆といえる国際連盟等にも着目することによって、国際機構の法体系と意思決定方式がどのような史的展開をみえてきたのかを考えます。

教科書 /Textbooks

『国際条約集2018年版』有斐閣、2018年。

複数の出版社が条約集を出していますが、授業では有斐閣のものを用います。

なお、次の場合にかぎり2017年版を用いることができます。

- ・ 2017年度開講の同科目を履修登録したものの、単位を取得しなかったひと、
- ・ 2017年度開講の国際人権論を履修したひと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○明石康『国際連合 軌跡と展望』岩波書店、2006年。

○高坂正堯『国際政治』岩波書店、1966年。

○篠原初枝『国際連盟』中央公論新社、2010年。

○最上敏樹『国際機構論 第2版』東京大学出版会、2006年。

○渡部茂己・望月康恵編著『国際機構論 総合編』国際書院、2015年。

ほか適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 はじめに

第2回 国際機構の定義と理論

第3回 国際機構の歴史

第4回 国際連盟(1) 設立の背景と組織

第5回 国際連盟(2) 活動

第6回 国際連合(1) 設立の背景

第7回 国際連合(2) 組織

第8回 国際連合(3) 活動

第9回 国際政治と国際機構(1) 国連安保理：概論

第10回 国際法・国際政治と国際機構(2) 国連安保理：ケース・スタディ

第11回 国際法・国際政治と国際機構(3) 国連PKO：概論

第12回 国際法・国際政治と国際機構(4) 国連PKO：ケース・スタディ

第13回 国際法・国際政治と国際機構(5) 国連と日本：概論

第14回 国際法・国際政治と国際機構(6) 国連と日本：ケース・スタディ

第15回 まとめ

国際機構論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・小テスト(5回)20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回課題があります。課題をこなしたうえで授業に出席する必要があります。授業の終了後には復習してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書に書き込むための附箋と極細ペンを用意すると便利です。

次の該当者は受講できません。教科書を持参していない人、教科書を忘れた人、遅刻した人、早期退室する人。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構論II 【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構（主に地域的機構）の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構（主に地域的機構）に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論II

IRL313M

授業の概要 /Course Description

地理的に近接する諸国が、独自に国際機構（地域的国際機構）を設立する。このような動きは、現代世界における特質のひとつになっています。ヨーロッパ連合（EU）、東南アジア諸国連合（ASEAN）、北アメリカ自由貿易協定（NAFTA）、南部共同市場（MERCOSUR）、アラブ連盟、アフリカ連合（AU）、南アジア地域協力連合（SAARC）等は、活動の背景や目的が異なりはしますが、そのような動きの典型であるといえます。

講義では、第1に、このような動きの先駆となったEUに焦点を当てて、その設立、組織、活動状況を多面的に学びます。第2に、現代の地域的機構がもつ含意と将来を、東アジア地域の一部諸国が関わる環太平洋経済連携協定（TPP）や上海協力機構にも留意しながら展望します。

教科書 /Textbooks

辰巳浅嗣編著『EU 欧州統合の現在 第3版』創元社、2012年。
初版および第2版とは内容が異なります。第3版を準備してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 庄司克宏『欧州連合』岩波書店、2006年。
 - 鷲江義勝編著『リスボン条約による欧州統合の新展開』ミネルヴァ書房、2009年。
 - 中村民雄『EUとは何か』信山社、2015年。
 - 遠藤乾『欧州複合危機』中央公論新社、2016年。
- ほか適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 地域的国際機構の定義と理論
- 第3回 国際関係の中の地域的国際機構
- 第4回 テキスト「プロローグ」
- 第5回 テキスト第1章（ヨーロッパ共同体の設立）
- 第6回 テキスト第1章（EUの歴史）
- 第7回 テキスト第2章（EUの組織）
- 第8回 テキスト第2章（EUの政策決定）
- 第9回 テキスト第3章（EUの共通政策）
- 第10回 テキスト第3章（EUの人権保護等）
- 第11回 テキスト第4章（EUの対外関係）
- 第12回 テキスト「エピローグ」
- 第13回 地域的国際機構と東アジア（1）近年の展開
- 第14回 地域的国際機構と東アジア（2）展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・小テスト（5回）20% 期末試験80%

国際機構論II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回課題があります。課題をこなしたうえで授業に出席してください。授業の終了後は、その内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書に書き込むための附箋とペンを用意すると便利です。

次の該当するひとは受講できないので注意してください。教科書を持参していない人、教科書を忘れた人、遅刻した人、早期退室する人。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の一領域として国際協力を捉え、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	国際協力分野における情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論 I

IRL211M

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 下村恭民他『開発援助の経済学（第4版）』有斐閣、2009年。
- 下村恭民、辻一人、稲田十一、深川由紀子著『国際協力：その新しい潮流（第3版）』有斐閣、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
- 第4回 1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
- 第5回 南北交渉の時代【新国際経済秩序（NIEO）】、【資源ナショナリズム】
- 第6回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
- 第7回 途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
- 第8回 1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】【経済的コンディショナリティ】
- 第9回 冷戦の終結と援助パラダイムの変化【人間開発】【政治的コンディショナリティ】
- 第10回 グローバルな開発目標の設定【MDGs】【SDGs】
- 第11回 新興国の台頭と秩序の揺らぎ【南南協力】【BRICS】【北京コンセンサス】
- 第12回 日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
- 第13回 日本のODAの仕組み、理念【開発協力大綱】、【自助努力】
- 第14回 開発協力の今日的課題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...40%（10%×4回） 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に第2次世界大戦後の世界史について復習しておくことが望ましい。事後学習としては、Moodle上にアップした課題を提出する際に学習内容を復習して下さい。

国際協力論I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際協力機構（JICA）やOECD（経済協力開発機構）DAC（開発援助委員会）のウェブサイト参照すると、授業理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語厳禁。原則として途中入退室は認めません。

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	平和構築における開発の役割について理解し、専門的知識を有している。
技能	専門分野のスキル	●	平和構築における開発の役割について情報を収集し、分析することができる。
	英語力 其他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論II

IRL212M

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習し専門的知識を身につけます。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- メアリー・B・アンダーソン『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。(絶版のため書店購入不可)
- リンダ・ポルマン『クライシス・キャラバン-紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。
- ヨハン・ガルトウング『構造的暴力と平和』、中央大学出版部、1991年。
- オリバー・ラムズボサム、トム・ウッドハウス、ヒュー・マイアル『現代世界の紛争解決学』明石書店、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 平和学の基礎
- 第2回 国家の破綻と崩壊 事例研究1 ルワンダ①【歴史的経緯】
- 第3回 ルワンダ② - 国連PKOの実状 - 【ビデオ】【ディスカッション】
- 第4回 国家の破綻と崩壊 事例研究2 ソマリア①【歴史的経緯経緯】
- 第5回 ソマリア② - 破綻国家の実状 - 【ビデオ】【ディスカッション】
- 第6回 国家の破綻と崩壊 事例研究3 アフガニスタン①【歴史的経緯】
- 第7回 アフガニスタン② - 介入と国家再建 -
- 第8回 アフガニスタン③ - NGOによる和解の可能性【ビデオ】【ディスカッション】
- 第9回 国連PKOの変容
- 第10回 紛争問題解決アプローチの展開【人道的介入】【保護する責任】
- 第11回 「平和構築」アプローチの是非
- 第12回 紛争後復興における開発の役割
- 第13回 Do No Harm原則①【平和へと向かう力、戦争に向かう力】
- 第14回 Do No Harm原則②【援助が持つ物質的影響、倫理的メッセージ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出...30% (10%×3回) 学期末試験...70%

国際協力論II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にイントラ上の学習支援フォルダに掲載される資料に目を通しておくこと。事後学習としては、ビデオを観た後で課題に答えて提出して頂きます(3回、Moodleを活用する予定)。

履修上の注意 /Remarks

JICAのホームページから『課題別指針 平和構築』(2009年)をダウンロードして読んでおくと、講義の後半部分の理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。ビデオを観た回ではグループでディスカッションをしてもらいます。積極的に発言することを心がけてください。

キーワード /Keywords

国際人権論 【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際人権の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際人権に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際人権論

IRL213M

授業の概要 /Course Description

人間の権利には、どのようなものがあるのでしょうか。それを誰がどのように保護するのでしょうか。現代世界においては、各々の国家が個別にこれらの問いにこたえればよいというわけでは必ずしもなくなっています。
講義では、主に国際政治学と国際法学の観点から、人権に関する規範と制度が国際連合においてどのように形成されているのかを考察し、その課題を探究します。コンディショナリティやヘイトスピーチ、あるいは個人情報のビッグデータ化等、近年の展開も視野に入れる予定です。

教科書 /Textbooks

『国際条約集2018年版』有斐閣、2018年。
複数の出版社が条約集を出していますが、授業では有斐閣のものを用います。
なお、次の場合にかぎり有斐閣の昨年度版（2017年版）を用いることができます。
・ 2017年度開講の同科目を履修登録し、かつ単位を取得しなかったひと、
・ 2017年度開講の国際機構論Iを履修登録したひと。
他の出版社の条約集を教科書として用いることはできません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○阿部浩己・今井直・藤本俊明『テキストブック国際人権法』第3版、日本評論社、2009年。
○トーマス・バーゲンソル『国際人権法入門』東信堂、1999年。
○畑博行・水上千之編『』第4版、有信堂高文社、2006年。
○山本直『EU人権政策』成文堂、2011年。
ほか授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 人権概念の創出
- 第3回 国際社会と人権保護：19世紀まで
- 第4回 国際社会と人権保護：国際連盟の時代
- 第5回 国際連合における人権の規範と制度（国連憲章）
- 第6回 国際連合における人権の規範と制度（世界人権宣言）
- 第7回 国際連合における人権の規範と制度（社会権規約と自由権規約）
- 第8回 国際連合における人権の規範と制度（各種の人権条約）概観
- 第9回 国際連合における人権の規範と制度（各種の人権条約）ケース・スタディ
- 第10回 国際連合における人権の規範と制度（人権理事会）概観
- 第11回 国際連合における人権の規範と制度（人権理事会）ケース・スタディ
- 第12回 国際刑事裁判所の設立と活動
- 第13回 現代世界・アジアと人権：人権外交と価値観（1）
- 第14回 現代世界・アジアと人権：人権外交と価値観（2）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・小テスト（5回）20% 期末試験80%

国際人権論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回課題があります。課題をこなしたうえで授業に出席してください。授業の終了後は、授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書に書き込むための附箋と極細ペンを用意すると便利です。

次の該当者は受講できません。教科書を持参していない人、教科書を忘れた人、遅刻した人、早期退室する人。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争論 【昼】

担当者名 /Instructor 川上 耕平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 紛争とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 紛争に関連する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際紛争論

IRL214M

授業の概要 /Course Description

国際関係の研究は、戦争と平和の研究といっても過言ではない。そのアプローチには、歴史的な方法と理論的な方法の2つがあると思われるが、本講義は、その両方を意識しながら進めていく。具体的には、まず紛争を研究するための視座にあたるようなものを、「覇権」や「分析レベル」といったキーワードに基づいて簡潔にみていく。そうした検討を踏まえながら、具体的な紛争（授業計画を参照）を個別に取り上げ、史学上の学説などを整理することによって、受講者には国際紛争を多面的に捉える力を習得してもらう。

教科書 /Textbooks

教科書は指定せず、各回のテーマごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各回のテーマごとに、関連文献を紹介するが、講義全体に関わるものとして、以下の文献を挙げておく。

- K.ウォルツ（渡邊昭夫、岡垣知子 訳）『人間・戦争・国家—国際政治の3つのイメージ』勁草書房、2013年。
- 菅英輝『アメリカの世界戦略』中公新書、2008年。
- 黒川修司『現代国際関係論』国際書院、2009年。
- J.ゴールドSTEIN（岡田光正 訳）『世界システムと長期波動論争』世界書院、1997年。
- G.モデルスキー（浦野起央、信夫隆司 訳）『世界システムの動態—世界政治の長期サイクル』晃洋書房、1991年。
- 篠田英朗『国際紛争を読む五つの視座』講談社選書メチエ、2015年。
- J.ナイ他（田中明彦、村田晃嗣 訳）『国際紛争—理論と歴史』原書第10版、有斐閣、2017年。
- G.T. Allison, *Destined for War: Can America and China Escape Thucydides's Trap?*, Houghton Mifflin Harcourt, 2017.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国際紛争を考えるための視角：【分析レベル】、【覇権】、【トゥキディデスの罠】
- 第3回 三十年戦争【主権国家】：【ウェストファリア体制】
- 第4回 覇権と国際紛争（1）—スペインからオランダの覇権へ：【世界システム】
- 第5回 覇権と国際紛争（2）—パックス・ブリタニカの時代：【第二次英仏百年戦争】
- 第6回 第一次世界大戦（1）：【帝国主義】
- 第7回 第一次世界大戦（2）：【三国同盟】、【三国協商】
- 第8回 第二次世界大戦（1）：【ナチズム】
- 第8回 第二次世界大戦（2）：【連合国】、【枢軸国】
- 第9回 冷戦と核戦略：【相互確証破壊】
- 第10回 冷戦期の国際紛争（1）—二つのドイツ：【ベルリン封鎖】
- 第11回 冷戦期の国際紛争（2）—中国と台湾：【台湾海峡危機】
- 第12回 冷戦期の国際紛争（3）—朝鮮半島：【朝鮮戦争】
- 第13回 冷戦期の国際紛争（4）—中東①：【パレスチナ問題】
- 第14回 冷戦期の国際紛争（5）—中東②：【イラン・イラク戦争】、【湾岸戦争】
- 第15回 冷戦後の国際紛争—「イスラム国」をめぐる問題：【テロリズム】

国際紛争論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...70% 小テスト...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各テーマのレジユメが事前に配られた場合には、それについて目を通しておくこと。そして講義が終わった後は、講義内容を自分の頭できちんと整理しなおし、講義で紹介した文献のいずれかにも当たってみること。。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校などで世界史などを履修したことがない学生でも、十分についていけるよう説明をするので、あとは各自がどれだけ発展的な学習（講義で紹介した文献の消化）に結びつけていけるのか、ということが課題となる。

キーワード /Keywords

上記の授業計画を参照。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

担当者名 /Instructor 伊東 良輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M

授業の概要 /Course Description

障がいのある方を支援する制度・サービスの知識について学び、現代社会でどのような支援を行うことができるのか考える力を身につけることを目標とします。
我が国、北欧の障がい者支援の歴史を学び、現在の制度・政策について考えていきます。
その他、障がいのある方が、どのような場面で不自由を感じるのかを体験することで、実践の場でどのような支援が必要であるのかを考える疑似体験を行います。

教科書 /Textbooks

中央法規出版「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要時にお伝えします

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書を利用し
 ・障がい者を取り巻く社会情勢と生活実態
 ・障がい者にかかわる法体系
 ・障がい者自立支援制度①
 ・障がい者自立支援制度②
 ・組織・機関の役割
 ・専門職の役割と実際
 ・多職種連携・ネットワーキング

その他
 ・視覚障がい疑似体験
 ・車いす利用体験

成績評価の方法 /Assessment Method

・講義出席状況
 ・講義態度
 ・期末テスト

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障がいのある方の支援について自らの考え方をまとめておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【昼】

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身につけた基礎的知識が高齢者の支援や理解に適切可能であることを発見する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論1」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度1」の内容は授業内容に示した通りである。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第2回 高齢者の特性と疾病
- 第3回 高齢者の福祉需要と介護需要
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程1【高齢者保健福祉十ヶ年戦略まで】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程2【介護保険制度】
- 第6回 人口減少・少子高齢社会の現状と課題
- 第7回 介護の概念や対象【介護の理念と対象】
- 第8回 介護の概念や対象【介護予防の必要性】
- 第9回 介護予防【介護予防プランの実際と介護過程】
- 第10回 認知症ケア【認知症ケアの基本的考え方】
- 第11回 認知症ケア【認知症ケアの実際】
- 第12回 高齢者虐待と予防
- 第13回 終末期ケア
- 第14回 老人福祉法と関連法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 授業への参加(レポートなど)30%(変更あり)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 高齢者の支援にかかわる諸課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論2」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度2」の内容は下記の授業内容に示した通りである。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職等について理解することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第2回 介護保険制度創設の背景と目的及び基本方針
- 第3回 介護保険制度の仕組み【保険者と被保険者など】
- 第4回 介護保険制度の仕組み【介護度の認定と利用及び給付】
- 第5回 介護保険制度の仕組み【サービスとサービス事業者】
- 第6回 介護保険制度の仕組み【地域支援事業と権利擁護】
- 第7回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【国、都道府県、市町村の役割】
- 第8回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割】
- 第9回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における公私の役割関係】
- 第10回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護支援専門員の役割】
- 第11回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護職員、訪問介護員等の役割】
- 第12回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護認定審査会の委員、認定審査員の役割】
- 第13回 介護保険法におけるケアマネジメントと実際
- 第14回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第15回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 課題の提出(レポートなど)30%(変更あり)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく。

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

キーワード /Keywords

公共経済学【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共部門の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共部門に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経済学

ECN262M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話をお聴きだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

教科書 /Textbooks

寺井公子、肥前洋一（2015）、『私たちと公共経済（有斐閣ストウディア）』、有斐閣、2,160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏（1998）、『基礎コース 公共経済学』新成社○
井堀利宏（2005）、『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社○
スティグリッツ（2003）、『公共経済学』（上・下）（第2版）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

公共経済学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト(12回) ...40%、課題...10%、期末試験...50%

変更する予定あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【昼】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際経済論を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、海外との経済取引（貿易や資本取引—国際金融&国際投資—）と日本経済について分析していくことが重要となる。ここでは、国際経済の新しい動向を日本経済を基軸にして“通貨”の視点から考察していくことをも視野に入れている。

また講義では、「国際経済の動きと今後の展望」について、具体的な統計データを示しながら分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「国際経済の動き」を“日本経済”、及び“通貨”の視点から理解することができ、また「日本経済が抱える課題」を国際経済の動向と結び付けて解明することが出来るようになる。

< 本講義の到達目標 >

1. 国際経済の動向と諸課題を理解するための「基礎概念」と「基本理論」を身につける。
2. 国際経済の新しい動きと日本経済の課題について、解説できること。
3. 国際資本の流れ—国際金融の視点—から日本経済を分析できること。

* 日本経済新聞を読むようになればなお良い。

教科書 /Textbooks

* 末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際経済論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション-経済のグローバル化と日本経済の動向-
- 第2回 国際経済の現状 (I) : 国際経済の新潮流-グローバル経済化と新しい国際通貨システム-
【東西冷戦の終焉】 【資源大国】 【国際資本】 【国際通貨制度】
- 第3回 国際経済の現状 (II) : アメリカ経済の動向と今後-その変遷と戦略-
【レーガノミクス】 【クリントノミクス】 【IT革命】 【ニュー・エコノミー】 【ドル基軸通貨】 【双子の赤字】 【グローバル・インバランス】 【トランプショック】
- 第4回 国際経済の現状 (III) : 欧州連合 (EU)と通貨統合 (統一通貨ユーロ) 【欧州連合】 【ユーロ】
【英国のEU離脱】
- 第5回 国際経済と日本経済 (I) : 戦後の日本経済の変遷とその特徴
【経済の民主化政策】 【政府主導の成長政策】 【高度経済成長】 【オイルショック】
【バブル崩壊と低成長】
- 第6回 国際経済と日本経済 (II) : 外需 (輸出) 主導型の経済成長と円高デフレ - ション
【プラザ合意】 【円高不況】 【経常収支の黒字問題】 【外貨準備高】 【日本経済の再生 & アベノミクス】
- 第7回 国際経済と日本経済 (III) : 国際金融市場の動きと日本経済 【ジャパン・マネー】 【オイル・マネー】 【国際資本】
【経常収支黒字】 【資本収支赤字】 【外貨準備率】 【世界経済の不均衡問題】
- 第8回 国際貿易の基礎理論 (I) -基本構造 (メカニズム) と基本理念- 【国際分業】 【交易条件】
- 第9回 国際貿易の基礎理論 (II) -自由貿易と比較優位 (生産費) の理論-
【リカード】 【比較生産費】 【ヘクシャー=オーリンの理論】 【国際競争力】
- 第10回 貿易政策の基礎分析 (I) : 貿易摩擦と保護政策 【日米貿易摩擦】 【市場開放】 【非関税障壁】
- 第11回 貿易政策の基礎分析 (II) : 保護政策の具体的手段とその効果 【関税政策】 【数量割当政策】
- 第12回 戦後の国際貿易制度 : GATT&WTO、及びFTA (EPA) TPP
- 第13回 TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) と日本経済 【関税撤廃】 【市場開放】 【高コスト構造の是正】
- 第14回 戦後の国際通貨制度と最適通貨制度 【米ドルと基軸通貨】 【グローバルインバランス問題】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 定期試験・・・80%
- (2) 日常の授業への取り組み (授業中に適宜指示致します)・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業の中で指示された範囲の予習と、各単元での授業内容の復習を行って下さい。
- (2) 授業に関連した記事 (雑誌記事、新聞記事etc) を収集して、授業のさらなる理解に役立てて下さい。
- (3) 授業の中で配布された資料は、テキストと一緒に事前・事後学習に活用して下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料etcをよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

グローバル経済 グローバル・インバランス BRICs 資源大国 国際資本 国際通貨 (基軸通貨) 米ドル ユーロ 最適通貨 円高・円安 経常収支 資本収支 外貨準備 アベノミクス 国際分業 比較優位 交易条件 国際競争力 関税障壁
市場開放 対外債権 対外債務 対外純資産
対外直接投資 対内直接投資 産業の空洞化

国際経済論II 【昼】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

国際経済論IIは、世界の様々な国々・地域の経済動向について学び、国際経済の動き（動向）を的確に把握すると同時に、国の対外的な経済活動、すなわち「貿易や資本取引」（国際金融&国際投資）、「企業の国際的な事業展開」（多国籍企業の動向、外資系企業の活動）等々を学ぶ分野である。

本講義では、I学期の「国際経済論I」の講義内容を前提に、国際経済の動きをよりの確・理論的に理解するために外国為替市場を通じた国際的経済取引（貿易や資本取引）のメカニズムについて解説していく。なお、国際経済論では、海外との経済取引を前提とした一国全体の経済問題が対象となるので、「国際収支表」「国際収支の諸概念」等々のマクロ経済指標（統計データ）の動きについても適宜解説していく予定である。

* なお、我が国の国際収支統計の表記法が、2014年1月から国際通貨基金（IMF）公表（2008年）の「国際収支マニュアル：BPM」（第6版）に準拠して改定された。本授業では、この改訂版についても併せて解説します。

< 国際経済論IIの基本的視点 > - 授業の流れ -

* 授業展開における基本視点 → 下記のように、「通貨」の視点からも国際経済の現状&将来を分析していきます。

1. 世界の三大通貨 → 基軸通貨（国際通貨）：「米ドル」（\$）、欧州連合（EU）における統一通貨：「ユーロ」（€）、日本通貨：「円」（¥） 英国通貨：「ポンド」（£）
2. その他の注目通貨 → 中国通貨：「人民元」、スイスの通貨：「スイスフラン」etc

教科書 /Textbooks

* 末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1)伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社：○
- (2)末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際経済論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：世界経済と資金の流れ
- 第2回 国際収支表と国際収支の諸概念 …… 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第3回 国際収支と日・米経済関係（Ⅰ）：世界経済の不均衡問題 …… 【経常赤字と財政赤字】 【双子の赤字】
【資本収支の黒字】 【債務大国：アメリカ】 【グローバル・インバランス】
- 第4回 国際収支と日・米経済関係（Ⅱ）：資本輸出国日本 …… 【経常収支の黒字】 【資本収支の赤字：
資本輸出】 【外貨準備高】 【債権大国：日本】 【対外投資】 【対外純資産】
- 第5回 経常収支と「貯蓄・投資のマクロ・バランス」 …… 【貯蓄超過】 【財政収支赤字】 【経常収支黒字】
- 第6回 国際通貨制度とその変遷 & 現状 …… 【金本位制度】 【固定制度】 【変動制度】 【管理通貨制度】
【IMF体制】 【基軸通貨：米ドル】 【トリフィンのジレンマ】 【最適通貨制度】
- 第7回 外国為替取引と為替レート …… 【邦貨（円）建て】 【外貨（ドル）建て】
- 第8回 外国為替制度：固定相場制度 …… 【平価】 【為替介入】 【固定レート】 【資本規制】
- 第9回 外国為替制度：変動為替相場（フロート）制度 …… 【市場レート】 【円高】 【円安】
- 第10回 外国為替レートの変動と為替変動リスク …… 【基軸通貨ドルの特権】 【ドル危機】 【リスクヘッジ】
【通貨危機】 【通貨危機と円キャリートレード】
- 第11回 変動為替相場制度と為替介入（Ⅰ） …… 【管理フロート制】 【通貨当局】 【為替介入】 【外貨準備高】
- 第12回 変動為替相場制度と為替介入（Ⅱ） …… 【FB：政府短期証券】 【外国為替資金特別会計】
- 第13回 固定相場制と変動相場制度の比較分析 …… 【ドルベック】 【通貨のトリレンマ】 【最適通貨圏】
- 第14回 グローバル経済化と最適通貨制度 …… 【世界経済の不均衡問題】 【国際資本移動】 【ドルのジレンマ】
【共通通貨：ユーロ】 【複数通貨制度】 【SDR】
- 第15回 まとめ -世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験 …… 80%
- (2) 日常の授業への取り組み（授業の中で適宜指示します） …… 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業の中で指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行って下さい。
- (2) 授業に関連した資料【雑誌記事、新聞記事etc】を収集して、授業で学んだ知識を深めてください。
- (3) 授業の中で配布された資料は、テキスト & ノートと共に事前・事後の学習に役立てて下さい。

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 世界経済や日本経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料をよく読んでおいて下さい。
- (3) 出来たら、日本経済新聞を読めるようになればなお良いです。

キーワード /Keywords

国際収支の均衡 経常収支黒字・赤字 資本収支赤字・黒字 財政収支赤字 外貨準備高 輸出超過 輸入超過 内需・外需 邦貨（円）建レート 外貨（ドル）建レート 円高・円安 通貨当局 管理フロート制 外国為替市場 市場レート 平価 為替介入 外国為替資金特別会計 FB（政府短期証券） 国際通貨制度 基軸通貨（国際通貨） IMF体制 国際通貨制度の三位一体説 トリフィンジレンマ 最適通貨制度 複数通貨制度 共通通貨：ユーロ SDR グローバル・インバランス 国際資本移動

経済地理学I【昼】

担当者名 /Instructor 近江 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動 (I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動 (II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動 (III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動 (IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動 (V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10%
期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済活動が実際の空間・地域でどのように行われるのか、理論と現実を結び付けて解説していきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 /Instructor 近江 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

未定。使用する場合は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付値曲線】【土地利用】
- 4回 都市と集積 【都市とは】【都市の成長】【都市化の利益・不利益】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【ブレット】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・ランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代的地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策、地域構造

金融論I【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論I

ECN260M

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③修得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に指定されたレジュメを印刷し、目を通しておく。
講義後には、講義内容について復習し、理解を深めておく。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。
レジユメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をしっかりとしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論II 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論II

ECN261M

授業の概要 /Course Description

「金融論」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融に関する問題について、専門知識に基づいた議論ができる。
- ②現実の経済情勢の的確な分析に基づき、解決策を考えることができる。
- ③経済・社会に関する知識を用い、社会に貢献する意欲を身につける。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

櫻川昌哉『金融立国試論』光文社新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 3回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 4回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 5回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 6回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 7回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 8回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 9回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 10回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 11回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 13回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 14回 サブプライム問題【サブプライム問題とは】
- 15回 サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

金融論II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に指定されたレジユメを印刷し、目を通しておく。
講義後に復習し、理解を深めておく。

履修上の注意 /Remarks

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくこと、講義内容が理解しやすい。
レジユメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をして臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営組織の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営組織に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営組織に関わる諸問題に関心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営組織論

BUS212M

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことが出来る者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が、現代においてどのように成り立ち、運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

教科書 /Textbooks

中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)
三井泉編『フォレット』文真堂、2013年(○)
岸田民樹編『組織論から組織学へ-経営組織論の新展開』文真堂、2009年(○)
M.P.フォレット『創造的経験』文真堂、2017年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【現代社会における組織】
- 第2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】【有効性と能率】
- 第3回 管理とは何か① 【管理過程】【意思決定論】
- 第4回 管理とは何か② 【事実の認識】【イナクトメント】【円環的対応】
- 第5回 現代組織の諸特徴① 【官僚制】【支配の3類型】
- 第6回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】【科学的管理】
- 第7回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理の現在】【官僚制の抑圧性】
- 第8回 第2回～7回のまとめ
- 第9回 組織構造① 【権限の原則】【権限と権威】
- 第10回 組織構造② 【ライン組織】【コンテインジェンシー理論】
- 第11回 組織構造③ 【職能部門制組織】【事業部制組織】
- 第12回 動機づけ理論① 【金銭による動機づけ】【人間関係】
- 第13回 動機づけ理論② 【欲求階層説】【自己実現】【X-Y理論】【動機づけ-衛生理論】【達成動機】
- 第14回 現代組織と意思決定 【コンフリクト】【統合】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・40% 中間テスト・・・30% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を熟読しておいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習してください。また、適宜、レポート課題の提出を求めます。

経営組織論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「経営学入門」「マネジメント論基礎」「企業論基礎」の内容を復習しておいてください。
状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【組織の三要素】 【官僚制】 【科学的管理】 【環境適応】 【随伴的結果】 【自由と責任】

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な基本的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンス I

BUS214M

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業の財務活動に関する基礎知識を提供することを目的とします。具体的には、企業（株式会社）の事業活動の元手となる資本を提供している株主の観点から、企業がどのように資本調達を行い、実物資産へ投資し、また、投資からのリターンを投資家に返すべきか（ペイアウト）を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹、『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門（第2版）』，日本経済新聞社（2017年）
石野雄一、『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
Stephen A.Ross,Randolph W.Westerfie,『コーポレートファイナンスの原理【第9版】』，きんざい（2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション コーポレート・ファイナンスの世界
- 2回 コーポレート・ファイナンスの世界(1)【期待リターン，リスク（標準偏差）】
- 3回 コーポレート・ファイナンスの世界(2)【証券，発行市場，流通市場】
- 4回 コーポレート・ファイナンスの世界(3)【ゴーイング・コンサーン，減価償却費，配当，内部留保】
- 5回 投資の基礎知識【設備投資，研究開発投資，金融投資，貸借対照表，損益計算書】
- 6回 資本調達の基礎知識：自己資本調達(1)【額面，時価，創業者利得，IPO，普通株，優先株】
- 7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達(2)【ハイリスク・ハイリターン，ROA，ROE】
- 8回 資本調達の基礎知識：負債資本調達(1)【普通社債，フロント債】
- 9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達(2)【転換社債，MSCB】
- 10回 配当の基礎知識(1)【配当政策，配当性向，配当利回り】
- 11回 配当の基礎知識(2)【自社株買い戻し，株式分割】
- 12回 コーポレート・ガバナンス(1)【所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード】
- 13回 コーポレート・ガバナンス(2)【取締役会制度，執行役員制度，大株主】
- 14回 コーポレート・ガバナンス(3)【敵対的買収，メインバンク，株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業外学習について
- (1)事前に講義資料等を学習支援フォルダに挙げているので，必ず参照し準備すること。
- (2)授業終了後には，授業の内容を反復すること。

企業ファイナンスI【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回「電卓」を持参すること。
この講義を受講する場合は、「企業論基礎」・「経営統計」・「簿記論I」・「簿記論II」・「経済学入門A」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンスII

BUS215M

授業の概要 /Course Description

本講義は企業ファイナンスIで学習した内容をふまえて、株主の観点から、企業の財務活動を考える上で必要になる理論的基礎を与えることを目的とします。具体的には、「将来の1万円と現在の1万円ではどちらの方が価値が高いか」、「企業価値を最大化するための資本構成は存在するか」などを学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹，『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸，『コーポレート・ファイナンス入門（第2版）』，日本経済新聞社（2017年）
石野雄一，『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
大津広一，『ファイナンスと事業数値化力』，日本経済新聞社（2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 企業ファイナンスIの復習
- 2回 現在価値計算(1)【現在価値 (PV)，将来価値 (FV)，安全利子率】
- 3回 現在価値計算(2)【リスクプレミアム，投資信託】
- 4回 株式価値・負債価値と企業価値(1)【金融商品，利付債，割引債，クーポン】
- 5回 株式価値・負債価値と企業価値(2)【配当割引モデル (DDM)】
- 6回 株式価値・負債価値と企業価値(3)【企業価値，株式価値，負債価値】
- 7回 資本コスト(1)【資本コスト，最低要求収益率】
- 8回 資本コスト(2)【加重平均資本コスト】
- 9回 資本コスト(3)【マーケット・ポートフォリオ，資本資産評価モデル (CAPM)， β (ベータ)】
- 10回 投資決定の基礎理論(1)【投資決定，割引キャッシュフロー (DCF) 法，正味現在価値 (NPV)】
- 11回 投資決定の基礎理論(2)【内部収益率 (IRR)，回収期間法】
- 12回 資本構成の基礎理論(1)【レバレッジ効果，MM理論，裁定取引】
- 13回 資本構成の基礎理論(2)【法人税，倒産コスト】
- 14回 資本構成の基礎理論(3)【トレード・オフ・モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業外学習について
- (1)事前に講義資料等を学習支援フォルダに挙げているので，必ず参照し準備すること。
- (2)授業終了後には，授業の内容を反復すること。

企業ファイナンスII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回「電卓」を持参すること。
この講義を受講する場合は、「企業論基礎」・「企業ファイナンスI」・「経営統計」・「経済学入門A」・「簿記論I」・「簿記論II」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略論 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています

教科書 /Textbooks

講義はレジユメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)
他、参考となる文献を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PPM】、【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1【5フォース】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第11回 産業進化とイノベーション【技術】【市場】【オープン・クローズ】
- 第12回 ビジネスシステム戦略【ビジネスシステム】、【設計と情報・資源】
- 第12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部制組織】、【マトリックス組織】
- 第13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】、【知識創造】
- 第14回 経営戦略と組織3-事例研究-【組織文化】【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80%）と学期中の小レポート等提出物の結果（20%）によります。

経営戦略論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房
配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計(会計学)とは何か?【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 中間のまとめ
- 12回 会計談話その1 - 会計学とは何か? - 【資本循環範式、現金、ホスピタリティ】
- 13回 会計談話その2 - 会計学とは何か? 【会計のアカデミズム】【会計学者の群像】
- 14回 財務諸表の種類等を知る【投資家、ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト等を含む)... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

財務会計論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定である。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論II

ACC215M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計固有の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIは、財務会計論Iの応用編（あくまでも動態論）である。財務会計論Iと異なる点は、会計の基本問題に限定している点である。主たるテーマについては、授業内容を参考にして欲しい。動態論の基本的思考を中心にして、現代会計について言及したいと思う。

教科書 /Textbooks

特になし
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 課題 ... 10% 期末試験 ... 80%

財務会計論II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記論のテキスト（簿記2級程度の仕訳）や、財務会計論の入門書及び教科書（例えば、田中弘、広瀬義州、桜井久勝、新井清光 & 川村義則の最新の書籍）を読むことをすすめる。

事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「財務会計論I」を既に受講した場合、財務会計論IIの講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。会計の考え方について説明しているので、眠くなると思われるが、授業で話しているポイントについては、レジュメだけに終わらず、財務会計論の教科書に該当する説例(=仕訳等)を調べたり、ネットで、さらに深く調べて自分で考えてみる事が重要である。聞き流しでは、会計について考える機会を逸してしまうので、是非、自主的に勉強してもらいたい。

キーワード /Keywords

会計監査論 【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 会計監査の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 会計監査の諸問題を解決するための方法を考え、監査一巡の手続きについて、それらを理論的に修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 会計監査に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 会計監査に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会計監査論

ACC216M

授業の概要 /Course Description

この講義では、独立した公認会計士（監査法人）が、財務諸表の信頼性を検証し担保する外部監査について、その本質と目的、手続と報告方法、さらには監査職能の資本市場への関わりについて考察する。税理士、会計士試験受験志望者にとっては、これまで学んできた会計関連科目のまとめ、あるいは会計学を学ぶ意味をあらためて再確認することにもなる。しかしながら、本講義では公認会計士が社会に対して担う責任の拡がりについて幅広く考察する（関わる日本経済新聞記事などを引用し教室で関連コピーを配布することも多い）。過去に会計科目を学んだことのない人であっても、関心があれば積極的に受講されたい（簿記の知識がなくても授業内容は理解できる。履修者にとっては、意外と面白い科目になるに違いない）。講義時間中においては、監査に関わりのある社会的な視点や、会計不正事件をも広く紹介し、履修者に関心を持ってもらう。本講義の到達目標は、受講後、修了者が、時に新聞やマスコミを通じて報道される、監査に関わりある論点を理解し、また会計関連資格取得希望者にとっては、会計監査論のフレームワーク全体に展望を得ることにある。ところで「監査論」は国家試験たる公認会計士試験の一試験科目である。会計士志望の履修者は、本科目の履修によって、難関国家資格にチャレンジする意欲とその土台造りをしていただければ幸いである。

教科書 /Textbooks

未定（初回オリエンテーション時に指定する。生協には事前に入荷依頼をする。参考まで、2017年度は山浦久司著『監査論テキスト』中央経済社 価2,200円税別を教科書に指定した）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

未定（教室にて別途指示をすることがある）。他に、教室でほぼ毎回、プリントを配布する。それと、各回授業後、本学イントラネット内（マネジメント研究科任章）の「学習支援ホルダー」の類に復習のチェック問題（各回10題程度）等を挙げるので、積極的に利用すること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内は各回の授業内容に関わるキーワード：（授業内容の順番は大きく変わることがある。指定する教科書が未定にて、下記は参考に過ぎない）。

- 第1回 : オリエンテーション～会計監査論を学ぶ意義と役立ちを考える～
- 第2回 : 会計専門職の職業倫理【会計専門職】【職業倫理】
- 第3回 : 「一般に公正妥当と認められた監査基準」について【GAAS】
- 第4回 : 「監査基準書」とその体系について【SAS】【実務指針】
- 第5回 : 監査契約と監査計画について【監査計画】
- 第6回 : 内部統制について【内部統制】
- 第7回 : 監査リスクについて【監査リスク】
- 第8回 : 監査一巡の手続について【運用テスト】【実証テスト】
- 第9回 : 監査報告書の意義とその種類について【監査報告書】
- 第10回 : 企業経営環境とゴーイング・コンサーン問題について【GC問題】
- 第11回 : 四半期レビュー報告書と保証水準について【レビュー】【保証水準】
- 第12回 : 企業改革法（SOX）とJ-SOXについて【金融商品取引法】【内部統制ルール】
- 第13回 : 過去の学期末試験の内容のレビュー【定期試験の傾向と対策指導】
- 第14回 : 利益調整の動機と、粉飾決算について【粉飾決算】
- 第15回 : まとめと展望【批判会計学としての会計監査論】

会計監査論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果 凡そ70%、レポート 凡そ20%、その他積極性等 凡そ10%、あわせて100%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習：(事前学習)初回講義時に知らせる講義予定に従って、教科書の定められた章を読んでおくこと。(事後学習)各回教室で学んだ用語や概念を、あとでレポートにまとめて提出できるよう、復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

定期試験以外にレポートも課す。復習ができるよう、教室には毎回の授業の内容をしっかりとメモしておく必要がある。なお期末の定期試験は、普段の出席率の良い人が得点しやすくなるよう、講義した内容の全体からまんべんなく出題する。簿記会計の知識があれば良いが、しかし履修科目の前提としては求めない。講義中には「たとえ話」を多く交えるので、事前知識がなくても誰でも十分に理解できるはずである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目はいわゆる「山カケ」で単位がとれる科目ではない(出席点それ自体はないが、できるだけ多く出席しないと、期末定期試験でさほど得点できないであろう)。履修の動機付けをしっかり持った学生の受講を希望する。

キーワード /Keywords

例えば、財務諸表、公認会計士、監査法人、SOX法、金融商品取引法、会社法、内部統制、ディスクロージャー、粉飾決算、他。

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論 I ECN345M

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。例えば、アメリカのトランプ大統領である。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくならないのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社(2016年)
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 学期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

最初に参考書を紹介するので、それらの参考書における対応する講義内容にあらかじめ目を通しておくと、授業をより理解しやすくなる。講義がわかりにくいと感じた場合には、参考書の対応する部分を精読すると、理解はより深まる。

国際貿易論I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 比較優位 トランプ米国大統領

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論II

ECN346M

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論Iにおいて講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、対外直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである対外直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。

対外直接投資の結果として、海外子会社とともに海外孫会社の増加が見られる。海外子会社や海外孫会社の増加は、日本に何をもたらすのであろうか。その意味することともに、なぜ増加しているのかなども紹介する。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：海外子会社と海外孫会社

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社、2016年出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 直接投資理論を紹介1【直接投資】
- 3回 直接投資理論を紹介2【直接投資】
- 4回 対外直接投資概説【直接投資】
- 5回 中国における海外子会社と海外孫会社【中国】
- 6回 ASEAN4における海外子会社と海外孫会社【ASEAN4】
- 7回 アジANIESにおける海外子会社と海外孫会社【アジANIES】
- 8回 ヨーロッパにおける海外子会社と海外孫会社【ヨーロッパ】
- 9回 アメリカにおける海外子会社と海外孫会社【アメリカ】
- 10回 組織モデル【組織】
- 11回 海外子会社の役割【海外子会社】
- 12回 富士ゼロックス事例【事例】
- 13回 チャーター逸脱事例【事例】
- 14回 ポスト・トランスナショナル組織【組織】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書はあらかじめ読んでおくことを前提としているので、講義に合わせて予習しておくこと。また、直接投資に関連する文献は多くあるので、講義に合わせて予習していることがより望ましい。

履修上の注意 /Remarks

出席を重視している。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃の国際(経済)関連ニュースに注目してほしい。

キーワード /Keywords

海外子会社 海外孫会社 直接投資理論

国際金融論I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論 I

ECN363M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや研究書を理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
 - 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
 - 3回 国際収支表 【フロー統計】
 - 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
 - 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
 - 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
 - 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
 - 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
 - 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
 - 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
 - 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
 - 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
 - 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
 - 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
 - 15回 まとめと総復習 【24時間ディーリング】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に各自講読すること。さらに、専門用語が多く出てくるので、インターネットなどで用語検索すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論II

ECN364M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや専門書を理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
 - 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】 【変動相場制】
 - 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】 【カバー取引】
 - 4回 デリバティブ取引 【先渡し】 【先物】 【オプション】 【スワップ】
 - 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】 【キャリー取引】
 - 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】 【ERM】
 - 7回 欧州通貨統合の構造的問題 【安定成長協定】
 - 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
 - 9回 国際的な金融危機の種類 【資本収支型の危機】
 - 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
 - 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
 - 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティー】
 - 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】 【ブルーテンス政策】
 - 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】 【ボルカールール】
 - 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に講読すること。また、専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論I【昼】

担当者名 /Instructor 川崎 晃央 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業や産業を分析するために必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論I

ECN341M

授業の概要 /Course Description

産業組織論を学ぶうえで必要な最低限のミクロ経済学の理論及びゲーム理論を確認したうえで、産業組織論で用いられる基本的な理論モデルについて解説する。

教科書 /Textbooks

『経営の経済学』（第3版）丸山雅祥 著 有斐閣 2017年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『ブラティカル産業組織論』 泉田成美, 柳川隆 著 有斐閣 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション・産業組織論とは
- 第2回：需要の特性1（価格効果，弾力性）
- 第3回：需要の特性2（消費の外部性）
- 第4回：費用の基礎概念
- 第5回：規模の経済・範囲の経済・経験の経済
- 第6回：完全競争市場の効率性
- 第6回：独占の基礎理論
- 第7回：独占の応用理論
- 第8回：ゲーム理論1（同時手番ゲーム）
- 第9回：ゲーム理論2（逐次手番ゲーム）
- 第10回：寡占と競争1（複占市場モデルの構築）
- 第11回：寡占と競争2（複占市場モデルの分析）
- 第12回：寡占と競争3（寡占市場モデルの構築）
- 第13回：寡占と競争4（寡占市場モデルの構築）
- 第14回：寡占と競争5（寡占市場モデルの応用）
- 第15回：講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：事前に授業予定箇所の部分を読んでおくこと
復習：板書，あるいは講義資料を改めてまとめ直すこと

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の最低限基礎知識を持っていることが望ましい（持っていなくても対応できるような講義にはする予定です）。講義中の私語に対しては厳正に対処します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor 川崎 晃央 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業や産業を分析するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論II

ECN342M

授業の概要 /Course Description

産業組織論の基本的なツールを用いて、様々な応用問題についてのモデルの紹介、並びにモデル分析について解説を行う。

教科書 /Textbooks

『経営の経済学』（第3版）丸山雅祥 著 有斐閣 2017年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プラティカル産業組織論』 泉田成美, 柳川隆 著 有斐閣 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：完全競争市場と独占市場（復習）
- 第3回：市場集中
- 第4回：独占禁止法教室（予定）
- 第5回：クールノー競争
- 第6回：ベルトラン競争（同質財）
- 第7回：ベルトラン競争（製品差別化）
- 第8回：価格戦略1（第1次価格差別）
- 第9回：価格戦略2（第3次価格差別）
- 第10回：価格戦略3（第2次価格差別）
- 第11回：製品戦略1（バンドリング）
- 第12回：製品戦略2（水平的製品差別化）
- 第13回：製品戦略3（垂直的製品差別化）
- 第14回：製品戦略（過剰参入定理）
- 第15回：講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：事前に授業予定箇所の部分を読んでおくこと
復習：板書，あるいは講義資料を改めてまとめ直すこと

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の最低限基礎知識を持っていることが望ましい（持っていなくても対応できるような講義にはする予定です）。
講義中の私語に対しては厳正に対処します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場論【昼】

担当者名 久多里 桐子 / Kiriko Kudari / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 証券市場の仕組の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 証券市場に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 証券市場に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場論

BUS330M

授業の概要 /Course Description

本講義では、証券と証券市場に関する仕組みや役割等の基礎事項を学ぶ。証券に関する理論に加えて、証券取引所における証券取引の仕組みや、わが国の株式市場の現況というような、証券に関する制度および実務的側面についても触れる予定である。

教科書 /Textbooks

テキストは指定せず、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

釜江廣志(編)(2015)「入門証券市場論(第3版補訂)」有斐閣
小林 孝雄, 芹田敏夫(2009)「新・証券投資論I」日本経済新聞出版社
手嶋宣久(2011)「基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門—理論のエッセンスを正確に理解する」ダイヤモンド社
花枝英樹(2005)「企業財務入門」白桃書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: 証券市場論の概要(ガイダンス)
- 第 2 回: 証券の役割と証券市場の機能
- 第 3 回: 発行市場と流通市場
- 第 4 回: 財務分析と株式の投資尺度
- 第 5 回: 評価の基本原則
- 第 6 回: 債券の評価と株式の評価
- 第 7 回: 中間テスト
- 第 8 回: ポートフォリオ理論(1)【個別証券のリターンとリスク】【2つの証券の連動性】
- 第 9 回: ポートフォリオ理論(2)【ポートフォリオのリターンとリスク】【最適ポートフォリオ選択】
- 第 10 回: 資本資産評価モデル
- 第 11 回: 先物: スワップとオプション
- 第 12 回: 投資家と投資戦略
- 第 13 回: さまざまな金融商品と資産運用
- 第 14 回: 証券市場の現状と諸問題
- 第 15 回: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の確認テスト24% + 中間テスト26% + 期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 毎回の講義資料を確認しておく。
事後学習: 講義内容を毎回復習し、webにて講義内容に関する確認テストを受験する。

履修上の注意 /Remarks

電卓の持参を推奨する。

証券市場論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

証券市場に関する歴史、制度、理論など、体系的な知識の習得を目標とする。個別企業や証券市場に関するニュースもタイムリーに取り入れて紹介する予定である。

キーワード /Keywords

証券市場、投資家、債券、株式

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2017年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・50% 期末レポート・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方財政論【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方財政論

ECN365M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、現在話題となっている地方分権や地方行財政改革に視点をおき住民自治の在り方を解説します。近年、行政、住民、企業の新たな関係が見直されているなかで、住民として今何ができるのかについて具体的な事例をあげ一緒に考えていきます。

この講義の到達目標は、自治体における財政の在り方とは何かであり、財政の役割について理解することです。さらに、住民として自らが納める税や社会保険料がどの様に使われているのかについて知り、今後起こりうる財政問題を考え、それに対する対応策について考える。本講義は、公務員を志望する学生にとって、公務の意義や役割について理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本隆・難波利光・森裕亮編著『ローカルガバナンスと現代行財政』ミネルヴァ書房 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.財政とはなにか
- 2.住民生活と地方財政
- 3.財政の役割と機能
- 4.公共財の理論
- 5.国と地方の財政関係
- 6.租税原則と地方税
- 7.地方財政計画
- 8.財政調整制度
- 9.中間試験
- 10.自治体財政分析
- 11.財政破綻の教訓
- 12.地方財政と地域経済
- 13.地方財政と福祉政策
- 14.財政の自治を考える
- 15.地方財政のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40% 期末試験 60%
試験は、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

地方財政論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として地方財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせることでできるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理論【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論

BUS310M

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行います。本講義では、担当教員も執筆者として参加している上林(2015)を教科書として用いるので、必ずこの本を準備するとともに、予習と復習を行なってください。教科書の内容は全15回で網羅できると思いますが、講義の順序は教科書の配列とは少し変えています。

教科書 /Textbooks

上林憲雄編(2015)『ベーシック+ 人的資源管理』中央経済社。(2,592円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2018)『経験から学ぶ人的資源管理(新版)』有斐閣。
岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂)
その他、有用な参考書については講義中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人的資源管理論へのプロローグ
 - 2回 人的資源管理入門【企業経営】【人的資源】
 - 3回 モチベーション理論【やる気】【モチベーション】
 - 4回 リーダーシップとコミットメント【リーダーシップ】【コミットメント】
 - 5回 組織構造論【分業】【調整】
 - 6回 雇用管理【採用】【異動】
 - 7回 人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 昇進管理【昇進】【出世】
 - 9回 賃金制度【属人給】【仕事給】
 - 10回 労使関係論【企業別組合】【団体交渉】
 - 11回 国際人的資源管理【多国籍企業】【海外派遣者】
 - 12回 人的資源管理学説の変遷(1)【科学的管理法】【人間関係論】
 - 13回 人的資源管理学説の変遷(2)【行動科学】【戦略人事】
 - 14回 人的資源管理と組織能力の連関【組織能力】【ダイナミック・ケープビリティ】
 - 15回 近年における人的資源管理の動向、総まとめ【ダイバーシティ】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
ただし出席を不定期にとり、単位認定の参考資料とする。

人的資源管理論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが期待されます。
事後学習：各回の最後に練習問題を配布しますので、これをもとに事後学習を行なってください。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくといでしょう。
- (2) 教科書を持参しない学生が最近増えていますが、図表などを参照するので必ず持参してください。
- (3) 教科書は昨年度使用した本と同じです。
- (4) 大学生には言わなくても分かるとは思いますが、私語はしないこと、無断で遅刻・退出不をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないでしょう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずで。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれませんが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえましょう。
なお組織構造や経営戦略に関する内容が含まれているので、経営組織論や経営戦略論の受講も推奨します。とくに第14回の内容は、戦略論に詳しくないと理解できないと思います。

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。	
技能	専門分野のスキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。	
	コミュニケーション力			

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語研究

ENG232M

授業の概要 /Course Description

The objectives of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabulary in English.

このクラスは英語で行います。The lectures are basically conducted in English.

Foreign students are extremely welcome.

教科書 /Textbooks

Essentials of Economics 6th edition N. Gregory Mankiw, South-Western cengage learning 2011、International Edition (ISBN-10: 0-538-45348-6)

ただし、書き込みしない場合は貸し出したりはused bookで対応することも可能です。しっかり自分の財産としたい方は購入をお勧めします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー入門経済学
アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書
池上彰のやさしい経済学

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week1 Ten principles of economics
week2 Thinking like an economist
week3 Interdependence and the gains from trade
week4 Supply and demand
week5 Consumers, producers, and the efficiency of markets
week6 Measuring a nation's income
week7 International trade
week8 Mid-term examination
week9 Production and growth
week10 The cost of production
week11 The firm in competitive markets
week12 Measuring the cost of living
week13 Basic tools of finance
week14 The monetary system
week15 Money growth and inflation: Abenomics

ビジネス英語研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(1) Class participation	20%
(2) Class presentation	20%
(3) Mid-quizzes	30%
(3) Final test	30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students can use lecture slides on "moodle" on the university website for pre-class preparation and post-class follow up.

履修上の注意 /Remarks

All lessons are basically conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Foreign Students are the most welcome, you will learn about the Japanese Economy as well.

内容は易しいですので特に前知識は必要ありませんが、日本語で経済関係の基礎を学んだことがある学生はより理解が深まると思われる。

キーワード /Keywords

GDP, Inflation, comparative advantage, opportunity cost, market force, GDP deflator, present value, future value, put, call, Black-Scholes, derivative, purchasing power parity, interest rate parity, fixed and float exchange rate, currency crisis, capital flight

教職論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

1. 教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。
2. ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。
3. これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。
4. 参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業に必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教職の意義と教員の役割
3. 教員という仕事の魅力と困難さ (外部講師 中学校長)
4. 教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
5. 教員の仕事の理想と現実(外部講師 本学卒業生の中学校教員)
6. 教員に求められる資質 — 子どもとのコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
7. 教員の仕事 その1 教科指導と授業づくり(中学校教諭)
8. 教員の仕事 その2 教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
9. 教員の仕事 その3 8, 9回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事 その4 生活指導実践の主体としての教師 — 子どもの思いを聴きとる力を
11. 教員の仕事 その5 生活指導実践主体としての教師 - 子どもたちと一緒に「発達の子」となる生活を創造する
12. 「反省的实践家」(ドナルド・ショーン)としての教師 - その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために - 体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提に進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 感覚・身体と教育：五感・感覚教育
- 6回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 7回 教育思想②：日本の教育思想
- 8回 教育史①：西洋の教育史
- 9回 教育史②：日本の教育史
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法 A 【昼】

担当者名 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、社会科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科の各分野に必要とされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

・「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成29年6月・文部科学省)
2018年2月時点で未出版のため、文部科学省のWebサイトに掲載されている公示資料を扱っていく。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科の理論と実践』 学文社 2007 1900円+税
・他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と社会科の役割
 - 第2回：社会科教育の現状 学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：地理的分野の目標とその取り扱い
 - 第4回：歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
 - 第5回：公民的分野の目標と内容とその取り扱い
 - 第6回：社会科の授業づくり 教材研究
 - 第7回：社会科の授業づくり グループ学習の活用
 - 第8回：社会科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第9回：社会科の授業づくり 「地誌作成」について
 - 第10回：社会科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
 - 第11回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第12回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第13回：政治および宗教に関する事項の取扱い
 - 第14回：社会科教師に求められる資質・能力
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
最終試験・課題レポート・・・30%
学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
グループワークの準備

事後学習：学習指導要領に関する理解と確認、講義後に指示を行う

履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

なお出席は3分の2以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

社会科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、社会科教育法IからIIIにおける社会科に関する教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能習得を前提とし、能動的・主体的な学びの育成に重点を置いた模擬授業を行う。また、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の教科指導における現場の事例を取り上げつつ、実践課題についても検討する。

上記の点から、実践的な技能及び授業改善の視点を習得し、最終的には「能動的・主体的な学びの意識」を開発する教員を目指していく。なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」（文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イントロダクション
- 第 2回 教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 3回 模擬授業（地理的分野①）【世界地理・総論】
- 第 4回 模擬授業（地理的分野②）【世界地理・各論】
- 第 5回 模擬授業（地理的分野③）【日本地理・総論】
- 第 6回 模擬授業（地理的分野④）【世界地理・各論】
- 第 7回 模擬授業（歴史的分野①）【原始・古代】
- 第 8回 模擬授業（歴史的分野②）【古代・中世】
- 第 9回 模擬授業（歴史的分野③）【中世・近世】
- 第 10回 模擬授業（歴史的分野④）【近世・近現代】
- 第 11回 模擬授業（公民的分野①）【憲法】
- 第 12回 模擬授業（公民的分野②）【政治】
- 第 13回 模擬授業（公民的分野③）【経済】
- 第 14回 模擬授業（公民的分野④）【現代社会】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎指示された文献を読み込む。
- ◎模擬授業で得られた課題の克服。

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業後にコメント用紙（授業の感想や質問など）を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 田中 友佳子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 授業のねらいや計画、注意点の説明
- 第2回：道徳とは何か、なぜ必要か 倫理、哲学、法と道徳との関係性
- 第3回：道徳教育の変遷① 近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
- 第4回：道徳教育の変遷② 戦後から「改正教育基本法」、まで
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題① 生命倫理をめぐる問題について考える(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題② 性の多様性について知る(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③ 住み良い社会とは何かを考える(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④ 「世代間の平等」の問題を考える(グループ討論)
- 第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究① 読み物教材に対する批判的検討
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究② 問題解決的な学習に対する批判的検討
- 第14回：学習指導案の発表とコメント
- 第15回：全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案30%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード /Keywords

特別活動論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【昼】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業を構成するための理論やICT教育の求められる背景を講義する。

また実践において子どもに寄り添う教育とは何か、どのように行うべきかを検討する。

そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 (有斐閣アルマ) 2012 田中 耕治 (著), 鶴田 清司 (著), 橋本 美保 (著), 藤村 宣之 (著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション

第2回：教育と学習・理論と方法・実践

第3回：授業の歴史 (欧米)

第4回：授業の歴史 (日本)

第5回：学習の理論・協同的な学び

第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会

第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材

第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価

第9回：情報機器・メディア活用の授業

第10回：「学力」について考える

第11回：授業の研究1・学習指導案

第12回：授業の研究2・授業記録を読む

第13回：教師の専門性・専門職性

第14回：教材研究・教材開発

第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (グループワークや質疑などへの参加)・・・30%

発表・レジュメ作成・・・20%

最終試験・課題レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料 (レジュメ) を作成してもらう。

また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていけたらよいと思います。

一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【昼】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 文科省編 「生徒指導提要」
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 課題レポートの説明
- 2回 子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
- 3回 子どもの発達課題と教育相談
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 直面化
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 発達障害の問題
- 10回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 11回 保護者理解と教育相談
- 12回 教育相談における関係諸機関との連携
- 13回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 少年期
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 思春期 全体のまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
- 課題として出されたレポートについては必ず提出すること
- 学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの"view"の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の"view"を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、 子どもの発達課題と教育相談、 関係諸機関との連携

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 学校で求められる人権教育について
- 6回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
- 7回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
- 8回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
- 9回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
- 10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
- 11回 模擬授業②(特別活動 その1 何らかの場面指導)
- 12回 模擬授業③(特別活動 その2 学級活動)
- 13回 模擬授業④(各教科 その1)
- 14回 模擬授業⑤(各教科 その2)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【昼】

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時、情報を提供する。

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。
事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求められることがある。
（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 作田 誠一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。

- ・ 教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
- ・ 教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
- ・ 教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「1類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
 P.ブルデュー・J.-C,パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
 P.ウイリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
 E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
 広田照幸・伊藤茂樹,2010,『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター
 酒井朗・多賀太・中村高康編著,2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 第2回：教育社会学の対象と方法
 第3回：子どもの社会化と家族・学校
 第4回：学校という組織
 第5回：学校社会と生徒文化
 第6回：学校社会と教師文化
 第7回：文化的再生産論にみる学校社会
 第8回：少年非行と逸脱理論(1) -アノミー論と文化的接触理論
 第9回：少年非行と逸脱理論(2) -コンフリクト理論とラベリング論
 第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
 第11回：いじめ現象の構造とその特徴
 第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
 第13回：グローバリゼーションと教育
 第14回：情報化社会と教育
 第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習に関しては、教育に関わる新聞記事や参考図書等の文献に目を通して置くこと。復習においては、授業内容についてもう一度まとめてその内容の習得に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会化 近代教育制度 学校文化 文化的再生産 教育改革

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 石嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位 / 2単位
学期 /Semester 1学期 / 1学期
授業形態 /Class Format 講義 / 講義
クラス /Class 2年 / 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他人の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。

①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。③人権教育の指導計画などプログラムの作成や発表、ロールプレイなど参加型の学習を取り入れる。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

稲積謙次郎「同和問題の今、そして未来に向けて」公益財団法人人権教育啓発推進センター
人権教育教材集「新版いのち」北九州市教育委員会
「人権教育ハンドブック」北九州市教育委員会
「教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック」北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重
- 第2回 学校や社会で何が起きているか - 「体罰」「いじめ」「児童虐待」「SNS・インターネット」などの人権侵害
- 第3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 第4回 人権教育の枠組み - 教科を通じた人権教育、学級運営、生徒指導など
- 第5回 人権教育をどのように進めていけばよいのか - 実践例
- 第6回 どうすれば人権感覚・人権意識を養い行動できるか
- 第7回 子どもが自分を守るための技能を養う - アサーティブ・トレーニング
- 第8回 部落差別と人権 「部落差別の解消の推進に関する法律」
- 第9回 子どもの人権 「子どもの権利条約」
- 第10回 障がい児・者の人権 「障害者差別解消法」
- 第11回 「性の多様性」と人権
- 第12回 その他の人権課題 - 女性、高齢者、外国人、ホームレス問題など
- 第13回 「私の人権教育のプログラム」発表
- 第14回 「私の人権教育のプログラム」発表
- 第15回 「私の人権教育のプログラム」発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度、課題、テストなど、総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(60%)、授業への参加度(10%)、課題(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示をされた文献や資料について読んでおくこと。
「私の人権教育のプログラム」発表のためにパワーポイントを作成する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示 東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては配付資料の確認が必要である。
 事後学習としては、課題の作成が必要である。

履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

歴史と政治【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の課題図書などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と文化

第11回 宗教と家族・コミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、順序を入れ替えて補講を行う。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化」とビジョンII「現代社会と文化」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』 (朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

ことばの科学 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		生活世界の哲学	
		PHR110F	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代とは何か【概説】
- 3回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 4回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 5回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 6回 生活世界の変容（1）【工場労働】
- 7回 生活世界の変容（2）【近代産業社会】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の変容（3）【戦争の美学】
- 10回 生活世界の変容（4）【政治の美学】
- 11回 生活世界の変容（5）【ホロコースト】
- 12回 生活世界の変容（6）【全体主義と思考能力】
- 13回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 14回 古代世界の公共空間（1）【古代ギリシャ概説】
- 15回 古代世界の公共空間（2）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

情報社会への招待【夜】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。	
	コミュニケーション力			
現代人のこころ PSY003F				

授業の概要 /Course Description

この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察します。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、それを、グループワーク等を通じて体験していただきます。そして課題として、先行研究や日頃の問題意識に基づく研究計画をグループでレポートとポスターにまとめ、ポスターツアーでの質疑応答を通じ、それをさらに深めてもらいます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを学習支援フォルダにアップしますので、講義前に、学習支援フォルダからダウンロード、印刷してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス，グループ分け
2. 心理学とは NHK大心理学実験 研究計画の基礎
3. コミュニケーションと共有 GWメンバー紹介作成(1)
4. GWメンバー紹介作成(2)
5. 集団討議(1)
6. 集団討議(2)
7. 集団の心理学
8. 伝えるスキル (アサーション、説得的コミュニケーション)
9. レポート・ポスター課題・研究法説明
9. レポート・ポスター作成(1)
10. レポート・ポスター作成(2)
11. レポート・ポスター作成(3)
12. レポート・ポスター作成(4)
13. ポスターツアー1
14. ポスターツアー2
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポート(20%) + PTグループポイント(20%) + PT個人ポイント(20%) + 試験(40%) - 【平常点(減算式)】

※ PTとはポスターツアーを指し、グループで作上げるものです。詳細は講義中に説明します。

※平常点は、講義一回目に示したルールに反した場合(講義を放棄した居眠り、別科目の作業、スマートフォン操作、グループワーク不参加等)による減算式です。単なる欠席は減算の対象となりません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

グループ課題(レポートおよびポスター)作成のために必要。

現代人のこころ【夜】

履修上の注意 /Remarks

本講義は、ポスターツアーなどグループワークを中心としたアクティブラーニング形式です。

☆アクティブラーニングとは...

教員による一方向性な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修を取り入れた講義（文部科学省，2012）

講師は，学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように授業方法を設計します。

学生は【見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動】【学生自身が活動し，その活動について思考することで学ぶ】ことが必要です。

※グループワークに参加する意思のない方やスケジュール上参加が難しい方には履修をお勧めしません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題は簡単ではなく、楽な科目ではありません。

主体的にしっかり取り組んだ学生からは「やりがいがあった」「楽しかった」という感想が、そうでない学生からは「二度とやりたくない」「講義に来るのが嫌だった」という感想が出ています。

主体的にしっかり取り組みたいという方への受講をお勧めします。

キーワード /Keywords

心理学、認知心理学、社会心理学、実験、調査、グループワーク、アクティブラーニング、ポスターツアー

文学を読む【夜】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科
鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 村上 義明 / 北方キャンパス 非常勤講師
畑中 佳恵 / 北方キャンパス 非常勤講師, 藤崎 祐二 / 北方キャンパス 非常勤講師
山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と文学との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文学について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			文学を読む LIT001F

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？ さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2018年のテーマ：「文学」への誘い

ある文学作品との出会いによって、一人の人間の人生が大きく変わってしまうことがあります。今年度も「文学を読む」では、担当教員が大学1年生にぜひ読んでもらいたい作品を取り上げ、その作品の面白さやアトラクティブなメッセージについて、熱く語ります。また、本講義は日本文学を中心に講義を進めていきますが、アジアの文学（中国、インドネシア）についても紹介します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ② 「文学」という表現の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③ 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しません。取り上げる作品を事前に通知したり、適宜プリントを配布したりします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

文学を読む【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本上代文学への誘い (藤崎祐二)
- 第3回 日本上代文学のメッセージ性 (藤崎祐二)
- 第4回 まとめ (藤崎祐二)
- 第5回 中国文学への誘い (鄧紅)
- 第6回 日本近世文学への誘い (村上義明)
- 第7回 日本近世文学のメッセージ性・まとめ (村上義明)
- 第8回 インドネシア文学への誘い (山口裕子)
- 第9回 文学理論の歴史概観 (畑中佳恵)
- 第10回 トドロフの「幻想」と三島由紀夫「美神」 (畑中佳恵)
- 第11回 イーザーの「内包された読者」と芥川龍之介「地獄変」 (畑中佳恵)
- 第12回 日本現代詩への誘い (稲田大貴)
- 第13回 日本現代詩のメッセージ性・まとめ (稲田大貴)
- 第14回 日本現代文学への誘い (河内重雄)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート = 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

取り上げる作品についての予習 (作品を読む、作者について調べる、など) と、講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。「文学を読む【昼】」と同じ講義内容です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等については、コーディネーターの生住に質問すること。
講義内容については、各回の講義担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジюмеや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回指示するが、事前学習としては、インターネット・サイトなどで関連事項を調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田巨之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題（2）【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題（3）【種差別の問題】
- 11回 現代における差別の問題（4）【種差別の諸相】
- 12回 現代における差別の問題（5）【優生学】
- 13回 現代における公平性の意義（1）【貧困問題】
- 14回 現代における公平性の意義（2）【公平主義】
- 15回 現代における公平性の意義（3）【援助義務論】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に簡単にでも目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身についている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【産業・物流政策の事例】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【上下水道・環境分野の事例】
- 10回 比較社会心理学(1)【文化と認知】
- 11回 比較社会心理学(2)【文化と感情】
- 12回 バブルと国際金融危機(1)【資産価格】【バブル】【不良債権】
- 13回 バブルと国際金融危機(2)【リーマンショック】【不況の伝播】
- 14回 国際金融危機の伝染(1)【欧州金融危機】【資産担保証券】
- 15回 国際金融危機の伝染(2)【銀行同盟】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
			国際紛争と国連
			IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る①【国連 1945-1980's】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国連を知る②【国連 1990's-】【冷戦後の国連】
- 第5回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第6回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第7回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第8回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

国際紛争と国連【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構築・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

ガイダンスの時にあらためて紹介する。
第8回～第15回については、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。
前半部分の朝鮮半島にかんする記述では、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会 2013)が役立つ。その他、前半で使う参考書として、図書館所蔵のものをあらかじめ示すと、
日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』(高文研、2005)
日中韓3国共通歴史教材委員会編『新しい東アジア近現代史』上・下(日本評論社、2012)がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国、日本、朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【自由貿易】【朝鮮問題】
- 3回 日清・日露戦争 【日英同盟】【日露交渉】
- 4回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【韓国併合】
- 5回 日本の朝鮮統治、大陸経営と国際関係 【三・一運動】【五・四運動】
- 6回 国際情勢の緊迫 【満州事変】【日中戦争】
- 7回 第二次世界大戦開戦から日本の敗戦へ【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 8回 冷戦のはじまり 【日本占領】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 9回 帝国支配の解体 【脱植民地化】【日米安全保障条約】
- 10回 革命の時代 【中国革命】【中ソ同盟】【朝鮮戦争】
- 11回 ヴェトナム戦争と戦後秩序の変容 【高度経済成長】【ヴェトナム戦争】【ニクソン政権】
- 12回 デタントから新冷戦へ 【デタント戦略】【米中接近】【石油危機】
- 13回 冷戦の終結 【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 21世紀の世界 【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。特に「史料」のところはよく読んでおいてください。授業終了後には講義中に配布した史料プリントを読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

歴史の読み方I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本近代史プラス史料解説です。

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II
			HIS005 F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件～佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 「立憲主義」と軍事の間
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の該当箇所を目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

履修上の注意 /Remarks

歴史の読み方II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

二人の教員が、日本と欧米の代表的な人物について、人物と時代について語る。

まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。

次に山崎は、トランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相の2人について人物と時代を語る。その際、2人を語る上で必要な限り、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席についても言及する。

21世紀になって世界はグローバル化が促進されると予想していた。その予想に反してアメリカではアメリカ第1主義とメキシコからの移民排除のトランプが大統領に就任した。

イギリスでは1昨年からのEU離脱をめぐる国民投票の結果就任したメイ首相が完全なEU離脱を宣言した。ロシアではウクライナ地方のクリミア半島支配とシリアと手を組んでイラク地域への空爆をプーチン大統領は続けている。フランスでは異民族排除のルペン候補が有力視されている。ドイツでは移民受け入れのメルケル首相が敗退すればEU存続にも影響を与えかねない。

こうした背景も視野に入れながら、第2次世界大戦後に果たした世界のアメリカから後退したなかでトランプ大統領の意味を考える。同様にEU (ヨーロッパ連合) の形成過程において3度もEEC (とEC) に申請してやっと認められたイギリスがなぜEUから出て行くかと決意したのか。これを明らかにする。これらの問題を究明することによって、今後世界はどの方向を目指すのかを考察する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義。その際資料を配布する。(山崎)

人物と時代の歴史【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)
- 『歴代アメリカ大統領』(ブティック社)

毎日の新聞(朝日、毎日、読売などの新聞でも良い)を購読のこと。(山崎)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、欧米の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

(新村)

- 第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
- 第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
- 第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】
- 第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】
- 第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)第45代トランプ大統領【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

- 第8回 21世紀の世界を支配するトランプ・アメリカ大統領、メイ・イギリス首相、プーチン・ロシア大統領、メルケル・ドイツ首相、習近平・中国国家主席の特徴と共通点について
- 第9回 イギリスとEUの関係について
- 第10回 キャメロン首相と国民投票
- 第11回 なせEU離脱派の投票率が残留派より多かったのか
- 第12回 トランプ候補とクリントン候補との争点とは何か
- 第13回 トランプ候補が勝利した理由
- 第14回 トランプ大統領は何を目指しているのか-グローバル経済はどんな影響を受けるのか
- 第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前と後で、図書館等で参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学、餅田療法などを基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理……青年期のこころの病
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 こころの健康の展望……自己受容・自己開示・あるがままの心理学
- 第12回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第13回 老年期の心の健康……機能の低下・高齢者の心理学
- 第14回 病と死の心理学……自殺を打ち明けられたら。死の教育(デスエデュケーション)
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%)②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の感想や意見や質問を小片紙に記入する機会を多く持つので、積極的に記入してもらいたい。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人のことである。よって本来、メンタルヘルスとは「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。

本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらに健康科学やポジティブ心理学の領域から心の健康増進にも役立つような要件を学ぶ。人は人の中にあつて人となる。人生の方向性を正しく導く「逞しき知恵」と「強き生命力」をどうすれば体得できるかを受講生と共に考えたい。食事、睡眠、運動による健康な身体作りも心の基盤として重要である。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。アドラー心理学などの欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、森田療法や内観法など心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力が高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキストは特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経症の時代」 渡辺利夫 著 学陽書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 オリエンテーション……受講上の注意・評価・人間の発達と自己形成
- 第2回 人間関係の心理学 1……自己開示について
- 第3回 人間関係の心理学 2……聞く力と話す力
- 第4回 自己愛の心理学と心の健康 1……コフォート理論・自己対象理論
- 第5回 自己愛の心理学と心の健康 2……生涯発達の視点から
- 第6回 アドラー心理学から見た心の健康 1……共同体感覚と感情道具論
- 第7回 アドラー心理学から見た心の健康 2……健康な集団づくり
- 第8回 心のリフレッシュ 1……内観法・森田療法
- 第9回 心のリフレッシュ 2……脳と心について・認知行動療法
- 第10回 発達障害についての理解…自分の場合・他者の場合
- 第11回 平和と暴力 1……対話の文化を
- 第12回 平和と暴力 2……人権の文化を
- 第13回 心の健康と感情……感情の理論
- 第14回 心の健康と芸術……映画の力
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度 (40%) ②定期試験 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人間社会への興味や感心と心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考えます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の授業の際の感想や質問などを積極的に自己開示してもらいたい。授業後の個別の質問も大歓迎である。

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度

/Year of School Entrance

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
						○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め教科書の内容を読んでおくこと。また、北方Moodleからアクセスできる表計算ソフトの使い方に関する動画教材は、パソコンはもちろんのこと、スマートフォン等の携帯端末からも視聴できる。積極的に視聴し、事前学習を行っておくこと。授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。また、北方Moodleの動画教材も活用すること。タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進捗や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける。

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

情報表現【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題... 90%、積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で提示された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによるアクティブ・ラーニングを導入している。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

日本国憲法原論【夜】

担当者名 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論

LAW120M

授業の概要 /Course Description

日本国憲法は、一方では国家の「統治構造（国家の組織や権限行使の仕組み）」を規定し、他方では個々の国民に「人権」を保障している。

この講義のねらいは、次の4つである。

- ① 統治の基本原則（国民主権や権力分立）、
- ② 国家の組織や権限（国会、内閣、裁判所）、
- ③ 人権保障の基本構造、
- ④ いくつかの人権保障場面。

教科書 /Textbooks

駒村圭吾編『プレステップ憲法』（弘文堂、2014年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
- 野中俊彦ほか著『憲法（第5版）』（有斐閣、2012年）
- 安念潤司ほか編著『論点 日本国憲法（第2版）』（東京法令出版、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 -イントロダクション
- 第2回 統治の諸原則 -国民主権と権力分立
- 第3回 代表民主制と選挙（権）
- 第4回 国会
- 第5回 内閣
- 第6回 裁判所
- 第7回 平和主義
- 第8回 人権総論
- 第9回 信教の自由
- 第10回 表現の自由
- 第11回 経済的自由
- 第12回 人身の自由
- 第13回 社会権
- 第14回 平等権
- 第15回 幸福追求権

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書等の該当箇所を事前・事後に読む。

日本国憲法原論【夜】

履修上の注意 /Remarks

小型六法を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国民主権 権力分立 代表民主制 国会 内閣 裁判所 人権保障

債権各論【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	債権各論に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	債権各論をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、債権各論の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

債権各論

LAW262M

授業の概要 /Course Description

わが国の民法典は、その第三編 債権 第二章～第五章（民法521条～724条の2）において、「債権の発生原因」である、①契約、②事務管理、③不当利得、および④不法行為に関する諸規定を設けている。

本講義のねらいは、これら①～④の法制度の基本構造およびこれらの規律を定める重要条文に関わる解釈（論）について、要点を絞った解説を加えることで、「債権の発生原因」であるこれらの法制度が現代社会において、どのような機能を実際に果たしているかについて、理解を深めてもらうことにある。

とりわけ、我々の日常生活の一部をもちや形成していると言っても過言ではない「契約（たとえば、コンビニでお菓子を1袋買ったということは、そのお菓子1袋についての売買契約が締結され、そこから発生する債務（そのお菓子1袋の引渡しと代金の支払い）が履行されたということになる。）」および現代社会において不可避免的に発生する「不法行為（たとえば、交通事故や公害・薬害が代表例。）」の解説（判例（最高裁判所や大審院がその判決理由の中で定立した規範）・学説の解説）に重点を置く。

ところで、2017（平成29）年5月、ついに「民法の一部を改正する法律案」が国会において可決・成立し、同年6月に改正民法が公布された。ただし、改正法の施行が約2年先（2020年中の予定）になるため、現行法（改正前民法）の規定の学習は依然重要である。よって、本講義では、できる限り「平成29年民法（債権関係）改正法」にも解説を加える予定だが、あくまでも、「現行法」の解釈（論）に軸足を置いて講義を進めていきたい。

教科書 /Textbooks

①堀田泰司ほか（編著）『債権法各論（スタンダード民法シリーズⅣ）』（嵯峨野書院、2016年）；定価（3,200円＋税）

②窪田 充見＝森田 宏樹（編）『民法判例百選II 債権 [第8版]（別冊ジュリスト238号）』（有斐閣、2018年3月頃刊行予定）；定価（未定；教科書販売時期までに確定した情報を提供します。）

③最新版（年度）の小型六法は必携。

※上記「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参考書については、講義の際に配布するレジユメの【文献案内】欄で適宜紹介する。

債権各論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※レジュメを配布するが、教科書等での予習・復習は必須。レジュメはあくまで補助教材に過ぎないことに注意せよ。
 ※以下、各項目・単元において、できる限り「平成29年民法（債権関係）改正法」の内容にも解説を加える。
- 第1回：序論（債権各論で学ぶこと、債権の発生原因としての契約、事務管理、不当利得、および不法行為概略、ならびに、平成29年民法（債権法）改正について）
- 第2回：契約総論①；序説（契約の意義・社会的機能、契約自由の原則とその制限、契約の種類・分類）
- 第3回：契約総論②；契約締結上の過失、申込みと承諾（の意思表示）、事情変更の原則（法理）
- 第4回：契約総論③；同時履行の抗弁（権）
- 第5回：契約総論④；同時履行の抗弁（権）に関連する最高裁判決の検討
- 第6回：契約総論⑤；危険負担（存続上の牽連性、債務者主義と債権者主義、改正民法における解除との半一元化？）
- 第7回：契約総論⑥；危険負担（改正民法536条1項の問題点など）
- 第8回：契約総論⑦；第三者のためにする契約、契約上の地位の移転（改正民法539条の2）
- 第9回：契約総論⑧；契約の解除（意義、要件、改正民法における解除制度の変更点）
- 第10回：契約総論⑨；完；契約の解除（要件のつづき、効果）、定型約款（改正民法548条の2～同条の4）略説
- 第11回：契約各論①；契約の分類の復習、贈与、交換
- 第12回：契約各論②；売買（意義・成立要件、予約、手付〔改正民法557条の理解の仕方〕）
- 第13回：契約各論③；売買（担保責任概説）
- 第14回：契約各論④；売買（瑕疵担保責任・詳論〔現行法〕、「担保責任」から「契約不適合」へ〔改正民法〕）
- 第15回：契約各論⑤；消費貸借（民法上の規定〔特に改正民法の規律〕を中心に）
- 第16回：契約各論⑥；消費貸借（利息制限法など特別法、業法を中心に）、使用貸借（要物契約から諾成契約への改正）
- 第17回：契約各論⑦；賃貸借（民法上の規定を中心に〔改正民法の内容にもできる限り触れる。〕）
- 第18回：契約各論⑧；賃貸借（改正民法622条の2〔敷金に関する規定〕、借地借家法概説）
- 第19回：契約各論⑨；雇用（改正民法の規定の解説に重点を置く。）、請負
- 第20回：契約各論⑩；請負のつづき、委任
- 第21回：契約各論⑪；完；委任のつづき、寄託、組合（寄託・組合については、改正民法の規律内容を中心に）、終身定期金、和解
- 第22回：法定債権関係・導入編；事務管理を中心に
- 第23回：法定債権関係①；不当利得（給付利得、侵害利得、非償弁済）
- 第24回：法定債権関係②；不当利得（不法原因給付、転用物訴権）
- 第25回：法定債権関係③；不法行為（不法行為制度の目的、一般的不法行為の要件〔序論〕）
- 第26回：法定債権関係④；不法行為（一般的不法行為の要件；故意・過失、責任能力、権利・利益侵害、事実的因果関係、損害の発生）
- 第27回：法定債権関係⑤；不法行為（一般的不法行為の要件のまとめ、不法行為の効果〔序論〕）
- 第28回：法定債権関係⑥；不法行為（不法行為の効果～損害賠償の範囲を中心に～、過失相殺など）
- 第29回：法定債権関係⑦；不法行為（特殊的不法行為；使用者責任、工作物責任、共同不法行為など）
- 第30回：法定債権関係⑧；完；不法行為（特殊的不法行為の残りの部分、改正民法724条および同条の2）ならびに「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※期末定期試験の成績【80分間】……70%
 ※日常の授業への取組み（ミニツツペーパー、小テストを含む。）……30%
 【注意】いわゆる「一夜漬け」の類による単位取得は100%不可能と心得よ。「法的思考」を常に働かせること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】教科書①について、あらかじめ読み込んでくるべき箇所・頁等を指示（レジュメに記載）するので、次回講義時までに熟読してください。
- 【事後学習】適宜、講義の要点の理解度を確認するために、ミニツツペーパー、小テストを複数回実施する。

履修上の注意 /Remarks

「民法総則」を履修済みであれば、本講義の理解はより確実なものとなろう。さらに、「物権法」も併せて履修すれば、本講義の理解が一層深まるであろう。逆に、「民法総則」をまったく学習していない場合、本講義の理解はきわめて困難なものとなろう。よって、自学習でもよいから、「民法総則」の内容全般（現行法のみでよい）をフォローしておくことを強く勧める。また、余裕があれば、平成29年民法（債権関係）改正法の概略についても、各自フォローしておいてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オフィス・アワー等を利用して、積極的に質問をして下さい。また、教科書（基本書）選びも勉強の内。上記指定教科書以外にも、図書館蔵書や書店等で、「債権各論」の様々な文献を紐解いてみよう！

キーワード /Keywords

債権の発生原因、契約、事務管理、不当利得、不法行為、平成29年民法（債権関係）改正法の規律内容

都市環境論【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市環境（水・大気・廃棄物など）に関する体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 都市環境に関する政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論

PLC111M

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。当時を知る患者さんたちや支援者たちがなくなっている現在、後世に伝えていくためにも、水俣に関する学習を行う必要があるでしょう。

また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当に「うまい」と感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」、加工食品にどのような添加物がどれくらい入っているのか食品表示の見方といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

これらを知るために、グループ・ディスカッションを行うこともあります。また、私のゼミ生から取り組んでいるアクティビティを通じた環境の話を発表してもらいます（藍島、食品ロス削減学生プロジェクト）。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチエル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成26年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

都市環境論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】	
第2回	環境目標の設定、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育) : : 簡単な環境意識度チェック	【ESD】
第3回	三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告・藍島プロジェクト・食ロス削減プロジェクト	【環境学習旅行】
第4回	水俣病とは? 水俣学とは? 多角的検証	【水俣病】
第5回	日本の環境政策の歴史と課題	【環境政策】
第6回	廃棄物管理 その原理と現状~一般廃棄物、産業廃棄物、3R	【廃棄物管理】
第7回	食と農~健康の源=自らの食を見直そう	【食農】
第8回	上水道 : : (アクティビティ=きき水比べ)	【おいしい水】
第9回	下水処理をめぐって~下水処理の原理	【水質汚濁】
第10回	大気汚染~汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは?	【大気汚染】
第11回	大気汚染~身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定	【CO2計測】
第12回	北九州市の環境の現状	【北九州市】
第13回	途上国の都市環境問題	【途上国】
第14回	環境保全・環境教育に取り組む人々= エコツーリズムに関わろう!	【エコツーリズム】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、自らの身の回りの生活状況の各項目の把握と教科書の該当箇所の熟読、事後学習は、授業で学習したことの実生活への適用とその実践活動を記録化。

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施、同時に授業の事前に新聞から関係ある記事を読んでおく。
授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境都市としての北九州」の同時受講も勧めておきます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全は楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

ESD(持続可能な開発のための教育)、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ、エコライフ・チェック

公共政策論【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものを挙げておきます。
伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』(東京大学出版会、2011年)。
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』(有斐閣、2010年)。
阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』(岩波書店、2014年)。
山野良一『子どもに貧困を押しつける国・日本』(光文社新書、2014年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命(社会起業家論)
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
- 4回 子どもの貧困(1)・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困(2)・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困(3)・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
- 7回 子どもの貧困(4)・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困(5)・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困(6)・・・社会実験(ペリー幼稚園プログラム)とまとめ
- 10回 介護保険(1)・・・導入
- 11回 介護保険(2)・・・現状分析
- 12回 介護保険(3)・・・問題点とその検討(「下流老人」、「介護離職」の問題も含む)
- 13回 介護保険(4)・・・介護保険の改革
- 14回 シルバー・デモクラシーと公共政策
- 15回 まとめ

公共政策論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習(事前学習)して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと公共政策」等をはじめ講義内容等は、学生の理解度などに応じて変更する可能性があります。ご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞむので、授業には必ず出席するようにして下さい。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【夜】

担当者名 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M

授業の概要 /Course Description

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」では、障害の概念や福祉理念の変化の歴史とともに変遷をたどってきた障害者施策を概観することと併せて、「障害の有無によって分け隔てられることなく、国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら安心して暮らせる地域社会の実現」を目的とした障害者総合支援法の内容を読み解くことによって、障害のある人の置かれている現状と課題を理解する。さらに「障害者虐待防止法」及び「障害者差別解消法」を学ぶことを通して、障害のある人への権利擁護、「合理的配慮」の意義と目的を理解する。その理解をもとに障害のある人が自らの力を発揮し可能性を広げて主体的に生きること、「こうありたい」という思いを実現するために支援する援助者に求められる視点とアプローチについて理解を深める。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第5版
中央法規出版
その他適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度講義で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」で何を学ぶのか。
- 第2回 障害のある人を取り巻く社会情勢と生活実態
- 第3回 「障害」とはなにか。 「障害の概念と構造的理解」
- 第4回 障害福祉施策の変遷 「障害者権利条約に至るまでの歴史」
- 第5回 障害福祉に関する諸制度について 「法律における定義と制度利用との関連」
- 第6回 障害者総合支援法の理念と概要 「理念と目的、支給決定プロセス」
- 第7回 障害者総合支援法に定められた障害福祉サービスの内容
- 第8回 障害者総合支援法における相談支援の意義と生活支援
- 第9回 障害児に対する支援 「障害児福祉施策の経過と現状」
- 第10回 障害のある人の「働きたい」を支える 「就労支援」
- 第11回 障害のある人の権利を守ること① 「障害者虐待防止法に関連して」
- 第12回 障害のある人の権利を守ること② 「障害者差別解消法に関連して」
- 第13回 障害のある人が安心して地域で暮らせるための多職種との連携・ネットワーク
- 第14回 障害のある人への支援に必要な視点と基本姿勢
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験：80% 日常の授業への取り組み：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に予め教科書に目を通し疑問点を整理しておくこと。授業終了後には配布したプリントを復習しファイル化して反復できる状態にしておくこと。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【夜】

履修上の注意 /Remarks

テレビ・ラジオ、新聞等のメディアや書籍に取り上げられる障害者に関する情報を意識的に収集すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身につけた基礎的知識が高齢者の支援や理解に適切可能であることを発見する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論1」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度1」の内容は授業内容に示した通りである。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13)弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

講義の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第2回 高齢者の特性と疾病
- 第3回 高齢者の福祉需要と介護需要
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程1【高齢者保健福祉十ヶ年戦略まで】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程2【介護保険制度】
- 第6回 人口減少・少子高齢社会の現状と課題
- 第7回 介護の概念や対象【介護の理念と対象】
- 第8回 介護の概念や対象【介護予防の必要性】
- 第9回 介護予防【介護予防プランの実際と介護過程】
- 第10回 認知症ケア【認知症ケアの基本的考え方】
- 第11回 認知症ケア【認知症ケアの実際】
- 第12回 高齢者虐待と予防
- 第13回 終末期ケア
- 第14回 老人福祉法と関連法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 授業への参加(レポートなど)30%(変更あり)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 高齢者の支援にかかわる諸課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論2」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度2」の内容は下記の授業内容に示した通りである。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職等について理解することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第2回 介護保険制度創設の背景と目的及び基本方針
- 第3回 介護保険制度の仕組み【保険者と被保険者など】
- 第4回 介護保険制度の仕組み【介護度の認定と利用及び給付】
- 第5回 介護保険制度の仕組み【サービスとサービス事業者】
- 第6回 介護保険制度の仕組み【地域支援事業と権利擁護】
- 第7回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【国、都道府県、市町村の役割】
- 第8回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割】
- 第9回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における公私の役割関係】
- 第10回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護支援専門員の役割】
- 第11回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護職員、訪問介護員等の役割】
- 第12回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護認定審査会の委員、認定審査員の役割】
- 第13回 介護保険法におけるケアマネジメントと実際
- 第14回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第15回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 課題の提出(レポートなど)30%(変更あり)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく。

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学I

ECN112M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済（○）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社（○）
・ J. E. スティグリッツ（藪下史郎ほか訳）『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1): 【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2): 【課税】
- 5回 市場と厚生(1): 【余剰】
- 6回 市場と厚生(2): 市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1): 【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2): 【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】 【費用】 【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】 【限界収入】 【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

・ 「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと

ミクロ経済学I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学II【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学II

ECN210M

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ編』 東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子 『グラフィック ミクロ経済学』 新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (戴下史郎ほか訳) 『スティグリッツ ミクロ経済学』 東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておくこと

ミクロ経済学II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学I【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学I

ECN113M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【資産価格バブル】【投機的取引】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【バブルと資源配分】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 10回 GDP決定理論(1) 【完全雇用GDP】【有効需要原理】【ベビーシッター組合の寓話】
- 11回 GDP決定理論(2) 【消費関数】【45度線分析】
- 12回 GDP決定理論(3) 【比較静学】【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【外国貿易乗数】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：25%，期末試験：75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学II

ECN211M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズのな短期モデル（=45度線モデルやIS-LMモデル）を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、新古典派的な長期モデル（=新古典派成長モデル）を説明し、一国の経済成長の原動力や経済成長のメカニズムなどを学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 45度線モデル(1) 【有効需要原理】【均衡GDP】
- 3回 45度線モデル(2) 【政府支出乗数】【均衡予算乗数】
- 4回 45度線モデル(3) 【ケインズ政策の問題点】【外国貿易乗数】
- 5回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 6回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
- 7回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 8回 流動性選好理論(4) 【信用創造】【貨幣乗数】
- 9回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 10回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 11回 新古典派マクロ経済学(1) 【マクロ生産関数の諸性質】
- 12回 新古典派マクロ経済学(2) 【一人当たりGDPの決定要因】【全要素生産性】【資本労働比率】
- 13回 新古典派マクロ経済学(3) 【新古典派成長モデル】
- 14回 新古典派マクロ経済学(4) 【貯蓄率】【収束】【黄金律】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：25%， 期末試験：75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

1. 国家間の貿易がなぜ発生するのかその仕組みを学ぶ。
2. 関税、補助金など貿易政策の経済効果を図解分析を通じて学ぶ。
3. 自由貿易協定、海外直接投資などについての理解を深める。

< 本講義の主な到達目標 >

1. 国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
2. 貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
3. グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他著『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】【貿易の利益】
- 4回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 6回 生産要素の国際移動（1）【海外直接投資】
- 7回 生産要素の国際移動（2）【国際労働移動】
- 8回 貿易政策分析の基礎【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 小国の貿易政策（1）【関税政策】、【補助金政策】
- 10回 小国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 11回 大国の貿易政策（1）【関税政策】
- 12回 大国の貿易政策（2）【最適関税】
- 13回 地域経済統合（1）【FTA】【CU】【EPA】
- 14回 地域経済統合（2）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 15回 まとめ

国際経済論I 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 20% 課題提出 20 % 期末試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、貿易政策、経済統合、海外直接投資

国際経済論II 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論（国際経済論I）とマクロ経済学の応用分野である国際金融論（国際経済論II）から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論を学習する。

< 本講義の概要 >

- 1、国際収支表の主要項目と記載方法を学ぶ。
- 2、外国為替の基礎的な知識を学習し、為替相場の決定要因を理解する。
- 3、国際マクロ経済学の基礎を学び、財政政策と金融政策の効果などについての理解を深める。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、開放経済におけるマクロ経済政策の分析手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
なお、国際経済論Iも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

国際経済論II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際収支表(1)【国民所得勘定】
- 3回 国際収支表(2)【経常収支】【資本収支】
- 4回 外国為替の基礎(1)【為替相場市場】【通貨制度】
- 5回 外国為替の基礎(2)【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 6回 外国為替取引(1)【直取引】【先渡取引】
- 7回 外国為替取引(2)【金利裁定】【通貨オプション】
- 8回 外国為替の決定理論(1)【金利平価】
- 9回 外国為替の決定理論(2)【購買力平価】
- 10回 開放経済下の国民所得決定(1)【貿易乗数】
- 11回 開放経済下の国民所得決定(2)【需要の変化】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策(1)【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】
- 13回 開放経済下のマクロ経済政策(2)【固定相場制】【財政政策】【金融政策】
- 14回 開放経済下のマクロ経済政策(3)【変動相場制】【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 20% 課題提出 20% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

マクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
国際経済理論のロジックをしっかりと理解し、論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、外国為替、国民所得、開放経済下のマクロ経済政策

経営戦略論 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

現代社会は企業によって成り立っており、企業経営の成否は死活問題です。それでは、企業は、他企業のひしめく市場の中で、どのように利益を上げ、生存を図っているのか。それを決定づける要因が経営戦略です。本講義では、「戦略とは何か」という理解に立ちながら、経営戦略に関する基本的な理論、実践について考察していきます。

教科書 /Textbooks

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（新版）』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年(○)
ジェイ・B・バーニー(岡田正大訳)『企業戦略論』(上・中・下)ダイヤモンド社、2003年(○)。
沼上幹+一橋MBA戦略ワークショップ『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社、2012年。
C.I.バーナード(山本保次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新訳]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経営戦略とは?① 【戦略という概念】【意思決定と戦略】【戦略的要因】
- 第3回 経営戦略とは?② 【経営戦略の概念】【経営戦略の2つのレベル】【経営戦略論史】
- 第4回 事業戦略① 【3つの基本戦略】
- 第5回 事業戦略② 【SWOT分析】【外部要因と内部要因】【5つの競争要因】【経営資源】
- 第6回 事業戦略③ 【コスト・リーダーシップ戦略】
- 第7回 事業戦略④ 【差別化戦略】
- 第8回 中間テスト
- 第9回 企業戦略① 【企業優位】【垂直統合戦略】
- 第10回 企業戦略② 【多角化戦略】
- 第11回 企業戦略③ 【PPM】
- 第12回 企業戦略④ 【持続的競争優位】【コア・コンピタンス】【製品戦略】
- 第13回 企業戦略⑤ 【資金調達戦略】【株主戦略】
- 第14回 企業戦略⑥ 【ドメイン】【破壊的技術】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...40% 中間テスト...30% 小レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に、テキストの該当箇所をしっかりと熟読してください。講義後、テキストおよびレジュメによって復習し、また自分なりに他の事例がないか調べてください。なお、適宜、レポート課題を出します。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて、臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

経営戦略論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【意思決定】 【目的と環境】 【事業戦略】 【企業戦略】 【競争優位】

財務会計論I【夜】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)をみずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房
配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2 回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3 回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4 回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5 回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6 回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7 回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8 回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9 回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10 回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11 回 中間のまとめ
- 12 回 会計談話その1 - 会計学とは何か？ - 【資本循環範式、現金、ホスピタリティ】
- 13 回 会計談話その2 - 会計学とは何か？【会計のアカデミズム】【会計学者の群像】
- 14 回 財務諸表等を知る【投資家、ステイクホルダー】
- 15 回 まとめ

財務会計論I【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト等を含む)... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相—言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。

事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定でいる。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財政学I【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学 I

ECN361M

授業の概要 /Course Description

前期の授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政収支の現状そして基本的な経済学のフレームワークを使って財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。ミクロ経済学やマクロ経済学で勉強した内容もありますが、財政学（特に政府の役割）の観点からもう少し詳しく捉えていきます。経済学を勉強していない人にも毎回配るレジюмеにベースに基本的な内容から説明していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- 『公共経済学』 林正義 小川光 別所俊一郎 著 有斐閣アルマ
- わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ - 篠原総一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズムと資源配分および所得分配
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
- 11 景気変動と経済成長について 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 景気安定化機能の役割
- 13 財政政策の乗数効果
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は90分です。

財政学I【夜】

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) やむおえない事情により配布資料・プリントが受け取れなかった場合にのみ後日配布などの対応をしますが、練習問題や配布プリントの空欄箇所の答えを教えてくださいといった申し出には応じません。それ以外の講義内容に関する質問には応じます。
- 3) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できません。授業に出ないのであれば、テキストだけでなく参考文献も自力で十分に読み込まなくては試験に対応できないということを覚悟しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

財政学II 【夜】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学II

ECN362M

授業の概要 /Course Description

後期の授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題といった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学ではどのように議論されているのかを説明します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- マンキュー マクロ経済学 I 入門編 と II 応用編
N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)
- マクロ経済学
二神孝一 堀敬一 (著) 有斐閣
- 公共経済学
林正義・小川光・別府俊一郎 (著) 有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：マクロ経済政策と財政
- 2 45度線モデルと乗数効果
- 3 乗数効果：公債発行と均衡財政
- 4 IS-LMモデル① 財・サービス市場の均衡
- 5 IS-LMモデル② 貨幣市場の均衡
- 6 財政政策の効果とその有効性① (IS-LMモデルからの考察)
- 7 長期経済モデル①家計による異時点間の最適化行動
- 8 長期経済モデル②企業による異時点間の最適化行動
- 9 財政政策の効果とその有効性② (リカード=バローの中立命題)
- 10 財政赤字の問題点
- 11 財政赤字の持続可能性
- 12 財政再建の議論
- 13 公的年金の財政方式
- 14 少子高齢化と年金収益率
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

財政学II 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は90分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) やむおえない事情により配布資料・プリントが受け取れなかった場合にのみ後日配布などの対応をしますが、練習問題や配布プリントの空欄箇所の答えを教えてくださいといった申し出には応じません。それ以外の講義内容に関する質問には応じます。
- 3) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できません。授業に出ないのであれば、テキストだけでなく参考文献も自力で十分に読み込まなくては試験に対応できないということを覚悟しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

教職論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業の目的は以下のとおりである。

1. 教職の意義と教員の役割、職務内容、教師に求められる資質や倫理に関する基礎的な知識を獲得する。
2. ベテランの教員の講話、本学を卒業した若い教員の体験報告とその後の意見交流を通して、自らのめざす教師像を探求する。
3. これからの大学生活で培うべき「教員に求められる実践的指導力」の課題を理解するとともに、教職に関する自らの適性についても考察し、自らの進路選択のありかたを検討する。
4. 参加者同士のグループ討論や意見発表を通して、教員に求められるコミュニケーション能力の基礎を習得する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業に必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教職の意義と教員の役割
3. 教員という仕事の魅力と困難さ (外部講師 中学校長)
4. 教員の職務、教師に求められる使命感とその落とし穴
5. 教員の仕事の理想と現実(外部講師 本学卒業生の中学校教員)
6. 教員に求められる資質 — 子どもとのコミュニケーション力(相互応答的な関係づくり)
7. 教員の仕事 その1 教科指導と授業づくり(中学校教諭)
8. 教員の仕事 その2 教科指導と授業づくり(高等学校教諭)
9. 教員の仕事 その3 8, 9回の授業を受けてのグループワーク
10. 教育の仕事 その4 生活指導実践の主体としての教師 — 子どもの思いを聴きとる力を
11. 教員の仕事 その5 生活指導実践主体としての教師 - 子どもたちと一緒に「発達の子」となる生活を創造する
12. 「反省的实践家」(ドナルド・ショーン)としての教師 - その終わりなき営み
13. 自らのパワーを適切に行使できる教師であるために - 体罰問題に視点をあてて
14. 教員の服務と規律
15. 全体のまとめ

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提に進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 感覚・身体と教育：五感・感覚教育
- 6回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 7回 教育思想②：日本の教育思想
- 8回 教育史①：西洋の教育史
- 9回 教育史②：日本の教育史
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科学教育法C【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学習指導要領で取り扱われている中学校社会の各分野に関する知見を修得し、指導計画、社会科における資料活用、学習指導案の作成など、社会科の授業を行っていく上での基礎的な技能と理論を学習する。それらを通して知識だけでなく、教師の持つべき責任感と使命感を養うことをねらいとする。

本授業は、社会科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科、地理、歴史の分野に必要とされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成29年6月・文部科学省)
2018年2月時点で未出版のため、文部科学省のWebサイトに掲載されている公示資料を扱っていく

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中等社会科の理論と実践』(二谷貞夫・和井田清司 編 学文社 2007)
他に授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 オリエンテーション 教育の目的と社会科の役割
- 第 2回 社会科教育の現状 学習指導要領と改訂のポイント
- 第 3回 地理的分野の目標とその取り扱い
- 第 4回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
- 第 5回 公民的分野の目標と内容とその取り扱い
- 第 6回 社会科の授業づくり 教材研究
- 第 7回 社会科の授業づくり グループ学習の活用
- 第 8回 社会科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
- 第 9回 社会科の授業づくり 体験学習・発見学習・アクティブラーニングについて
- 第 10回 社会科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
- 第 11回 単元計画と学習指導案 1 指導案の作成と留意点
- 第 12回 単元計画と学習指導案 2 年間計画と指導案作成
- 第 13回 政治および宗教に関する事項の取扱い
- 第 14回 社会科教師に求められる資質・能力
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習(グループワークや質疑などへの参加) 30%
ミニレポート(毎授業後に提出) 40%
学習指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 学習指導要領解説について読み込んでおく。発表資料の作成。

事後学習 学習指導要領解説について読み込みながら、関連する事例や実践について検討する

履修上の注意 /Remarks

- ・グループワークなどを行うので毎授業の積極的参加を望みます。
 - ・発表や簡単なレポート課題の提出があります。
- 授業までに、報告者以外も該当箇所を読んでおくこと。報告者への質疑などを考えておくことが望ましい。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。なお出席は3分の2以上している事がテストを受ける前提条件とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

社会科教育法C 【夜】

キーワード /Keywords

社会科教育法D 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教育法AおよびCで学習した理論的な知識と指導法の基礎をもとに、社会科のより実践的な指導力と、教科指導を中心とした教師としての総合的な指導力の習得をめざす。なお、模擬授業では担当教員の解説を毎時行う。講義の展開は以下のとおりである。

- ① 学習指導要領に基づき、中学校社会科の3分野に関する総合的で実践的な知識を修得する。
- ② 教材研究、資料精選、学習指導案作成など、社会科の授業実践に必要な基礎・基本的な技術を修得する。
- ③ 教科指導の実践を起点として教職全般への理解を深め、教育現場で必要とされる教師の資質を養う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 『中学生の地理 世界のすがたと日本の国土』（帝国書院 文科省検定済教科書）
 - 『中学社会 歴史的分野』（日本文芸出版 文科省検定済教科書）
 - 『中学校社会科地図』（帝国書院 文科省検定済教科書）
 - 『中学社会 公民 ともに生きる』（教育出版 文科省検定済教科書）
- ※各分野とも平成25年度版以降のものを用意すること

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義概要の説明 【授業とは何か】 【社会科の特性】 【“資格”と“資質”】
- 第2回 学習指導案の作成 【実践的な視点の指導案】 【教材研究と指導】 【指導と評価】
- 第3回 模擬授業・地理的分野① 【世界地理・総論】 【世界地理の捉え方】
- 第4回 模擬授業・地理的分野② 【世界地理・各論】 【州ごとの指導における着重点】
- 第5回 模擬授業・地理的分野③ 【日本地理・総論】 【日本地理の捉え方】
- 第6回 模擬授業・地理的分野④ 【日本地理・各論】 【地域ごとの指導における着重点】
- 第7回 模擬授業・歴史的分野① 【原始・古代】
- 第8回 模擬授業・歴史的分野② 【古代・中世】
- 第9回 模擬授業・歴史的分野③ 【中世・近世】
- 第10回 模擬授業・歴史的分野④ 【近世・近現代】
- 第11回 模擬授業・公民的分野① 【憲法】
- 第12回 模擬授業・公民的分野② 【政治】
- 第13回 模擬授業・公民的分野③ 【経済】
- 第14回 模擬授業・公民的分野④ 【現代社会】
- 第15回 まとめ、教育実習や採用試験に向けて 【教育現場】 【生徒指導】 【講師と教諭】

成績評価の方法 /Assessment Method

模擬授業 40%、指導案作成と授業への参加度 40%、平素の受講姿勢 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習 学習指導案の作成および提出 教材研究
- 事後学習 模擬授業の評価、模擬授業担当箇所に関する課題

履修上の注意 /Remarks

教科書については、文部科学省検定済教科書(中学校で実際に生徒が使用しているもの)を使用します。通常の書店では入手できませんので、ご注意ください。入手法については全国教科書供給協会のホームページで確認できます。
また、学習指導要領は平成29年3月に改訂されました。
授業の前週までに、模擬授業の指導案を作成し提出すること。また模擬授業者以外は、事前に指導案には目を通しておくこと。
授業後は、模擬授業について内容や感想・意見を、担当者あてに提出できるようにすること。

社会科教育法D 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教材研究は大変な作業ですが、やりだすと非常に楽しい営みです。教壇に立ちたいと願う皆さんに、まず社会科の楽しさやおもしろさを感じてもらいたいと願っています。

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。

公民科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説し、公民科の教育課程における位置づけと役割について理解を深める。

学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今後求められる当該教科の実践指導のあり方について学び、また必要とされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 『高等学校学習指導要領解説「公民編」』文部科学省 平成22年版(平成26年1月一部改訂) 320円+税
- 他にも講義内で適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科の理論と実践』学文社 2007 1900円+税
- 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と公民科の扱い
 - 第2回：学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：公民科授業の構成 年間計画と単元計画
 - 第4回：公民科科目の取り扱いと内容 現代社会
 - 第5回：公民科科目の取り扱いと内容 倫理
 - 第6回：公民科科目の取り扱いと内容 政治経済
 - 第7回：公民科の授業づくり 教材研究・開発
 - 第8回：公民科の授業づくり グループワークについて
 - 第9回：公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第10回：公民科の授業づくり アクティブラーニングについて
 - 第11回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
 - 第12回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第13回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第14回：政治および宗教に関する事項の取扱い
 - 第15回：社会科教師に求められる資質・能力
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
- 最終試験・・・30%
- 学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習 学習指導要領解説を読み込んでおく
- 事後学習 講義で扱った内容について振り返り、実践と理論について考察する

履修上の注意 /Remarks

- 課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
- 出席は7割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
 (1) 学習指導要領に基づき、現在の公民科教育の位置づけを理解する。
 (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
 (3) 現代社会・政治経済・倫理の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
 (4) 能動的・主体的な学びの育成に重点を置き、模擬授業を行う。
 上記の点から、実践的な技能及び授業改善の視点を習得し、最終的には「能動的・主体的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、解説を行う。
 なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

授業の際に配布するレジュメ・資料等
 「高等学校学習指導要領解説 公民編」(文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 インTRODクシヨン
- 第 2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第 3回 社会科学的的手法について
- 第 4回 シティズンシップと公民科教育
- 第 5回 教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 6回 学習指導案作成上の留意点
- 第 7回 学習指導案の作成
- 第 8回 模擬授業(参加型授業の展開)
- 第 9回 模擬授業(資料活用法、オリジナル教材の作成)
- 第 10回 模擬授業(現代社会の諸問題)
- 第 11回 模擬授業(政治・経済・法)
- 第 12回 模擬授業(現代の諸課題と倫理)
- 第 13回 模擬授業(受験指導に焦点を当てる)
- 第 14回 模擬授業(社会参加の授業理論)
- 第 15回 まとめ(主権者教育など)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ◎教材研究や指導案の準備については適宜打ち合わせ等を行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業後にコメント用紙(授業の感想や質問など)を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 /Instructor 田中 友佳子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 授業のねらいや計画、注意点の説明
- 第2回：道徳とは何か、なぜ必要か 倫理、哲学、法と道徳との関係性
- 第3回：道徳教育の変遷① 近代学校成立以前、明治期から第二次世界大戦期
- 第4回：道徳教育の変遷② 戦後から「改正教育基本法」、まで
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題① 生命倫理をめぐる問題について考える(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題② 性の多様性について知る(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③ 住み良い社会とは何かを考える(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④ 「世代間の平等」の問題を考える(グループ討論)
- 第11回：「道徳の時間」の年間指導計画と学習指導案の作成方法
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究① 読み物教材に対する批判的検討
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究② 問題解決的な学習に対する批判的検討
- 第14回：学習指導案の発表とコメント
- 第15回：全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案30%
コメントシート20%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中、適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、グループ討論や教材研究などに積極的に取り組むことが求められます。様々な立場や意見があることを子どもたちに問いかけ共に考える授業ができるように、思考力や指導力を磨いていきましょう。

キーワード /Keywords

特別活動論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 (有斐閣アルマ) 2012 田中 耕治 (著), 鶴田 清司 (著), 橋本 美保 (著), 藤村 宣之 (著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：教育と学習・理論と方法・実践
- 第3回：授業の歴史（欧米）
- 第4回：授業の歴史（日本）
- 第5回：学習の理論・協同的な学び
- 第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
- 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
- 第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価
- 第9回：情報機器・メディア活用の授業
- 第10回：「学力」について考える
- 第11回：授業の研究1・学習指導案
- 第12回：授業の研究2・授業記録を読む
- 第13回：教師の専門性・専門職性
- 第14回：教材研究・教材開発
- 第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は、実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
発表・レジュメ作成・・・ 20%
最終試験・課題レポート・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていただきたいと思います。

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 文科省編 「生徒指導提要」
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第II部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 課題レポートの説明
- 2回 子どもたちの行動の背後にある「声なき声」を聴きとる。
- 3回 子どもの発達課題と教育相談
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 受容、共感的理解、感情の明確化、開かれた質問
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 直面化
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 発達障害の問題
- 10回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 11回 保護者理解と教育相談
- 12回 教育相談における関係諸機関との連携
- 13回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 少年期
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 思春期 全体のまとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- テキストの該当箇所については授業の前に読んで予習しておくこと
- 課題として出されたレポートについては必ず提出すること
- 学習した教育相談のスキルを実際に使用できるように、友人関係その他の中で練習しておくこと

教育相談【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業の遅刻、授業中の私語や内職に対しては厳しく指導し、眠っている学生も必ず起こします。
十分な自覚をもって履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業での最も中心的なテーマは、子どもの"view"の理解です。それなしの教育相談、さらに言えば教育実践は成立しないと考えています。この授業を通して、子どもの、さらには保護者の"view"を理解する力を培ってもらえたら幸いです。

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、 子どもの発達課題と教育相談、 関係諸機関との連携

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 『教育実習』 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 学校で求められる人権教育について
- 6回 生徒指導の実際(外部講師の出前講演)
- 7回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
- 8回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
- 9回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
- 10回 模擬授業①(北九州その他の自治体の教員採用試験の模擬授業ロールプレイ)
- 11回 模擬授業②(特別活動 その1 何らかの場面指導)
- 12回 模擬授業③(特別活動 その2 学級活動)
- 13回 模擬授業④(各教科 その1)
- 14回 模擬授業⑤(各教科 その2)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【夜】

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 / 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1回 オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 2回 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】 【中学生への支援】 |
| 3回 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】 【高校生への支援】 |
| 4回 教育実習に向けての課題の整理 | 【教育に求められる資質と教育実習の課題】 |
| 5回 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 6回 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 7回 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 8回 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 9回 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 10回 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 11回 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 12回 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 13回 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 14回 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 15回 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、扱った内容を、教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords